

Fukuoka Institute of Technology

2019年度

学生便覧

工 学 部 / 情報工学部 / 社会環境学部

2019年度

学
生
便
覧

福
岡
工
業
大
学

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

学長メッセージ



新入生の皆さん

御入学おめでとうございます。緑溢れるエコ・キャンパスへようこそ！これからの4年間、皆様と共に濃密な時空間を過ごすことを嬉しく思います。

この「学生便覧」は、皆様がこれから大学生活を過ごす上での羅針盤となるものであり、また大学と皆様との約束事を記載したものです。冒頭の「建学の綱領」は理念を明文化したものです。謂わば、大学の憲章であり、マニフェストでもあります。「沿革」は、大学の家系図等に相当し、歴史を示しています。また、単に歴史だけではなく組織の方向性を窺い知ることが出来ます。「学則」は、学校教育法施行規則に拠る、修学上必要な事項を定めた規則です。講義履修方法や、進級及び卒業の要件単位数等が記載されています。常に座右に置いて活用して下さい。

皆様の人生に於いて重要なことは、10年後自分はどのように在りたいと人生設計を立てることです。大学での修学はその過程のひとつに過ぎませんが、人生に多大の影響を与えます。どのような講義科目を履修して、どのような資格を目指すのかは、人生設計の方向性を決めると言っても過言ではありません。豊富な施設設備を充分使いこなすと共に、素晴らしい先生や職員の方々との交流を深めて下さい。

「学生便覧」の末尾に教員名簿を記載しています。授業内容に関する質問や相談事があれば是非研究室を訪ねて、皆様の素晴らしい能力と感性に磨きをかけて頂きたいと願っています。

現代ほどあらゆる情報が溢れている時代はありません。情報の洪水と言われる時代においては、情報の正確性や真質を見極める能力が求められます。さらに、情報の取扱いや情報発信の在り方にも注意する必要があります。専門知識の修得と併せて、倫理に立脚した社会的責任（Social Responsibility）も身に付けるように努めて頂きたいと願っています。健康に留意されて、輝かしい青春時代の真ん中を思う存分楽しんで下さい。

「万里一空」

2019年4月

福岡工業大学 学長 下村 輝夫

目 次

§ 1 大学紹介

§ 1-1	教育理念	2
§ 1-2	大学概要	3
§ 1-3	キャンパスルール	6
§ 1-4	窓口一覧	8
§ 1-5	年間行事予定（2019年度）	13
§ 1-6	myFIT（WEB学生情報ポータルサイト）	14

§ 2 修 学

§ 2-1	授 業	16
§ 2-2	履修登録	20
§ 2-3	試 験	23
§ 2-4	成 績	25
§ 2-5	進級・卒業	28
§ 2-6	学籍異動	30
§ 2-7	アクティブ・ラーニング（AL）	32
§ 2-8	就業力育成プログラム	33
§ 2-9	学修支援	37
§ 2-10	単位互換	38
§ 2-11	資 格	39
§ 2-12	教職課程	41

§ 3 工学部

§ 3-1	電子情報工学科	52
§ 3-2	生命環境化学科	62
§ 3-3	知能機械工学科	72
§ 3-4	電気工学科	82

§ 4 情報工学部

§ 4-1	情報工学科	94
§ 4-2	情報通信工学科	104
§ 4-3	情報システム工学科	116
§ 4-4	システムマネジメント学科	126

§ 5 社会環境学部

§ 5-1	社会環境学科	136
-------	--------	-----

§ 6 学生生活

§ 6-1	各種証明書	148
§ 6-2	学納金・奨学金制度	149
§ 6-3	課外活動	151
§ 6-4	国際交流	154
§ 6-5	進 路	156
§ 6-6	学生生活支援	158
§ 6-7	キャンパス美化	160

§ 7 施設・キャンパス

§ 7-1	施設案内	162
§ 7-2	設備案内	165
§ 7-3	キャンパス案内	166

§ 8 諸規程

§ 8-1	学 則	188
§ 8-2	学位規程	214
§ 8-3	履修要項	215
§ 8-4	技術者教育プログラム要領	224
§ 8-5	社会環境学部コース制教育プログラム要領	227
§ 8-6	その他	228

§ 9	教員名簿	229
-----	------	-----

	索 引	236
--	-----	-----

学 園 歌

あーげん かい にー ひは おち て
し こん に かす むー たち ばな の
か お りー ゆか しき みね のい ろ
が く と の ゆめ をー そそ るか な

一、あゝ玄海に陽は落ちて

紫紺に霞む立花の

馨床しき峯の色

学徒の夢をそそるかな

二、筑紫の野辺の朝ぼらけ

けむる松原白妙の

砂上に映つす学舎に

希望抱きて佇みぬ

三、雲遙かなる北洋や

仰ぐ北斗のまたゝきに

想ひは遠し故郷の

山河新たに胸に泌む

四、海涯てしなき南方の

青く輝く十字星

あゝ雄渾のますらおも

しばし海衣の袖ぬらす

五、さあれ若人永遠に

汝が生命は火と燃えて

行くや世界の真原理

つらぬきとめん福工大

§ 1

大学紹介

§ 1-1	教育理念	2
§ 1-2	大学概要	3
	<ul style="list-style-type: none">❶ 建学の背景と沿革❷ 校舎等の竣工❸ 組織図❹ 歴代学長❺ 大学役職者・組担任	
§ 1-3	キャンパスルール	6
	<ul style="list-style-type: none">❶ 学生証❷ 学籍番号と氏名❸ 学生への通知・連絡❹ 悪天候時の授業実施❺ 通学❻ 不正行為・レポートの剽窃❼ 遺失物・拾得物の取扱い❽ 全面禁煙❾ キャンパス美化❿ キャンパスでのマナー	
§ 1-4	窓口一覧	8
	<ul style="list-style-type: none">❶ こんなときは？❷ 学生対応窓口一覧	
§ 1-5	年間行事予定（2019年度）	13
§ 1-6	myFIT (WEB学生情報ポータルサイト)	14

§ 1-1

教育理念

§ 1-2

大学概要

§ 1-3

キャンパスルール

§ 1-4

窓口一覧

§ 1-5

年間行事予定
(2019年度)

§ 1-6

myFIT (WEB学生
情報ポータルサイト)

§ 1-1. 教育理念

■建学の綱領

- 一、学徒の品性を陶冶し真の国民としての教養を啓培する
- 一、宇宙の真理を探究しこれを実生活に応用して社会に貢献する
- 一、人類至高の精神、自由平和信愛を基調として世界に雄飛する人材を育成する

■教育理念

- 一、学問（学問の追究・創造・発展）
 - 宇宙の真理を探究し、人類の福祉と環境との調和を指向して、科学技術の創造と発展に貢献する。
- 一、個人（個人としての人間性の涵養）
 - 自由と平和を愛する心と信愛の情を養い、豊かな人間性と自発的精神に充ちた人間を育成する。
- 一、社会（社会への主体的な対応）
 - 多様な価値観と創造力をもって、国際化及び情報化社会の進展に主体的に対応できる技術者を育成する。

■育成すべき人材像

- 自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような実践型人材を育成する。
- （工 学 部） 21世紀の「モノづくり」を担う、創造力豊かな技術者を育てる。
 - （情報工学部） 高度情報化社会を担う、問題解決力に優れた技術者を育てる。
 - （社会環境学部） 「環境問題」の解決に貢献できる実践型の人材を育成する。

■修得する知識・能力

- A 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養
- B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解
- C 数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを活用する能力
- D 当該分野において必要とされる専門知識とそれらを活用する能力
- E 種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- F 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- G 自主的、継続的に学習する能力
- H 与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- I チームで仕事をするための能力

※各学科において、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として設定

§ 1-2. 大学概要

1 建学の背景と沿革

人類初の人工衛星を完成させた時代背景の中、「電波科学」の振興のため、昭和29年、本学の前身となる福岡高等無線電信学校は創設されました。昭和33年に学校法人福岡電波学園を設立し、福岡電波高等学校（現在の福岡工業大学附属城東高等学校）が開設されました。その後、昭和35年に福岡電子工業短期大学（現在の福岡工業大学短期大学部）、昭和38年に福岡電波学園電子工業大学が開学しました。

昭和41年、福岡工業大学に名称変更して以来、1学部6学科の工業系単科大学として発展してきました。平成9年に情報工学部を開設し、電子・情報系の大学としての基盤を整えました。また、平成13年に社会環境学部を開設し、工業系大学の責務である廃棄物処理等の環境問題に人文・社会科学系から取り組むこととなり、3学部9学科として現在に至ります。現在、約4万名の卒業生を輩出しています。

昭和29(1954)年4月	福岡高等無線電信学校創設
昭和33(1958)年4月	学校法人福岡電波学園 福岡電波高等学校開設
昭和35(1960)年4月	福岡電子工業短期大学開設
昭和38(1963)年4月	福岡電波学園電子工業大学 開学 工学部（電子工学科、電子材料工学科）開設
昭和40(1965)年4月	電子機械工学科、管理工学科開設
昭和41(1966)年4月	大学の名称を福岡工業大学に変更 電気工学科、通信工学科開設 短大の名称を福岡工業短期大学に変更
昭和48(1973)年9月	法人の名称を学校法人福岡工業大学に変更
昭和50(1975)年4月	高校の名称を福岡工業大学附属高等学校に変更
平成2(1990)年4月	通信工学科を改組し、情報工学科開設
平成5(1993)年4月	大学院工学研究科修士課程（電子工学専攻、電子材料工学専攻、電子機械工学専攻、電気工学専攻）開設
平成6(1994)年4月	大学院工学研究科修士課程に情報工学専攻開設
平成7(1995)年4月	大学院工学研究科修士課程に管理工学専攻開設
平成9(1997)年4月	工学部管理工学科、情報工学科を改組し、情報工学部（情報工学科、情報通信工学科、情報システム工学科、管理情報工学科）開設
平成10(1998)年4月	工学部電子材料工学科を機能材料工学科に名称変更
平成11(1999)年4月	工学部電子機械工学科を知能機械工学科に名称変更 大学院工学研究科博士後期課程（物質生産システム工学専攻、知能情報システム工学専攻）開設

平成13(2001)年4月	社会環境学部（社会環境学科）開設 高校の名称を福岡工業大学附属城東高等学校に変更
平成14(2002)年4月	工学部電子工学科を電子情報工学科に名称変更 大学院工学研究科修士課程電子材料工学専攻を機能材料工学専攻に名称変更 短大の名称を福岡工業大学短期大学部に変更
平成15(2003)年4月	大学院工学研究科修士課程電子機械工学専攻を知能機械工学専攻に名称変更
平成15(2003)年12月	ISO14001認証取得（社会環境学部）
平成16(2004)年4月	情報工学部管理情報工学科の名称をシステムマネジメント学科に変更 大学院工学研究科修士課程情報通信工学専攻開設
平成17(2005)年4月	工学部機能材料工学科を改組し、生命環境科学科開設
平成18(2006)年4月	大学院工学研究科修士課程電子工学専攻の名称を電子情報工学専攻に変更
平成19(2007)年4月	大学院社会環境学研究科修士課程（社会環境学専攻）開設
平成21(2009)年4月	大学院工学研究科修士課程機能材料工学専攻を改組し、生命環境科学専攻開設
平成28(2016)年4月	大学院工学研究科修士課程情報システム工学専攻及びシステムマネジメント専攻開設
平成30(2018)年4月	大学生命環境科学科の名称を生命環境化学科に変更
平成31(2019)年4月	大学院生命環境科学専攻の名称を生命環境化学専攻に変更

2 校舎等の竣工

昭和61(1985)年6月	本部棟竣工（法人事務局、附属図書館、情報処理センターなど）
昭和63(1988)年3月	新宮総合グラウンド竣工（野球場、ラグビー・サッカー場）
平成3(1991)年1月	C棟竣工（情報工学部、学生ホールなど）
平成5(1993)年3月	コスモス寮（女子寮）竣工
平成11(1999)年2月	α棟竣工（モノづくりセンター、キャリアサポートセンターなど）
平成12(2000)年10月	FITアリーナ竣工
平成13(2001)年2月	A棟竣工（工学部、社会環境学部など）
平成15(2003)年10月	坦心寮（学生寮）竣工
平成16(2004)年1月	B棟竣工（情報工学部、短期大学部、情報処理センター、学生サービスセンターなど）
平成16(2004)年7月	D棟竣工（工学部、情報工学部など）
平成22(2010)年12月	FIT ホール竣工
平成24(2012)年3月	塩浜総合グラウンド竣工（FIT スタジアムなど）
平成24(2012)年8月	FIT セミナーハウス竣工
平成27(2015)年10月	FIT アリーナ WEST コート（ハンドボール、フットサル、土俵）完成 FIT Link（附属図書館）改装完了
平成28(2016)年8月	E棟竣工（学生サポートセンター、FD 推進機構、総合研究機構、フレッシュマンスクールなど）
平成29(2017)年8月	F棟（エレクトロニクス研究所）竣工
平成29(2017)年9月	バーベキュー施設完成

§ 1-1

教育理念

§ 1-2

大学概要

§ 1-3

キャンパスルール

§ 1-4

窓口一覧

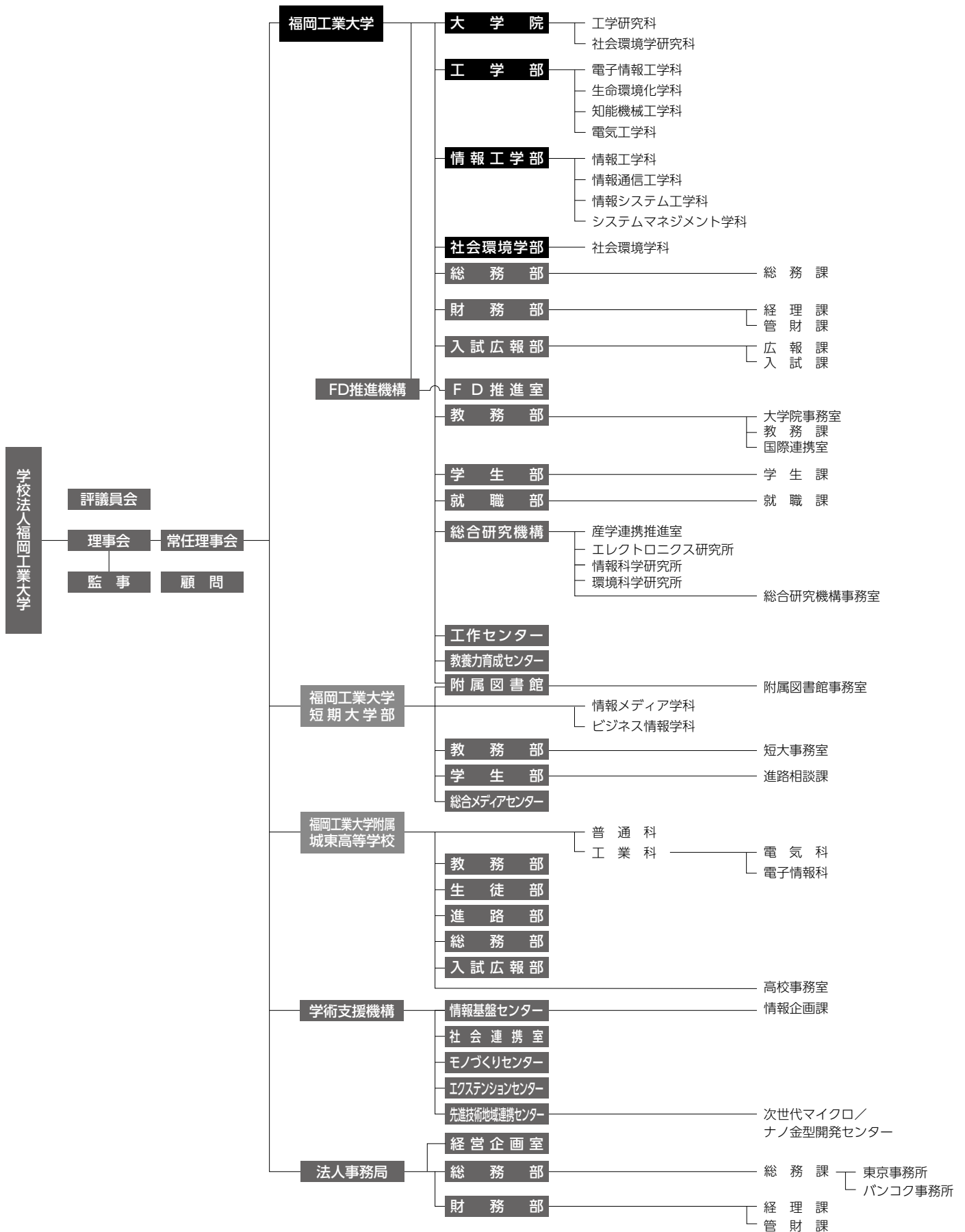
§ 1-5

年間行事予定
（2019年度）

§ 1-6

VFIT@WEB学生
情報ポータルサイト

3 組織図



(2019年4月1日現在)

4 歴代学長

初代	桑原 玉市	昭和38(1963)年4月～昭和42(1967)年7月
第2代	妻木 徳一	昭和47(1972)年9月～昭和50(1975)年4月
第3代	森 延光	昭和51(1976)年2月～昭和53(1978)年1月
第4代	岡元 敬蔵	昭和53(1978)年1月～昭和55(1980)年2月
第5代	長谷川 太郎	昭和55(1980)年3月～昭和61(1986)年2月
第6代	佐久間 敬三	昭和61(1986)年3月～昭和63(1988)年2月
第7代	高田 茂夫	昭和63(1988)年3月～平成2(1990)年9月
第8代	中島 恪	平成2(1990)年10月～平成6(1994)年9月
第9代	赤崎 正則	平成6(1994)年10月～平成9(1997)年9月
第10代	青木 和男	平成9(1997)年10月～平成16(2004)年9月
第11代	山藤 馨	平成16(2004)年10月～平成22(2010)年9月
第12代	下村 輝夫	平成22(2010)年10月～現在

5 大学役職者・組担任

(2019年度)

学 長	下村 輝夫
工 学 部 長	村山 理一
情報工学部長	前田 洋
社会環境学部長	藤井 洋次
工学研究科長	徳安 達士
社会環境学研究科長	松藤 賢二郎
教 務 部 長	藤岡 寛之
学 生 部 長	中川 智治
就 職 部 長	中川 智治

図 書 館 長	三田 肇
総合研究機構長	朱 世杰
情報基盤センター長	利光 和彦
F D 推進機構長	下村 輝夫 (学長兼務)
入試広報部長	宋 宇
学術支援機構長	下村 輝夫 (学長兼務)
教養力育成センター長	土屋 麻衣子

学 科		学 科 長	1 年次組担任			
工学部	電子情報工学科	松木 裕二	1組	野瀬 敏洋	2組	松木 裕二
	生命環境化学科	呉 行正	1組	松山 清	2組	永田 純一
	知能機械工学科	廣田 健治	1組	朱 世杰	2組	加藤 友規
	電気工学科	梶原 寿了	1組	大山 和宏	2組	北崎 訓
情報工学部	情報工学科	種田 和正	1組	徐 海燕	2組	柏 浩司
	情報通信工学科	山元 規靖	1組	石田 智行	2組	杉田 薫
	情報システム工学科	森園 哲也	1組	菊田 俊幸	2組	山越 健弘
	システムマネジメント学科	田嶋 拓也	1組	井口 修一		
学社会環境部	社会環境学科	鄭 雨宗	ゼミナール担当者			

§ 1-3. キャンパスルール

1 学生証

学生証は、本学学生の身分を有することを証明するもので、在学期間中のみ有効です。在学中は常に携帯し、次の場合に提示して下さい。

- ・試験を受ける場合
- ・授業に出席する場合（社会環境学部）
- ・各種証明書等の交付を受ける場合
- ・通学定期券や学割乗車券を購入する場合
- ・図書館等の施設利用、図書の貸出・返却時
- ・その他、本学教職員から提示を求められた時

■仮学生証

試験を受けるには学生証が必要です。万一、忘れた場合は、試験開始前までに証明書発行機にて仮学生証を発行してください。（当日限り有効、発行手数料：200円）

■再発行

学生証を紛失または破損した場合は、証明書発行機にて手続きの上、情報基盤センター窓口（B棟2F）で交付を受けてください。（再発行手数料：500円）

■返却

退学、除籍等により本学の身分を失った場合には、速やかに学生証を学生課へ返却してください。

2 学籍番号と氏名

■学籍番号

学籍番号は、各自固有のもので、本学における全ての手続きは7桁の学籍番号を基に行われます。

1 9 A 1 0 0 0
 ① ② ③ ④

①入学年度（西暦下2桁）

②学科コード

(工学部)	
F：電子情報工学科	E：知能機械工学科
G：生命環境化学科	S：電気工学科
(情報工学部)	
A：情報工学科	C：情報システム工学科
B：情報通信工学科	M：システムマネジメント学科
(社会環境学部)	
K：社会環境学科	
(その他)	
X：科目等履修生	

③組 ④固有番号（3桁）

■氏名表記

学籍上の氏名表記は、入学手続き時に本人が届け出たものとします。なお、漢字はmyFIT（WEB学生情報ポータルサイト）ではJIS漢字（第二水準）を使用します。また、外国人留学生の氏名についてはカナ表記とします。本学が発行する書類は、これに基づき取り扱います。

→学籍情報の変更については、§6-1. 学籍情報の変更手続き P.148

3 学生への通知・連絡

学生に対する通知・連絡（休講・補講、教室変更、時間割変更、学期末試験日程、呼び出し等）は、学内掲示板やmyFIT（WEB学生情報ポータルサイト）にて行います。掲示または発信された事項は、学生の皆さんが確認したものととして取り扱いますので、見落とすことのないように毎日確認してください。

→ §1-6. myFIT（WEB学生情報ポータルサイト） P.14

■学内掲示板

A棟1F 学生ホール	(工) 電子情報工学科、生命環境化学科、電気工学科 (社) 社会環境学科
B棟B1F 学生ホール	(情) 情報システム工学科、システムマネジメント学科
C棟1F 学生ホール	(工) 知能機械工学科 (情) 情報工学科、情報通信工学科

■myFIT（WEB学生情報ポータルサイト）

<https://my.fit.ac.jp/>

4 悪天候時の授業実施

JR 鹿児島本線が全線不通で通学不可能とならない限り、授業および学期末試験は予定通り実施します。悪天候が予想される場合は、交通情報をよく確認の上、いつもより早めの登校を心がけてください。

全学休講・学期末試験延期等の措置を決定した場合は、本学 Web サイト (<http://www.fit.ac.jp/>) にて連絡します。

5 通学

自転車	学内では専用駐輪場を利用すること
バイク	学生課窓口で配布している「自動二輪・原付自転車登録書」に必要事項を記載し、学生証、運転免許証を添えて、提出してください。発行された「使用許可証」を使用するバイクに貼付し、決められた場所に駐車してください。〔「使用許可証」の添付がないバイクや許可された場所以外での駐車は定期的に廃棄処分等の処置を実施します〕
自動車	不可

※専用駐輪場 自転車：正門横、A 棟東側駐車場出入口横
バイク：FIT アリーナ裏

6 不正行為・レポートの剽窃

本学における試験は、学修の到達点を確認するものです。試験の不正行為は学生の学修する権利を自ら放棄するものとして、厳正に対処します。 → § 2-3. 不正行為 P.24

また、レポートにおいて剽窃（盗作・盗用）は重大な違法行為であり、社会通念として許されません。他人の文章を引用したり要約したりしてレポートにする場合は注意が必要です。

7 遺失物・拾得物の取扱い

学内の落とし物・忘れ物のうち届けられた物は、myFIT の「落とし物・忘れ物」に写真付きで掲載します。受け取りの際は管理窓口へ学生証を持参してください。

（保管期間は原則 3 ヶ月とし、期間を過ぎたも

のは処分します。）

なお、貴重品の放置による紛失が多発しています。自身で責任をもって管理するよう心掛けてください。

※ PC 室、IT コモンズでの情報記憶媒体（USB、CD 等）の落し物は情報基盤センターシステム管理室にて保管します。

8 全面禁煙

本学キャンパスは全面禁煙です。キャンパスでの受動喫煙を防止し、全ての学生・教職員の健康の維持増進に貢献するため、また学生が喫煙習慣を身に付けることを防止するため、学生自身と学友の健康に最大限配慮した環境づくりを進めています。

9 キャンパス美化

環境保全のためゴミの分別収集を行っています。

→ § 6-7. ゴみの分別 P.160

また、毎月第 3 水曜日はキャンパスクリーンディとしてキャンパス内や周辺地域の美化活動を行っています。

→ § 6-3. ボランティア・地域貢献活動 P.152

10 キャンパスでのマナー

キャンパスでは、次のような行為を慎み、気持ちよく生活できるよう心掛けましょう。

- ・授業中の私語・飲食
- ・図書館・ラーニングスペース・学生ラウンジ・食堂等での通話や大声での会話
- ・授業中、事務室窓口や飲食時の帽子の着用
- ・IT コモンズや PC 室での飲食

学内では、学生教職員問わず「挨拶」を心掛けて、過ごしやすいキャンパスにしましょう。

§ 1-4. 窓口一覧

1 こんなときは？

■ 修学に関すること

こんなときは	どうする	窓口
登録科目や出欠状況を確認する	myFIT にて確認	教務課・学生課
休講・補講を確認する	myFIT や掲示板を確認	教務課
履修登録する	履修登録期間内に myFIT にて登録 → § 2-2. 履修登録 P.20	教務課
成績・取得単位を確認したい	myFIT にて確認 → § 2-4. 成績 P.25	教務課
成績評価について質問したい	受付期間内に担当教員または窓口へ申し出 → § 2-4. ①成績発表 P.25	科目担当教員 (教務課)
進級条件・卒業要件を確認したい	学業成績確認表や学生便覧にて確認 → § 2-5. 進級・卒業 P.28	教務課
授業科目の内容や評価方法を確認したい	シラバスで確認 § 2-1. ①授業科目 P.16	科目担当教員
カリキュラムや履修について相談したい	窓口やクラス担任に相談	教務課
学習上の質問や相談をしたい	オフィスアワーやフレッシュマンスクールの個別指導等を活用 → § 2-9. 学修支援 P.37	科目担当教員、 フレッシュマンスクール
必要な教科書等を確認したい	シラバスにて確認	科目担当教員
資格講座や検定試験について知りたい	掲示板や本学 Web サイトにて確認 → § 2-11. 資格 P.39	エクステンションセンター 科目担当教員
先生に連絡したい	・研究室を訪ねる → § 9. 教員名簿 P.230 ・シラバスや授業内でメールアドレスを公開している教員については、メールで連絡できる	
国際学会や留学プログラムで海外渡航をしたい	海外渡航届を提出する	教務課

■ 試験に関すること

こんなときは	どうする	窓口
学期末試験日程を確認したい	学期末試験期間の約 1 週間前に掲示板・本学 Web サイトで発表 → § 2-3. ②学期末試験 P.23	教務課
学生証を忘れた	証明書発行機にて仮学生証を発行の上、試験を受けなければならない → § 2-3. ③試験上の注意 P.23 ● 発行手数料200円	学生課
交通機関が遅延し、試験に間に合わない	試験開始20分まで入室できるが、以後は試験を受けることができない → § 1-3. ④悪天候時の授業実施 P.7 ● 遅延証明書	教務課
試験を欠席し、追試験を願い出たい	やむを得ない事由により学期末試験を欠席した場合に限り、科目担当教員に追試験を願い出ることができる → § 2-3. ⑤追試験 P.24 ● 欠席理由届書と試験を受けられない事由を証明するもの	科目担当教員 (教務課)

■学籍情報に関すること

こんなときは	どうする	窓口
氏名・住所・電話番号・保証人が変わった	速やかに変更事項を myFIT 「学籍情報変更申請」 から申し出 → § 6-1. 2 学籍情報の変更手続き P.148 ●変更願 (現住所・改氏名)	学生課
休学したい	クラス担任に相談 (面談) の上、窓口 に申し出 → § 2-6. 2 休学 P.30 ●休学願	教務課
復学したい	窓口 に申し出 → § 2-6. 3 復学 P.30 ●復学願	教務課
退学したい	クラス担任に相談 (面談) の上、窓口 に申し出 → § 2-6. 4 退学 P.30 ●退学願	教務課
転学部・転学科したい	事前に相談の上、期日までに窓口 に提出 → § 2-6. 7 転学部・転学科 P.31 ●転学部及び転学科申請書	教務課

■学生生活に関すること

こんなときは	どうする	窓口
授業を欠席したい・欠席した	科目担当教員に提出 → § 2-1. 5 出席・欠席 P.18 ●欠席理由届書と試験を受けられない事由を証明するもの※ ※病気・ケガ等の場合は病院の診断書または領収書のコピー クラブ活動、就職活動および教育実習の場合は担当窓口の確認印	学生課 (教務課、就職課)
インフルエンザ等の学校感染症と診断された	窓口 に連絡 (092-606-0654) し、完治するまで静養。再登校時に欠席理由届を科目担当教員に提出 ●欠席理由届書と病院の診断書または領収書のコピー	学生課
バイク通学したい	学生証・運転免許証を添えて使用許可を 願い出 → § 1-3. 5 通学 P. 7 ●自動二輪・原付自転車登録書	学生課
通学定期券を購入したい	通学証明書の発行を申請 ●所定の用紙	学生課
学生証を紛失・破損した	証明書発行機にて手続きの上、窓口 で交付 → § 1-3. 1 学生証 P. 6 ●再発行手数料	情報基盤センター情報企画課
各種証明書・学割・健康診断書を発行してほしい	証明書発行機・窓口にて発行 → § 6-1. 1 証明書発行 P.148 ●学生証、発行手数料	学生課・教務課・就職課

PC や学内ネットワーク（無線 LAN 含む）の利用方法について知りたい	窓口またはシステム相談員に問い合わせ → §1-6. myFIT P.14	情報基盤センター情報企画課
情報基盤センター発行のログインパスワードを忘れた	窓口にお問い合わせ ● 学生証	情報基盤センター情報企画課
大学推奨ノート PC について知りたい	窓口にお問い合わせ	PC インフォスクエア
学納金の納入について相談したい	納入期限までに窓口にご相談 → §6-2. 1学納金 P.149 ● 所定の用紙	経理課
奨学金を申し込みたい	随時掲示板を確認。窓口にお問い合わせ → §6-2. 2奨学金 P.149	学生課
留学・語学研修について知りたい	窓口にお問い合わせ → §6-4. 国際交流 P.154	国際連携室
クラブ・サークルに入部したい	各団体の部室を訪問 → §6-3. 課外活動 P.151	学生課
クラブ・サークルの運営について相談したい	窓口にお問い合わせ	学生課
クラブ・サークルの Web サイトについて相談したい	窓口にお問い合わせ	広報課
ボランティアをやってみたい	窓口にお問い合わせ → §6-3. 3ボランティア・地域貢献活動 P.152	社会連携室
ボランティア以外の地域貢献活動について知りたい	窓口にお問い合わせ → §6-3. 3ボランティア・地域貢献活動 P.152	社会連携室
ポイント制度について知りたい	窓口にお問い合わせ → §6-3. 3ボランティア・地域貢献活動 P.152 ● 指定の用紙	社会連携室
FIT 隊（学内の広報アルバイト）に参加したい	窓口にお問い合わせ	広報課
イベント・集会を実施したい	事前に窓口に届け出 ● 指定の用紙	学生課
チラシを配布・ポスターを掲示したい	事前に窓口にて承認を受ける ● 掲示許可願	学生課
サークル・ゼミ等で合宿したい	事前に名簿を添えて窓口に届け出 ● 合宿・遠征許可願	学生課
旅行したい	窓口にて斡旋	ラド観光
アルバイト・下宿を探したい	窓口にて斡旋 → §6-3. 6アルバイト P.153	アドバンス

落とし物・忘れ物をした、拾い物をした	窓口に問い合わせ → § 1-3. 7 遺失物・拾得物の取扱い P. 7	学生課、その他管理窓口
	● 拾得物の引取りの際は、学生証を持参	
事故・災害・トラブルに遭った (SNS での被害含む)	窓口に連絡 → § 6-6. 2 各種保険 P.158	学生課
	● 所定の用紙	
病気・ケガをした	窓口にて応急措置	保健室
健康面の相談がある、禁煙したい	窓口に相談 → § 6-6. 5 健康管理 P.159	保健室
就職やキャリアについて相談したい	窓口に相談 → § 6-5. 1 就職・キャリア P.156	就職課、学生生活相談室
大学院進学について相談したい	窓口に相談 → § 6-5. 2 大学院進学 P.157	大学院事務室
心配や悩み事の相談がある	窓口に相談 (092-606-7251) → § 6-6. 5 健康管理 P.159	学生相談室

■施設利用

こんなときは	どうする	窓口
教室・施設を使用したい	事前に窓口にて予約申請 → § 6-3. 4 施設・用具の利用 P.153	学生課
	● 所定の用紙	
備品・用具を利用したい	窓口に申し出 → § 6-3. 4 施設・用具の利用 P.153	学生課
FIT セミナーハウスを利用したい	事前に窓口にて予約申請 → § 7-1. 施設案内 P.162	アドバンス (B 棟 1F)

■その他

こんなときは	どうする	窓口
マスコミ関係から取材を受ける	事前に窓口にて連絡	広報課
大学のロゴマークを使用したい	窓口に問い合わせ	広報課
(卒業後) 各種証明書を発行してほしい	窓口または郵送にて発行申請 (本学 Web サイトにて案内)	教務課
	● 証明書等の交付願 (証明書発行申請書)	
(卒業後) 研究生・科目等履修生に なりたい	窓口に問い合わせ → § 2-6. 8 研究生、科目等履修生 P.31	教務課
	● 所定の用紙、納入金	

2 学生対応窓口一覧

事務局	業務時間	休業日	連絡先
	平日 8:50~17:00	土・日曜、祝日、開学記念日、一斉休暇期間	092-606-3131 (代表)
●本学Webサイト： http://www.fit.ac.jp/			

担当窓口	取扱内容	場所・連絡先
教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、時間割に関する事 ・単位、履修、試験、成績に関する事 ・学籍異動（休退学など）に関する事 ・教職課程に関する事 ・卒業生の証明書発行に関する事 	学生サポートセンター （E棟2F） 092-606-0647
学生課	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活や授業の出席に関する事 ・学籍情報（連絡先の変更など）に関する事 ・留学生に関する事 ・奨学金に関する事 ・課外活動（クラブ・サークル、ボランティアなど）に関する事 ・施設・用具の利用や学生寮に関する事 ・落し物・盗難に関する事 ・授業中、通学中のケガ保険に関する事 	092-606-0654
就職課	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・就職に関する事 ・就職情報（求人・企業説明会）に関する事 ・インターンシップに関する事 	092-606-0672
大学院事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院に関する事 	092-606-6996
国際連携室	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修・留学プログラムに関する事 ・国際交流に関する事 ・英語ネイティブ職員による英語レッスンに関する事 	グローバル・スチューデント ・ラウンジ（α棟2F） 092-606-8070
情報基盤センター情報企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・PC、学内ネットワークの利用に関する事 ・myFIT（WEB学生情報ポータルサイト）や授業支援システムに関する事 	情報基盤センター（B棟2F） 092-606-0692
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学推奨ノートパソコンに関する事 ・大学ライセンスソフトウェアに関する事 	PCインフォスクエア（B棟2F） 092-605-0557
広報課	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミからの取材や情報発信に関する事 ・オープンキャンパスやキャンパスメールに関する事 ・本学公式ホームページ・SNSに関する事 	事務局（本部棟2F） 092-606-0607
経理課	<ul style="list-style-type: none"> ・学納金に関する事 ・現金の受け渡しに関する事 	092-606-0619

→ その他窓口の場所・連絡先は、§7-1. 施設案内 P.162

※大学窓口への質問や確認などは、原則として電話やメールによる問い合わせではなく、学生本人が直接窓口で行ってください。

§ 1-5. 年間行事予定 (2019年度)

<p>4 2019 April</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>2日 火 入学式 3日 水 前期履修登録開始 5日 金 新入生オリエンテーション、基礎学力テスト、健康診断、在学生オリエンテーションなど 8日 月 前期授業開始 12日 金 前期履修登録終了 27日 土 補講予備日</p>	<p>10 2019 October</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>17日 木 月曜日分平常授業 26日 土 補講予備日 30日 水 金曜日分平常授業</p>
<p>5 2019 May</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>25日 土 補講予備日</p>	<p>11 2019 November</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>1日 金 立花祭(前夜祭) 2日 土 立花祭 3日 日 立花祭 5日 火 開学記念日 30日 土 補講予備日</p>
<p>6 2019 June</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23/30 24 25 26 27 28 29</p>	<p>12日 水 学生総会(予定) 29日 土 補講予備日</p>	<p>12 2019 December</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>21日 土 補講予備日 26日 木 冬季休業・年末年始一斉休暇 5日 日</p>
<p>7 2019 July</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>16日 火 月曜日分平常授業 20日 土 補講予備日 30日 火 前期授業終了 31日 水 講義予備日</p>	<p>1 2020 January</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>6日 月 後期授業再開 11日 土 補講予備日 15日 水 月曜日分平常授業 17日 金 全学休講 24日 金 後期授業終了 27日 月 講義予備日 28日 火 後期学期末試験開始</p>
<p>8 2019 August</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>1日 木 前期学期末試験開始 3日 土 前期学期末試験調整日 8日 木 前期学期末試験終了 9日 金 前期学期末試験予備日 10日 土 夏季休業開始 13日 火 夏季一斉休暇 16日 金 23日 金 前期成績発表日</p>	<p>2 2020 February</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29</p>	<p>1日 土 後期学期末試験調整日 4日 火 後期学期末試験終了 5日 水 後期学期末試験予備日 19日 水 後期成績発表日 28日 金 卒研合否発表日</p>
<p>9 2019 September</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>17日 火 後期履修登録開始 24日 火 後期授業開始 30日 月 後期履修登録終了</p>	<p>3 2020 March</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>20日 金 卒業式</p>

§ 1-1

教育理念

§ 1-2

大学概要

§ 1-3

キャンパスルール

§ 1-4

窓口一覧

§ 1-5

年間行事予定
(2019年度)

§ 1-6

VFIT(WEB)学生
情報ポータルサイト

§ 1-6. myFIT (WEB学生情報ポータルサイト)

授業に関する掲示（休講・補講・教室変更）、学部学科や事務局からの各種お知らせなど、学生生活に必要な情報を、学内外から WEB 上で確認することができます。

学生に対する連絡・通知は、学内掲示板および myFIT (WEB 学生情報ポータルサイト) にて行います。また、履修登録や成績照会、授業アンケート回答など重要な登録や照会を myFIT 上にて行います。

メニュー	機能の説明
学籍情報の照会	氏名、学籍番号、学科組織などの基本情報を表示
お知らせの確認	休講・補講情報や大学からの各種お知らせを表示 → § 1-3. ③学生への通知・連絡 P.6
履修登録・変更	→ § 2-2. 履修登録 P.20
学生時間割表の確認	履修中の授業時間割表を表示
授業時間割表の確認	所属学科の授業時間割表を表示
シラバスの確認	授業科目のシラバス照会 § 2-1. シラバスの見方参照 P.17
成績の確認	成績や取得単位数を表示 → § 2-4. 成績 P.25
出欠状況の確認	履修中の授業科目の出席状況を表示
授業アンケート	アンケートの回答、集計結果照会 → § 2-9. ③授業アンケート P.37
就職関連情報	企業求人検索、学内単独企業説明会スケジュール、内定報告書閲覧システム
学習ポートフォリオの入力	§ 2-7. ④学習ポートフォリオ (FIT-AIM) P.32

※ myFIT の詳しい利用方法については、「情報基盤センター利用者マニュアル」を参照ください。

<https://my.fit.ac.jp/>

The screenshot shows the myFIT website interface. At the top, there's a header with the myFIT logo and navigation tabs for '演習設備・学生生活'. Below the header is a sidebar menu with various utility links. The main content area is divided into several sections: a login section for 'シングルサインオン', a notice section with multiple announcements, and news sections for 'CENTER@News' and 'FIT@News'. The page is designed for user convenience with clear navigation and important information highlighted.

§ 2

修学

§ 2-1	授 業	16
	1 授業科目 2 授業時間 3 単位 4 休講・補講	5 出席・欠席 6 再履修 7 コース 8 注意が必要な科目
§ 2-2	履修登録	20
	1 履修登録の流れ 2 履修登録期間 3 教務課窓口で申請が必要な科目 4 CAP 制 (履修登録上限) 5 習熟度別クラス 6 注意事項	
§ 2-3	試 験	23
	1 単位の取得について 2 学期末試験 3 試験上の注意	4 不正行為 5 追試験
§ 2-4	成 績	25
	1 成績発表 2 成績評価 3 GPA	4 記載内容について 5 単位認定 6 成績の取り扱い
§ 2-5	進級・卒業	28
	1 進級条件 2 卒業要件 3 留年	
§ 2-6	学籍異動	30
	1 修業年限と在学年限 2 休学 3 復学 4 退学 5 除籍	6 再入学 7 転学部・転学科 8 研究生、科目等履修生
§ 2-7	アクティブ・ラーニング(AL)	32
	1 AL とは 2 AL 型授業について 3 AL 型学修の要素 4 学習ポートフォリオ (FIT-AIM)	
§ 2-8	就業力育成プログラム	33
	1 就業力育成プログラムとは 2 「4つの力」とカリキュラムの構成	
§ 2-9	学修支援	37
	1 クラス担任・オフィサー 2 フレッシュマンスクール 3 授業アンケート 4 TA・SA、CS	
§ 2-10	単位互換	38
	1 放送大学との単位互換について 2 協定校との国際交流	
§ 2-11	資 格	39
	1 認定校として認可を得ている資格 2 資格取得を支援している資格	
§ 2-12	教職課程	41
	1 教職課程について 2 取得できる教員免許状 3 教育研究上の目的と教育目標 4 履修の流れ 5 教職課程に関する授業科目および単位数 6 教職課程に必要な費用	

§ 2-1	授 業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試 験
§ 2-4	成 績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニング(AL)・
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資 格
§ 2-12	教職課程

§ 2-1. 授 業

1 授業科目

■授業科目の区分

- ・教養力育成科目
- ・専門基礎科目（工・情）
- ・専門教育科目

■授業科目の種類

- ・必修科目…卒業までに必ず修得しなければならない科目
- ・選択科目…希望により選択履修する科目
- ・コア科目…必修科目のうち、指定された年次進級までに修得すべき科目
- ・認定科目…成績評価を行わず、単位の認定のみ行う科目

→ § 2-4. 5 単位認定 P.27

■開講科目

- ・通年科目（通年講義）…前期・後期の1年を通じて開講される科目
- ・前期科目（前期完結講義）
- ・後期科目（後期完結講義）
- ・集中講義…前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講される科目
- ・特別講義（臨時講義）

■授業形態

講義、演習、講義・演習、実験、実習、実験・演習、実技、ゼミナール、研究

■カリキュラム

学生は、自分の所属学科の入学年度のカリキュラムに従って履修します。原則として、入学年度以降の年度のカリキュラムが適用されることはありません。

■授業の開講

各科目は、履修要項別表「年次別授業科目表」の通りに開講します。ただし、その年度によって開講時期を変更する場合があります。毎年4月のオリエンテーションで配布する授業時間割を確認してください。なお、授業時間割は、原則として指定されたクラスの授業科目を受講します。

※在学年次より上位年次に開講される科目の履修はできません。

※履修登録人数が10名未満の科目は閉講となる場合があります。

※所属学科のカリキュラムにない科目を12単位を上限として履修することができます。

→ § 2-2. 3 教務課窓口で申請が必要な科目 P.21

（学則第28条、第31条、履修要項第2条、第12条～第15条（工・情）、第11条～第14条（社））

■シラバス（授業計画）

シラバスとは、各授業科目の教育目標や授業内容、開講時間、参考図書や成績評価の基準・方法や履修上のアドバイスなどを記載したものです。修学計画や履修登録の際に参考にしてください。シラバスは、myFIT で確認できます。

[シラバスの見方]

科目名	電子回路 I								
英文	Electronic Circuit I								
学科	電気工学科	開講学年	1	開講学期	2019年度 後期				
科目区分	必修	単位数	2	授業形態	講義 (AL)				
担当教員	福岡 工大 (フクオカ コウダイ)	研究室	A 棟 6 階	教職課程	(高) 工業				
E-mail	●●●@fit.ac.jp	実務経験	実務関連科目						
キーワード	能動回路、トランジスタ	関連リンク							
授業概要・目的	電気工学基礎に属する基本的な科目である。電気回路では主に受動素子を扱っている。電子回路 I ではそれに引き続いて、能動素子 (トランジスタや FET) を用いた回路の基礎を中心に、特性やそれを用いた回路の解析法・設計手法を身につける。実務関連: 製造業での電子回路設計・製作の実務経験を踏まえ、実務上特に必要な知識の修得を考慮した内容としている。								
修得する知識・能力 (DP)		関与度	達成目標						
A	地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養								
B	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解								
C	数学及び自然科学 (人文社会科学) に関する知識とそれらを応用する能力								
D	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力	◎	電子回路を理解するために必要なバイアスと等価回路の考え方と具体的な回路について説明できる。						
E	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力								
F	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力								
G	自主的、継続的に学習する能力								
H	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	○	必要な回路の目的を理解し、適切に素子及び回路を選択し設計を行うことができる。						
I	チームで仕事をするための能力								
授業計画		授業内容 (* は AL 実施)		授業外の学修内容 (予習・復習で単位計算基準を満たす内容)					
		<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス: 授業内容、成績評価方法・電子回路とは (能動素子と受動素子)、小テスト 定電圧源、定電流源、制御電源等 (電子回路の基礎となる電源) (*) ダイオードの動作 (電子回路素子とてみたときのダイオードの特性) (*) トランジスタの動作 (トランジスタの電気的特性) (*) 増幅度と h パラメータ (1) (トランジスタを等価回路で表す) ここまでの復習と確認 (*) 理解度確認と反省学習 増幅度と h パラメータ (2) (等価回路によりエミッタ接地回路を解析する) (*) トランジスタのバイアス回路 (1) (トランジスタ回路における電源供給と固定バイアス) (*) トランジスタのバイアス回路 (2) (電流帰還型バイアス) (*) 低周波基本増幅回路 (1) (バイパスコンデンサと結合コンデンサの必要性と等価回路) (*) 低周波基本増幅回路 (2) (交直負荷線と増幅率の計算) (*) 低周波基本増幅回路 (3) (コンデンサと周波数特性) (*) 復習と確認 (*) 理解度確認と反省学習 		<p>各回において次回のプリントを FitReplay からダウンロードし、必ず事前学習動画を見て学習を行ってから受講すること。そのとき別紙に質問を記載し提出すること。講義終了後は、FIT-AIM による振り返りと講義中の演習プリントおよび返却された小テストによる復習と加えて関連事項についても自主的に学習を進めること。</p>					
ICT の活用		クリッカーの利用による相互授業、FIT-Replay による事前学習動画視聴							
教科書		講義ごとに配布する独自プリント (次週のプリントを毎回配布する)							
参考書		アナログ電子回路 (マゴロウヒル), アナログ電子回路 (昭晃堂)							
履修に必要な知識・能力		電気回路に関する基礎知識							
関連科目		電気回路 I・II, 電子回路 II, 電気基礎学実験, 電気計測, メカトロ、パワーエレクトロニクス、卒業研究							
成績評価方法		学期末試験※	小テスト	課題・レポート	授業取組	発表・プレゼンテーション	FIT-AIM (学習ポートフォリオ)	授業外学修	その他
※ 「学期末試験」には、理解度 (達成度) 確認テスト、中間テストを含む									
		A・C・D 【専門力・教養力】	○	○					
		B 【倫理観・責任感】							
		E・F 【発想力・表現力】							
		G・H・I 【主体性】	○				○		
		評価割合	70	10			20		
成績評価の留意点		学期末試験にレポートと FIT-AIM への入力を加えて評価します。FIT-AIM への入力は、毎回の授業の振り返りの入力回数、記載の分量、具体性を評価します。							
履修上のアドバイス		講義は、独自プリントを用いて演習を中心に進めます。講義中にグループ学習を取り入れます。理解度の確認は、毎回の小テストと期末試験で行います。講義のあとは復習及び FIT-AIM による振り返りを必ず行って次の講義を受講してください。オフィスアワーや講義中の質問は歓迎します。提出課題は配布したプリントに記入し、授業開始時に提出してください。授業中に課題の解説を行い、採点後アドバイスを記入して返却します。							
オフィスアワー		月曜 16:20~17:50 A 棟 1 階 (学習スペース)							
昨年度の授業アンケート集計結果		https://unipa-dai.fit.ac.jp/fit_cas/Cas303.do?am_syllabus=1&am_nendo=2017&am_gakki=2&am_jugyud=1411212 https://unipa-dai.fit.ac.jp/fit_cas/Cas303.do?am_syllabus=1&am_nendo=2017&am_gakki=2&am_jugyud=1412204							

[科目区分]
必修、選択、コース必修の区分で記載。

[授業形態]
講義、演習、ゼミナール、研究、実験、実習実技の区分で記載。
講義及び演習のうち、AL (アクティブラーニング) の学修内容を含む授業には AL と記載。
AL については § 2-7 参照

[教職課程]
取得教員免許の種類。教職課程については § 2-12 参照

[実務経験]
担当教員に実務経験がある場合、「実務関連科目」と表記され、詳細は授業概要欄に記載。

[修得する知識・能力]
この授業が各学科のディプロマポリシー (DP) とどう関連しているか、また項目ごとの達成目標について記載。
DPI については各学科参照

[授業計画]
授業の進度に即した 15 (30) 回の授業について記載。
AL を含む回には、* を付記。また、予習・復習に必要なとされる内容や時間について記載。

[ICT の活用]
当該科目における ICT の活用内容

[教科書]
授業を受講する上で必要となる書籍等

[参考書]
参考書として示されているものは図書館で貸し出しすることが可能。

[成績評価方法]
授業の成績をどのような観点から、何によって、どのような割合で評価するかを記載。

[オフィスアワー]
予約なしで担当教員に授業内容などの質問ができる時間。§ 2-9 参照

[授業アンケート]
昨年度のこの授業の学生アンケート結果を掲載。履修のアドバイスもありますので参考にしてください。

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニング (AL)
§ 2-8	就業力養成
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

2 授業時間

1年は前期と後期の2期に分かれ、授業はそれぞれ15週にわたり行われます。

■授業時間（1時限90分）

1限	9:00～10:30
2限	10:40～12:10
3限	13:00～14:30
4限	14:40～16:10
5限	16:20～17:50

→ §2-3. ②学期末試験 P.23

3 単位

授業科目を所定の時間履修し、試験に合格することによって、それぞれの授業科目に付与されている単位が認定されます。

授業科目の単位数の計算は、原則として各期毎週1時限×15週の授業をもって2単位とし、毎週1時限（2時間）の授業（講義・演習）に対して、授業外において4時間の学修（予習、復習、課題等）を行うものとします。実験・実習については、毎週2時限（4時間）の授業と2時間の授業外での学修をもって2単位とします。つまり、2単位の授業科目を履修するためには、授業内外で90時間の学修が求められています。

※単位数の計算では、1時限を2時間に換算します。

→ §2-3. ①単位の取得について P.23

（学則第29条、第32条、履修要項第5条（工・情）、第5条（社））

4 休講・補講

■休 講

科目担当教員が都合により授業を実施できな

い場合は休講となり、myFIT および掲示板にて連絡されます。また、緊急の場合は職員が教室にて直接連絡します。

なお、授業時間の開始30分を経過しても科目担当教員が入室しない場合は、教務課に連絡し指示を受けてください。

→悪天候時の授業実施については、§1-3. ④悪天候時の授業実施 P.7

■補 講

授業が休講となった場合には、必ず代替りの授業が行われます。これを補講といいます。この場合は事前に myFIT および掲示板にて連絡されます。なお、基本的に毎月最終土曜日を補講予備日に設定しています。

→今年度の補講予備日については、
§1-5. 年間行事予定 P.13

5 出席・欠席

試験の受験資格の一つとして、授業への出席が講義回数の2/3以上であることを原則としています。

なお、本学では、病気、忌引き、課外活動、就職活動等による欠席を公的なものとして扱う公欠制度はありません。やむを得ず授業を欠席した場合は、各科目担当教員に「欠席理由届書」（学生課で配布。就職活動による欠席理由届書は就職課で配布。）と欠席事由を証明するものを提出し、当日行われた授業内容を確認し、配布資料や提出物等について指示を受けてください。

また、インフルエンザなどの学校感染症と診断され、出席停止期間が指示された場合は、学生課へ電話連絡してください。

→ §1-4. ①こんなときは？ P.8

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニングプラットフォーム(AL)
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

6 再履修

成績評価が不合格となった科目は、次年度以降に再度、履修することができます。これを再履修といいます。再履修の受講者を対象とした「再履修クラス」が開講される場合は、指定されたクラスで受講してください。

→再履修科目の登録については、
§ 2-2. 教務課窓口で申請が必要な科目 P.21

(履修要項第31条、第32条(工・情)、第30条、第31条(社))

7 コース

技術者教育を目的とする教育プログラムを行うため、学科においてコースを設定しています。(工)生命環境化学科、(情)情報通信工学科) また、指定コース制の履修目標とする教育プログラムとして、社会環境学科においてコースを設定しています。各コースの内容やコース選択の時期や条件は、学科毎の教育プログラム要領に定めています。

→ § 3~5. 各学科 履修上の注意 II. コース

8 注意が必要な科目

■習熟度別クラス

英語科目と専門基礎科目の一部において、学生の習熟度別に授業を行う場合があります。

→ § 2-2. 習熟度別クラス P.22

■卒業研究(工学部、情報工学部)

4年次では「卒業研究」が必修科目になっており、卒業に向けた専門的な研究を行います。卒業研究の目的は、選定した研究テーマについて個々にあるいはグループで自主的に研究を進め、問題を解決していき、得られた成果を発表

し論文としてまとめることで、将来技術者として自立するための素養を養うことにあります。

4年次生の授業時間割表では、特に卒業研究の時間を特定してはいませんが、講義が入っていない時間は、原則として卒業研究に当てることになります。また、卒業研究では5限目以降や、夏季及び冬季休業中にも研究を行う必要がある場合があります。また、自主的な研究活動に加え、各研究室単位でゼミが開講される場合があります。

■ゼミ(社会環境学部)

ゼミ(ゼミナール)は、自らが課題を発見し、継続的に学修する環境を整えるために、1年次から3年次までコア科目として配置され、4年次では必修科目として配置され、卒業に向けて専門的な研究を行います。ゼミの目的は、自己の関心領域に基づき、各年次で修得した教養や専門の知識を総合化し、環境問題の解決に向けて、修得した知識を活用できるようにすることにあります。

また、少人数というゼミの特色を活かして、担当教員と研究上だけでなく、生活上の悩みなど諸問題の議論を通じて、豊かな教養と人間的素養を身に付けるよう努めてください。

§ 2-2. 履修登録

1 履修登録の流れ

授業科目を履修し、その単位を修得するためには、履修登録が必要です。

履修登録は、次の1～4の手続きを履修登録期間内に完了させて下さい。履修登録期間外の申請は原則として受け付けられません。

(履修要項第16条～第18条 (工・情)、第15条～第17条 (社))

1. 履修計画を立てる

履修要項別表「年次別授業科目表」、授業時間割およびシラバスで開講科目や授業内容を確認し、履修科目を選択してください。

実際に授業を受けて授業の目的や内容把握を行い、履修登録期間内に履修する授業科目を確定してください。

【留意点】

- ・進級条件・卒業要件

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

- ・CAP 制

→ § 2-2. 4 CAP 制 (履修登録上限) P.21

- ・GPA

→ § 2-4. 5 GPA P.25

※カリキュラム改訂等に伴い、翌年度以降に一部の授業科目が開講されない場合があります。その際は「代替科目表」にて対応する科目を確認してください。

2. myFIT にて履修登録を行う

前期の履修登録期間では、前期科目、通年科目、後期科目、集中講義 (一部を除く) の全ての授業科目が登録できます。(教職科目を含む。)

また、前期に登録した後期科目については、後期の履修登録期間に変更 (削除や登録追加) できますが、通年科目は変更できません。

※履修登録内容の変更 (追加・削除) は、履修登録期間内では何度でも行うことができます。

※操作説明書は myFIT から「WEB 履修登録マニュアル」を参照ください。

3. 「学生時間割表」を表示・印刷し、履修登録結果を確認する

特に授業コードを確認してください。同じ科目名でも開講時限や担当教員が違くと授業コードも異なり、システム上、別の授業科目として登録されますので注意してください。

4. 教務課窓口で申請が必要な科目について手続きを行う

→ § 2-2. 3 教務課窓口で申請が必要な科目 P.21

2 履修登録期間

■2019年度

履修登録期間	前期	4月3日 (水) 7:00～ 4月12日 (金) 23:00
	後期	9月17日 (火) 7:00～ 9月30日 (月) 23:00
講義開始日	前期	4月8日 (月) ～
	後期	9月24日 (火) ～

※システムのメンテナンスのため、深夜23:00～7:00は登録できません。23:00以前にログインし、23:00を過ぎて登録処理を実行した場合、登録内容は保証されません。翌日以降に再度登録内容を確認してください。

※履修登録期間の最終日は混雑が予想されます。早目の履修登録と確認を行ってください。

■次年度

次年度の開始の案内を、3月頃に保証人 (保護者) 宛に発送する進級判定通知書に同封し案内します。

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニング・プラットフォーム (AL)
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

3 教務課窓口で申請が必要な科目

次の科目は、myFIT から履修登録または登録の完了ができません。履修登録期間内に別途、教務課窓口にて手続きを行ってください。

■他学科・他クラス科目

指定されたクラスの授業時間割ではない開講科目の受講を希望する場合は、「他学科・他クラス受講許可願」に科目担当教員の許可を受けて、教務課にて手続きが必要です。

(履修要項第19条 (工・情)、第18条 (社))

■他学科カリキュラム科目

所属学科のカリキュラムにない科目を受講する場合は、「他学科・他クラス受講許可願」に科目担当教員および所属学科長の許可を受けて、教務課にて手続きが必要です。

ただし、就業力育成プログラム「特定専門科目群」、教職課程「教員免許に関する履修科目」などについては、科目担当教員の許可のみで受講できます。

なお、進級・卒業単位に含みません。

(履修要項第19条 (工・情)、第18条 (社))

■集中講義

履修登録期間内に案内のなかった集中講義の履修登録については、別途指示された期間内に「履修届」を教務課に提出してください。

なお、「インターンシップ I・II」(2・3年次)については、募集説明会にて履修登録等の説明があります。

■再履修科目

所属学年より下位年次の開講科目を再履修する場合、myFIT にて履修登録した上で別途、再履修手続きが必要です。再履修手続きは、教務課に再履修手数料 (1科目1,000円の証紙) を添えて「再履修願」を提出することで完了し

ます。

前期科目・通年科目など前期に開講される科目の再履修願は前期の履修登録期間内に、後期科目については後期の履修登録期間内に、それぞれ提出してください。

履修登録期間内に再履修手続きを完了していない再履修科目については、履修登録不備となり履修登録が削除されますので、注意が必要です。

なお、留年した場合、当該学年次の開講科目についての再履修手続きは不要です。

(履修要項第33条、第34条 (工・情)、第32条、第33条 (社))

4 CAP 制 (履修登録上限)

本学では、履修する科目について、予習・復習を含む授業外の十分な学修時間を確保し、達成目標へ到達するために、1年間に履修登録できる単位数の上限を定めています。これをCAP制といい、工学部及び情報工学部では49単位、社会環境学部では44単位を上限としますので、履修計画を立てる際に注意が必要です。

ただし、次の科目はCAP制の除外科目となります。

- ・卒業単位に含まない科目
(教職課程に関する科目、所属学科のカリキュラムに設定されていない科目など)
- ・認定科目
- ・外国人留学生科目

なお、成績優秀者への取扱い等、教育的配慮から例外を認める場合があります。

5 習熟度別クラス

次の科目を履修する場合、習熟度別に指定されたクラスを登録しなければなりません。

■英語科目

1年次、2年次の英語科目は必修となっています。1年次に行うクラス分けテスト(CASEC)の結果によって、EnglishまたはAdvanced Englishのどちらかに振り分けられ、そのクラスで受講することになります。また、Advanced Englishに配属されると、原則2年次終了までAdvanced Englishを受講することになります。(再履修する場合は各自で受講するクラスを選択できます。)

1年次

前期：English A

Advanced English A

後期：English B

Advanced English B

2年次

前期：English C

Advanced English C

後期：English D

Advanced English D

■専門科目

学科の専門基礎及び専門教育科目のうち習熟度別にクラス分けして授業を行う場合があります。

→ §3～5. 各学科 履修上の注意 習熟度別クラス分け

6 注意事項

1. 定められた期間を過ぎての登録修正(追加・削除)の申し出には原則として応じられません。やむを得ない理由により履修登録期間内に履修登録を行えない場合は、直

ちに教務課に相談し指示を受けてください。なお、必ず履修登録期間終了前に相談してください。

2. 毎年4月のオリエンテーションでの説明において詳細を確認してください。
3. 履修登録期間には、時間割や教室に関する変更や連絡が多数生じますので、掲示板やmyFITに注意してください。
4. 教養力育成科目の履修登録において、履修者多数の場合は抽選になる場合があります。詳しくは、教務課からの案内に従ってください。
5. 原則として、同一時限内の授業科目の重複登録は認められません。
6. 履修登録においてエラーが表示された場合は、授業時間割表やカリキュラム、代替科目表をよく確認してください。エラーが解除できない場合は、教務課に問い合わせてください。
7. 前期の履修登録期間に登録した通年科目を、後期の履修登録期間に削除することはできません。後期の履修登録期間に通年科目を削除した場合や、削除した通年科目と引き換えに別の後期科目を登録した場合は、強制的に再登録および削除の処理を行います。
8. 履修登録の誤り等により教務課から訂正するよう指示された場合は、その指示に従ってください。

§ 2-3. 試 験

1 単位の取得について

履修科目の単位取得は、原則として試験によって行います。試験は、各学期の授業内で行うか、「学期末試験期間」にて行います。

試験は、筆記試験またはレポート、成果発表などの審査によって行います。また、実技を伴う科目については、他の方法で行うことがあります。各々の授業科目の成績評価方法については、シラバスで確認してください。

なお、次の事項に該当する者は、試験を受けることはできません。

1. 休学中の者や停学処分中の者
2. 当該授業科目の履修登録を正しく行っていない者
3. 出席不足やその他の理由により当該科目の担当教員が受験資格を認めていない者
4. 授業料等の学納金を完納していない者
5. 学生証を携帯していない者
6. 試験開始後20分以上遅刻した者

(学則第32条、履修要項第20条～第22条(工・情)、第19条～第21条(社))

2 学期末試験

■学期末試験期間

学期末試験は、15週の講義終了後の第16週目に実施されます。試験時間割については教務課前の掲示板や myFIT で確認してください。

3 試験上の注意

学期末試験は、指定された教室および座席で受けなければなりません。

着席したら学生証を机の上に提示してください。学生証を提示しない者は、受験を認めませ

ん。ただし、学生証を忘れた場合は、試験開始前までに証明書発行機で仮学生証を発行した上で、受験することができます。

→ § 1-3. ■学生証 P. 6

試験を受ける時は、次の各項の注意事項をよく読んで、正しい態度で臨んでください。

なお、試験上の注意事項は、学期中の全ての試験にも適用されます。

■試験上の注意

- ① 着席は、監督者の指示に従ってください。座席指定がある教室においては、名簿の指定番号を確認のうえ、指定番号の席に着席ください。
- ② 学生証は、机の上に提示してください。学生証の提示なく試験を受けることはできません。学生証を不携帯の者は、E棟2階学生サポートセンター内、あるいはB棟2階情報基盤センターに設置の証明書発行機で仮学生証を発行してください。
- ③ 筆記用具(鉛筆・シャープペンシル・消しゴム)及び持ち込みを許可された物以外は、すべてカバンに収納し、椅子の下に置いてください。その際、携帯電話(スマートフォン)等の電子機器類は、電源を切り、必ずカバンに入れてください。
- ④ 試験時間は、各教室において、監督者が指示した時刻から60分間です。(科目により90分試験あり。)
- ⑤ 試験開始から20分以上遅刻すると、受験できません。
- ⑥ 不正行為または不正行為と疑われる行為を行わないこと。(注意：試験中にスマートフォンを扱う等の疑わしい行為及び他人に解答を伝える行為も不正

§ 2-1

授業

§ 2-2

履修登録

§ 2-3

試験

§ 2-4

成績

§ 2-5

進級・卒業

§ 2-6

学籍異動

§ 2-7

ライク
ライク
ライク
ライク
(AL)

§ 2-8

就業力
プログラム
育成

§ 2-9

学修支援

§ 2-10

単位互換

§ 2-11

資格

§ 2-12

教職課程

行為とみなします。)

- ⑦ 試験開始後の途中退室はできません。
 - ⑧ 答案用紙回収時に答案用紙を提出しなければ、評点は0点になります。なお、退室後の答案用紙の提出は、いかなる理由があっても一切認められません。
 - ⑨ 問題用紙の持ち帰りは、許可がない限り禁止します。
 - ⑩ 答案用紙の回収が終わり、監督者が指示するまでは入退室できません。
- ※ 「試験上の注意」は、学期中の全ての試験にも適用されます。

4 不正行為

不正行為と認められた学生は、その学期の全履修科目の評点を0点とします。学期末試験にかかわらず、学期中に行われる試験で不正行為があった場合も同様の取扱いとします。

(履修要項第26条(工・情)、第24条(社))

なお、他人の答案やレポート、データの剽窃(盗作・盗用)はもちろん、それに関わるデータ等を提供した場合も不正行為となる場合があります。

5 追試験

病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができない学生に対して、本人の願い出により追試験を行うことがあります。ただし、願い出た者が必ず許可されるとは限りません。「欠席理由届書」と試験を受けられない事由を証明するもの(病院の診断書・領収書のコピー、交通機関の遅延証明書等)を科目担当教員または教務課に提出し、その後の指示に従ってください。

※追試験を受験できなかった場合、再度の追試験はありません。また、成績は原則としてその得点の8割となります。

(履修要項第27条～第30条(工・情)、第25条～第28条(社))

§ 2-4. 成績

1 成績発表

各学期の履修科目の成績は、成績発表日に myFIT にて発表します。（「成績照会」画面が表示されます。）併せて、保証人（保護者）に対し「学業成績確認表」を送付します。

「学業成績確認表」は随時、学生及び保護者から myFIT にて閲覧することができます。

※成績評価について質問がある場合は、科目担当教員に直接申し出てください。（非常勤講師など直接申し出ることができない場合は、「成績確認申請書」を教務課へ提出ください。）ただし、成績変更の要求は受け付けません。なお、問い合わせの受付期間は原則として成績発表日から1週間以内とします。

2 成績評価・評価基準

履修した科目の成績評価は次のとおりです。

	合格				認定	不合格
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	—	59～0
評価	秀	優	良	可	認定	不可
表示	秀	優	良	可	認	不

また、評価基準は次の通りです。

評価	評価基準
秀	達成目標を理想的なレベルで達成し、きわめて優秀な成果をおさめている
優	達成目標を理想的なレベルで達成している
良	達成目標を標準的なレベルで達成している
可	達成目標を最低限達成している
不可	達成目標を達成できていない

なお、合格した科目については、その科目の単位が授与されます。

（学則第36条、履修要項第24条、第25条（工・情）、第22条、第23条（社））

3 GPA

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、履修した全科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものです。これにより、個々の学生の学修到達

度を表す指標として、各学期および在学期間中の成績状況や学修プロセスを確認できます。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目の単位数}) \times (\text{科目で得た GP}) \text{ の総和}}{\text{履修総単位数}}$$

■ GP の換算

評価	秀	優	良	可	認定	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	—	59～0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	—	0.0

なお、次の科目は GPA の算定対象の除外科目となります。

- ・卒業単位に含まない科目
（教職課程に関する科目、所属学科のカリキュラムでない科目など）
- ・認定科目
- ・外国人留学生科目

履修計画の際には、不用意な履修登録により授業外を含む学修時間の確保の妨げにならないよう、十分な検討が必要です。また、履修登録した科目は確実に履修し、単位取得に努めることが求められます。

4 記載内容について

「学業成績確認表」は、所属学科・コースのカリキュラムに設定されている全ての学科目が表記されています。そのうち現在までの履修科目についての評価や取得単位数などが表示されます。

なお、「学業成績証明書」には合格科目についての評価と取得単位数が記載されます。

→発行については、§ 6-1. 1 証明書発行 P.148

※ myFIT 「成績照会」では、履修科目や取得単位数は確認できますが、進級・卒業に必要な単位数、及び不足単位数は表示されません。
進級・卒業のための成績確認は「学業成績確認表」で行ってください。

§ 2-1

授業

§ 2-2

履修登録

§ 2-3

試験

§ 2-4

成績

§ 2-5

進級・卒業

§ 2-6

学籍異動

§ 2-7

アクティビティ (AL)

§ 2-8

就業力育成プログラム

§ 2-9

学修支援

§ 2-10

単位互換

§ 2-11

資格

§ 2-12

教職課程

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニングプラットフォーム(AL)
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

5 単位認定

■転入・編入学

本学への転入学・編入学生が他の大学や短期大学、高等専門学校において修得した単位については、審査の上、本学の卒業要件となる授業科目および単位として認定されます。

■認定科目

指定された資格試験に合格したり、所定の研修を修了したりすることによって単位認定される授業科目があります。

各学科共通 キャリア科目	「インターンシップⅠ」 「インターンシップⅡ」
工学部共通 (生命環境化学科を除く)	「国際工学実習」
(工) 電子情報工学科	「無線技術資格」 「情報技術資格」
(工) 電気工学科 専門教育科目	「電験理論」「電験電力」 「電験機械」「電験法規」
(情) 情報システム工学科 専門教育科目	「情報技術資格Ⅰ」 「情報技術資格Ⅱ」
(情) システムマネジメント 学科 専門教育科目	「IT パスポート資格」 「基本情報技術者資格」

■単位互換

協定校への留学にて履修した科目および放送大学の特別聴講生として指定された科目の単位を取得した場合、審査の上、30単位を上限として単位の編入・振替が認められます。

→ § 2-10. 単位互換 P.38

(学則第33条～第35条)

6 成績の取り扱い

学業特別奨学生の選考などの際に、成績の基準として GPA や平均点、取得単位数などが考慮されます。

成績の学年順位についての問い合わせがある場合は、学生証を提示の上、教務課窓口に出してください。

※成績の基準に英語科目の成果を用いる場合、履修したクラスに重みをかけて換算を行う場合があります。ただし、重み付けの数値は学科で必要に応じて判断します。

§ 2-5. 進級・卒業

1 進級条件

【工学部】

1→2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年以上在学していること ・各学科の進級条件単位を修得していること 電子情報工学科：32単位以上 生命環境化学科：38単位以上 知能機械工学科：32単位以上 電気工学科：30単位以上 ・2年次の進級条件に指定されたコア科目の全単位を含む※
2→3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・2年以上在学していること ・各学科の進級条件単位を修得していること 電子情報工学科：72単位以上 生命環境化学科：72単位以上 知能機械工学科：68単位以上 電気工学科：64単位以上 ・3年次の進級条件に指定されたコア科目の全単位を含む※
3→4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・3年以上在学していること ・各学科の進級条件単位を修得していること 電子情報工学科：114単位以上 生命環境化学科：112単位以上 知能機械工学科：114単位以上 電気工学科：104単位以上 ・上記単位のうち専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含むこと (電子情報工学科は必修科目76単位以上、かつ、選択科目12単位以上) ・コア科目の全単位を含む※

※電子情報工学科、生命環境化学科、知能機械工学科において、コア科目が設定されています。

→ §3~5. 各学科履修上の注意 V. その他

【情報工学部】

1→2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年以上在学していること
2→3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・2年以上在学していること ・64単位以上修得していること
3→4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・3年以上在学していること ・104単位以上修得していること、うち専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含む

【社会環境学部】

1→2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・1年以上在学していること ・30単位※以上修得していること ・単年度のGPA1.0以上
2→3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・2年以上在学していること ・62単位※以上修得していること ・単年度のGPA1.0以上
3→4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・3年以上在学していること ・94単位※以上修得していること ・単年度のGPA1.0以上

※コア科目含む。

※コースにより進級条件が異なる場合があります。

→ §3~5. 各学科履修上の注意 II. コース

※教職科目、他学部他学科科目は進級単位に含みません。

(履修要項第7条~第9条(工・情・社))

※協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、4年次の卒業研究を履修することができません。

(履修要項別表(工・情))

2 卒業要件

卒業するためには、次の要件を全て満たしていなければなりません。

- ・4年以上在学していること(転入学生・編入学生、再入学者を除く)
- ・卒業に必要な単位数(すべての必修科目を含む)を修得していること

(学則第37条、履修要項第3条)

その他、次の事項を満たさない場合は卒業が保留されます。

- ・授業料等の学納金を完納していること
- ・帯出した図書館資料等の返却を完了していること

■卒業に必要な単位数

【工学部】

区 分	単位数	内 訳	
1. 教養力 育成科目	26 単位以上	基礎科目	10 単位以上
		キャリア科目	4 単位以上
		外国語科目	8 単位以上 (うち 1・2 年次の 英語科目 8 単位を 含む)
		ウェルネス科目	2 単位以上
		上記のいずれ かの科目から	2 単位以上
2. 専門基礎 科目 専門教育 科目	92 単位以上 (電子情報工 学科は 100 単位以上)	—	—
1. 2. のい ずれかの科目 から	14 単位以上 (電子情報工 学科は 6 単位 以上)	—	—
合 計	132 単位以上		

【情報工学部】

区 分	単位数	内 訳	
1. 教養力 育成科目	24 単位以上	基礎科目	10 単位以上
		キャリア科目	4 単位以上
		外国語科目	8 単位以上 (うち 1・2 年次の 英語科目 8 単位を 含む)
		ウェルネス科目	2 単位以上
2. 専門基礎 科目 専門教育 科目	84 単位以上	—	—
1. 2. のい ずれかの科目 から	16 単位以上	—	—
合 計	124 単位以上		

【社会環境学部】

区 分	単位数	内 訳	
1. 教養力 育成科目	26 単位以上	基礎科目	10 単位以上
		キャリア科目	4 単位以上
		外国語科目	8 単位以上 (うち 1・2 年次の 英語科目 8 単位を 含む)
		ウェルネス科目	2 単位以上
		上記のいずれ かの科目から	2 単位以上
2. 専門教育 科目	80 単位以上	基礎科目	12 単位
		基幹科目	6 単位以上
		基幹（上記 6 単位を除 く）又は展 開	46 単位以上
		ゼミナール	16 単位
1. 2. のい ずれかの科目 から	18 単位以上	—	—
合 計	124 単位以上		

※コース毎の卒業要件は別途定められています。

→ §3~5. 各学科 6 履修上の注意 II. コース

※教職科目、他学部他学科科目は卒業単位に含みませ
ん。

3 留 年

進級・卒業判定において、進級条件・卒業要
件を満たさない場合は留年となり、もう一度同
じ年次で修学することになります。

§ 2-1	授 業
§ 2-2	履 修 登 録
§ 2-3	試 験
§ 2-4	成 績
§ 2-5	進 級 ・ 卒 業
§ 2-6	学 籍 異 動
§ 2-7	ラ イ ク ー テ ィ ン グ プ (AL)
§ 2-8	プ 就 業 力 育 成 ム
§ 2-9	学 修 支 援
§ 2-10	単 位 互 換
§ 2-11	資 格
§ 2-12	教 職 課 程

§ 2-6. 学籍異動

1 修業年限と在学年限

修業年限は4年です。また、在学期間は8年を超えることはできません。(休学期間を除く。また、転入学生・編入学生、再入学者を除く。)

(学則第12条、13条、21条)

2 休学

摘要	4か月以上授業に出席できない場合
休学期間	1年以内。年度を超えることはできない
手続期間	11月末日まで。休学願を提出した翌月から適用
必要事項	休学願(所定の用紙)に保証人連署の上、教務課へ提出
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・休学中に海外渡航予定がある場合は、海外渡航届を記入し、教務課へ提出 ・休学期間中の学納金の納入は不要であるが、願出の月までの学納金は完納していなければならない ・休学期間は在学期間への算入および単位の認定はされない ・休学期間は通算して2年を超えることができない ・帯出した図書館資料は返却していなければならない

(学則第21条)

3 復学

摘要	休学者が復学を希望する場合
復学日	10月1日または4月1日(3月20日)
手続期間	休学者へ個別に通知
必要事項	復学願(所定の用紙)を指定期日までに教務課へ提出
備考	進級条件(卒業要件)を充足した場合は進級(卒業)となるが、充足していない場合は原級の学年に復学となる

(学則第22条)

4 退学

摘要	退学を希望する場合(懲戒による退学を除く)
手続期間	その都度
必要事項	<ul style="list-style-type: none"> ・退学願(所定の用紙)に保証人連署の上、教務課へ提出 ・学生証返却のこと
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学納金は願出の日までに完納していなければならない ・帯出した図書館資料は返却していなければならない

(学則第25条)

5 除籍

次に該当する場合は学期末をもって除籍されます。(学生証返却のこと)

- ・授業料等の学納金を完納していない場合
- ・在学年限を超えた場合
- ・休学期間を超えて、なお修学できない場合
- ・死亡または長期にわたり行方不明の場合

(学則第26条)

6 再入学

退学者または学納金の未納による除籍者が1年以内に再入学を願い出た場合、審議の上、4月1日付で許可することがあります。在学時に修得した単位は継承されます。ただし、処分を受けて退学になった者は再入学できません。

※再入学科30,000円および学納金の未納分が必要です。

(学則第27条)

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニングプラットフォーム(AL)
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

7 転学部・転学科

摘要	転学部および転学科を希望する場合
出願期間	1月15日～1月末日
必要事項	転学部及び転学科申請書、志望理由書、検定料(30,000円)
選考	書類審査合格者に筆記試験および面接を実施
出願資格	<ol style="list-style-type: none"> 次の単位を取得見込の者 <ul style="list-style-type: none"> 2年次への転学部・転学科：1年次終了時点で32単位以上取得(志望学科が32単位を超える2年次進級条件を定めている場合は、志望学科の進級条件を満たすこと) 3年次への転学部・転学科：2年次終了時点で64単位以上取得(志望学科が64単位を超える3年次進級条件を定めている場合は、志望学科の進級条件を満たすこと) 特別推薦入試で入学した学生でないこと 当該年度の学納金を完納していること

(学則第23条の2)

※転学部、転学科を希望する場合は、教務課および所属学科のクラス担任や志望学科の教員とよく相談してください。修学の継続性や意欲が問われることとなります。

8 研究生、科目等履修生

卒業後に研究を続けたり、授業科目を履修したりすることができる制度があります。詳しくは教務課に問い合わせてください。

■研究生

摘要	特定の専門事項について研究を行う
入学資格	大学を卒業した者または同等以上の学力を有する者
在学期間	1年
出願期間	前期から：2月末、後期から：8月末
納入金	入学検定料7,000円、入学金55,000円、授業料228,000円(工・情)、188,000円(社)
備考	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員および科目担当教員の許可の下、講義、実験、演習等に出席できるが、単位認定は行わない 外国人留学生研究生の手続きは別途定める

(学則第44条)

■科目等履修生

摘要	授業科目を履修する
入学資格	学則第15条の入学資格を有する者および他の大学・短期大学・高等学校との協議に基づき許可された者
在学期間	履修を許可された科目の授業が修了する学期末まで
出願期間	前期科目、通年科目：2月10日～2月28日 後期科目：8月20日～8月30日
納入金	本学卒業生は検定料・入学金免除、授業料1単位につき11,400円(工・情)、9,400円(社)
備考	

(学則第43条)

§ 2-7. アクティブ・ラーニング (AL)

1 ALとは

本学では、実践型人材の育成を目指して、全学的にアクティブ・ラーニング (AL) を推進しています。

本学における AL は、学生の意見表明および振り返りを基本的な要素とする授業・学習形態のことであり、具体的には、グループ学習、グループディスカッション、体験学習、課題解決学習などを取り入れた授業を行います。

講義形式の授業だけでなく、教員と学生の双方向性が確保された授業の中で、自分の意見を積極的に述べたり、学生同士で積極的にコミュニケーションを行ったりすることにより、授業理解が深まるとともに、実践型人材に欠かせない汎用的スキル (社会で役立つ力) を身に付けることができます。

2 AL 型授業について

AL を含む授業は、シラバスにおいて「講義 (AL)、演習 (AL) 等」と明記されており、さらに、半期15回 (通年30回) の授業回の中で、どの回において AL 型の学修が行われているかについてもわかるようになっていきます。

→ § 2-1. シラバスの見方参照 P.17

3 AL 型学修の要素

AL 型授業の中で行われる学修は以下の5つの要素のうちいずれかがあてはまります。

- ① 2人以上のグループでの学修
他者との学び合いを通じて、互いに知識を補い合いながら、授業理解を深めます。
- ② 短いレポート (ミニツツペーパー)
授業では各回で学ぶ内容についての達成目標が設定されています。学んだ内容や授

業への意見をレポートに記すことで、理解度の確認や授業の改善に生かします。

- ③ 議論や発表等、自らの意見表明
ディスカッションやプレゼンテーション等、自分の意見をまとめ、相手にわかりやすく伝える工夫を学びます。
- ④ グループでの学びの振り返り
授業の内容について理解できた点、できなかった点を振り返り、他者と共有することで、自分の伸びた点やもっと学修すべき点を明らかにし、その後の学修に活かします。
- ⑤ 教員と学生との双方向性確保
その他、授業の中で教員と学生のコミュニケーションを行う場が確保されています。

これらの要素を含み、授業の内容や目的に適した AL 型の学修が取り入れられており、能動的な学修態度の涵養と知識の密着を図ります。

4 学習ポートフォリオ (FIT-AIM)

学習ポートフォリオ (FIT-AIM) は、みなさんが大学生活の中で履修した授業での学習目標の達成具合や課外活動の成果等を自ら記録し振り返ることによって、自分の成長を感じ取ったり、新たな課題を発見したりしながら、最終的には4年間の学習成果として、どのようなことを学び、どのようなことができるようになったかを確認できるシステムです。

学習ポートフォリオの活用を通じて、自分の目標を定め、それに対する年次ごとの目標設定および自己評価を行うことで目的意識を高めることができます。また、自分が履修した授業科目や課外活動などを通じて得られた学びや気づきを、卒業後のキャリア (進路) を考える際や、就職活動の際に役立てることがあります。

§ 2-8. 就業力育成プログラム

1 就業力育成プログラムとは

大学卒業後、皆さんは何らかの形で社会に出て自立していかなければなりません。そのためには、職業を選択し、就職し、仕事を継続していく力が必要です。その力のことを「就業力」といいます。

本学では、学業の中で身につけることのできる「就業力」を4つの力に分け、1年次から4年次にかけて段階的に伸ばしていくための教育、「就業力育成プログラム」を準備しています。

同プログラムでは、コミュニケーション力向上を目指し、AL型の学修を積極的に取り入れた講義を展開しています。

2 「4つの力」とカリキュラムの構成

本学の実業力育成プログラムにおける「4つの力」とは、「志向する力」「共働する力」「解決する力」「実践する力」です。

■ 「志向する力」

将来の職業や生き方について自ら考え、目的とする方向を目指して行動していく力です。この力の育成のために、入学前には、自分の将来についての作文課題が課され、入学後の個人面談では、提出された作文の内容に基づいたアドバイスが行われます。また、授業科目「キャリア形成」(1年次前期、2単位)では、基礎的なスタディ・スキルのほか、目標設定、計画立案、自己管理等の具体的手法を学び、作文と面談を通じて考えてきた自分の大学生活や卒業後の職業生活への展望をさらに明確なものにできるようにします。

■ 「共働する力」

共に考えを伝え合い、協力しながら活動する力です。この力の育成のために、「コミュニケー

ション基礎」(1年次後期、2単位)では、グループワークを通じて、論理的思考や基本的な議論・プレゼンテーションの方法を実践的に修得していきます。また、「日本語表現法」(2年次後期、2単位)では、大学生活で目的に応じて文章を書くために必要な日本語の基礎知識や書き言葉の表現法を身に付けます。

■ 「解決する力」

問題を発見し、適切な方法でその解決を図る力です。この力の育成のために、1～3年次には、各学科における「技術者倫理」およびそれに相当する科目で、ケースメソッドとグループディスカッションの手法を用いた授業が展開され、問題発見から解決策の提案までのプロセスを学びます。またそれと同時に、技術者が社会に対して保持すべき倫理観を身につけ、専門分野における思考力・問題解決力・コミュニケーション力を高めていきます。

■ 「実践する力」

学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力です。この力の育成のために、「インターンシップⅠ」(2年次前期、2単位)、「インターンシップⅡ」(3年次前期、2単位)では、インターンシップを実施し、就業体験(企業において実習・研修を経験すること)を通じて、実際的な職業観や実践力を高めていきます。また、より高度な実践力を身につけるために、他学部他学科で開講される「特定専門科目群」を受講できる制度が設けられています。

§ 2-1

授業

§ 2-2

履修登録

§ 2-3

試験

§ 2-4

成績

§ 2-5

進級・卒業

§ 2-6

学籍異動

§ 2-7

ラーニングアップ(AL)

§ 2-8

就業力育成プログラム

§ 2-9

学修支援

§ 2-10

単位互換

§ 2-11

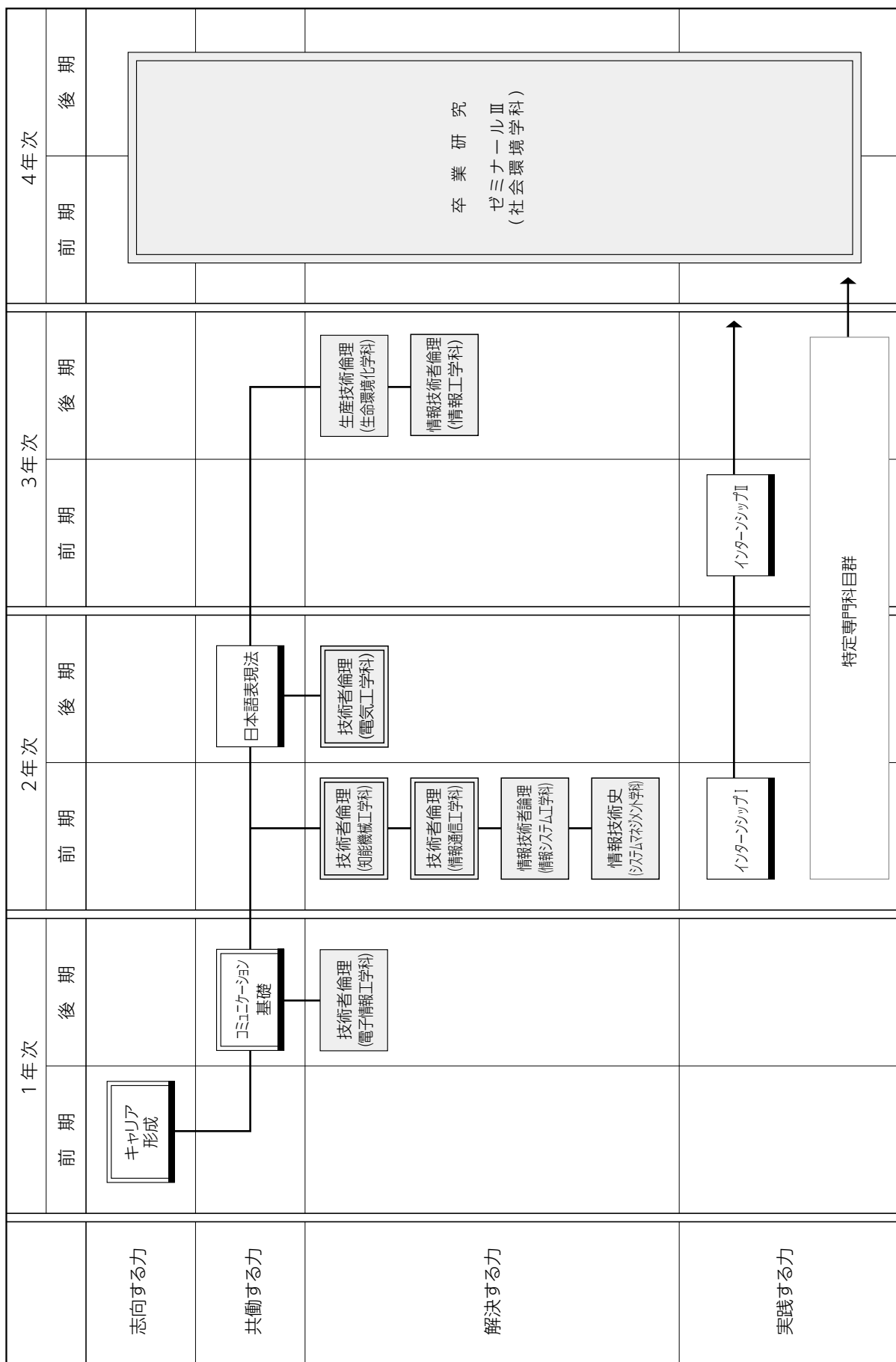
資格

§ 2-12

教職課程

就業力育成プログラム | カリキュラムフローチャート

【全学部】



- 必修科目
- 選択科目
- 教養力育成科目
- 専門教育科目

■特定専門科目群

特定専門科目群は、次の3つのグループに分けられ、それぞれの科目群に受講可能な他学部他学科の科目が指定されています。

- ①制御系科目群
- ②組み込みプログラミング系科目群
- ③環境エネルギー系科目群

これら3つの科目群から、自分の興味のある科目群を選択し、他学部他学科の指定された科目について12単位を上限として履修することができます。

	制 御 系	組み込みプログラミング系	環境エネルギー系
電子情報工学科	制御基礎（3年前期、必修） 制御工学（3年後期、選択） 電子計測（2年後期、必修）	応用プログラミングⅠ（2年後期、選択） 組み込み基礎（3年前期、必修） 応用プログラミングⅡ（3年後期、選択）	なし
生命環境化学科	なし	コンピュータ言語（2年前期、必修）	環境科学Ⅰ（2年前期、選択） 環境科学Ⅱ（2年後期、選択） 環境浄化工学（3年後期、選択） 環境衛生学（4年前期、選択）
知能機械工学科	知能機械制御言語及び演習（2年前期、選択） 知能機械制御工学（3年前期、必修） ロボット工学（3年後期、選択） 計測工学（3年前期、選択）	知能機械制御言語及び演習（2年前期、選択）	なし
電気工学科	システム制御工学Ⅰ（2年後期、必修） システム制御工学Ⅱ（3年前期、選択） 現代制御（3年後期、選択）	プログラミング言語（2年前期、必修） ★メカトロニクスⅠ（2年後期、必修） ★メカトロニクスⅡ（3年前期、選択） ★…受講にあたってはキットの購入（約30,000円）が必要である。	電気応用（2年後期、必修） 電気エネルギーシステム工学Ⅰ（2年前期、必修） 電気エネルギーシステム工学Ⅱ（2年後期、必修） 電気エネルギーシステム工学Ⅲ（3年前期、選択） 電気エネルギーシステム工学Ⅳ（3年後期、選択）

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニングプラットフォーム(AL)
§ 2-8	就業力育成
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

	制 御 系	組込みプログラミング系	環境エネルギー系
情報工学科	電子回路 (2年前期、選択) 論理回路 (2年前期、必修) 論理設計 (2年後期、選択) ロボティクス (3年後期、選択)	HCIプログラミング (3年後期、選択) JAVAプログラミングII (2年後期、選択) ネットワークプログラミング (3年前期、選択) デジタルシステム設計 (3年前期、選択)	なし
情報通信工学科	計測工学I (2年後期、選択) 計測工学II (3年前期、選択)	データ構造とアルゴリズム (2年前期、選択) オブジェクト指向プログラミングI (2年前期、選択)	なし
情報システム工学科	システム制御工学I (2年後期、必修) システム制御工学II (3年前期、選択) デジタル制御工学 (3年後期、選択) センサ情報処理 (2年後期、選択) 基礎ロボット工学 (2年後期、必修) メカトロアクチュエータ (3年後期、選択)	論理回路 (2年前期、必修) 組込みシステム (3年前期、選択)	なし
システムマネジメント学科	オペレーションズリサーチI (1年後期、必修) オペレーションズリサーチII (2年前期、必修) オペレーションズリサーチIII (2年後期、必修)	情報処理III (3年前期、選択)	なし
社会環境学科	なし	なし	環境政策I (2年前期、基幹) 環境生態学 (2年後期、選択) 環境社会学 (2年後期、基幹) 環境地理学 (2年前期、選択) 資源エネルギー政策論 (3年前期、選択) 生活環境論 (3年前期、選択)

§ 2-9. 学修支援

1 クラス担任・オフィスアワー

学科別組毎あるいはゼミナール毎に担当教員が定められており、皆さんの学修上の助言や指導を行います。

また、各教員があらかじめ定めた時間に研究室で待機して、授業内容のわからないことや質問に応じるなど、自学自修を支援するためにオフィスアワーを設けています。各教員のオフィスアワーの時間は、ホームページ及びシラバスに記載されていますので、自ら研究室を訪ね、大いに活用してください。なお、非常勤講師の場合は、授業の前後に直接相談してください。

また、教務課においても、修学の相談や履修アドバイスを行っていますので気軽に申し出てください。

2 フレッシュマンスクール

新入生をサポートするプログラムとして、専門教育スタッフが2名（数学1名・国語1名）常駐しています。また、先輩学生が履修や学習の相談に乗り、親身になってアドバイスします。

■集合学習

- ・「数学ベーシック」(工学部・情報工学部対象)
- ・「レポートニングスキル」(社会環境学部対象)

■個別指導

学習相談やその他の大学生活の悩みに個別に対応します。

→ § 7-1. 施設案内 P.162

3 授業アンケート

本学では授業改善を目的に、学生による授業アンケートを各学期中に2回（中間・期末）実施しています。

その後中間アンケートは授業内でフィードバックされ、期末アンケートは集計結果が公開されます。回答は、成績評価とは一切関係ありませんので、安心して記入してください。

授業をより良くするために、皆さんの声を届ける機会として、期間内にアンケートに回答してください。

4 TA・SA、CS

TA（ティーチングアシスタント）およびSA（スチューデントアシスタント）とは、本学大学院生および学部生が、実験・実習および演習科目において、教員と共に教育を補助し、教育効果の向上を図るものです。TA・SAは、将来、研究者・教育者になるための重要なキャリア形成の場としても位置付けられています。

また、CS（クラスサポーター）として、先輩学生が授業の中で、グループディスカッションなどのファシリテーションを行い、共に学び合う取り組みも行っています。

§ 2-1

授業

§ 2-2

履修登録

§ 2-3

試験

§ 2-4

成績

§ 2-5

進級・卒業

§ 2-6

学籍異動

§ 2-7

ラーニングプラットフォーム (AL)

§ 2-8

就業力育成プログラム

§ 2-9

学修支援

§ 2-10

単位互換

§ 2-11

資格

§ 2-12

教職課程

§ 2-10. 単位互換

1 放送大学との単位互換について

本学では、放送大学との単位互換協定を結んでいます。本学が定める放送大学の授業科目を履修して単位を取得すると、30単位を上限として本学の卒業単位として認められます。

※放送大学はテレビとラジオで授業を行う教養学部
の大学です。本学の学生は、「特別聴講学生」として指定科目を履修できます。

放送大学授業科目	本学での対応授業科目
(1)基盤科目 ・一般科目(人文系) ・一般科目(社会系)	1科目2単位 教養力育成科目 基礎科目の単位として加算

(学則第33条、履修要項第37条(工・情)、第35条(社))

■履修の方法

放送大学の授業では、テキストと通信指導問題が郵送されます。印刷教材を受け取ったら、テレビ視聴をすることとテキストによる学習(1回45分、全15回)を自学自習によって進めてください。学期の途中に出題される通信指導に合格することによって単位認定試験の受験資格を得て、試験の結果、単位の認定を受けます。

	開講時期	募集時期
第1学期	4月1日～	12月中旬～1月中旬頃
第2学期	10月1日～	6月中旬～7月中旬頃

入 学 料	不要
授 業 料	1科目2単位 10,000円
募集定員	50名程度/科目
履修上の注意	通信指導のレポート再提出および再試験は、各1回まで認められています。

■出願手続き

受講希望者は、教務課で単位互換の仕組み、募集要項、受講の方法などの説明を受けた上で、上記の期間内に、出願手続きを行ってください。

2 協定校との国際交流

協定校間における長期留学プログラムにおいて、所定の要件を満たした場合は、協定校にて履修し修得した単位が本学の卒業単位として認められます。詳しくは、国際連携室に問い合わせください。

→ §6-4. 国際交流 P.154

(学則第24条、第33条)

§ 2-11. 資格

1 認定校として認可を得ている資格

本学には、所管する官公庁や関連する諸団体の認定を受け、以下に示す国家資格について、所定の科目・単位を取得し卒業することで取得可能な資格、または卒業後に実務経験を経ることによって受験資格が得られる資格などがあります。

■教員免許

→ § 2-12. 教職課程 P.41

■修習技術者（技術士補）

(工) 知能機械工学科

2017年度に JABEE を継続受審し、学科全体で認定を受けており、卒業とともに「技術士第一次試験合格者及びそれと同等と認められる者」とみなされ、技術士補となる資格を有します。

→ § 3-3. 2カリキュラム・ポリシー 技術者教育プログラム P.73

■食品衛生管理者、食品衛生監視員

(工) 生命環境化学科

厚生労働省の登録を受けた養成施設において、指定された科目を修得した者は任用資格が得られます。

→ § 3-2. 6履修上の注意 IV. 資格取得 P.70

■毒物劇物取扱責任者

(工) 生命環境化学科

厚生労働省令に定められた「化学に関する授業科目の単位数が必修科目の単位中28単位以上ある応用化学に関する学課」に相当するので、卒業後、毒物劇物取扱責任者に選任される資格が得られます。

→ § 3-2. 6履修上の注意 IV. 資格取得 P.70

■電気主任技術者

(工) 電気工学科

経済産業省の認定校であり、在学中に指定科目を修得し、卒業後、所定の実務経験を経た者

は、第1種～第3種の電気主任技術者の免許交付申請を行うことができます。

→ § 3-4. 6履修上の注意 IV. 資格取得 P.90

■電気通信主任技術者

(伝送交換主任技術者、線路主任技術者)

(情) 情報通信工学科

電気通信主任技術者の国家試験科目の一部免除の認定校であり、認定に必要な科目を全て修得することにより、試験科目の一部が免除されます。

→ § 4-2. 6履修上の注意 IV. 資格取得 P.113

■工事担任者（ネットワーク接続技術者）

(情) 情報通信工学科

工事担任者の国家試験科目の一部免除の認定校であり、認定に必要な科目を全て修得することにより、試験科目の一部が免除されます。

→ § 4-2. 6履修上の注意 IV. 資格取得 P.113

■無線従事者（第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士、第一級陸上無線技術士）

(情) 情報通信工学科

無線従事者の長期型養成課程認定校であり、認定に必要な科目を修得した者は、申請することによって第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士および第三級海上特殊無線技士の資格が与えられます。また、第一級陸上無線技術士の認定に必要な科目を修得することにより、卒業後、試験科目の一部が免除されます。

→ § 4-2. 6履修上の注意 IV. 資格取得 P.113

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニングプラットフォーム (AL)
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

2 資格取得を支援している資格

本学では、以下に示す資格について、各学科で資格取得支援科目や資格取得支援講座を開講しています。

→ §3~5. 各学科の履修上の注意 IV. 資格取得

国：国家資格 公：公的資格 民：民間資格

(表の見方)		工学部				情報工学部				社会環境学	資格の種別	備考
		電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科	情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	システムマネジメント学科	社会環境学科		
機械・電気・通信	機械保全技能士			●							国	
	CAD利用技術者			●							民	
	機械加工技能士（普通旋盤作業）			○							国	
	機械設計技術者			○							民	
	電気工事士				●						国	
	電気主任技術者				○						国	
	第一級陸上無線技術士	○●				○●					国	
	第一級陸上特殊無線技士	○●				○					国	
	第二級海上特殊無線技士					○					国	
	第三級海上特殊無線技士					○					国	
	電気通信主任技術者					○●					国	
工事担任者（ネットワーク接続技術者）					○●					国		
情報・ネットワーク	ITパスポート（IP）					○		○	○		国	■ 情報処理技術者
	情報セキュリティマネジメント（SG）										国	
	基本情報技術者（FE）	○●				○●	●	○●	○●		国	■
	MOS (Microsoft Office Specialist)	○						○		○●	民	■
	LinuC(Linux Professional Institute Certification / Linux技術者)					●	●	●	●		民	
	CCNA (Routing and Switching)					●	●	●	●		民	
	Webクリエイター										民	■
	CGクリエイター								○		民	
	CGエンジニア								○		民	
DTPエキスパート								○		民		
環境・バイオ・食品・毒物	公害防止管理者		○								国	
	危険物取扱者		●								国	甲種・乙種
	環境計量士		○								国	
	環境測定分析士		○								公	
	バイオ技術者		●								民	中級・上級
	食品衛生管理者		○								公	
	食品衛生監視員		○								公	
	毒物劇物取扱責任者		○								公	
その他	GIS学術士									○	公	
	TOEIC										民	■
	日商簿記検定									○●	公	■

その他、エクステンションセンターでは、TOEIC、日商簿記、MOS、ITパスポートやWebクリエイターなどの資格取得支援講座や直前対策講座などを開講しています。（備考欄■印）講座内容や資格試験の申し込みなどは、エクステンションセンターに問い合わせてください。（エクステンションセンター資格サイト <http://shikaku.fit.ac.jp>）

§ 2-12. 教職課程

1 教職課程について

教職課程とは、教員免許状を取得するために教育職員免許法に定められた科目を履修する課程のことです。教員免許状を取得するためには、所属学科の進級条件・卒業要件を満たす他に、教職課程に関する科目の単位を取得しなければなりません。多くの単位取得や教育実習等が必要となりますので、しっかりとした自覚と覚悟が求められます。

なお、教職課程の履修登録は2年次4月に行いますが、履修希望者は1年次に次のことが必要となります。履修を迷っている場合は、1年次後期に開講される「教師論」を受講してください。以下が2年次からの受講に必要な事項です。

- 1年次に開講される教職課程に関する授業科目の履修
- 「教師論」（1年次後期）の単位取得
- 1年次の単位取得数40単位以上（「教師論」2単位を除く）

（学則別表3、履修要項第35条、第36条（工・情）、第34条（社）、および教職別表）

2 取得できる教員免許状

■高等学校教諭一種免許状

	工学部				情報工学部				社会環境学部
	電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科	情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	システムマネジメント学科	社会環境学科
工業	○	○	○	○					
理科		○							
数学					○	○	○	○	
情報					○	○	○	○	
公民									○

■中学校教諭一種免許状

	工学部				情報工学部				社会環境学部
	電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科	情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	システムマネジメント学科	社会環境学科
数学					○	○	○	○	
社会									○
理科		○							

※必要な単位を満たすことで、複数の免許状取得が可能です。（例：中学と高校の理科、高校の数学と情報、中学の社会と高校の公民）

（学則第39条）

3 教育研究上の目的と教育目標

■教育研究上の目的

教職の意義、教育の原理及び人間の発達を理解し、将来の教育者としての専門的知識、方法技術さらに実践的能力を高めるとともに、使命感及び倫理観と教育的愛情を育む人材の養成を目的とする。

■教育目標

- 教職の意義及び教育の原理を理解し、将来の教育者としての自覚を促すとともに、教育者としての使命感及び倫理感と教育的愛情を育む。
- 生涯にわたる人間の発達について深く理解し、自己及び他者相互の人格に基づいた「心ある知」を養う。
- 教科に関する専門知識及び教科指導に関する方法技術の修得を図る。
- 生徒指導、学級・ホームルーム経営のための専門的知識及び方法技術の修得を図る。
- 教育にかかわる実習・体験活動とそれに伴う思索を通して、教育方法を探求する前向きな精神と創意工夫の精神を涵養する。

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニング・プラットフォーム (AL)
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

- F. 地球的な視野から文化や環境を理解する姿勢を養い、自己の柔軟な思考と問題解決能力を高める。
- G. 自律の精神のもとに探究心・向上心を高め、生涯にわたり自主的継続的に学習する能力（生涯学習能力）の育成を図る。
- H. 社会の中で他者との共生を図りつつ自らの能力を発揮できる社会性を身につける。
- I. 教育実践活動にもとめられる論理的な思考力と自己表現能力、同僚の教職員や生徒や保護者及び地域とのコミュニケーション能力、対人関係能力、ネットワーキング能力を高める。

4 履修の流れ

時 期		内 容
1年次	前期	・1年次に開講される教職課程に関する授業科目の履修
	後期 2月	・「教師論」履修 ・1年次40単位以上取得 ・教職課程ガイダンス
2年次	前期 4月	・「教職課程履修登録簿」提出 ・教職課程ガイダンス
	後期 2月	・介護等体験説明会 (中学校免許取得希望者対象) ・教育実習内諾手続き説明会
3年次	前期 4月 6月～ 7～9月	・教職課程ガイダンス ・介護等体験 ・教育実習校へ内諾依頼
	後期 2月	・教職課程ガイダンス
4年次	前期 4月 6月～	・教職課程ガイダンス ・教育実習
	後期 10月 3月	・教員免許状一括申請に関する説明会 ・卒業式当日、教員免許状交付

■教職課程の履修登録

- ・「教師論」（1年次後期）は、1年次後期の履修登録期間までに履修登録してください。
- ・1年次2月に「教師論」の単位取得者を対象にした教職課程ガイダンスを行います。ガイ

ダンスで配布される「教職課程履修登録簿」に教職課程履修料の証紙を添付の上、指定された期日までに教務課に提出してください。

- ・教職課程の科目の履修登録は、年次毎に履修登録期間に行ってください。

■教育実習

- ・2年次2月に教育実習内諾手続き説明会を行います。
- ・4年次6月頃に、中学校免許取得希望者は3週間、高校免許取得希望者は2週間の教育実習が実施されます。教育実習校は主に出身校になります。
- ・教育実習に参加するには、3年次までに次の科目の単位を全て取得していなければなりません。

教育原理	2単位
教育心理学	2単位
教育行政学	2単位
日本国憲法	2単位
各教科教育法	2単位

■介護等体験

- ・中学校免許取得希望者は、社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間の介護等の体験が必要です。
- ・2年次2月に介護等体験説明会を行います。

§ 2-1 授業
§ 2-2 履修登録
§ 2-3 試験
§ 2-4 成績
§ 2-5 進級・卒業
§ 2-6 学籍異動
§ 2-7 ライフ・キャリア・アップ (AL)
§ 2-8 プロフェッショナル育成
§ 2-9 学修支援
§ 2-10 単位互換
§ 2-11 資格
§ 2-12 教職課程

5 教職課程に関する授業科目および単位数

1. 教育の基礎的理解に関する科目等

■高等学校教諭一種免許状

教師論	2単位 (1年次後期)
教育原理	2単位 (2年次前期)
教育方法論	2単位 (2年次前期)
教育心理学	2単位 (2年次前期)
教育行政学	2単位 (2年次後期)
教育相談の基礎	2単位 (2年次後期)
道徳教育論	2単位 (2年次前期) ※選択科目
特別支援教育論	2単位 (3年次前期)
生徒・進路指導論	2単位 (3年次後期)
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位 (3年次後期)
教職実践演習 (中・高)	2単位 (4年次後期)
教育実習 I	3単位 (4年次通年)

■中学校教諭一種免許状

教師論	2単位 (1年次後期)
教育原理	2単位 (2年次前期)
教育方法論	2単位 (2年次前期)
教育心理学	2単位 (2年次前期)
教育行政学	2単位 (2年次後期)
教育相談の基礎	2単位 (2年次後期)
道徳教育論	2単位 (2年次前期)
生徒・進路指導論	2単位 (3年次後期)
特別支援教育論	2単位 (3年次前期)
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位 (3年次後期)
教職実践演習 (中・高)	2単位 (4年次後期)
教育実習 II	5単位 (4年次通年)

2. 教科及び教科の指導法に関する科目

■高等学校教諭一種免許状

(工業)	職業指導	2単位 (3年次前期)
	工業科教育法 I	2単位 (3年次前期)
	工業科教育法 II	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	30単位 (工学部履修要項教職別表 1 参照)
(理科)	理科教育法 I	2単位 (3年次前期)
	理科教育法 II	2単位 (3年次前期)
	専門教育科目	32単位 (工学部履修要項教職別表 2 参照)
(数学)	数学科教育法 I	2単位 (3年次前期)
	数学科教育法 II	2単位 (3年次前期)
	専門教育科目	32単位 (情報工学部履修要項教職別表 1 参照)
(情報)	情報科教育法 I	2単位 (3年次前期)
	情報科教育法 II	2単位 (3年次前期)
	情報職業論	2単位 (3年次前期)
	専門教育科目	30単位 (情報工学部履修要項教職別表 2 参照)
(公民)	社会科・公民科教育法 I	2単位 (3年次前期)
	社会科・公民科教育法 II	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	32単位 (社会環境学部履修要項教職別表参照)

※教職課程必修科目を含むこと。

■中学校教諭一種免許状

(理科)	理科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	理科教育法Ⅱ	2単位 (3年次前期)
	理科教育法Ⅲ	2単位 (3年次後期)
	理科教育法Ⅳ	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	24単位 (工学部履修要項教職別表2参照)
(数学)	数学科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	数学科教育法Ⅱ	2単位 (3年次前期)
	数学科教育法Ⅲ	2単位 (3年次後期)
	数学科教育法Ⅳ	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	24単位 (情報工学部履修要項教職別表1参照)
(社会)	社会科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	社会科教育法Ⅱ	2単位 (3年次後期)
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	24単位 (社会環境学部履修要項教職別表参照)

※教職課程必修科目を含むこと。

3. その他の科目

教育職員免許法 施行規則 第66条の6 に定める科目		対応する本学での授業科目
日本国憲法	2単位	日本国憲法
体育	2単位	ウェルネス基礎
外国語コミュニケーション	2単位	外国語科目からいずれか1科目
情報機器の操作	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ入門 (工) (社) ・コンピュータリテラシー (情: 情報工学科) ・コンピュータソフトウェア実験 (情: 情報通信工学科) ・情報リテラシー (情: 情報システム工学科、システムマネジメント学科)

6 教職課程に必要な費用

教職課程履修料	30,000円
教育実習費用	12,000円～20,000円 (自治体や期間で異なる)
介護等体験費用	7,500円
介護等体験保険料	420円
申請費用	3,300円/件
申請用証明書代金	500円/件

教職別表 1

〔工学部〕 教員免許（工業）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（工業）】

(教職必修科目…○印の科目と学科の必修科目)

分野	電子情報工学科		生命環境化学科		知能機械工学科		電気工学科	
	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択
工業の 関係科目	電子情報工学入門	2	コンピュータ言語	2	ものづくり基礎実習	4	電気工学フレッシュマン演習	2
	電気回路Ⅰ	2	環境科学Ⅰ	2	熱力学Ⅰ	2	電磁気学Ⅰ	2
	電気回路Ⅱ	2	環境科学Ⅱ	2	熱力学Ⅱ	2	電磁気学Ⅱ	2
	電気回路Ⅲ	2	環境分析化学	2	流体力学Ⅰ	2	電磁気学Ⅲ	2
	電磁気学Ⅰ	2	高分子化学	2	流体力学Ⅱ	2	電気回路Ⅰ	2
	電磁気学Ⅱ	2	コロイド化学	2	工業技術史	2	電気回路Ⅱ	2
	電子物性	2	資源循環工学	2	知能機械制御言語及び演習	2	電気回路Ⅲ	2
	電子デバイスⅠ	2	環境浄化工学	2	電気基礎学	2	電気回路Ⅳ	2
	電子デバイスⅡ	2	微生物学	2	知能機械制御工学	2	電気計測	2
	電子回路Ⅰ	2	遺伝子工学	2	ロボット工学	2	電気基礎学実験	2
	電子回路Ⅱ	2	応用微生物学	2	知能機械基礎実験Ⅰ	2	基礎物質工学	2
	電子回路応用	2	食品微生物学	2	知能機械基礎実験Ⅱ	2	半導体工学	2
	電気電子回路実習	2	食品化学	2	基礎製図Ⅰ	2	電気機器Ⅰ	2
	電子計測	2	栄養化学	2	基礎製図Ⅱ	2	電気機器Ⅱ	2
	制御工学	2	食品分析学	2	材料力学Ⅰ	2	電気機器Ⅲ	2
	電子情報実験Ⅰ	2	環境物質工学実験	2	材料力学Ⅱ	2	電子回路Ⅰ	2
	電子情報実験Ⅱ	2	環境生命工学実験	2	知能機械設計Ⅰ	4	電子回路Ⅱ	2
	電子情報実験Ⅲ	2	ナノマテリアル化学	2	知能機械設計Ⅱ	4	システム制御工学Ⅰ	2
	無線技術資格	2	化学工学Ⅰ	2	機械材料	2	システム制御工学Ⅱ	2
	コンピュータ工学	2	化学工学Ⅱ	2	機械工作法Ⅰ	2	電気エネルギーシステム工学Ⅰ	2
	プログラミングⅠ	2	技術英語	2	機械工作法Ⅱ	2	電気エネルギーシステム工学Ⅱ	2
	プログラミングⅡ	2	生産技術倫理	2	計測工学	2	電気エネルギーシステム工学Ⅲ	2
	応用プログラミングⅠ	2			技術者倫理	2	電気エネルギーシステム工学Ⅳ	2
	応用プログラミングⅡ	2			産業人基礎教育	2	電気機器設計・製図	2
	デジタル信号処理	2			CADシステム	2	電気応用	2
	コンピュータシステム	2			デジタルエンジニアリング	2	技術者倫理	2
	創成実験	2			機械力学Ⅰ	2	プログラミング言語	2
	電子工学基礎	2			機械力学Ⅱ	2	電気工学実験Ⅰ	2
	論理回路	2			知能機械創成実験	2	電気工学実験Ⅱ	2
	制御基礎	2					エンジニアリングデザインⅠ	2
	集積回路工学	2					エンジニアリングデザインⅡ	4
	プログラミング演習	2					メカトロニクスⅠ	2
	応用デジタル信号処理	2					メカトロニクスⅡ	2
技術者倫理	2					現代制御	2	
光エレクトロニクス	2					デジタル回路	2	
知的情報処理	2					パワーエレクトロニクス	2	
物理・電子情報基礎実験	2							
組込み基礎	2							
情報ネットワーク基礎と演習	2							
電子工学総合	2							
情報工学総合	2							
○工学概論	2	○工学概論	2	○工学概論	2	○工学概論	2	
上記の科目から、教職課程必修科目を含み、合計30単位以上を修得すること。								
指 導 業	○職業指導	2	○職業指導	2	○職業指導	2	○職業指導	2

§ 2-1 授業
§ 2-2 履修登録
§ 2-3 試験
§ 2-4 成績
§ 2-5 進級・卒業
§ 2-6 学籍異動
§ 2-7 ライフタイム学習(ALT)
§ 2-8 プロボク養成
§ 2-9 学修支援
§ 2-10 単位互換
§ 2-11 資格
§ 2-12 教職課程

教職別表 2

【工学部】教員免許（理科）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（理科）】

(教職必修科目…○印の科目と学科の必修科目)

分野	学科	生命環境化学科	
		授業科目	単位数 必修 選択
物理学	物理学	物理学Ⅰ	2
		物理学Ⅱ	2
		生物物理学	2
		基礎物理学	2
化学	化学	化学Ⅰ	2
		化学Ⅱ	2
		物質と化学	2
		無機化学	2
		物理化学Ⅰ	2
		物理化学Ⅰ演習	1
		物理化学Ⅱ	2
		物理化学Ⅱ演習	1
		物理化学Ⅲ	2
		有機化学Ⅰ	2
		有機化学Ⅱ	2
		生物有機化学	2
		生物化学Ⅰ	2
		生物学	生物学
基礎生物学	1		
分子生物学	2		
生物化学Ⅱ	2		
酵素化学	2		
生命と生態系	2		
地学	地学	○地球科学	2
		地球と環境	2
「物理学実験 (コンピュータ活用を含む), 化学実験 (コンピュータ活用を含む), 生物学実験 (コンピュータ活用を含む), 地学実験 (コンピュータ活用を含む)」	物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験 機器分析化学実験	物理学実験	2
		化学実験	2
		生物学実験	2
		地学実験	2
上記の各分野の科目から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計32単位以上を修得すること。			

【中学校教諭一種免許状（理科）】

(教職必修科目…○印の科目と学科の必修科目)

分野	学科	生命環境化学科	
		授業科目	単位数 必修 選択
物理学	物理学	物理学Ⅰ	2
		物理学Ⅱ	2
		生物物理学	2
		基礎物理学	2
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○物理学実験	2	
化学	化学	化学Ⅰ	2
		化学Ⅱ	2
		物質と化学	2
		無機化学	2
		物理化学Ⅰ	2
		物理化学Ⅰ演習	1
		物理化学Ⅱ	2
		物理化学Ⅱ演習	1
		物理化学Ⅲ	2
		有機化学Ⅰ	2
		有機化学Ⅱ	2
		生物有機化学	2
		生物化学Ⅰ	2
		化学実験 (コンピュータ活用を含む)	化学実験 機器分析化学実験
機器分析化学実験	2		
生物学	生物学	生物学	2
		基礎生物学	1
		分子生物学	2
		生物化学Ⅱ	2
		酵素化学	2
		生命と生態系	2
		生物資源利用学概論	2
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	生物学実験	2	
地学	地学	○地球科学	2
		地球と環境	2
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	○地球科学実験	2	
上記の各分野の科目から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計24単位以上を修得すること。			

教職別表 1

【情報工学部】教員免許（数学）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（数学）及び中学校教諭一種免許状（数学）】

(教職必修科目…○印の教職課程必修科目と学科の必修科目)

分野	情報工学科		情報通信工学科		情報システム工学科		システムマネジメント学科	
	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択
代数学	線形代数 I	2	線形代数・演習 I	2	線形代数 I	2	○線形代数 I	2
	○線形代数 II	2	○線形代数・演習 II	2	線形代数 II	2	○線形代数 II	2
	離散数学	2	○代数学と暗号	2	○代数学と暗号	2	○代数学と暗号	2
	○線形代数 III	2	代数学と符号化	2	数学演習	2	情報数学 I	2
	○代数学と暗号	2			代数学と符号化	2	代数学と符号化	2
	代数学と符号化	2						
幾何学	○幾何学とマルチメディア	2	○幾何学とマルチメディア	2	○幾何学とマルチメディア	2	○幾何学とマルチメディア	2
	応用幾何学	2	応用幾何学	2	応用幾何学	2	情報数学 II	2
	○幾何学的情報数学	2					応用幾何学	2
解析学	解析 I	2	微分方程式とベクトル解析	2	解析 I	2	○解析 I	2
	○解析 II	2	複素関数論	2	解析 II	2	○解析 II	2
	○微分方程式	2	微分積分・演習 I	2	○解析 III	2	○微分方程式	2
	○複素関数論	2	○微分積分・演習 II	2	微分方程式	2	○複素関数論	2
	○解析 III	2	情報伝送工学	2	情報解析学	2		
					複素関数論	2		
「確率論・統計学」	確率統計論	2	情報理論	2	確率統計	2	確率統計 I	2
							確率統計 II	2
							データ解析	2
コンピュータ	○数値計算	2	プログラミング基礎演習 I	2	情報リテラシー	2	○情報技術史	2
	オートマトンと形式言語	2	プログラミング基礎演習 II	2	応用プログラミング I	2	プログラミング基礎	2
	Cプログラミング I	2	デジタル回路 I	2	応用プログラミング II	2	データベース	2
	デジタル信号処理	2	デジタル回路 II	2	計算機工学 I	2	コンピュータ基礎学	2
	○情報理論	2	データベースの基礎	2			経営計算論	2
			デジタル信号処理 I	2				
		デジタル信号処理 II	2					

高等学校教諭一種免許状（数学）：上記の各分野の科目から、教職課程必修科目を含め、1単位以上合計32単位以上を修得すること。
 中学校教諭一種免許状（数学）：上記の各分野の科目から、教職課程必修科目を含め、1単位以上合計24単位以上を修得すること。

§ 2-1 授業
 § 2-2 履修登録
 § 2-3 試験
 § 2-4 成績
 § 2-5 進級・卒業
 § 2-6 学籍異動
 § 2-7 ライフタイムアップ (AL)
 § 2-8 プログラム力養成
 § 2-9 学修支援
 § 2-10 単位互換
 § 2-11 資格
 § 2-12 教職課程

教職別表 2

【情報工学部】教員免許（情報）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（情報）】

(教職必修科目…○印の教職課程必修科目と学科の必修科目)

分野	情報工学科		情報通信工学科		情報システム工学科		システムマネジメント学科	
	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択
情報倫理 情報社会・							○知的所有権と法	2
	市民生活と法	2	市民生活と法	2	市民生活と法	2	市民生活と法	2
	情報技術者倫理	2	技術者倫理	2	○情報技術者倫理	2	情報システム論	2
コンピュータ・情報処理 (実習を含む)	データ構造とアルゴリズム	2	計測工学Ⅰ	2	電子工学基礎	2	情報処理Ⅰ	2
	CプログラミングⅡ	2	計測工学Ⅱ	2	論理回路	2	システムマネジメント実験	4
	情報工学実験Ⅰ	2	情報工学基礎実験	4	センサ情報処理	2	情報処理Ⅱ	2
	情報工学実験Ⅱ	2	オペレーティングシステム	2	CプログラミングⅠ	2		
	ソフトウェア工学Ⅰ	2	コンピュータソフトウェア実験	2	CプログラミングⅡ	2		
	ソフトウェア工学Ⅱ	2	○データ構造とアルゴリズム	2	○データ構造とアルゴリズム	2		
	オペレーティングシステム	2	オブジェクト指向プログラミングⅠ	2	基礎ロボット工学	2		
	システムLSI	2	オブジェクト指向プログラミングⅡ	2	○知能ロボット工学	2		
	情報機器工学	2	オブジェクト指向プログラミングⅢ	2				
	JAVAプログラミングⅠ	2	スプリット言語プログラミングⅡ	2				
	JAVAプログラミングⅡ	2						
	HCIプログラミング	2						
情報システム (実習を含む)	人工知能基礎	2	コンピュータ工学	2	人工知能	2	オペレーションズリサーチⅠ	2
	情報工学実験Ⅲ	2	情報工学応用実験	4	○システム開発応用	2	オペレーションズリサーチⅡ	2
	情報工学実験Ⅳ	2	情報セキュリティⅠ	2			オペレーションズリサーチⅢ	2
	○データベース	2	情報セキュリティⅡ	2			情報処理Ⅲ	2
	人工知能応用	2	情報交換システム	2			情報数理入門	2
	ロボティクス	2	電子回路Ⅰ	2				
			電子回路Ⅱ	2				
情報通信ネットワーク (実習を含む)	情報ネットワーク	2	光通信システム	2	○情報ネットワークシステム	2	マルチメディア情報処理	2
	ネットワークプログラミング	2	モバイルコミュニケーション工学	2			メディア科学Ⅱ	2
	○情報セキュリティ	2	ネットワークプログラミング	2			経営シミュレーション	2
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	情報通信工学Ⅰ	2				
			情報通信工学Ⅱ	2				
			アンテナ工学	2				
			電磁波伝搬	2				
			情報ネットワークⅠ	2				
マルチメディア技術(実習を含む)	○マルチメディア工学	2	スプリット言語プログラミングⅠ	2	○画像処理工学	2	メディア科学Ⅰ	2
	コンピュータグラフィックス	2	○情報メディアとテキスト処理	2	○マルチメディアWeb技術	2	コンピュータグラフィックス入門	2
	○画像情報処理	2			情報システム工学概論	2	DTP入門	2
	パターン認識	2			コンピュータグラフィックス	2		
	自然言語処理	2						
	音情報処理	2						
職業と情報	○情報職業論	2	○情報職業論	2	○情報職業論	2	○情報職業論	2
			通信法規	2			経営システム論	2
						2	e-ビジネス論	2

上記の各分野の科目から、教職課程必修科目を含め、1単位以上合計32単位以上を修得すること。

教職別表

〔社会環境学部〕 教員免許に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（公民）及び中学校教諭一種免許状（社会）】 (教職必修科目…○印の教職課程必修科目と学科必修科目)

分野	授業科目	単位数	
		必修	選択
1 日本史・外国史	九州学		2
	○歴史学概論		2
	国際関係史		2
2 地理学 (地誌を含む。)	○地理学概論		2
	民俗学概論		2
	環境地理学		2
3 〔法学 (国際法を含む)、 政治学 (国際政治を含む)〕	○民法Ⅰ		2
	民法Ⅲ		2
	国際法Ⅰ		2
	○国際法Ⅱ		2
	企業法Ⅰ		2
	企業法Ⅱ		2

分野	授業科目	単位数	
		必修	選択
4 〔社会学、経済学 (国際経済を含む)〕	○ミクロ経済学		2
	経営学概論	2	
	○環境経済学		2
	アジア経済論		2
	国際貿易論		2
	企業論		2
	マーケティング論		2
	環境管理論		2
	環境社会学		2
	5-1 〔哲学、倫理学、宗教学〕	○現代倫理	
環境民俗学			2
人間存在と環境			2
5-2 〔心理学〕	○コミュニケーションの心理学		2

高等学校教諭一種免許状(公民)のみ取得希望者は、上記の3から5までの各分野から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計32単位以上を修得すること。中学校教諭一種免許状(社会)も取得希望者は、上記の1から5-1までの各分野から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計24単位以上を修得すること。

§ 2-1	授業
§ 2-2	履修登録
§ 2-3	試験
§ 2-4	成績
§ 2-5	進級・卒業
§ 2-6	学籍異動
§ 2-7	ラーニングプラットフォーム(AL)
§ 2-8	就業力育成プログラム
§ 2-9	学修支援
§ 2-10	単位互換
§ 2-11	資格
§ 2-12	教職課程

§ 3

工学部

Faculty of Engineering

§ 3-1	電子情報工学科	52
-------	---------	----

Dept. of Information Electronics

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 3-2	生命環境化学科	62
-------	---------	----

Dept. of Life, Environment, and Applied Chemistry

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 3-3	知能機械工学科	72
-------	---------	----

Dept. of Intelligent Mechanical Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 3-4	電気工学科	82
-------	-------	----

Dept. of Electrical Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 3-1

電子情報工学科

§ 3-2

生命環境化学科

§ 3-3

知能機械工学科

§ 3-4

電気工学科

§ 3-1. 電子情報工学科 / Dept.of Information Electronics

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 地球及び人類の歴史に対する認識のもとに、技術の発展の歴史を理解している。 世界の経済システム及び地球環境問題、エネルギー問題、安全問題等を理解しており、技術の将来を展望する能力を身につけている。
B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果および技術者の社会責任を理解している。	<ol style="list-style-type: none"> 過去における技術の成果と、その社会や自然に及ぼす影響を認識しており、技術者としての責任と役割を理解している。
C 数学、自然科学および情報技術に関する知識と応用力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 専門技術の理解に必要な数学を修得しており、適用する能力を身につけている。 自然科学、特に物理学の基礎を修得しており、物事を本質から理解する姿勢を身につけている。 専門技術を活用するにあたって不可欠な情報技術を身につけている。
D 電子情報技術者として必要な電子情報工学の専門技術に関する以下の知識と応用力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 電気回路・電子回路に関する知識と応用力を身につけている。 計測制御・情報処理に関する知識と応用力を身につけている。 半導体デバイスに関する知識と応用力を身につけている。
E 多方面の知識を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力と課題解決能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 解決を要求される課題に対して、必要な技術、要件を把握し、解決にいたるまでのプロセスを提案できる能力を身につけている。 課題解決に必要な種々の学問、技術を学習し、創造的な応用能力を発揮して実践することができる能力を身につけている。
F 日本語による論理的な記述力、コミュニケーション能力および国際的コミュニケーションの基礎能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 論理的かつ明晰な文章を記述する能力を身につけている。 効果的な口頭発表および討論をする能力を身につけている。 外国人と意思疎通のできる語学力を身につけている。
G 自主的、継続的に学習できる能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 大学で学習する知識は専門技術の基礎的部分であることを認識しており、必要な知識を自主的に学習する姿勢を身につけている。 技術の発展が急速であることを認識しており、生涯にわたって継続的に学習する姿勢を身につけている。
H 計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 現実の制約条件のもとで実行可能な計画を立て、期限までに結果を出す能力を身につけている。
I チームで仕事をするための能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 計画遂行にあたって、他者と協調して仕事を進める能力を身につけている。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①電気回路・電子回路などの回路分野
- ②計測制御・情報処理などの情報分野
- ③半導体デバイスなどの物性材料分野

■カリキュラム編成の基本方針

複合的な技術から構成されるスマートフォン等の現代エレクトロニクスでは、IC等の半導体を応用する電子技術と、それらをコンピュータで処理・制御する情報技術が重要な役割をなしている。このことから、本学科では、デバイス・回路からコンピュータ・ソフトウェアまで、理論と実践を融合した教育を展開し、電子情報技術（ハードとソフト）を総合的に修得できるカリキュラムを編成する。そのため、数学的素養を習熟度別クラス分けによる授業によって確実に身につけた上で、回路・情報・物性材料分野の基礎及び応用知識を、アクティブラーニングを積極的に導入することで体系的に学ぶ。さらに、全学年次で開講する実験・演習等のグループワークを通じた活動により、応用力・創造力を養う。

■年次別科目の配当方針

1年次には、専門分野の背景となる自然科学の基本的知識を徹底学習する。モノづくり体験による専門分野の動機づけを行うとともに、基礎となる数学などを少人数でしっかりと学ぶ。また、本学科のコア科目の1つであるプログラミングの学習は1年次から始まる。

2年次には、3つの学修領域の基礎的理論を修得する。本学科のコア科目である電子回路およびコンピュータ工学を中心として、電気回路・電子回路とコンピュータによる計測・情報処理の基礎理論を学ぶ。また、半導体デバイスの基本である電子物性を学ぶ。同時に、通年で開講される実験系科目で、同時期に進行する関連授業科目の内容との連携を強化しながら、講義で学んだ基礎知識の理解をより深める。

3年次には、現代エレクトロニクスの応用分野を修得する。電子系・情報系それぞれの専門科目と実験系科目を通じて、つくる技術・動かす技術の両方を身につける。また、これまでの基礎的知識のより強固な定着を図り、応用能力を高める電子系及び情報系の総合科目が開講される。

4年次では、卒業研究において、3年次までに身につけた基礎知識を活用した様々な問題への対処や解決方法を実践的に学び、将来の進路に役立てる。

■学修成果の評価の在り方

- ・各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
- ・1，2年次終了時に、各学生の学修到達度を評価し、進級判定を行う。
- ・3年次終了時に、各学生の学修到達度、ならびに、本学科コア科目の修得状況によって電子情報工学分野の基礎知識・能力が修得できているかを確認し、さらに電子情報技術者として必要な総合能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的判断能力）の修得状況を電子工学分野および情報工学分野の質保証科目によって評価し、卒業研究着手（4年次進級）判定を行う。
- ・4年次終了時に、卒業研究を行った各学生の学修到達度を評価するとともに、卒業研究従事時間、卒業論文、卒業研究発表を評価し卒業判定を行う。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次												
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
基礎科目	文化・社会	知と教養	2																	
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2											
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2											
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2											
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2											
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2											
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2											
	日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2																
	自然・情報	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2											
		物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2											
コンピュータ入門		2			コンピュータ入門	2														
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2										
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2				
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2				
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2								
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2								
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2																
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2																

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、基礎科目のうち「生命と生態系」「地球と環境」「物質と化学」「自然と科学」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 基礎科目のうち「コンピュータ入門」は生命環境化学科・電気工学科では必修科目、電子情報工学科・知能機械工学科では選択科目である。

[注4] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注5] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔工学部〕 電子情報工学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目	電子情報基礎数学 ④	電子情報数学 ④	線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ 2	初等統計学 2			
			微分方程式 ②					
	物理概論 ②	物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ ②					

[注1] 「電子情報基礎数学」及び「電子情報数学」は習熟度別にクラス分けして講義を行う。

■専門教育科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
電子情報基礎科目	電子工学基礎 ②	論理回路 ②						
		電磁気学Ⅰ ②	電磁気学Ⅱ ②	電子計測 ②	制御基礎 ②	制御工学 2		
デバイス系科目				電子物性 ②	電子デバイスⅠ ②	電子デバイスⅡ ②		
					光エレクトロニクス 2	集積回路工学 2		
回路系科目		電気回路Ⅰ ②	電気回路Ⅱ ②	電気回路Ⅲ ②				
			電子回路Ⅰ ②	電子回路Ⅱ ②	電子回路応用 ②	電気電子回路実習 ②		
情報処理系科目	プログラミングⅠ ②	プログラミングⅡ ②	プログラミング演習 ②	応用プログラミングⅠ 2		応用プログラミングⅡ 2		
					情報ネットワーク基礎と演習 2			
					デジタル信号処理 ②	応用デジタル信号処理 ②		
共通科目		技術者倫理 2		技術英語 2	プレゼンテーション 2			
			情報技術資格 2	無線技術資格 2				
			コンピュータ工学 ②	コンピュータシステム ②	組込み基礎 ②	知的情報処理 2		
						電子工学総合 ②		
						情報工学総合 ②		
		電子情報工学入門 ②	物理・電子情報基礎実験 ②	電子情報実験Ⅰ ②	電子情報実験Ⅱ ②	電子情報実験Ⅲ ②	創成実験 ②	卒業研究 ⑥
			工学概論 2		国際工学実習 2			

[注2] 「無線技術資格」と「情報技術資格」は、該当する国家資格を大学入学以降に取得したのものについても、届け出により単位を認定する。

[注3] 「工学概論」は、進級条件および卒業要件の単位に含めない。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度								
基礎科目	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎
	日本国憲法	選択			◎						
	市民生活と法	選択			◎						
	現代倫理	選択		◎	◎						
	コミュニケーションの心理学	選択			◎			○			
	日本文学	選択			◎						
	歴史学概論	選択	○		◎						
	九州学	選択			◎						
	地理学概論	選択	○		◎						
	社会学入門	選択			◎						
	経済学入門	選択			◎						
	異文化理解	選択	◎		○						
	地域創生入門	選択			○		◎			○	◎
	日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択						◎			
	日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択						◎			
	自然・情報	生命と生態系	選択			◎		○			
地球と環境		選択			◎		○				
物質と化学		選択			◎		○				
自然と科学		選択			◎		○				
コンピュータ入門		選択			○						
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎
	日本語表現法	選択						◎			
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎	
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○		
	Advanced English B	選択						◎	○		
	Advanced English C	選択						◎	○		
	Advanced English D	選択						◎	○		
	English A	選択						◎	○		
	English B	選択						◎	○		
	English C	選択						◎	○		
	English D	選択						◎	○		
	Academic English A	選択						◎	○		
	Academic English B	選択						◎	○		
	Academic English C	選択						◎	○		
	Academic English D	選択						◎	○		
	Conversation A	選択						◎	○		
	Conversation B	選択						◎	○		
	Conversation C	選択						◎	○		
	Conversation D	選択						◎	○		
	中国語Ⅰ	選択	○					◎	○		
	中国語Ⅱ	選択	○					◎	○		
	韓国語Ⅰ	選択	○					◎	○		
韓国語Ⅱ	選択	○					◎	○			
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択						◎				
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択						◎				
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎		◎
	ウェルネス応用	選択			◎				◎		○
教職科目	≪別途≫										

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

■専門基礎及び専門教育科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

(電子情報工学科)

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP に対する関与の程度								
						A	B	C	D	E	F	G	H	I
専門基礎科目	電子情報基礎数学	必修	1	前	講義・演習			◎	○	○		○	○	
	電子情報数学	必修	1	後	講義・演習			◎		○		○	○	
	線形代数Ⅰ	必修	2	前	講義			◎				○		
	線形代数Ⅱ	選択	2	後	講義			◎				○		
	微分方程式	必修	2	前	講義			◎				○		
	初等統計学	選択	3	前	講義			◎				○		
	物理概論	必修	1	前	講義			◎						
	物理学Ⅰ	必修	1	後	講義			◎		○				
物理学Ⅱ	必修	2	前	講義			◎		○					
電子情報基礎科目	電子工学基礎	必修	1	前	講義			○	◎			○		
	論理回路	必修	1	後	講義			○	◎			○		
	電磁気学Ⅰ	必修	1	後	講義			○	◎			○		
	電磁気学Ⅱ	必修	2	前	講義			○	◎			○		
	電子計測	必修	2	後	講義			○	◎			○		
	制御基礎	必修	3	前	講義			○	◎			○		
	制御工学	選択	3	後	講義			○	◎			○		
	電子物性	必修	2	後	講義			○	◎			○		
	電子デバイスⅠ	必修	3	前	講義			○	◎			○		
	電子デバイスⅡ	必修	3	後	講義			○	◎			○		
デバイス系科目	光エレクトロニクス	選択	3	前	講義			○	◎			○		
	集積回路工学	選択	3	後	講義		○	○	◎			◎		
	電気回路Ⅰ	必修	1	後	講義			○	◎			○		
	電気回路Ⅱ	必修	2	前	講義			○	◎			○		
回路系科目	電気回路Ⅲ	必修	2	後	講義			○	◎			○		
	電子回路Ⅰ	必修	2	前	講義			○	◎			○		
	電子回路Ⅱ	必修	2	後	講義			○	◎			○		
	電子回路応用	必修	3	前	講義			○	◎					
	電気電子回路実習	必修	3	後	講義・演習			○	◎	○			○	○
	プログラミングⅠ	必修	1	前	講義			◎				○		
情報処理系科目	プログラミングⅡ	必修	1	後	講義				◎			○		
	プログラミング演習	必修	2	前	講義・演習				◎			○	◎	
	応用プログラミングⅠ	選択	2	後	講義・演習			○	◎			○		
	デジタル信号処理	必修	3	前	講義・演習			○	◎	○	○	○	○	
	情報ネットワーク基礎と演習	選択	3	前	講義・演習				◎			○		
	応用デジタル信号処理	必修	3	後	講義			○	◎	○	○	○	○	
	応用プログラミングⅡ	選択	3	後	講義・演習			○	◎			○		
	技術者倫理	選択	1	後	講義	◎	◎			○			○	○
	技術英語	選択	2	後	講義						◎	○		
	プレゼンテーション	選択	3	前	講義・演習				○	○	◎	○	○	
共通科目	情報技術資格	選択	2	前	講義		○	○	◎			○		
	無線技術資格	選択	2	後	講義・演習			○	◎			○	○	
	組込み基礎	必修	3	前	講義			○	◎	○				
	電子情報工学入門	必修	1	前	実験・演習				○	○	○	○	◎	◎
	物理・電子情報基礎実験	必修	1	後	実験・演習				○			○	◎	◎
	電子情報実験Ⅰ	必修	2	前	実験			○	◎		○	○	◎	◎
	電子情報実験Ⅱ	必修	2	後	実験			○	◎		○	○	◎	◎
	電子情報実験Ⅲ	必修	3	前	実験			○	◎		○	○	◎	◎
	創成実験	必修	3	後	実験・演習			◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
	知的情報処理	選択	3	後	講義			◎	○					
	コンピュータ工学	必修	2	前	講義			○	◎					
	コンピュータシステム	必修	2	後	講義			○	◎	○				
	電子工学総合	必修	3	後	講義			◎	◎			○		
	情報工学総合	必修	3	後	講義			◎	◎	○				
	卒業研究	必修	4	通年	研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	工学概論	選択	2	前	講義	○	◎							
国際工学実習	選択	3	前	実習	○			○	◎	○		○	○	

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次	後期					Academic English D Conversation D			
	前期					Academic English C Conversation C			
3年次	後期					Academic English B Conversation B 中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ			
	前期					Academic English A Conversation A 中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ	インターンシップⅡ		
2年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)		Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップⅠ	
1年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語Ⅱ (留学生科目) 日本事情Ⅱ (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学	知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語Ⅰ (留学生科目) 日本事情Ⅰ (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(電子情報工学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次	後期 卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
	前期 卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
3年次	後期		電子工学総合 情報工学総合 知的情報処理 創成実験	電子工学総合 情報工学総合 制御工学 電子デバイスII 電気電子回路実習 応用デジタル信号処理 応用プログラミングII 集積回路工学 創成実験	創成実験	創成実験	電子デバイスII 集積回路工学	創成実験	創成実験
	前期		初等統計学	情報ネットワーク基礎と演習 光エレクトロニクス 制御基礎 電子回路応用 デジタル信号処理 組み込み基礎 電子デバイスI 電子情報実験II	国際工学実習	プレゼンテーション	電子デバイスI	電子情報実験III	電子情報実験III
2年次	後期		線形代数II	電子計測 電子物性 電子回路III 電子回路II 応用プログラミングI コンピュータシステム 無線技術資格 電子情報実験II		技術英語		電子情報実験II	電子情報実験II
	前期	工学概論	線形代数I 微分方程式 物理学II	電磁気学II 電気回路II 電子回路I コンピュータ工学 情報技術資格 プログラミング演習 電子情報実験I				電子情報実験I	電子情報実験I プログラミング演習
1年次	後期	技術者倫理	電子情報数学 物理学I	論理回路 電磁気学I 電気回路I プログラミングII				物理・電子情報基礎実験	物理・電子情報基礎実験
	前期		電子情報基礎数学 物理概論 プログラミングI	電子工学基礎				電子情報工学入門	電子情報工学入門

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPIに対する関与の程度◎のみ記載

※ 二重下線は必修科目

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	32 単位以上
2 → 3 年次	72 単位以上。1 年次の全てのコア科目を含む。
3 → 4 年次	114 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目の必修科目 76 単位以上、選択科目 12 単位以上を含む。全てのコア科目を含む。
卒業単位	132 単位以上

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

II. 習熟度別クラス分け

■数学

入学直後に行う学科独自の数学テストの結果に応じて「電子情報基礎数学」のクラス分けを行う。

「電子情報数学」は「電子情報基礎数学」の成績を考慮し、クラス分けを行う。

■プログラミング

「プログラミングⅡ」は「プログラミングⅠ」の成績を考慮し、習熟度別にクラス分けを行う。

■英語

→ § 2-2. 5 習熟度別クラス P.22

III. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

- ・教員免許：
高等学校教諭一種免許状（工業）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・第一級陸上無線技術士…「無線技術資格」
- ・第一級陸上特殊無線技士…「無線技術資格」
- ・基本情報技術者…「情報技術資格」
- ・MOS（Microsoft Office Specialist）／
Word・Excel…「コンピュータ入門」

「無線技術資格」及び「情報技術資格」は、授業による成績評価に加え、該当する国家資格を大学入学以降に取得したものについても、科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。ただし、当該科目の単位を取得済みの場合は認定を行わない。なお、単位認定は当該科目の開講年次以降に行う。

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・第一級陸上無線技術士
- ・第一級陸上特殊無線技士
- ・基本情報技術者

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

IV. その他

■コア科目

必修科目のうち「電子回路Ⅰ」、「電子回路Ⅱ」、「プログラミングⅠ」、「コンピュータ工学」、「電子工学総合」、「情報工学総合」、「電子情報工学入門」、「物理・電子情報基礎実験」、「電子情報実験Ⅰ」、「電子情報実験Ⅱ」をコア科目に指定する。2年次から3年次へ進級するためには、1年次の全てのコア科目の単位を取得しなければならない。また、3年次から4年次へ進級するためには、開設されているコア科目の全単位を取得しなければならない。「電子回路Ⅰ」と「電子回路Ⅱ」は回路系、「プログラミングⅠ」は情報処理系のソフトウェア、「コンピュータ工学」は共通科目における情報処理系のハードウェアの中心科目である。

→ § 2-1. Ⅰ授業科目 P.16

■テスト後特別補講制度

電子情報工学科では各科目における具体的な到達目標を設定している。試験を含む成績で60点以上をとれば、この目標は達成されたと判断する。前期のみ、成績が60点に達しなかった学生を対象に「テスト後特別補講」を夏休み期間中に実施し、目標達成の手助けを行う場合がある。（「テスト後特別補講」は全ての科目が対象になるわけではない。）

§ 3-2. 生命環境化学科 / Dept. of life, Environment, and Applied Chemistry

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 地球の視点から、環境の管理・保全、修復と創造の基本理念について理解している。
B 資源・環境・安全など、技術の社会および自然に及ぼす影響について理解し、技術者として社会に対する責任を自覚するとともに、自らの行動に反映する能力を身につけている。
C 数学、物理学、化学、生物学など自然科学に関する基礎知識とコンピューター利用技術（情報処理、数値計算を含む）に関する知識を習得し、さらにそれらを問題解決に対応出来る能力を身につけている。
D 有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、生物化学、高分子化学、環境化学、食品化学、あるいは、それらの複合領域科目などの専門基礎知識および実験技術の習得と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけている。
E 実験・研究などを通して、問題点を発見し、種々の知識、情報を応用して、問題解決に導く構想能力を身につけている。
F 日本語で理論的記述や口頭発表ができ、他の人と意見交換が出来る能力と英語でのコミュニケーション基礎能力を身につけている。
G 技術者として、与えられた問題を理性的かつ理論的に分析し、図書や文献のみならず種々の情報媒体から情報を集め、自主的、継続的に自己開発を行う能力を身につけている。
H 与えられた制約の下でも、十分な情報の収集を行い的確な計画を立案・実行し、まとめる能力を身につけている。
I 自己の行動を的確に判断し、他者と協力しながらチームで仕事を遂行する能力を身につけている。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①環境・エネルギー
- ②物質化学
- ③バイオ
- ④食品

■カリキュラム編成の基本方針

地球上の様々な環境問題が深刻化する今日において、本学科では、環境・エネルギー、物質化学、バイオ、食品の4つの分野に関して適切な化学的あるいは生物学的なアプローチを用いて問題解決する能力をもつ、自立した技術者を育成するための教育を展開する。そのため、専門科目を理解するための基礎科目を確実に身につけた上で、講義、演習、実験を通して環境技術の幅広い基礎知識と理論を体系的に学び、実験や卒業研究を通して分析力・課題解決力を養う。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成課程を設け、資格取得を支援する。

学修方法については、「科学実験入門」、「化学実験」、「生物学実験」、「機器分析化学実験」、「環境物質工学実験」、「環境生命工学実験」等の科目はアクティブ・ラーニングを実践し、学生の主体的に学ぶ力を向上させる。また、3年次に生命環境化学分野の最先端研究テーマを紹介、討論する少人数グループのゼミナールを導入し、4年次の卒論研究と繋げ、学修してきた基礎・専門知識を総合的に応用する力、さらに問題・課題の分析・解決力を向上させる。

■年次別科目の配当方針

1～2年次では、専門科目を理解する上で欠くことのできない基礎知識を学び、実験を行うために必須の基礎技術を習得する。

2～3年次では、主要な専門科目を学び、環境、物質、生命、食品の各分野に不可欠な基礎知識と、実験・実習を通じた応用力を養う。

4年次の卒業研究では、先端の研究方法論を学び、高度な実験技術・測定技術による問題解決能力を養う。また、研究成果報告の実践的演習によるプレゼンテーション能力を身に付ける。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。各年次への進級については、学生便覧等に明記された進級条件を満たすことが必要である。2年次終了時には、コア科目「科学実験入門」と「化学実験」を含む学修到達度を評価して、進級判定を行う。3年次終了時には、すべてのコア科目、並びに専門基礎科目と専門教育科目を含む学修到達度を評価して、進級判定を行う。卒業するには、卒業要件として必要とされる単位数以上を修得するだけでなく、さらにディプロマ・ポリシーの「修得する知識・能力」の達成度合いを4年次終了時の卒業研究発表会並びに卒業論文の作成によって、総合的に評価する。

■コース説明

生命環境化学基盤コースと生命環境化学アドバンスコースを設ける。アドバンスコースは、基盤コースのカリキュラムに加え、「先端生命環境化学演習」、「先端生命環境化学実験Ⅰ・Ⅱ」、「技術英語」および「生産技術倫理」といった授業科目をコース必修科目として配することによって、最先端の知識と経験を身につけることができるカリキュラムとなっている。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次								
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎科目	文化・社会	知と教養	2													
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2							
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2							
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2							
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2							
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2							
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2							
	日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2												
	自然・情報	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2							
		物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2							
コンピュータ入門		2		コンピュータ入門	2											
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2						
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2				
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2				
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2												
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2												

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、基礎科目のうち「生命と生態系」「地球と環境」「物質と化学」「自然と科学」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 基礎科目のうち「コンピュータ入門」は生命環境化学科・電気工学科では必修科目、電子情報工学科・知能機械工学科では選択科目である。

[注4] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注5] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 生命環境化学科 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目)

区分	年次	1年次		2年次				3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目		基礎数学 ②	応用数学 ②								
		解析Ⅰ ②	解析Ⅱ ②	統計解析 2	数値解析 2						
		基礎物理学 ②	物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ ②	生物物理学 2		物理学実験 2				
		基礎化学 1									
		化学Ⅰ ②	化学Ⅱ ②								
		科学実験入門 ②	化学実験 ②*								
		基礎生物学 1	生物学 ②	生物学実験 ②*							
			地球科学 2(+) ②				地球科学実験 2				
			コンピュータ言語 ②								

[注1] 「基礎数学」、「解析Ⅰ」、「解析Ⅱ」及び「応用数学」は習熟度別にクラス分けして行う。

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次				3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
生命環境化学 基礎科目		生物資源 利用学概論 ②	環境エネルギー 資源化学概論 ②	物理化学Ⅰ ②	物理化学Ⅱ ②	生命環境化学 ゼミナールⅠ ①	生命環境化学 ゼミナールⅡ ①				
				物理化学Ⅰ 演習 ①	物理化学Ⅱ 演習 ①	無機化学 ②*	物理化学Ⅲ ②				
				分析化学 ②*	機器分析化学 ②*						
					環境分析化学 ②*						
					機器分析化学 実験 ②*						
				有機化学Ⅰ ②*	有機化学Ⅱ ②*						
				環境科学Ⅰ 2	環境科学Ⅱ 2						
			生物化学Ⅰ ②*	生物化学Ⅱ 2							
生命環境化学専門	物質系科目					エネルギー 循環工学 2	電気化学 2				
						固体物質工学 2	無機固体化学 2				
						資源循環工学 2	環境浄化工学 2				
	物質・生命 共通科目						化学工学Ⅰ 2	化学工学Ⅱ 2			
							環境物質 工学実験 2	ナノマテリアル 化学 2			
							高分子化学 2(+) ②	コロイド化学 2(+) ②			
生命系科目						応用微生物学 2(+) ②					
						分子生物学 2(+) ②	遺伝子工学 2(+) ②				
						生物有機化学 2(+) ②	酵素化学 2(+) ②				
						栄養化学 2(+) ②	食品学実験 2(+) ②				
						環境生命 工学実験 2					
食品基礎科目					微生物学 2*		食品微生物学 2*				
						食品化学 2*	食品分析学 2*				
						食品衛生学 2*	毒性学 2*	環境衛生学 2*			
アドバンス科目		先端生命環境 化学演習 2 ②	先端生命環境 化学実験Ⅰ 2 ②	先端生命環境 化学実験Ⅱ 2 ②	技術英語 2 ②	生産技術倫理 2 ②					
卒業研究								卒業研究		⑥	
共通科目				工学概論 2							

[注1] コア科目のうち、専門基礎科目の「科学実験入門」及び「化学実験」4単位を取得しなければ3年次の科目を履修することはできない。
 [注2] 単位数が上段、下段に分かれている箇所は上段が生命環境化学基礎コース、下段が生命環境化学アドバンスコースである。
 [注3] *印および(+)印の科目は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程」に関わる必修科目及び選択科目である。
 [注4] 生命環境化学専門から、「環境物質工学実験」か「環境生命工学実験」を含む合計20単位以上を取得すること。「環境物質工学実験」を選択した場合、物質系科目と物質・生命共通科目から10単位以上を取得すること。また「環境生命工学実験」を選択した場合、生命系科目と物質・生命共通科目から10単位以上を修得すること。
 [注5] 「先端生命環境化学演習」は1年次前期に開講される専門教育科目のうち、必修科目の単位をすべて修得しないと履修できない。
 [注6] 「工学概論」は進級条件および卒業要件の単位に含めない。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I		
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力		
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度										
基礎科目	文化・社会	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎	
		日本国憲法	選択			◎							
		市民生活と法	選択			◎							
		現代倫理	選択		◎	◎							
		コミュニケーションの心理学	選択			◎			○				
		日本文学	選択			◎							
		歴史学概論	選択	○		◎							
		九州学	選択			◎							
		地理学概論	選択	○		◎							
		社会学入門	選択			◎							
		経済学入門	選択			◎							
		異文化理解	選択	◎		○							
	地域創生入門	選択			○			◎			○	◎	
	日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択							◎				
	日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択							◎				
	自然・情報	生命と生態系	選択			◎			○				
地球と環境		選択			◎			○					
物質と化学		選択			◎			○					
自然と科学		選択			◎			○					
コンピュータ入門		必修			○								
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○		
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎		
	日本語表現法	選択						◎					
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎			
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○		
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○				
	Advanced English B	選択						◎	○				
	Advanced English C	選択						◎	○				
	Advanced English D	選択						◎	○				
	English A	選択						◎	○				
	English B	選択						◎	○				
	English C	選択						◎	○				
	English D	選択						◎	○				
	Academic English A	選択						◎	○				
	Academic English B	選択						◎	○				
	Academic English C	選択						◎	○				
	Academic English D	選択						◎	○				
	Conversation A	選択						◎	○				
	Conversation B	選択						◎	○				
	Conversation C	選択						◎	○				
	Conversation D	選択						◎	○				
	中国語Ⅰ	選択	○						◎	○			
	中国語Ⅱ	選択	○						◎	○			
	韓国語Ⅰ	選択	○						◎	○			
	韓国語Ⅱ	選択	○						◎	○			
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択							◎					
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択							◎					
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎			◎	
	ウェルネス応用	選択			◎				◎			○	
教職科目	≪別途≫												

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次	後期					Academic English D Conversation D			
	前期					Academic English C Conversation C			
3年次	後期					Academic English B Conversation B 中国語II 韓国語II			
	前期					Academic English A Conversation A 中国語I 韓国語I	インターンシップII		
2年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップI
1年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語II (留学生科目) 日本事情II (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学	知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語I (留学生科目) 日本事情I (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(生命環境化学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次									
後期	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
前期	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
後期	環境浄化学 地球科学実験	生命環境化学ゼミナールⅡ	物理化学Ⅲ 遺伝子工学	生命環境化学ゼミナールⅡ 食品学実験 化学工学Ⅱ	食品学実験	生命環境化学ゼミナールⅡ	生命環境化学ゼミナールⅡ		地球科学実験 食品学実験
前期	エネルギー循環工学 環境物質工学実験	環境物質工学実験 環境生命工学実験	無機化学 生物有機化学	生命環境化学ゼミナールⅠ 環境物質工学実験 環境生命工学実験 化学工学Ⅰ	環境物質工学実験 環境生命工学実験				環境物質工学実験 環境生命工学実験
後期	環境科学Ⅱ		分子生物学 物理化学Ⅱ演習	物理化学Ⅱ 物理化学Ⅱ演習 有機化学Ⅱ 機器分析化学 生物化学Ⅱ	機器分析化学実験		先端生命環境化学実験Ⅱ	環境分析化学	先端生命環境化学実験Ⅱ 機器分析化学実験
前期	環境科学Ⅰ 地球科学	工学概論	物理化学Ⅰ 物理化学Ⅰ演習 物理化学Ⅱ 生物学実験	分析化学 生物化学Ⅰ 有機化学Ⅰ 物理化学Ⅰ演習	コンピューター言語		先端生命環境化学実験Ⅰ		生物学実験 先端生命環境化学実験Ⅰ
後期	環境エネルギー資源化学概論	環境エネルギー資源化学概論	応用数学 化学Ⅱ 物理化学Ⅰ 生物学 化学実験	環境エネルギー資源化学概論			先端生命環境化学演習		化学実験 先端生命環境化学演習
前期	生物資源利用学概論	生物資源利用学概論	基礎数学 化学Ⅰ	生物資源利用学概論 科学実験入門					科学実験入門

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPに対する関与の程度◎のみ記載

※ 二重下線は必修科目、下線はコース必修科目

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	38 単位以上
2 → 3 年次	72 単位以上。指定されたコア科目を含む。
3 → 4 年次	112 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。全てのコア科目を含む。
卒業単位	132 単位以上

※基礎科目のうち自然分野の4科目は進級条件及び卒業要件の単位には含まない。(P.64 [注1] 参照)

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

※コース毎の卒業要件は、II. コースにて確認のこと。

II. コース

	生命環境化学基盤コース	生命環境化学アドバンスコース
卒業条件	132 単位以上	138 単位以上 コース必修科目の全ての単位を取得していること。
	1. 生命環境化学専門から、「環境物質工学実験」あるいは「環境生命工学実験」のどちらかを含む合計 20 単位以上を取得すること。 「環境物質工学実験」を選択した場合、物質系科目と物質・生命共通科目から「環境物質工学実験」を含む 10 単位以上を取得すること。また「環境生命工学実験」を選択した場合、生命系科目と物質・生命共通科目から「環境生命工学実験」を含む 10 単位以上を取得すること。 2. 基礎科目から 10 単位以上、キャリア科目から 4 単位以上、外国語科目から 8 単位以上（うち 1・2 年次の英語科目 8 単位）、ウェルネス科目から 2 単位以上を含み、合計 26 単位以上を取得しなければならない。なお、基礎科目のうち「生命と生態系」、「地球と環境」、「物質と化学」、「自然と科学」の単位は進級条件及び卒業要件の単位に含めない。 3. 基礎科目のうち、「コンピュータ入門」2 単位を取得しなければならない。	
分け	2 年次進級時に行う	
コース分け条件	条件なし	1 年次後期に開講される「先端生命環境化学演習」を含め、1 年次に開講される専門教育科目のうち、必修科目の単位を全て取得する必要がある。原則として学生総数の半分を上限とする。希望者が多数の場合には成績順とする。
変更	基盤コースからアドバンスコースへの変更は原則として認めない。	アドバンスコースから基盤コースへの変更は 4 年次進級までに認める場合がある。

→ § 8-4. 技術者教育プログラム要領 P.224

III. 習熟度別クラス分け

高等学校で数学、物理、化学、生物などの履修歴がなくても講義が理解できるよう、「基礎数学」、「基礎物理学」、「基礎化学」、「基礎生物学」などの専門基礎科目を用意している。うち、「基礎物理学」と「基礎数学」は必修科目である。

■数学

「基礎数学」、「応用数学」、「解析Ⅰ」、「解析Ⅱ」は、高校までの履修歴、入学試験の成績、初回授業での試験の成績および希望調査などを参考に習熟度別のクラス分けを行う。なお、途中でのクラス変更はできない。

■英語

→ § 2-2. 5 習熟度別クラス P.22

IV. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

- ・教員免許：
高等学校教諭一種免許状（工業、理科）
中学校教諭一種免許状（理科）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

- ・食品衛生管理者・食品衛生監視員資格
食品衛生法に定める食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得を希望する学生は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領」に従って指定されたすべての科目を履修する必要がある。（それらは卒業単位に含まれる。）
養成課程への登録は 2 年次進級時に行う。
なお、1 年次に開講される「化学実験」の単位を取得していなければ登録できない。

→ § 8-6. ■生命環境化学科 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領 P.228

- ・ 毒物劇物取扱責任者
生命環境化学科を卒業すれば、毒物劇物取扱責任者に選任される資格を得ることができる。

→ § 2-11. 資格 P.39

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ 公害防止管理者…「環境科学Ⅰ」、「環境科学Ⅱ」
- ・ 環境測定分析士・環境計量士…「分析化学」、「機器分析化学」、「環境分析化学」、「先端生命環境化学実験Ⅰ」、「先端生命環境化学実験Ⅱ」、「環境科学Ⅰ」、「環境科学Ⅱ」

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・ 危険物取扱者
- ・ バイオ技術者

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

化学系、バイオ系、食品系の4つ分野に分けた推奨カリキュラムが作られている。研究室ごとに推奨する履修科目が掲示されているので、将来の進路希望や、どの研究室で卒業研究をしたいのかを考えながら、選択科目の選択を行うこと。

V. その他

■コア科目

必修科目のうち、「科学実験入門」、「化学実験」、「生物学実験」、「機器分析化学実験」をコア科目に設定する。コア科目の全単位を取得しなければ4年次に進級できない。

このうち、専門基礎科目の「科学実験入門」、「化学実験」4単位の取得を、2年次から3年次への進級条件とする。

→ § 2-1. 1 授業科目 P.16

■専門教育科目中の選択科目について

生命環境化学専門のうち、物質系科目と物質・生命共通科目から「環境物質工学実験」を含む10単位以上、または生命系科目と物質・生命共通科目から「環境生命工学実験」を含む10単位以上を取得し、かつ合計20単位以上を取得すること。また、環境・エネルギー系、物質

§ 3-3. 知能機械工学科 / Dept. of Intelligent Mechanical Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 地球的視点から多面的に物事を考える能力	1 産業社会における技術者・産業人の倫理に関する概念を修得し、安全な世界を築くため多面的に物事を考える能力を修得している。
B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	1 新技術の開発や応用に関わる技術者は、社会に対して責任を負っていることを認識する能力を修得している。
C 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	1 専門科目を受講するために必要な数学や物理学の基礎知識を、専門基礎科目で修得している。 2 専門基礎科目や専門科目で修得した能力を、知能機械の設計・創成に関連する科目、ならびに卒業研究で具現化する応用力を修得している。
D 知能機械工学に関する分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	1 機械製図、機械 4 力学、機械材料、機械工作法、電気基礎学、計測・制御工学に関連する専門科目を履修し、知能機械の設計・創成に応用する能力を修得している。
E 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	1 機械要素、機械工作法、計測・制御工学、CAD・CAM・CAE、知能機械創成に関連する専門科目を履修し、知能機械を設計・製造する基礎能力を修得している。
F 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	1 コンピュータ、コミュニケーション・プレゼンテーションに関連する科目、実験・実習に関連する報告書、ならびに卒業研究課題においては、論理的な記述能力や口頭発表能力や質問応答能力を修得している。 2 コミュニケーション・プレゼンテーションに関連する科目、ならびに卒業研究の発表会で口頭発表技術や論文作成技術を修得し、高度なコミュニケーション能力を修得している。
G 自主的、継続的に学習する能力	1 講義内容について自ら進んで質問し、問題を解決する能力を修得している。 2 卒業研究課題に関する知識や研究背景を調査し、指導教員との討議等により自主的、継続的に学習する能力を修得している。
H 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	1 与えられた時間や制約条件の下で知能機械創成課題や卒業研究課題を行い、目的意識や計画的に仕事を進める能力を修得している。 2 知能機械創成課題や卒業研究課題に関する成果の記録を通して、調査・研究の結果を図式化及び文書化する能力を修得している。
I チームで仕事をするための能力	1 知能機械設計、CAD・CAM・CAE、知能機械基礎実験、知能機械創成実験に関連する課題、ならびに卒業研究課題を通して、チームで仕事ができる能力を修得している。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①知能機械設計学
- ②知能生産工学
- ③知能計測制御工学

■カリキュラム編成の基本方針

本学科では、社会に役立つグローバルな知能機械技術者の育成のため、物理や数学の基礎科目を確実に身につけた上で、機械工学関連の基礎力学と加工技術、センサーと制御の技術、コンピュータ関連技術などを1年次から順次習得する。また、創造性豊かな技術者育成のためのエンジニアリングデザイン教育、国際的に活躍できる技術者育成のための英語教育、技術者の社会的責任を理解するための教育を実施する。

導入教育として設けた科目“ものづくり基礎実習”では、アクティブ・ラーニング形式でのものづくりを体験させ、本学科ではどのようなことを学び、どのような知識や能力を身につけるかを自覚させ、目的意識を持って学業に取り組む土台を形成する。基盤となるコア科目に指定された物理・数学科目は、少人数クラスで実施し、機械4力学を学修する上で必要な素養を修得する。さらに、実験科目ならびに設計科目は機械4力学と密接に連携し、物理現象あるいは法則・定理を正しく理解するとともに、応用する能力を修得する。また、就業力育成のために学習ポートフォリオを導入し、卒業あるいは進学時までのキャリア形成の過程を把握する。

■年次別科目の配当方針

1～2年次では、専門科目を理解する上で欠くことのできない基礎知識を数学・物理学の専門基礎科目で修得する。

2～3年次では、機械工学関連の基礎力学である機械4力学、ならびに知能機械工学分野に関係する設計学・生産工学・計測制御工学の知識および創造力を修得する。

3～4年次では、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解力、並びに国際的なコミュニケーション能力を修得する。

4年次の卒業研究では、問題解決能力、計画的に仕事を進め、まとめる能力、論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を修得する。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。物理・数学科目を進級要件となるコア科目に設定し、機械4力学などの専門必修科目を履修するための基礎能力が修得できているかを確認する。最終的には、十分な学習到達度に達成しているか評価するために、知能機械創成実験にて総合評価試験を実施し、卒業要件とする。

■技術者教育プログラム

1年次から、機械工作技術、ものづくり、知能機械設計・製作に係わる専門科目を積極的に導入し、卒業時まで繰り返し教育ができるカリキュラムとしている。また、この教育目標達成のために1年次後期から3年次後期まで2.5年をかけて、知能機械の設計・製作をおこなう基幹科目を設定している。

知能機械工学科では、国際的に通用する専門性と創造性を身につけることができるカリキュラムの技術者教育プログラムが設けられ、2006年度日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education = JABEE）のコース認定を取得している。2017年度の継続受審では、コースではなく学科全体として受審し、認定を取得している。

→ § 8-4. 技術者教育プログラム要領 P.224

3 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次												
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
基礎科目	文化・社会	知と教養	2																	
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2											
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2											
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2											
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2											
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2											
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2											
	日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2																
	自然・情報	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2											
		物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2											
コンピュータ入門		2			コンピュータ入門	2														
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2										
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2				
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2				
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2								
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2								
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2																
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2																

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、基礎科目のうち「生命と生態系」「地球と環境」「物質と化学」「自然と科学」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 基礎科目のうち「コンピュータ入門」は生命環境化学科・電気工学科では必修科目、電子情報工学科・知能機械工学科では選択科目である。

[注4] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注5] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔工学部〕 知能機械工学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目			解析Ⅰ及び演習 ④	解析Ⅱ ②	解析Ⅲ 2				
			線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ ②	微分方程式 ②				
		数学基礎演習 ②		確率と統計 2					
			物理学Ⅰ及び演習 ④	物理学Ⅱ ②					
		物理基礎演習 ②							
			機械物理学実験 ②						

[注1] 「数学基礎演習」、「物理基礎演習」及び英語科目は習熟度別にクラス分けして行う。

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
機械基礎学		ものづくり基礎実習* ④		機械力学Ⅰ ②	流体力学Ⅰ ②	流体力学Ⅱ ②	機械力学Ⅱ ②		
				材料力学Ⅰ ②	熱力学Ⅰ ②	熱力学Ⅱ ②	材料力学Ⅱ ②		
							伝熱工学 2		
知能機械設計学		基礎製図Ⅰ ②	基礎製図Ⅱ ②	知能機械設計Ⅰ* ④		知能機械設計Ⅱ* ④			
				CADシステム* ②		トライボロジー 2			
知能生産工学				機械材料 ②	機械工作法Ⅰ* ②	機械工作法Ⅱ 2			
					デジタルエンジニアリング* 2				
知能計測制御工学					電気基礎学 ②	計測工学 2			
						知能機械制御工学 ②	ロボット工学 2		
共通科目			工業技術史 ②	知能機械基礎実験Ⅰ ②	知能機械基礎実験Ⅱ ②	産業人基礎教育 2	知能機械創成実験 ②		
				知能機械制御言語及び演習* 2		国際工学実習 2			
				技術者倫理 ②					
				工学概論 2					
卒業研究							卒業研究 ⑥		

[注1] コア科目のうち、専門基礎科目の「数学基礎演習」及び「物理基礎演習」4単位を取得しなければ2年次の科目を履修することはできない。また、専門基礎科目の「解析Ⅰ及び演習」、「線形代数Ⅰ」、「物理学Ⅰ及び演習」及び「解析Ⅱ」12単位を取得しなければ3年次の科目を履修することはできない。

[注2] *印の科目および基礎科目の「コンピュータ入門」は授業にノートPCを使用する。

[注3] 「工学概論」は進級条件および卒業要件の単位に含めない。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I	
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力	
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度									
基礎科目	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎	
	文化・社会	日本国憲法	選択			◎						
		市民生活と法	選択			◎						
		現代倫理	選択		◎	◎						
		コミュニケーションの心理学	選択			◎			○			
		日本文学	選択			◎						
		歴史学概論	選択	○		◎						
		九州学	選択			◎						
		地理学概論	選択	○		◎						
		社会学入門	選択			◎						
		経済学入門	選択			◎						
	異文化理解	選択	◎		○							
	地域創生入門	選択			○		◎			○	◎	
	日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択						◎				
	日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択						◎				
	自然・情報	生命と生態系	選択			◎		○				
地球と環境		選択			◎		○					
物質と化学		選択			◎		○					
自然と科学		選択			◎		○					
コンピュータ入門	選択			○								
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○	
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎	
	日本語表現法	選択						◎				
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎		
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○	
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○			
	Advanced English B	選択						◎	○			
	Advanced English C	選択						◎	○			
	Advanced English D	選択						◎	○			
	English A	選択						◎	○			
	English B	選択						◎	○			
	English C	選択						◎	○			
	English D	選択						◎	○			
	Academic English A	選択						◎	○			
	Academic English B	選択						◎	○			
	Academic English C	選択						◎	○			
	Academic English D	選択						◎	○			
	Conversation A	選択						◎	○			
	Conversation B	選択						◎	○			
	Conversation C	選択						◎	○			
	Conversation D	選択						◎	○			
	中国語Ⅰ	選択	○					◎	○			
	中国語Ⅱ	選択	○					◎	○			
	韓国語Ⅰ	選択	○					◎	○			
	韓国語Ⅱ	選択	○					◎	○			
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択						◎					
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択						◎					
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎		◎	
	ウェルネス応用	選択			◎				◎		○	
教職科目	≪別途≫											

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

■専門基礎及び専門教育科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

(知能機械工学科)

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP に対する関与の程度									
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	
専門基礎科目	数学基礎演習	必修	1	通年	演習			◎			○	○	○		
	線形代数Ⅰ	必修	1	後	講義			◎			○	○	○		
	解析Ⅰ及び演習	必修	1	後	講義			◎			○	○	○		
	線形代数Ⅱ	必修	2	前	講義			◎			○	○	○		
	解析Ⅱ	必修	2	前	講義			◎			○	○	○		
	微分方程式	必修	2	後	講義			◎							
	解析Ⅲ	選択	2	後	講義			◎							
	確率と統計	選択	2	前	講義			◎			○	○	○		
	物理基礎演習	必修	1	通年	演習			◎				○			
	物理学Ⅰ及び演習	必修	1	後	講義			◎				○			
	機械物理学実験	必修	1	後	実験		○	◎			○	○	○	○	
物理学Ⅱ	必修	2	前	講義			◎	○			○				
機械基礎学	ものづくり基礎実習	必修	1	通年	実習			○	◎		○		○	◎	
	熱力学Ⅰ	必修	2	後	講義			○	◎	○					
	熱力学Ⅱ	必修	3	前	講義			○	◎	○					
	伝熱工学	選択	3	後	講義			○	◎	○					
	流体力学Ⅰ	必修	2	後	講義			○	◎			○			
	流体力学Ⅱ	必修	3	前	講義			○	◎			○			
	機械力学Ⅰ	必修	2	前	講義			○	◎			○	○		
	機械力学Ⅱ	必修	3	後	講義			○	◎			○	○		
	材料力学Ⅰ	必修	2	前	講義			○	◎	◎		○			
	材料力学Ⅱ	必修	3	後	講義			○	◎	◎		○			
	知能機械設計学	基礎製図Ⅰ	必修	1	前	講義				◎			○	○	
基礎製図Ⅱ		必修	1	後	講義				◎	○		○	○		
知能機械設計Ⅰ		必修	2	通年	講義		○		○	◎	○	○	○	○	
知能機械設計Ⅱ		必修	3	通年	講義		○		○	◎	○	○	○	○	
CAD システム		必修	2	前	講義				○	○	◎		○	○	
トライボロジー		選択	3	前	講義				○	◎	○				
知能生産工学		機械材料	必修	2	前	講義				◎	○		○		
		機械工作法Ⅰ	必修	2	後	講義				◎			○		
		機械工作法Ⅱ	選択	3	前	講義				◎			○		
		デジタルエンジニアリング	選択	2	後	講義				○	○	◎		○	◎
知能計測制御工学		電気基礎学	必修	2	後	講義				◎	○				
	知能機械制御工学	必修	3	前	講義				○	○	◎		○		
	ロボット工学	選択	3	後	講義				○	○	◎		○		
	計測工学	選択	3	前	講義					○	◎				
共通科目	知能機械基礎実験Ⅰ	必修	2	前	実験				○	○		○	○	◎	○
	知能機械基礎実験Ⅱ	必修	2	後	実験				○	○		○		◎	○
	工業技術史	必修	1	後	講義	◎	○								
	技術者倫理	必修	2	前	講義	○	◎								
	産業人基礎教育	選択	3	前	講義						◎				○
	知能機械制御言語及び演習	選択	2	前	講義				○	◎	○	○	○	○	
	知能機械創成実験	必修	3	後	実験	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	工学概論	選択	2	前	講義	○	◎								
	国際工学実習	選択	3	前	実習	○			○	◎	○		○	○	
	卒業研究	必修	4	通年	研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4 年次	後期					Academic English D Conversation D			
	前期					Academic English C Conversation C			
3 年次	後期					Academic English B Conversation B 中国語 II 韓国語 II			
	前期					Academic English A Conversation A 中国語 I 韓国語 I	インターンシップ II		
2 年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップ I
1 年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語 II (留学生科目) 日本事情 II (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学	知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語 I (留学生科目) 日本事情 I (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(知能機械工学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次	後期	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
	前期	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
3年次	後期	知能機械創成実験	知能機械創成実験	機械力学Ⅱ 材料力学Ⅱ 知能機械創成実験 伝熱工学	材料力学Ⅱ 知能機械設計Ⅱ 知能機械創成実験 ロボット工学	知能機械創成実験	知能機械創成実験	知能機械創成実験	知能機械創成実験
	前期			流体力学Ⅱ 熱力学Ⅱ 機械工作法Ⅱ トライボロジー	知能機械設計Ⅱ 知能機械制御工学 計測工学 国際工学実習	産業人基礎教育			
2年次	後期		微分方程式 解析Ⅲ	流体力学Ⅰ 熱力学Ⅰ 機械工作法Ⅰ 電気基礎学	知能機械設計Ⅰ デジタルエンジニアリング			知能機械基礎実験Ⅱ	デジタルエンジニアリング
	前期	技術者倫理 工学概論	解析Ⅱ 線形代数Ⅱ 物理学Ⅱ 確率と統計	機械力学Ⅰ 材料力学Ⅰ 機械材料 知能機械制御言語及び演習	材料力学Ⅰ 知能機械設計Ⅰ CAD システム			知能機械基礎実験Ⅰ	
1年次	後期	工業技術史	数学基礎演習 物理基礎演習 解析Ⅰ及び演習 線形代数Ⅰ 物理学Ⅰ及び演習 機械物理学実験	ものづくり基礎実習 基礎製図Ⅱ					ものづくり基礎実習
	前期		数学基礎演習 物理基礎演習	ものづくり基礎実習 基礎製図Ⅰ					ものづくり基礎実習

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPIに対する関与の程度◎のみ記載

※ 二重下線は必修科目

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	32 単位以上。指定されたコア科目を含む。
2 → 3 年次	68 単位以上。指定されたコア科目を含む。
3 → 4 年次	114 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。全てのコア科目を含む。
卒業単位	132 単位以上

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

II. 習熟度別クラス分け

■数学・物理学

2 年次以降に開講する専門教育科目を深く理解するためには、数学や物理学に関する基礎知識を修得しておく必要がある。そこで、「数学基礎演習」や「物理基礎演習」では、1 年次を通して反復学習を行い、自立、継続して学問でできる能力を修得する。

■英語

→ § 2-2. 習熟度別クラス P.22

III. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

- ・教員免許：
高等学校教諭一種免許状（工業）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

- ・修習技術者（技術士補）

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・機械加工技能士（普通旋盤作業）…「ものづくり基礎実習」、「基礎製図Ⅰ」、「基礎製図Ⅱ」、「機械材料」、「機械工作法Ⅰ」、「機械工作法Ⅱ」、「電気基礎学」、「計測工学」、「知能機械創成実験」
- ・機械設計技術者…「基礎製図Ⅰ」、「基礎製図Ⅱ」、「知能機械設計Ⅰ」、「知能機械設計Ⅱ」、「CAD システム」、「デジタルエンジニアリング」

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・CAD 利用技術者
 - ・機械保全技能士
- ※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

IV. その他

■コア科目

必修科目のうち16単位をコア科目に設定する。

なお、コア科目のうち専門基礎科目の「数学基礎演習」、「物理基礎演習」4単位の取得を、1年次から2年次への進級条件とする。「数学基礎演習」、「物理基礎演習」は機械工学の専門知識を学ぶ上で大切な土台となる。

また、専門基礎科目の「解析Ⅰ及び演習」、「線形代数Ⅰ」、「物理学Ⅰ及び演習」、「解析Ⅱ」12単位の取得を、2年次から3年次への進級条件とする。

→ § 2-1. 1 授業科目 P.16

■実験・演習科目受講時の安全に対する基本的注意

- (1)知能機械工学科の実験実習科目及び卒業研究では、旋盤やボール盤等の大型機械を使用することが多く、一瞬の油断が命にかかわる重大事故につながる。各自、安全に対する意識を高め、各部署、各機械で定められた安全規定は必ず守ってほしい。
- (2)大型機械を用いない場合でも、例えば紙1枚でも、ちょっとした油断からけがをすることがある。常に安全に対する意識を持つように心がけてほしい。
- (3)どの授業でも同じであるが、実験実習科目及び卒業研究では、不真面目な態度での受講は、事故に直結する。常に真剣に受講することに心がけてほしい。

§ 3-4. 電気工学科 / Dept. of Electrical Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 国際的視点と倫理観を有するとともに、多面的に物事を考える能力を身につけている。
B 技術と行動が社会や自然に及ぼす影響と技術者が社会に対して負っている責任を理解している。
C 電気工学分野における新しい知識の修得や課題の解決に必要な自然科学、情報技術に関する知識と応用力を身につけている。
D 電気工学分野における基盤技術、ハードウェア、ソフトウェアを理解するとともに、それらを総合的に応用して問題を解決できる実践的知識と技術を身につけている。
E 種々の科学、技術及び情報を用いて目的を達成するためのデザイン能力を身につけている。
F 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を身につけている。
G 自発的興味や社会的要求に基づいて継続的に情報収集や学習する能力を身につけている。
H 与えられた制約の下で計画的に実行し、まとめる能力を身につけている。
I 異なる背景や価値観を持つ他者と協力して課題を解決する能力を身につけている。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①電気基礎学
- ②電気エネルギーシステム工学
- ③情報制御工学
- ④電気機器・パワーエレクトロニクス工学

■カリキュラム編成の基本方針

本学科では、電気基礎学、電気エネルギーシステム工学、情報制御工学、電気機器・パワーエレクトロニクス工学の4領域に及ぶ充実した専門教育を実施する。また、種々の科目と有機的に連携した実験・実習科目により、知識を応用する力を伸ばす。さらに、資格取得も積極的に支援し、就業力育成科目と連携して、志向する力・協働する力・解決する力・実践する力を身につけた、広い分野で活躍できる人材を育成する。これらの力を効率的に身につけるために、アクティブ・ラーニング、反転講義を取り入れている科目もある。また、1～3年次で学修した電気工学分野の知識・技術を総合的に応用して、問題を解決できる実践的能力を身に付けているか確かめるために、総合科目・演習を設けている。

■年次別科目の配当方針

1～2年次では、専門科目を理解する上で欠くことのできない数学・物理などの基礎科目と、電気回路や電磁気学などの基礎知識を習得する。また、就業力育成科目で技術者として働くための社会人基礎力を養う。

2～3年次では、電気エネルギー工学、半導体工学、システム制御工学など重要な専門科目を学習する。また、充実した実験・実習を通じてモノづくりの基礎力と応用力を養う。さらに、電験の資格取得を目指すことができる。

4年次の卒業研究では、研究の進め方や課題解決法、実験技術などを身に付ける。

■学修成果の評価の在り方

講義科目の学修成果は主にアセスメントテストで、演習・実験科目の学修成果は主に作品・レポートで評価する。3年次後期に、電気工学分野の知識を総合的に修得しているか、「電気工学総合」という必修科目で確認試験を行う。また、4年次終了時に卒業研究発表会において口頭試問を行う。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次												
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
基礎科目	文化・社会	知と教養	2																	
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2											
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2											
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2											
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2											
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2											
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2											
	日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2																
	自然・情報	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2											
		物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2											
コンピュータ入門		2			コンピュータ入門	2														
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2										
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2				
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2				
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2								
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2								
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2																
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2																

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、基礎科目のうち「生命と生態系」「地球と環境」「物質と化学」「自然と科学」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 基礎科目のうち「コンピュータ入門」は生命環境化学科・電気工学科では必修科目、電子情報工学科・知能機械工学科では選択科目である。

[注4] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注5] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔工学部〕電気工学科 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次				2年次				3年次				4年次	
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期	後期
専門基礎科目		解析Ⅰ	②	解析Ⅱ	②	解析Ⅲ	②	解析Ⅳ	②						
		電気基礎数学	②	線形代数Ⅰ	②	線形代数Ⅱ	②								
		電気基礎物理学	②	力学Ⅰ	②	力学Ⅱ	②	熱力学	②						

■専門教育科目

区分	年次	1年次				2年次				3年次				4年次			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期	後期		
電気基礎学		電気回路Ⅰ	②	電気回路Ⅱ	②	電気回路Ⅲ	②	電気回路Ⅳ	②			電気基礎学概論	②				
		電磁気学Ⅰ	②	電磁気学Ⅱ	②	電磁気学Ⅲ	②	電気計測	②								
		基礎物質工学	②			半導体工学	②										
電気エネルギーシステム工学						電気エネルギーシステム工学Ⅰ	②	電気エネルギーシステム工学Ⅱ	②	電気エネルギーシステム工学Ⅲ	②	電気エネルギーシステム工学Ⅳ	②				
						交流電力伝送の基礎	②	電気応用	②	高電圧工学	②	電気法規及び施設管理	②				
情報制御工学		論理表現	②	電気工学フレッシユマン演習	②	プログラミング言語	②	システム制御工学Ⅰ	②	システム制御工学Ⅱ	②	現代制御	②				
								メカトロニクスⅠ	②	メカトロニクスⅡ	②	デジタル制御	②				
								技術者倫理	②			ロボット工学	②				
電気機器・パワーエレクトロニクス工学		電気工学概論	②	電気機器Ⅰ	②	電気機器Ⅱ	②	電気機器Ⅲ	②	パワーエレクトロニクス	②	電気機器設計・製図	②				
				電子回路Ⅰ	②	電子回路Ⅱ	②					デジタル回路	②				
						エンジニアリングデザインⅠ	②					エンジニアリングデザインⅡ	④				
実験・実習科目								電気基礎学実験	②	電気工学実験Ⅰ	②	電気工学実験Ⅱ	②	卒業研究 ⑥			
電験・総合科目				電験理論	②	電験電力	②	電験法規	②	電験機械	②	電気工学総合	②				
関連科目						工学概論	②					機械工学概論	②	通信工学概論	②		
										国際工学実習	②						

[注1] 電験理論、電験電力、電験機械、電験法規の4科目の単位は、受講後該当する国家試験に在学中に合格したのものについて、届け出により認定する。

[注2] 「工学概論」は進級条件および卒業要件の単位に含めない。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度								
基礎科目	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎
	日本国憲法	選択			◎						
	市民生活と法	選択			◎						
	現代倫理	選択		◎	◎						
	コミュニケーションの心理学	選択			◎			○			
	日本文学	選択			◎						
	歴史学概論	選択	○		◎						
	九州学	選択			◎						
	地理学概論	選択	○		◎						
	社会学入門	選択			◎						
	経済学入門	選択			◎						
	異文化理解	選択	◎		○						
	地域創生入門	選択			○		◎			○	◎
	日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択						◎			
	日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択						◎			
	自然・情報	生命と生態系	選択			◎		○			
地球と環境		選択			◎		○				
物質と化学		選択			◎		○				
自然と科学		選択			◎		○				
コンピュータ入門		必修			○						
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎
	日本語表現法	選択						◎			
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎	
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○		
	Advanced English B	選択						◎	○		
	Advanced English C	選択						◎	○		
	Advanced English D	選択						◎	○		
	English A	選択						◎	○		
	English B	選択						◎	○		
	English C	選択						◎	○		
	English D	選択						◎	○		
	Academic English A	選択						◎	○		
	Academic English B	選択						◎	○		
	Academic English C	選択						◎	○		
	Academic English D	選択						◎	○		
	Conversation A	選択						◎	○		
	Conversation B	選択						◎	○		
	Conversation C	選択						◎	○		
	Conversation D	選択						◎	○		
	中国語Ⅰ	選択	○					◎	○		
	中国語Ⅱ	選択	○					◎	○		
	韓国語Ⅰ	選択	○					◎	○		
	韓国語Ⅱ	選択	○					◎	○		
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択						◎				
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択						◎				
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎		◎
	ウェルネス応用	選択			◎				◎		○
教職科目	≪別途≫										

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

■専門基礎及び専門教育科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

(電気工学科)

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP に対する関与の程度										
						A	B	C	D	E	F	G	H	I		
専門基礎科目	電気基礎数学	必修	1	前	講義			◎			○					
	解析 I	必修	1	前	講義			◎			○					
	解析 II	必修	1	後	講義			◎			○					
	線形代数 I	必修	1	後	講義			◎			○					
	線形代数 II	選択	2	前	講義			◎			○					
	解析 III	必修	2	前	講義			◎			○					
	解析 IV	選択	2	後	講義			◎			○					
	電気基礎物理学	必修	1	前	講義			◎			○					
	力学 I	必修	1	後	講義			◎			○					
	力学 II	必修	2	前	講義			◎			○					
	熱力学	選択	2	後	講義			◎			○					
	電気基礎学	電磁気学 I	必修	1	前	講義			◎	◎					○	
電磁気学 II		必修	1	後	講義			◎	◎					○		
電磁気学 III		必修	2	前	講義			◎	◎					○		
電気回路 I		必修	1	前	講義			◎	◎					○		
電気回路 II		必修	1	後	講義			◎	◎					○		
電気回路 III		必修	2	前	講義			◎	◎					○		
電気回路 IV		必修	2	後	講義			◎	◎		○	○	○			
電気計測		必修	2	後	講義			◎	◎							
基礎物質工学		必修	1	前	講義	○	○	◎	◎	○	○	○				
半導体工学		必修	2	前	講義	○	○	◎	◎	○	○	○				
電気基礎学概論		選択	3	後	講義			◎	◎							
電気エネルギーシステム工学		電気エネルギーシステム工学 I	必修	2	前	講義	○	○	◎	◎	○					
		電気エネルギーシステム工学 II	必修	2	後	講義	○	○	◎	◎	○					
		電気エネルギーシステム工学 III	選択	3	前	講義	○	◎		◎	○					
	電気エネルギーシステム工学 IV	選択	3	後	講義	◎			◎							
	電気法規及び施設管理	選択	3	後	講義	○	○	◎	◎	◎			○	○		
	交流電力伝送の基礎	必修	2	前	講義		○	◎	◎				○			
	高電圧工学	選択	3	前	講義	○		○	◎	○						
	電気応用	必修	2	後	講義		◎		◎			◎				
	論理表現	必修	1	前	講義		○	○			◎	○	○	○		
	電気工学フレッシュマン演習	必修	1	後	演習				◎		○			○		
情報制御工学	プログラミング言語	必修	2	前	演習			○	◎							
	システム制御工学 I	必修	2	後	講義	○		○	◎		○	○	○			
	システム制御工学 II	選択	3	前	講義				◎					○		
	現代制御	選択	3	後	講義				◎					○		
	メカトロニクス I	必修	2	後	演習			○	◎	○	○	○				
	メカトロニクス II	選択	3	前	演習				◎	◎						
	ディジタル制御	選択	3	後	講義	○		○	◎		○	○	○	○		
	ロボット工学	選択	3	後	講義	○	○	○	◎		○	○	○	○		
	技術者倫理	必修	2	後	講義	◎	◎				◎	○		◎		
	電気工学概論	必修	1	前	講義・演習			○	○	○						
電気機器・パワーエレクトロニクス学	電気機器 I	必修	1	後	講義				◎							
	電気機器 II	必修	2	前	講義				◎							
	電気機器 III	必修	2	後	講義				◎							
	パワーエレクトロニクス	必修	3	前	講義				◎							
	電気機器設計・製図	選択	3	後	講義・演習				◎	○						
	電子回路 I	必修	1	後	講義				◎							
	電子回路 II	選択	2	前	講義				◎							
	ディジタル回路	選択	3	前	講義				◎							
	エンジニアリングデザイン I	必修	2	前	講義・演習			○	○	◎	○	○	○			
	エンジニアリングデザイン II	選択	3	通年	講義・演習			○	○	◎	○	○	◎	◎		
	実験・実習科目	電気基礎学実験	必修	2	後	実験			○	◎	○		○	◎	○	
		電気工学実験 I	必修	3	前	実験		○	○	◎		○	○	○	○	
		電気工学実験 II	必修	3	後	実験			○	◎		◎	○	○	○	
		卒業研究	必修	4	通年	研究	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
実験・総合科目	電験理論	選択	1	後	講義				◎	○				◎		
	電験電力	選択	2	前	講義・演習				◎							
	電験法規	選択	2	後	講義・演習		◎		◎			○				
	電験機械	選択	3	前	講義				◎							
	電気工学総合	必修	3	後	講義・演習			○	◎	○	○	○	○	○		
	機械工学概論	選択	3	前	講義	○			◎							
関連科目	通信工学概論	選択	3	後	講義			○	◎							
	工学概論	選択	2	前	講義	○	◎									
	国際工学実習	選択	3	前	実習	○			○	◎	○		○	○		

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4 年次						Academic English D Conversation D			
						Academic English C Conversation C			
3 年次						Academic English B Conversation B 中国語 II 韓国語 II			
						Academic English A Conversation A 中国語 I 韓国語 I	インターンシップ II		
2 年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップ I	
1 年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語 II (留学生科目) 日本事情 II (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学		知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語 I (留学生科目) 日本事情 I (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(電気工学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4 年次			卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究
後期	電気エネルギーシステム工学Ⅳ		電気基礎学概論 電気法規及び施設管理	電気基礎学概論 電気エネルギーシステム工学Ⅳ 電気法規及び施設管理 現代制御 デザイン制御 ロボット工学 電気機器設計・製図 電気工学実験Ⅱ 電気工学総合 通信工学概論	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究
前期				電気エネルギーシステム工学Ⅱ 高圧工学 システム制御工学Ⅱ メカトロニクスⅡ パワーエレクトロニクス デジタル回路 電気工学実験Ⅰ 電験機械 機械工学概論	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究
3 年次		電気エネルギーシステム工学Ⅲ			エンジニアリングデザインⅡ 電気法規及び施設管理	電気工学実験Ⅱ		エンジニアリングデザインⅡ	エンジニアリングデザインⅡ
後期					メカトロニクスⅡ エンジニアリングデザインⅡ 国際工学実習			エンジニアリングデザインⅡ	エンジニアリングデザインⅡ
前期									
後期	技術者倫理	電気応用 技術者倫理 電験法規	解析Ⅳ 熱力学 電気計測	電気回路Ⅳ 電気計測 電気エネルギーシステム工学Ⅱ 電気応用 システム制御工学Ⅰ メカトロニクスⅠ 電気機器Ⅲ 電気基礎学実験 電験法規	卒業研究	技術者倫理	電気応用	電気基礎学実験	技術者倫理
2 年次									
前期		工学概論	解析Ⅲ 線形代数Ⅱ 力学Ⅱ 電磁気学Ⅲ 電気回路Ⅲ 半導体工学 交流電力伝送の基礎	電磁気学Ⅲ 電気回路Ⅲ 電気エネルギーシステム工学Ⅰ 交流電力伝送の基礎 プログラミング言語 電気機器Ⅱ 電子回路Ⅱ 電験電力	卒業研究				
後期			解析Ⅱ 線形代数Ⅰ 力学Ⅰ 電磁気学Ⅱ 電気回路Ⅱ	電磁気学Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気工学プロジェクト演習 電気機器Ⅰ 電子回路Ⅰ 電験理論	卒業研究			電験理論	
1 年次			電気基礎数学 解析Ⅰ 電気基礎物理学 電磁気学Ⅰ 電気回路Ⅰ	電磁気学Ⅰ 電気回路Ⅰ 基礎物質工学	卒業研究	論理表現			

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPIに対する関与の程度○のみ記載

※ 二重下線は必修科目

9-3-1	電子情報工学科
9-3-2	生命環境化学科
9-3-3	知能機械工学科
9-3-4	電気工学科

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	30 単位以上
2 → 3 年次	64 単位以上
3 → 4 年次	104 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。
卒業単位	132 単位以上

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

II. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 2-2. 習熟度別クラス P.22

III. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

・教員免許：

高等学校教諭一種免許状（工業）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

・電気主任技術者

指定学科目の単位を取得して卒業し、一定の実務経験があれば免状の交付を受けることができる。

なお、指定学科目の単位取得者には、第二種電気工事士の筆記試験が免除される。また、第一種電気工事士試験合格者に対して実務経験年数 5 年が 3 年に短縮される。

[認定基準表]

電気主任技術者の資格等に関する省令第 1 条第 1 項の規定による認定基準		本学の授業科目名及び履修単位数			
科目区分	単位数				
1. もの 電気工学又は電子工学等の基礎に関する	19	第一欄	電磁気学Ⅰ 2 電磁気学Ⅱ 2 電磁気学Ⅲ 2 電気回路Ⅰ 2 電気回路Ⅱ 2 電気回路Ⅲ 2 電気回路Ⅳ 2 電気計測 2		
			小計 16		
		第二欄	電子回路Ⅰ 2 電子回路Ⅱ 2 基礎物質工学 2		
			小計 6		
			計 22		
		2. 材料並びに電気法規に関するもの 発電、変電、送電、配電及び電気	10	第一欄	交流電力伝送の基礎 2 電気エネルギーシステム工学Ⅰ 2 電気エネルギーシステム工学Ⅱ 2 電気エネルギーシステム工学Ⅲ 2 電気エネルギーシステム工学Ⅳ 2 電気法規及び施設管理 2
					小計 12
	第二欄			高電圧工学 2 機械工学概論 2 技術者倫理 2	
			小計 6		
			計 18		
3. 電気及び電子機器、自動制御、電気エネルギー利用並びに情報伝送及び処理に関するもの	12	第一欄	電気機器Ⅰ 2 電気機器Ⅱ 2 パワーエレクトロニクス 2 システム制御工学Ⅰ 2 システム制御工学Ⅱ 2		
			小計 10		
		第二欄	電気応用 2 メカトロニクスⅠ 2 メカトロニクスⅡ 2 プログラミング言語 2		
		小計 8			
		計 18			

4. 電気工学若しくは電子工学実験又は電気工学若しくは電子工学実習に関するもの	6	第一欄	電気基礎学実験	2
			電気工学実験Ⅰ	2
			電気工学実験Ⅱ	2
小計			6	
5. 電気及び電子機器設計又は電気及び電子機器製図に関するもの	2	第二欄	電気機器設計・製図	2
		小計		
49	総合計		66	

※第一欄は必修、第二欄は科目区分ごとの単位数を補うもので一定の単位取得が必要。

→ § 2-11. 資格 P.39

(2) 資格取得を支援している資格

■ 資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ 電気主任技術者（1～3種）
 「電験理論」、「電験電力」、「電験機械」、「電験法規」（認定科目）

[認定科目の単位認定方法]：

履修後に該当する国家資格を取得したものについては、該当科目の開講学期の学期末試験期間までに科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。また、履修前に取得しているものについては、該当科目の開講学期の履修登録期間までに履修登録し、科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。

なお、単位認定は該当科目の開講年次以降に行う。

→ § 2-4. 5 単位認定 P.27

■ 資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・ 電気工事士

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

IV. その他

■ コア科目

設定なし

§ 4

情報工学部

Faculty of Information Engineering

§ 4-1	情報工学科	94
-------	-------	----

Dept. of Computer Science and Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 4-2	情報通信工学科	104
-------	---------	-----

Dept. of Information and Communication Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 4-3	情報システム工学科	116
-------	-----------	-----

Dept. of Information and Systems Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 4-4	システムマネジメント学科	126
-------	--------------	-----

Dept. of System Management

- 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- 2 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- 3 年次別授業科目表
- 4 関与度一覧表
- 5 カリキュラム・マップ
- 6 履修上の注意

§ 4-1

情報工学科

§ 4-2

情報通信工学科

§ 4-3

情報システム工学科

§ 4-4

システムマネジメント学科

§ 4-1. 情報工学科 / Dept. of Computer Science and Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 地球の観点から多面的に物事を考える能力とその素養	1 グローバルな視点で、社会経済や情報技術を理解し、将来への展望を持つ能力を身につけている。
B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に対する理解	1 技術者倫理の知識を有し、社会的責任を理解しながら、適切に行動する能力を身につけている。
C 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	1 数学、物理学の基礎知識を身につけている。 2 これらの知識を利用して様々な問題をモデル化し、解を求める能力を身につけている。
D 情報工学分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力	1 ソフトウェアとハードウェアの基礎知識を身につけ、各種問題に対応する応用力を身につけている。
E 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	1 問題解決に有用な方法を調べ出し、手順を計画し実行する能力を身につけている。
F 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	1 自分の考えを論理的に述べたり記述したりする能力を身につけている。 2 自分の考えを適切に伝えるプレゼンテーション能力を備え、また円滑なコミュニケーションを土台とした討議をする能力を身につけている。
G 自主的、継続的に学習する能力	1 生涯にわたって、自発的かつ継続的に学習する能力を身につけている。
H 与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	1 習得した知識を用い、想定される経済的および環境の制約の下で、問題を解決する方法を計画し実行する能力を身につけている。
I チームで仕事をするための能力	1 チームで仕事をする際、他者と協働しながら自己の行動を的確に判断し実行する能力を見つけている。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①情報科学
- ②プログラミング
- ③人工知能
- ④コンピュータ技術

■カリキュラム編成の基本方針

本学科では、技術革新が急速に進む高度情報化社会をハードウェアとソフトウェアの両面から支える専門的職業人及び教育研究者の人材の育成を目的としている。

そのため、専門科目の理解に必要な数学や物理学の素養、電気・電子回路やコンピュータアーキテクチャなどのハードウェアの基礎知識を修得した上で、プログラミングやアルゴリズムといったソフトウェアの基礎から、人工知能やヴァーチャルリアリティなどの応用技術まで、講義や実験・演習を通じて、幅広い知識や技能を身につける。また、社会の一員として活躍していく上で求められる技術者としての倫理観や汎用的スキルをアクティブ・ラーニング型の授業も行いながら身につけさせる。さらに、卒業研究やプロジェクト型学習を通じて、総合的な学習経験と創造的な思考力を向上させる。

■年次別科目の配当方針

1年次には、専門基礎科目の理解につながる物理や数学を学修した後、ソフトウェアではCプログラミング、ハードウェアでは電気回路などの基礎知識を学ぶ。

2～3年次では、情報工学の専門的な内容を学び、学問相互の関係を明確にするとともに、実験や演習を通してソフトウェアとハードウェアの応用力を身に付ける。

4年次の卒業研究では、最先端の情報工学技術をテーマに、研究の方法論、実験やシミュレーションの方法を学び、問題解決能力を身に付ける

■学修成果の評価の在り方

学修成果は授業計画（シラバス）に則って評価する。2年次と3年次終了時に学修到達度を評価し、進級判定を行う。4年次終了時は、学修到達度及び卒業研修活動から情報工学技術者に求められる知識、技能、態度、行動に関する到達度を総合的に評価する。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次								
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎科目	文化・社会	知と教養	2													
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2							
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2							
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2							
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2							
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2							
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2							
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2											
		自然	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2						
			物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2						
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2						
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2				
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2				
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2												
ウェルネス科目		ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2											

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注4] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕 情報工学科 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目		基礎物理学 2	物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ 2	情報物理学 2				
		基礎電磁気学 2							
		線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ 2	線形代数Ⅲ 2	幾何学的情報数学 2	幾何学とマルチメディア 2	代数学と暗号 2	応用幾何学 2	
		解析Ⅰ ②	解析Ⅱ 2	解析Ⅲ 2	微分方程式 2	複素関数論 2		代数学と符号化 2	

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報基礎学		情報基礎ゼミナール ②	離散数学 2	確率統計論 ②	数値計算 2	情報工学特別講義 ②	情報技術者倫理 ②		
		コンピュータ科学 ②		オートマトンと形式言語 ②		情報理論 2			
		コンピュータリテラシー ②					英語プレゼンテーション 2		
コンピュータソフトウェア工学				人工知能プログラミング 2		ネットワークプログラミング 2			
		CプログラミングⅠ ②	CプログラミングⅡ ②	JAVAプログラミングⅠ ②	JAVAプログラミングⅡ 2		HCIプログラミング 2		
					データ構造とアルゴリズム ②				
				オペレーティングシステム ②		ソフトウェア工学Ⅰ 2	ソフトウェア工学Ⅱ 2		
コンピュータハードウェア工学		電気回路Ⅰ ②	電気回路Ⅱ 2	電子回路 2			システムLSI 2		
				論理回路 ②	論理設計 2	デジタルシステム設計 2			
			コンピュータアーキテクチャⅠ ②	コンピュータアーキテクチャⅡ 2	情報機器工学 2		情報ネットワーク ②		
				情報工学実験Ⅰ ②	情報工学実験Ⅱ ②				
知能情報メディア工学			人工知能基礎 2		自然言語処理 2	ヒューマンコンピュータインタラクション ②	情報セキュリティ 2		
			マルチメディア工学 2				デジタル信号処理 2		
				データベース 2	コンピュータグラフィックス 2	パターン認識 2	音情報処理 2		
					人工知能応用 2	画像情報処理 2	ロボティクス 2		
共通				プロジェクト型演習Ⅰ 2			プロジェクト型演習Ⅱ 2		
				情報技術資格Ⅰ 2		情報技術資格Ⅱ 2		卒業研究 ⑥	

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I		
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力		
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度										
基礎科目	文化・社会	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎	
		日本国憲法	選択			◎							
		市民生活と法	選択			◎							
		現代倫理	選択		◎	◎							
		コミュニケーションの心理学	選択			◎			○				
		日本文学	選択			◎							
		歴史学概論	選択	○		◎							
		九州学	選択			◎							
		地理学概論	選択	○		◎							
		社会学入門	選択			◎							
		経済学入門	選択			◎							
		異文化理解	選択	◎		○							
	地域創生入門	選択			○			◎			○	◎	
	日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択							◎				
	日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択							◎				
	自然	生命と生態系	選択			◎		○					
地球と環境		選択			◎		○						
物質と化学		選択			◎		○						
自然と科学		選択			◎		○						
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○		
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎		
	日本語表現法	選択						◎					
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎			
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○		
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○				
	Advanced English B	選択						◎	○				
	Advanced English C	選択						◎	○				
	Advanced English D	選択						◎	○				
	English A	選択						◎	○				
	English B	選択						◎	○				
	English C	選択						◎	○				
	English D	選択						◎	○				
	Academic English A	選択						◎	○				
	Academic English B	選択						◎	○				
	Academic English C	選択						◎	○				
	Academic English D	選択						◎	○				
	Conversation A	選択						◎	○				
	Conversation B	選択						◎	○				
	Conversation C	選択						◎	○				
	Conversation D	選択						◎	○				
	中国語Ⅰ	選択	○						◎	○			
	中国語Ⅱ	選択	○						◎	○			
韓国語Ⅰ	選択	○						◎	○				
韓国語Ⅱ	選択	○						◎	○				
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択							◎					
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択							◎					
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎		◎		
	ウェルネス応用	選択			◎				◎		○		
教職科目	《別途》												

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次						Academic English D Conversation D			
						Academic English C Conversation C			
3年次						Academic English B Conversation B 中国語II 韓国語II			
						Academic English A Conversation A 中国語I 韓国語I	インターンシップII		
2年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップI	
1年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語II (留学生科目) 日本事情II (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学		知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語I (留学生科目) 日本事情I (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(情報工学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次			卒業研究 卒業研究 応用幾何学 代数学と符号化	卒業研究 卒業研究 デジタル信号処理 HCIプログラミング ソフトウェア工学II 情報工学実験IV システムLSI 音情報処理 情報ネットワーク ロボティクス 情報セキュリティ 英語プレゼンテーション プロジェクト型演習II	卒業研究 卒業研究 情報工学実験IV システムLSI 音情報処理	卒業研究 卒業研究		卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究
3年次		情報技術者倫理	情報工学実験IV 代数学と暗号 情報セキュリティ	画像情報処理 パターン認識 ヒューマンコンピュータインタラクション ソフトウェア工学I 情報工学実験III 情報理論 情報技術資格II ネットワークプログラミング	情報工学特別講義 情報工学実験III 複素関数論 幾何学とマルチメディア		プロジェクト型演習II	プロジェクト型演習II	プロジェクト型演習II
前期	情報工学特別講義		情報物理学 コンピュータグラフィックス 微分方程式 幾何学的情報数学	情報物理学 コンピュータグラフィックス 自然言語処理 JAVAプログラミングII データ構造とアルゴリズム 情報工学実験II 論理設計 人工知能応用 情報機器工学 数値計算 情報技術資格I プロジェクト型演習I	人工知能応用 情報機器工学		プロジェクト型演習I	情報工学実験II	プロジェクト型演習I
2年次		情報機器工学		JAVAプログラミングI オペレーティングシステム データベース 情報工学実験I 論理回路 コンピュータアーキテクチャII 確率統計論 オートマトンと形式言語 電子回路 人工知能プログラミング	人工知能プログラミング			情報工学実験I	
前期			電子回路 解析III 物理学II 線形代数III	離散数学 マルチメディア工学 コンピュータミニングII コンピュータアーキテクチャI 人工知能基礎					
1年次			電気回路II 解析II 物理学I 線形代数II 人工知能基礎	情報基礎ゼミナール 基礎物理学 基礎電磁気学 線形代数I 解析I					情報基礎ゼミナール
後期	コンピュータアーキテクチャI								
前期	コンピュータ科学								情報基礎ゼミナール

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPIに対する関与の程度◎のみ記載
※ 二重下線は必修科目

5-4-1	情報工学科
5-4-2	情報通信工学科
5-4-3	情報システム工学科
5-4-4	システムマネジメント学科

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2→3年次	64単位以上
3→4年次	104単位以上。専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含む。
卒業単位	124単位以上

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

II. コース

コース分けなし

III. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 2-2. 習熟度別クラス P.22

IV. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

- ・教諭免許：
高等学校教諭一種免許状（数学、情報）
中学校教諭一種免許状（数学）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ITパスポート…「情報技術資格Ⅰ」
- ・基本情報技術者…「情報技術資格Ⅱ」

■資格取得支援講座（課外）がある資格 [情報工学部対象]

- ・CCNA (Routing and Switching)
- ・LinuC (Linux Professional Institute Certification)

・基本情報技術者

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

§ 4-1

情報工学科

§ 4-2

情報通信工学科

§ 4-3

情報システム
工学科

§ 4-4

システム
マネジメント
学科

§ 4-2. 情報通信工学科 / Dept. of Information and Communication Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 技術者として地球的視点から多面的に考える能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題を見出し、その解決のために複数の選択肢を考慮することができる。 2 問題解決にあたり、技術者としての判断だけでなく、地球的視点からも多面的に考える能力を示すことができる。
B 社会の仕組みや成り立ちを理解し、技術者として社会に対する倫理・モラルを身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 技術者倫理の知識を有し、技術が社会に与える影響や効果、および技術者の責任について考える能力を示すことができる。 2 社会、文化およびその歴史的発展についての知識を示すことができる。
C 自然科学に対する理解を深め、問題解決のために必要な数学、物理学等の基礎的素養を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 数学、物理学の基礎知識を示すことができる。 2 これらの知識を適用して現実的問題をモデル化し解を求めることができる。
D 情報・通信工学を支える基盤技術を理解・開発するための専門知識を修得し、その多面的な応用能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報工学、通信工学、およびコンピュータやネットワークの基礎知識を示すことができる。 2 学習した知識を実際の技術と関係づけて理解している。
E 課題解決のための工学的デザイン能力を示すことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決に有用な方法を調査し、手順を計画し、実行できる。 2 得られた結果を解析し、評価することができる。さらに改善策を提示することができる。
F 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議など、国際的にも通用するコミュニケーション能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本語や英語の文章を読んで内容を正しく理解することができる。 2 自分の考えを適切に文書や口頭で説明でき、そのために有用なプレゼンテーション能力を身につけている。
G 修得した情報・通信工学の専門知識を基に、自主的に継続的に学習する能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決に有用な方法を調べ、それを基に考えることができる。
H 現実の条件の下で、計画的に問題を解決する能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 習得した知識を用い、想定される経済および環境の制約の下で、問題を解決する方法を計画し実行することができる。
I チームで仕事をするための能力を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 チームで仕事をする際、他者と協働しながら自己の行動を的確に判断し実行することができる。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①通信技術
- ②情報・ネットワーク技術

■カリキュラム編成の基本方針

情報処理技術と情報伝送技術の進歩によって、多種多様な情報が伝達・蓄積・活用される情報基盤社会を迎えており、その基盤を支える情報通信技術の役割は大きい。本学科では、コンピュータネットワーク技術、プログラミング技術、情報伝送技術および信号処理技術の基礎を体系的に修得する。また、情報処理技術者、ネットワーク技術者、無線従事者、電気通信主任技術者などの資格取得のための実力養成を図る。学修方法について、多くの科目は講義形式で進められる。また実験科目ではグループで分担・協力しながら実験を進める。特に、アクティブ・ラーニング型の科目では、グループでの討論・発表・ふり返し等を通じて、知識の活用と定着を図る。

■年次別科目の配当方針

1年次には、情報・通信工学の学びに不可欠な数学や物理などの基礎的素養を身につける。情報を伝達する際には電気信号や光・電磁波などの「波」を利用しているので、波動に関する現象を理解することは重要である。さらに、情報・ネットワーク技術の基本となるコンピュータに関する基礎知識を修得し、プログラミングの基礎的な技法を身に付ける。

2年次には、データベースやネットワーク、無線通信など、情報・通信工学を支える基盤技術の理解を深める。

3年次には、広範な情報・通信工学の専門知識を修得し、実験を通して得られた結果を解析・評価し、改善策を考える能力を養成する。

4年次には、情報・通信工学の応用分野での技術的な問題解決を考察する。また、卒業研究では、自主的・継続的に学習する能力、計画的に問題解決する能力、他者と協働する能力、自分の考えを適切に説明するためのコミュニケーション能力などを身に付ける。

■学修成果の評価の在り方

シラバスにより各科目の授業内容、達成目標、成績評価方法やその基準を周知し、それに基づいた成績評価を実施する。取得単位数に基づいて2年次および3年次終了時に進級判定を行う。さらに4年次終了時には卒業研究論文および卒業研究発表をディプロマポリシーの各項目の修得度・達成度に照らし、総合的に評価し、卒業判定を実施する。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次								
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎科目	文化・社会	知と教養	2													
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2							
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2							
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2							
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2							
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2							
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2							
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2											
		自然	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2						
			物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2						
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2						
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2				
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2				
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2												
ウェルネス科目		ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2											

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注4] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕 情報通信工学科 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
数学・物理学		情報通信基礎数学 ②	微分積分・演習Ⅰ 2	微分積分・演習Ⅱ 2	微分方程式とベクトル解析 2	幾何学とマルチメディア 2		応用幾何学 2	
		線形代数・演習Ⅰ ②	線形代数・演習Ⅱ 2			複素関数論 2	代数学と暗号 2	代数学と符号化 2	
		基礎物理学 ②	物理学Ⅰ 2	物理学Ⅱ 2	現代物理学入門 2				

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報工学		コンピュータ工学 ②	オペレーティングシステム ②		情報セキュリティⅠ 2		情報セキュリティⅡ 2		
				情報理論 ②		デジタル信号処理Ⅰ 2	デジタル信号処理Ⅱ 2		
情報プログラミング工学		プログラミング基礎演習Ⅰ ②	プログラミング基礎演習Ⅱ ②	オブジェクト指向プログラミングⅠ 2	オブジェクト指向プログラミングⅡ 2	オブジェクト指向プログラミングⅢ 2			
						スクリプト言語プログラミングⅠ 2	スクリプト言語プログラミングⅡ 2		
情報ネットワーク工学		情報ネットワークⅠ ②	情報ネットワークⅡ ②	情報ネットワークⅢ 2					
				ネットワークシステム・演習Ⅰ ②	ネットワークシステム・演習Ⅱ 2	ネットワークシミュレーション 2	ネットワークプログラミング 2		
通信基礎		電気基礎学 ②	電気回路Ⅰ ②	電気回路Ⅱ 2	デジタル回路Ⅰ 2	デジタル回路Ⅱ 2	光と物質 2		
			電子回路Ⅰ ②	電子回路Ⅱ 2	計測工学Ⅰ 2	計測工学Ⅱ 2			
無線工学			電磁気学・演習Ⅰ 2	電磁気学・演習Ⅱ 2	電磁波伝搬 2	アンテナ工学 2	電磁波応用技術 2	モバイルコミュニケーション工学 2	
情報伝送工学				情報通信工学Ⅰ ②	情報通信工学Ⅱ 2	情報伝送工学 2	情報交換システム 2	光通信システム 2	
実験・研究		コンピュータソフトウェア実験 ②	計測・回路実験 ②	情報工学基礎実験 ④		情報工学応用実験 ④		卒業研究 ⑥	
共通科目				技術者倫理 ②		通信法規 2		技術英語 2	

[注1] 情報通信工学科では、技術者教育を目的とする教育プログラムを設けている。この表に示されている必修科目の他に、各プログラムで単位を取得しなければならない科目が設定されているので、注意すること。

[注2] 無線従事者の第1級陸上特殊無線技士、第2級海上特殊無線技士、第3級海上特殊無線技士の資格を取得するため、また、第1級陸上無線技術士、電気通信主任技術者および工事担任者（ネットワーク接続技術者）の資格を卒業後受験する時に試験の一部免除を受けるためには認定基準表に基づいた科目を履修しておくこと。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I		
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力		
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度										
基礎科目	文化・社会	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎	
		日本国憲法	選択			◎							
		市民生活と法	選択			◎							
		現代倫理	選択		◎	◎							
		コミュニケーションの心理学	選択			◎			○				
		日本文学	選択			◎							
		歴史学概論	選択	○		◎							
		九州学	選択			◎							
		地理学概論	選択	○		◎							
		社会学入門	選択			◎							
		経済学入門	選択			◎							
		異文化理解	選択	◎		○							
		地域創生入門	選択			○			◎			○	◎
		日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択							◎			
		日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択							◎			
基礎科目	自然	生命と生態系	選択			◎		○					
		地球と環境	選択			◎		○					
		物質と化学	選択			◎		○					
		自然と科学	選択			◎		○					
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○		
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎		
	日本語表現法	選択						◎					
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎			
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○		
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○				
	Advanced English B	選択						◎	○				
	Advanced English C	選択						◎	○				
	Advanced English D	選択						◎	○				
	English A	選択						◎	○				
	English B	選択						◎	○				
	English C	選択						◎	○				
	English D	選択						◎	○				
	Academic English A	選択						◎	○				
	Academic English B	選択						◎	○				
	Academic English C	選択						◎	○				
	Academic English D	選択						◎	○				
	Conversation A	選択						◎	○				
	Conversation B	選択						◎	○				
	Conversation C	選択						◎	○				
	Conversation D	選択						◎	○				
	中国語Ⅰ	選択	○					◎	○				
	中国語Ⅱ	選択	○					◎	○				
韓国語Ⅰ	選択	○					◎	○					
韓国語Ⅱ	選択	○					◎	○					
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択						◎						
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択						◎						
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎		◎		
	ウェルネス応用	選択			◎				◎		○		
教職科目	《別途》												

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

■専門基礎及び専門教育科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

(情報通信工学科)

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP に対する関与の程度											
						A	B	C	D	E	F	G	H	I			
専門基礎科目	情報通信基礎数学	必修	1	前	講義	◎		◎		○		○					
	微分積分・演習Ⅰ	選択	1	後	講義・演習			◎									
	微分積分・演習Ⅱ	選択	2	前	講義・演習			◎									
	微分方程式とベクトル解析	選択	2	後	講義			◎									
	線形代数・演習Ⅰ	必修	1	前	講義・演習			◎									
	線形代数・演習Ⅱ	選択	1	後	講義・演習			◎									
	幾何学とマルチメディア	選択	3	前	講義			◎	◎	○			○				
	応用幾何学	選択	4	前	講義			◎	◎	○							
	複素関数論	選択	3	前	講義			◎									
	代数学と暗号	選択	3	後	講義			◎	◎	○							
	代数学と符号化	選択	4	前	講義			◎	◎	○							
	基礎物理学	必修	1	前	講義	◎		◎	◎	○			○				
	物理学Ⅰ	選択	1	後	講義			◎	◎	○							
	物理学Ⅱ	選択	2	前	講義			◎	◎	○							
	現代物理学入門	選択	2	後	講義	◎		◎									
情報工学	コンピュータ工学	必修	1	前	講義				◎	◎			○				
	オペレーティングシステム	必修	1	後	講義				◎	◎			○				
	情報セキュリティⅠ	選択	2	後	講義・演習	◎	◎		◎								
	情報セキュリティⅡ	選択	3	後	講義・演習	◎	◎		◎								
	情報理論	必修	2	前	講義	◎	◎	◎	◎	○							
	デジタル信号処理Ⅰ	選択	3	前	講義				◎	◎	◎						
	デジタル信号処理Ⅱ	選択	3	後	講義				◎	◎	◎						
	データ構造とアルゴリズム	選択	2	前	講義				◎	◎							
	情報メディアとテキスト処理	選択	2	後	講義				◎	◎							
	データベースの基礎	選択	3	前	講義				◎	◎							
	Webとデータベース	選択	3	後	講義				◎	◎							
	プログラミング基礎演習Ⅰ	必修	1	前	講義・演習				◎	◎							
	プログラミング基礎演習Ⅱ	必修	1	後	講義・演習				◎	◎							
	オブジェクト指向プログラミングⅠ	選択	2	前	講義・演習				◎	◎							
	オブジェクト指向プログラミングⅡ	選択	2	後	講義・演習				◎	◎							
オブジェクト指向プログラミングⅢ	選択	3	前	講義・演習				◎	◎								
スクリプト言語プログラミングⅠ	選択	3	前	講義・演習				◎	◎								
スクリプト言語プログラミングⅡ	選択	3	後	講義・演習				◎	◎								
情報ネットワーク工学	情報ネットワークⅠ	必修	1	前	講義	◎	◎		◎	◎							
	情報ネットワークⅡ	必修	1	後	講義				◎	◎							
	情報ネットワークⅢ	選択	2	前	講義				◎	◎							
	ネットワークシステム・演習Ⅰ	必修	2	前	講義・演習				◎	◎							
	ネットワークシステム・演習Ⅱ	選択	2	後	講義・演習				◎	◎							
	ネットワークシミュレーション	選択	3	前	講義				◎	◎			○				
	ネットワークプログラミング	選択	3	後	講義・演習	◎			◎	◎			○				
	通信基礎	電気基礎学	必修	1	前	講義・演習			◎	◎	◎						
		電気回路Ⅰ	必修	1	後	講義・演習				◎	◎						
		電気回路Ⅱ	選択	2	前	講義・演習				◎	◎						
		デジタル回路Ⅰ	選択	2	後	講義				◎	◎						
		デジタル回路Ⅱ	選択	3	前	講義				◎	◎						
		光と物質	選択	3	後	講義	◎		◎	◎	◎						
		電子回路Ⅰ	必修	1	後	講義・演習				◎	◎						
		電子回路Ⅱ	選択	2	前	講義・演習				◎	◎						
計測工学Ⅰ		選択	2	後	講義	◎	◎		◎	◎			○				
計測工学Ⅱ		選択	3	前	講義	◎	◎		◎	◎			○				
電磁気学・演習Ⅰ		選択	1	後	講義・演習				◎	◎	◎						
電磁気学・演習Ⅱ		選択	2	前	講義・演習				◎	◎	◎						
電磁波伝搬		選択	2	後	講義				◎	◎	◎						
アンテナ工学		選択	3	前	講義				◎	◎	◎						
電磁波応用技術		選択	3	後	講義				◎	◎							
モバイルコミュニケーション工学	選択	4	前	講義・演習	◎	◎		◎	◎			○					
情報伝送工学	情報通信工学Ⅰ	必修	2	前	講義				◎	◎	◎			○			
	情報通信工学Ⅱ	選択	2	後	講義				◎	◎	◎			○			
	情報伝送工学	選択	3	前	講義				◎	◎							
	情報交換システム	選択	3	後	講義	◎	◎		◎	◎			○				
	光通信システム	選択	4	前	講義				◎	◎			○				
実験・研究	コンピュータソフトウェア実験	必修	1	前	実験・演習				◎	◎	◎						
	計測・回路実験	必修	1	後	実験				◎	◎	◎						
	情報工学基礎実験	必修	2	通年	実験				◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	
	情報工学応用実験	必修	3	通年	実験				◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	
	卒業研究	必修	4	通年	研究				◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	
共通科目	技術者倫理	必修	2	前	講義	◎	◎					◎					
	通信法規	選択	3	前	講義	◎	◎		◎			◎					
	技術英語	選択	4	前	講義	◎	◎					◎					

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次	後期					Academic English D Conversation D			
	前期					Academic English C Conversation C			
3年次	後期					Academic English B Conversation B 中国語II 韓国語II			
	前期					Academic English A Conversation A 中国語I 韓国語I	インターンシップII		
2年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップI
1年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語II (留学生科目) 日本事情II (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学	知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語I (留学生科目) 日本事情I (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(情報通信工学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次	後期		応用幾何学 代数学と符号化	モバイルコミュニケーション工学 光通信システム	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
	前期		代数学と符号 光と物質	情報セキュリティII Webとデータベース スクリプトプログラミングII ネットワークプログラミング 電磁波応用技術 情報交換システム	卒業研究	卒業研究 技術英語	卒業研究	卒業研究	卒業研究
3年次	後期	情報セキュリティII 光と物質		情報セキュリティII デジタル信号処理II データベースの基礎 オブジェクト指向プログラミングII スクリプトプログラミングI ネットワークシミュレーション デジタル回路II アンテナ工学 情報伝送工学 通信法規	デジタル信号処理II スクリプトプログラミングI 光と物質 電磁波応用技術	情報工学応用実験	情報工学応用実験	情報工学応用実験	情報工学応用実験
	前期		複素関数論	幾何学とマルチメディア デジタル信号処理I データベースの基礎 オブジェクト指向プログラミングII スクリプトプログラミングI ネットワークシミュレーション デジタル回路II アンテナ工学 情報伝送工学 通信法規	デジタル信号処理I オブジェクト指向プログラミングII デジタル回路II アンテナ工学 情報伝送工学 通信法規	情報工学応用実験 通信法規	情報工学応用実験	情報工学応用実験	情報工学応用実験
2年次	後期	現代物理学入門 情報セキュリティI	微分方程式とベクトル解析 現代物理学	情報セキュリティI 情報メディアとテキスト処理 オブジェクト指向プログラミングII ネットワークシステム・演習II デジタル回路I 計測工学I 電磁波伝搬 情報通信工学II	オブジェクト指向プログラミングI 電磁波伝搬	情報工学基礎実験	情報工学基礎実験	情報工学基礎実験	情報工学基礎実験
	前期	情報理論 技術者倫理	微分積分・演習II 物理学II	情報理論 データ構造とアルゴリズム オブジェクト指向プログラミングI 情報ネットワークIII ネットワークシステム・演習I 電気回路II 電子回路II 情報通信工学I	オブジェクト指向プログラミングI 情報ネットワークIII 電気回路II 電子回路II 電磁気学・演習II	情報工学基礎実験 技術者倫理	情報工学基礎実験	情報工学基礎実験	情報工学基礎実験
1年次	後期		微分積分・演習I 線形代数・演習II 物理学I	オペレーティングシステム プログラミング基礎演習II 情報ネットワークII 電気回路I 電子回路I 電磁気学・演習I	電気回路I 電磁気学・演習I	計測・回路実験			
	前期	情報通信基礎数学 基礎物理学	情報通信基礎数学 線形代数・演習I 基礎物理学	コンピュータ工学 プログラミング基礎演習I 情報ネットワークI 電磁気学	コンピュータソフトウェア実験				

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPIに対する関与の程度◎のみ記載

※ 二重下線は必修科目

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2 → 3 年次	64 単位以上
3 → 4 年次	104 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。
卒業単位	124 単位以上

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

※コース毎の卒業要件は、II. コースにて確認のこと。

II. コース

情報通信工学科では、専門的知識を体系的に修得して実践的な情報通信工学分野の技術者を育成するために、「無線通信技術者教育プログラム」、「電気通信技術者教育プログラム」、「ネットワークエンジニア教育プログラム」、「ネットワークスペシャリスト教育プログラム」、「システムエンジニア教育プログラム」、「情報通信基盤技術者教育プログラム」、「Web プログラマ教育プログラム」という7つの技術者教育プログラムを設けています。情報通信工学科の学生は、§ 2-5の卒業要件で示されている要件に加えて、技術者教育プログラムで定められたプログラム必修科目を履修し、1つ以上の技術者教育プログラムを修了しなければなりません。各技術者教育プログラムのプログラム必修科目は次のとおりです。

	無線通信技術者教育プログラム	電気通信技術者教育プログラム	ネットワークエンジニア教育プログラム	ネットワークスペシャリスト教育プログラム	システムエンジニア教育プログラム	情報通信基盤技術者教育プログラム	Webプログラマ教育プログラム
電磁気学・演習 I	◎	◎					
電磁気学・演習 II	◎	◎					
電磁波伝搬	◎	◎					
アンテナ工学	◎	◎					
情報通信工学 II	◎	◎				◎	
通信法規	◎	◎					
情報伝送工学	◎	◎					
電磁波応用技術	◎	◎					
計測工学 I	◎	◎					
計測工学 II	◎	◎					
微分積分・演習 I		◎					
微分積分・演習 II		◎					
線形代数・演習 II		◎					
電子回路 II		◎					△
デジタル回路 I		◎				◎	
デジタル回路 II		◎				◎	
情報交換システム		◎				◎	
微分方程式とベクトル解析		△					
複素関数論		△					
幾何学とマルチメディア		△					
代数学と暗号		△					
応用幾何学		△					
代数学と符号化		△					
物理学 I		□					
物理学 II		□					
現代物理学入門		□					
光と物質		□					
情報ネットワーク III			◎	◎			
ネットワークシステム・演習 II			◎	◎	□		◎
情報セキュリティ I			◎	◎	◎	◎	◎
情報セキュリティ II			◎	◎	◎	◎	◎
オブジェクト指向プログラミング I			◎	◎	◎		
ネットワークシミュレーション			◇	◎			
ネットワークプログラミング			◇	◎	□		
データ構造とアルゴリズム			◇	◎	◎		
スクリプト言語プログラミング I			◇	□			◎
スクリプト言語プログラミング II			◇	□			◎
情報メディアとテキスト処理				□			◎
データベースの基礎				□	□		◎
Web とデータベース				□			◎
オブジェクト指向プログラミング II					◎		
オブジェクト指向プログラミング III					◎		
デジタル信号処理 I					□	◎	
デジタル信号処理 II					□	◎	
電気回路 II							△
モバイルコミュニケーション工学							△
光通信システム							△

◎：単位取得が必要な科目
 △：この印がついている科目の中から2科目以上の単位取得が必要
 □：この印がついている科目の中から3科目以上の単位取得が必要
 ◇：この印がついている科目の中から4科目以上の単位取得が必要

→ § 8-4. 技術者教育プログラム要領 P.224

Ⅲ. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 2-2. 習熟度別クラス P.22

Ⅳ. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

・教諭免許：

高等学校教諭一種免許状（数学、情報）

中学校教諭一種免許状（数学）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

・無線従事者：第一級陸上特殊無線技士

下記の科目について全ての単位を取得し、3か月以内に申請すれば資格を取得できる。情報通信工学科では、認定に必要な科目を3年次後期で修了するので、4年次の6月までに申請し在学中に資格を取得できる。

また、第二級海上特殊無線技士及び第三級海上特殊無線技士の資格取得に必要な科目は、第一級陸上特殊無線技士に必要な科目に全て含まれており、同時にこの資格を取得することができる。

[認定基準表]

省令に規定する科目名	情報通信工学科カリキュラム (計10科目)	
	情報通信工学科の科目	授業時間
無線機器学 その他無線機器に関する科目	情報通信工学Ⅰ	30
	情報通信工学Ⅱ	30
	情報伝送工学	30
	電磁波応用技術	30
	電子回路Ⅰ	30
電磁波工学 その他空中線および電波伝搬に関する科目	電磁波伝搬	30
	アンテナ工学	30
電子計測 その他無線測定に関する科目	計測工学Ⅰ	30
	計測工学Ⅱ	30
電波法規 その他電波法令に関する科目	通信法規	30

・無線従事者：第二級海上特殊無線技士

下記の科目について全ての単位を取得し、3か月以内に申請すれば資格を取得できる。

[認定基準表]

省令に規定する科目名	情報通信工学科カリキュラム (計8科目)	
	情報通信工学科の科目	授業時間
無線機器学 その他無線機器に関する科目	情報通信工学Ⅰ	30
	情報通信工学Ⅱ	30
	電磁波応用技術	30
	電子回路Ⅰ	30
電磁波工学 その他空中線および電波伝搬に関する科目	電磁波伝搬	30
	アンテナ工学	30
電子計測 その他無線測定に関する科目	計測工学Ⅰ	30
電波法規 その他電波法令に関する科目	通信法規	30

・無線従事者：第三級海上特殊無線技士

下記の科目について全ての単位を取得し、3か月以内に申請すれば資格を取得できる。

[認定基準表]

省令に規定する科目名	情報通信工学科カリキュラム (計6科目)	
	情報通信工学科の科目	授業時間
無線機器学 その他無線機器に関する科目	情報通信工学Ⅰ	30
	情報通信工学Ⅱ	30
	電子回路Ⅰ	30
電磁波工学 その他空中線および電波伝搬に関する科目	電磁波伝搬	30
	アンテナ工学	30
電波法規 その他電波法令に関する科目	通信法規	30

・無線従事者：第一級陸上無線技術士

下記の認定基準表に定められた時間数以上の科目の単位を取得すれば、卒業後に試験科目「無線工学の基礎」が3年間免除される。

[認定基準表]

認定基準に規定する科目及び時間		情報通信工学科の科目	時間	単位	備考
基礎専門教育科目	時間数				
数 学	210	情報通信基礎数学	30	(2)	左の科目のうちから210時間以上履修し、単位取得すること
		微分積分・演習Ⅰ	30	(2)	
		微分積分・演習Ⅱ	30	(2)	
		線形代数・演習Ⅰ	30	(2)	
		線形代数・演習Ⅱ	30	(2)	
		微分方程式とベクトル解析	30	(2)	
		複素関数論	30	(2)	
		幾何学とマルチメディア	30	(2)	
		代数学と暗号	30	(2)	
		応用幾何学	30	(2)	
		代数学と符号化	30	(2)	
	計11科目	330	(22)		
物 理	105	基礎物理学	30	(2)	左の科目のうちから105時間以上履修し、単位取得すること
		物理学Ⅰ	30	(2)	
		物理学Ⅱ	30	(2)	
		現代物理学入門	30	(2)	
		光と物質	30	(2)	
	計5科目	150	(10)		
電 気 磁気学	120	電磁気学・演習Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから120時間以上履修し、単位取得すること
		電磁気学・演習Ⅱ	30	(2)	
		電磁波伝搬	30	(2)	
		アンテナ工学	30	(2)	
		情報伝送工学	30	(2)	
		電磁波応用技術	30	(2)	
	計6科目	180	(12)		
半導体及び電子管並びに電子回路の基礎	90	電子回路Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから90時間以上履修し、単位取得すること
		電子回路Ⅱ	30	(2)	
		デジタル回路Ⅰ	30	(2)	
		デジタル回路Ⅱ	30	(2)	
			計4科目	120	
電気回路	120	電気基礎学	30	(2)	左の科目のうちから120時間以上履修し、単位取得すること
		電気回路Ⅰ	30	(2)	
		電気回路Ⅱ	30	(2)	
		情報通信工学Ⅰ	30	(2)	
		情報通信工学Ⅱ	30	(2)	
	計5科目	150	(10)		
電気磁気測定	180	計測工学Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから180時間以上履修すること
		計測工学Ⅱ	30	(2)	
		情報工学基礎実験	60	(4)	
		情報工学応用実験	60	(4)	
	計4科目	180	(12)		
合 計	825	合計 35 科目	1110	(74)	

・電気通信主任技術者

下記の科目について全ての単位を取得すれば、在学中から試験科目「電気通信システム」が免除される。

[認定基準表]

認定基準	情報通信工学科カリキュラム (計38単位)	
科 目	情報通信工学科の科目	単位数
数 学	線形代数・演習Ⅰ	2
	線形代数・演習Ⅱ	2
	微分積分・演習Ⅰ	2
	微分積分・演習Ⅱ	2
物理学	物理学Ⅰ	2
	物理学Ⅱ	2
電磁気学	電磁気学・演習Ⅰ	2
	電磁気学・演習Ⅱ	2
電気回路	電気基礎学	2
	電気回路Ⅰ	2
電子回路	電子回路Ⅰ	2
	電子回路Ⅱ	2
デジタル回路	デジタル回路Ⅰ	2
情報工学	情報理論	2
電気計測	計測工学Ⅰ	2
	計測工学Ⅱ	2
伝送線路工学	情報伝送工学	2
交換工学	情報交換システム	2
電気通信システム	情報通信工学Ⅰ	2

- ・工事担任者（ネットワーク接続技術者）

下記の科目について全ての単位を取得すれば、在学中から試験科目「電気通信技術の基礎」が免除される。

[認定基準表]

認定基準	情報通信工学科カリキュラム (計36単位)	
科目	情報通信工学科の科目	単位数
電気回路	電気基礎学	2
	電気回路Ⅰ	2
	電気回路Ⅱ	2
電子回路	電子回路Ⅰ	2
	電子回路Ⅱ	2
	計測工学Ⅰ	2
デジタル回路	デジタル回路Ⅰ	2
	デジタル回路Ⅱ	2
有線電気通信工学	情報伝送工学	2
	電磁波応用技術	2
データ通信工学	情報通信工学Ⅰ	2
	情報通信工学Ⅱ	2
数 学	線形代数・演習Ⅰ	2
	線形代数・演習Ⅱ	2
	微分積分・演習Ⅰ	2
	微分積分・演習Ⅱ	2
物 理	物理学Ⅰ	2
	物理学Ⅱ	2

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・無線従事者
- ・電気通信主任技術者
- ・工事担任者（ネットワーク接続技術者）

[情報工学部対象]

- ・基本情報技術者
- ・CCNA (Routing and Switching)
- ・LinuC (Linux Professional Institute Certification)

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

§ 4-3. 情報システム工学科 / Dept. of Information and Systems Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 地球的な視野と将来への展望を持ち多面的に物事を考える能力を身につけている。	1 自然のなりたちと社会の仕組みについて幅広い教養を身につけている。
B 技術者として社会や自然に対して負う責任と役割を理解している。	1 技術開発の歴史を踏まえて、社会や自然に対する責任と役割、技術者倫理を理解している。
C 数学と自然科学に関する知識とそれを応用する能力を身につけている。	1 数理法則の基礎概念と一般的法則を理解し、論理的思考能力を身につけている。 2 自然科学に関する基礎知識と応用力を身につけている。
D 情報システムに関する工学知識と技術の問題解決に応用する能力を身につけている。	1 情報システム技術者として必要な情報技術に関する基本的な知識を修得し、問題解決に応用する技術を身につけている。 2 ロボット工学、システム制御、組込みシステム、生体システムの知識を修得し、人間と機械が協調するシステムの基本的な仕組みを理解し、問題解決に応用する技術を身につけている。
E 社会や自然の課題について科学知識と技術を用いて目標を設定し解決する能力を身につけている。	1 社会や自然における課題を認識する能力を身につけている。 2 種々の学問と技術の総合応用能力を駆使し、課題を解決するための構想力と創造力を身につけている。 3 一つとは限らない解の中から、制約条件を考慮して最適解を見出す能力を身につけている。
F 論理的な記述能力、口頭発表能力、他人の意見を理解し意志疎通する能力および外国人異文化の相手と相互理解できる基礎能力を身につけている。	1 論理的かつ明晰な文章を記述し、読み手の知識を想定した分かりやすい資料を作成する能力を身につけている。 2 効果的な口頭発表と的確な討論を行うための基礎能力を身につけている。 3 他者との相互理解のための国際的なコミュニケーションの基礎能力を身につけている。
G 自分のキャリア形成を考え自主的に継続的に学習する能力を身につけている。	1 社会が求めている知識や技術に関する情報を的確に収集・分析し、自分のキャリア形成に活用する能力を身につけている。 2 自発的かつ継続的に学習する必要性を理解している。
H 現実の制約の中で創意工夫し、計画的に仕事を遂行する能力を身につけている。	1 与えられた制約条件の下で期限までに目標を達成する能力を身につけている。
I チームで仕事をすることを身につけている。	1 グループワークにおける自身および他者の役割を理解し、的確に行動する能力を身につけている。 2 与えられた課題に対して、チームの構成員と協調して問題を解決する能力を身につけている。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①情報技術
- ②ロボット制御
- ③生体システム

■カリキュラム編成の基本方針

人間とロボットが共存する暮らしを支える情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者を育成するために、本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムの実践的な知識と技術を修得する。そのために、専門科目の理解に必要な数学・物理・専門科目の基本的素養を2年次までの必修科目で身につける。そして、3年次以降は学生が志向する専門分野やキャリア形成に必要な科目を選択して履修し、卒業研究を通してこれらの応用力を身につける。

■年次別科目の配当方針

1年次には、専門科目を理解する上で必要な数学的素養を身に付ける。また、情報技術者として必要な資質・素養としてチームコミュニケーションと問題解決のスキルを学ぶ他、機械システム・生体システムの概念、およびプログラミング技術の基本的素養を身につける。

2年次には、ロボット工学の基本的な考え方と生体情報の計測手法を学ぶ。また、情報技術の今日までの発展の経緯とこれからの社会作りに求められる情報技術者の役割と責任を認識する。さらに、実験でのグループワークを通して、講義で学び得た知識の活用方法を身につける。

3年次には、PBL（プロジェクトベース学修）科目にてチームで問題を解決する他、コミュニケーション能力を育成する。また、研究室に配属し、実験テーマやキャリア形成に必要な専門知識を身につける。

4年次の卒業研究では、問題解決に向けた研究手法を創意工夫し、課題発見能力、問題解決能力、論理的な記述能力、口頭発表能力、質疑応答力を養成する。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法や基準はシラバスにより学生に周知し、これらに則して厳正に評価する。

第2学年および第3学年の終了時にそれぞれ進級判定を行う。

4年修了時には卒業論文を提出し、卒業研究の発表内容について複数の教員で評価し、ディプロマ・ポリシーの各項目の習得と達成度を総合的に評価することにより卒業判定を行う。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次								
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
基礎科目	文化・社会	知と教養	2													
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2							
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2							
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2							
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2							
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2							
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2							
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2											
		自然	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2						
			物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2						
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2						
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2				
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2				
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2												
ウェルネス科目		ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2											

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注4] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学情報工学科履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学科〕 情報システム工学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目		線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ ②			幾何学とマルチメディア 2	代数学と暗号 2	応用幾何学 2	
		解析Ⅰ ②	解析Ⅱ ②	解析Ⅲ 2	微分方程式 2	複素関数論 2		代数学と符号化 2	
		物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ 2						
		数学演習 ②	情報物理実験 ②						

[注1] 「線形代数Ⅰ」、「解析Ⅰ」、「数学演習」、「物理学Ⅰ」、「線形代数Ⅱ」、「解析Ⅱ」及び「物理学Ⅱ」は習熟度別にクラス分けして行う。

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報基礎工 学		技術基礎数学 ②	電気工学基礎 ②	情報解析学 ②	確率統計 ②	テクニカルライティング ②	アカデミックプレゼンテーション ②		
			電子工学基礎 ②	論理回路 ②	情報技術史 2				
情報工学		CプログラミングⅠ ②	CプログラミングⅡ ②	データ構造とアルゴリズム 2	応用プログラミングⅠ 2	応用プログラミングⅡ 2	人工知能 2		
			計算機工学Ⅰ ②	計算機工学Ⅱ 2	情報ネットワークシステム 2	マルチメディアWeb技術 2	画像処理工学 2		
				先端技術展望 2			コンピュータグラフィックス 2		
システム工 学			ロボット設計 ②	生体情報計測学 ②	基礎ロボット工学 ②	知能ロボット工学 2	システム開発応用 2		
					センサ情報処理 2	生体システム論 2	デジタル制御工学 2		
					システム制御工学Ⅰ ②	システム制御工学Ⅱ 2	メカトロアクチュエータ 2		
						組込みシステム 2	ロボットシミュレーション 2		
共 通		情報リテラシー ②			情報技術資格Ⅰ 2	情報技術資格Ⅱ 2			
		フレッシュマンプログラム ②			情報システム工学概論 ②				
				情報システム工学実験Ⅰ ②	情報システム工学実験Ⅱ ②	情報システム工学実験Ⅲ ②	情報システム工学実験Ⅳ ②	卒業研究 ⑥	

[注2] 「情報技術資格Ⅰ」及び「情報技術資格Ⅱ」は、該当する資格を取得したのものについても、届け出により単位を認定する。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I		
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力		
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度										
基礎科目	文化・社会	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎	
		日本国憲法	選択			◎							
		市民生活と法	選択			◎							
		現代倫理	選択		◎	◎							
		コミュニケーションの心理学	選択			◎			○				
		日本文学	選択			◎							
		歴史学概論	選択	○		◎							
		九州学	選択			◎							
		地理学概論	選択	○		◎							
		社会学入門	選択			◎							
		経済学入門	選択			◎							
		異文化理解	選択	◎		○							
	地域創生入門	選択			○			◎			○	◎	
	日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択							◎				
	日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択							◎				
	自然	生命と生態系	選択			◎		○					
地球と環境		選択			◎		○						
物質と化学		選択			◎		○						
自然と科学		選択			◎		○						
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○	○	
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎		
	日本語表現法	選択						◎					
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎			
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○		
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○				
	Advanced English B	選択						◎	○				
	Advanced English C	選択						◎	○				
	Advanced English D	選択						◎	○				
	English A	選択						◎	○				
	English B	選択						◎	○				
	English C	選択						◎	○				
	English D	選択						◎	○				
	Academic English A	選択						◎	○				
	Academic English B	選択						◎	○				
	Academic English C	選択						◎	○				
	Academic English D	選択						◎	○				
	Conversation A	選択						◎	○				
	Conversation B	選択						◎	○				
	Conversation C	選択						◎	○				
	Conversation D	選択						◎	○				
	中国語Ⅰ	選択	○						◎	○			
	中国語Ⅱ	選択	○						◎	○			
韓国語Ⅰ	選択	○						◎	○				
韓国語Ⅱ	選択	○						◎	○				
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択							◎					
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択							◎					
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎		◎		
	ウェルネス応用	選択			◎				◎		○		
教職科目	《別途》												

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

■専門基礎及び専門教育科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

(情報システム工学科)

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP に対する関与の程度										
						A	B	C	D	E	F	G	H	I		
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	必修	1	前	講義			◎								
	線形代数Ⅱ	必修	1	後	講義			◎								
	数学演習	必修	1	前	講義			◎								
	解析Ⅰ	必修	1	前	講義			◎								
	解析Ⅱ	必修	1	後	講義			◎								
	解析Ⅲ	選択	2	前	講義			◎								
	微分方程式	選択	2	後	講義			◎								
	幾何学とマルチメディア	選択	3	前	講義			◎								
	代数学と暗号	選択	3	後	講義			◎								
	応用幾何学	選択	4	前	講義			◎								
	代数学と符号化	選択	4	前	講義			◎								
	物理学Ⅰ	必修	1	前	講義			◎								
	物理学Ⅱ	選択	1	後	講義			◎								
	情報物理実験	必修	1	後	講義			◎	◎					◎	◎	
複素関数論	選択	3	前	講義			◎									
情報基礎工学	技術基礎数学	必修	1	前	講義			◎	◎							
	情報技術史	選択	2	後	講義	◎	◎			◎						
	電気工学基礎	必修	1	後	講義				◎							
	論理回路	必修	2	前	講義				◎							
	電子工学基礎	必修	1	後	講義				◎							
	確率統計	必修	2	後	講義			◎								
	情報解析学	必修	2	前	講義			◎								
	情報技術者倫理	選択	2	前	講義	◎	◎			◎						
	テクニカルライティング	必修	3	前	講義						◎					
	アカデミックプレゼンテーション	必修	3	後	講義						◎					
	フューチャープランニング	必修	2	前	講義						◎	◎				
	CプログラミングⅠ	必修	1	前	講義				◎							
	CプログラミングⅡ	必修	1	後	講義				◎							
	データ構造とアルゴリズム	選択	2	前	講義				◎							
計算機工学Ⅰ	必修	1	後	講義				◎								
計算機工学Ⅱ	選択	2	前	講義				◎								
応用プログラミングⅠ	選択	2	後	講義				◎								
マルチメディア Web 技術	選択	3	前	講義				◎								
応用プログラミングⅡ	選択	3	前	講義				◎								
情報ネットワークシステム	選択	2	後	講義				◎								
コンピュータグラフィックス	選択	3	後	講義				◎								
画像処理工学	選択	3	後	講義				◎								
先端技術展望	選択	2	前	講義		◎						◎				
人工知能	選択	3	後	講義				◎								
システム工学	ロボット設計	必修	1	後	講義				◎							
	生体情報計測学	必修	2	前	講義				◎							
	センサ情報処理	選択	2	後	講義				◎							
	生体システム論	選択	3	前	講義				◎							
	機械システム論	選択	3	前	講義				◎							
	システム制御工学Ⅰ	必修	2	後	講義				◎							
	システム制御工学Ⅱ	選択	3	前	講義				◎							
	デジタル制御工学	選択	3	後	講義				◎							
	基礎ロボット工学	必修	2	後	講義				◎							
	知能ロボット工学	選択	3	前	講義				◎							
	メカトロアクチュエータ	選択	3	後	講義				◎							
	ロボットシミュレーション	選択	3	後	講義				◎							
	組込みシステム	選択	3	前	講義				◎							
	システム開発応用	選択	3	後	講義					◎				◎		
共通	情報リテラシー	必修	1	前	講義				◎							
	情報技術資格Ⅰ	選択	2	後	講義				◎							
	情報技術資格Ⅱ	選択	3	前	講義				◎							
	フレッシュマンプログラム	必修	1	前	講義	◎		◎			◎					
	情報システム工学実験Ⅰ	必修	2	前	実験				◎	◎			◎	◎		
	情報システム工学実験Ⅱ	必修	2	後	実験				◎	◎			◎	◎		
	情報システム工学概論	必修	2	後	講義	◎			◎	◎						
	情報システム工学実験Ⅲ	必修	3	前	実験				◎	◎			◎			
	情報システム工学実験Ⅳ	必修	3	後	実験				◎	◎			◎			
	卒業研究	必修	4	通年	研究				◎	◎	◎	◎	◎	◎		

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次						Academic English D Conversation D			
						Academic English C Conversation C			
3年次						Academic English B Conversation B 中国語II 韓国語II			
						Academic English A Conversation A 中国語I 韓国語I	インターンシップII		
2年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップI	
1年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語II (留学生科目) 日本事情II (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学		知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語I (留学生科目) 日本事情I (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(情報システム工学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4 年次	後期			卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	
	前期			卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	
3 年次	後期			情報システム工学実験Ⅳ	情報システム工学実験Ⅳ システム開発応用	アカデミックプレゼンテーション		情報システム工学実験Ⅳ	システム開発応用
	前期			情報システム工学実験Ⅲ 応用プログラミングⅡ 生体システム論 知能ロボット工学	情報システム工学実験Ⅲ	テクニカルライティング		情報システム工学実験Ⅲ	
2 年次	後期	情報技術史 情報システム工学概論	確率統計	情報システム工学概論 システム制御工学Ⅰ 情報システム工学実験Ⅱ 応用プログラミングⅠ 基礎ロボット工学	情報技術史 情報システム工学実験Ⅱ			情報システム工学実験Ⅱ	情報システム工学実験Ⅱ
	前期	情報技術者倫理	解桁Ⅲ 情報解析学	情報システム工学実験Ⅰ データ構造とアルゴリズム 論理回路 生体情報計測学	情報技術者倫理 情報システム工学実験Ⅰ		フューチャープランニング 先端技術展望	情報システム工学実験Ⅰ	情報システム工学実験Ⅰ
1 年次	後期		情報物理実験 物理学Ⅱ 解桁Ⅱ 線形代数Ⅱ	情報物理実験 電気工学基礎 電子工学基礎 CプログラミングⅡ 計算機工学Ⅰ ロボット設計					
	前期		線形代数Ⅰ 数学演習 物理学Ⅰ 解桁Ⅰ	フレッシュマンプログラム 技術基礎数学 CプログラミングⅠ 情報リテラシー		フレッシュマンプログラム			

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPIに対する関与の程度○のみ記載

※ 三重下線は必修科目

5 4-1	情報工学科
5 4-2	情報通信工学科
5 4-3	工学科 情報システム
5 4-4	システム マネジメント学科

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2→3年次	64 単位以上
3→4年次	104 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。
卒業単位	124 単位以上

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

II. 習熟度別クラス分け

■数学・物理

入学直後に行われる「大学生のためのプレイスメントテスト（数学）」の結果に応じて、「解析Ⅰ」、「線形代数Ⅰ」、「数学演習」、「物理学Ⅰ」、「線形代数Ⅱ」、「解析Ⅱ」及び「物理学Ⅱ」は習熟度別にクラス編成を行います。7科目とも同じクラスで受講することとしますが、再履修する場合は各自で受講するクラスを選択してよいことにします。

■英語

→ § 2-2. 習熟度別クラス P.22

III. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

- ・教諭免許：
高等学校教諭一種免許状（数学、情報）
中学校教諭一種免許状（数学）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・MOS（Microsoft Office Specialist） / Word・Excel…「情報リテラシー」
- ・ITパスポート…「情報技術資格Ⅰ」（認定科目）
- ・基本情報技術者…「情報技術資格Ⅱ」（認定科目）

[認定科目の単位認定方法]：

「情報技術資格Ⅰ」及び「情報技術資格Ⅱ」は、授業における成績評価に加え、該当する国家資格を取得したものについても、科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。ただし、当該科目の単位を取得済みの場合は認定を行わない。なお、これらはGPA算定対象の除外科目である。

→ § 2-4. 単位認定 P.27

■資格取得支援講座（課外）がある資格 [情報工学部対象]

- ・基本情報技術者
- ・CCNA(Cisco Certified Network Associate)
- ・LinuC (Linux Professional Institute Certification)

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

§ 4-1	情報工学科
§ 4-2	情報通信工学科
§ 4-3	情報システム工学科
§ 4-4	システムマネジメント学科

§ 4-4. システムマネジメント学科 / Dept. of System Management

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	1 経営工学に関する諸問題に対して、高度情報化とグローバル化に対応できる総合的な分析能力、問題発見能力および解決能力を身につけている。
B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に対する理解	1 経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解している。 2 利己的に走るのではなく、社会の公器としての働きを学習し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得している。
C 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	1 高度情報化社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理できる数学および自然科学に関する知識を修得している。 2 社会現象の中で、統計的データから物事の因果関係を類推し、知識として理解し、社会活動に応用する能力を修得している。
D 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	1 統計学や最適化に関するさまざまなアルゴリズムを使って、複雑な経営システムに関する問題発見および分析を行える専門的知識を修得している。 2 情報技術を使って経営に関する意思決定問題を解決し、その根拠を他人に説明することができる能力を修得している。
E 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	1 社会の要求を解決するために情報技術および経営情報学に関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得している。
F 論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力	1 自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得している。 2 英語による専門知識の習得およびそれに付随する最新の情報の獲得と基礎的なコミュニケーション能力を修得している。
G 能動的、継続的に学習し、自主的に問題解決に取り組む能力	1 情報技術および経営手法について、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決する能力を習得している。
H 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	1 取り組む仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質や時間等を考慮して総合的に解決をはかることができるマネジメント能力を習得している。
I チームワークを重視して、共同作業に従事する能力	1 他者と協調および共同して作業できる能力をもつ。 2 他者に作業の方向性を示すことができ、目標の実現のために動員できる能力をもつ。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①経営システム
- ②生産システム
- ③情報メディアシステム

■カリキュラム編成の基本方針

現代のマネジメントは、インターネットをはじめとしたネットワーク上などの、身の回りに存在する種々様々で膨大な情報を自由自在に扱い、企業などの経営戦略への確に活用することが求められる。本学科では、経営学・マネジメント分野における課題発見、探求力、実行力の素養を持った技術者を育成するため、情報工学に基づく意思決定手法に関する学際的教育を行う。

■年次別科目の配当方針

1年次には、専門科目を理解する上で必要な数学的素養を身に付ける。さらに、経営管理、生産管理、情報メディアに関する基礎知識とコンピュータリテラシーを修得する。また、グループでの討論、協働に必要なコミュニケーション能力、自分の考えの発信をするために必要なプレゼンテーション能力を養成する。

2年次には、経営管理、生産管理に関する専門知識を学ぶとともに、コンピュータのソフトウェアの知識と情報処理、情報メディアに関する技術を修得する。

3年次には、経営、生産、情報メディアの3つの修学領域の統合的な応用法・活用法を習得するため、情報処理の応用技術を学び、経営、生産に関するデータの解析やシミュレーションを実践する。さらに、研究室に配属し、卒業研究の遂行に必要な専門知識を得る。

4年次の卒業研究では、これまでに培った課題発見、探求力、実行力などの素養を発揮し、問題発見から問題解決に至るまでの意思決定手法を実践する。

■学修成果の評価の在り方

シラバスにより各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法や基準を周知し、それに則した成績評価を行う。2年次および3年次終了時に進級判定を行い、4年次終了時には卒業研究論文および卒業研究発表をディプロマ・ポリシーの各項目の修得と達成度合いに基づき総合的に評価し卒業判定を行う。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次													
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
基礎科目	文化・社会	知と教養	2																		
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2												
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2												
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2												
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2												
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2												
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2												
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2																
		自然	生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2											
			物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2											
キャリア科目	キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2											
外国語科目	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2					
	English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2					
									中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2									
									韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2									
	日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2																	
ウェルネス科目		ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2																

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

[注4] 協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、「卒業研究」を履修することができない。

福岡工業大学情報工学科履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕 システムマネジメント学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目		線形代数Ⅰ 2	線形代数Ⅱ 2	解析Ⅱ 2		幾何学とマルチメディア 2	微分方程式 2	応用幾何学 2	
		基礎数学 2	確率統計Ⅰ ②			複素関数論 2	代数学と暗号 2	代数学と符号化 2	
		物理学Ⅰ 2	物理学Ⅱ 2						
			解析Ⅰ 2						

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
システムマネジメント基礎					情報数理入門 2				
		情報リテラシー ②	プログラミング基礎 2	情報数学Ⅰ ②	情報数学Ⅱ 2				
			オペレーションズリサーチⅠ ②	情報処理Ⅰ ②	情報処理Ⅱ ②				
		システムマネジメント基礎 ②		確率統計Ⅱ ②				システムマネジメント応用 2	
経営システム		経営システム論 ②		経営管理論 ②	経営計算論 2	マーケティング論 2	経営シミュレーション ②		
						e-ビジネス論 2	ベンチャービジネス論 2		
			オペレーションズリサーチⅡ ②	オペレーションズリサーチⅢ ②		データ解析 ②			
						情報システム論 2			
生産システム			インダストリアルエンジニアリング ②		生産管理論 ②	オペレーションマネジメント ②		スポーツマネジメント 2	スポーツマーケティング 2
				情報技術史 2	品質管理論 2		人間工学 2		
						生産システム実習 2			
情報メディアシステム					メディア科学Ⅰ ②	メディア科学Ⅱ ②	マルチメディア情報処理 2		
		コンピュータグラフィックス入門 2	DTP入門 2	コンピュータ基礎学 2	ウェブデザイン 2	情報処理Ⅲ 2			
						データベース 2	インタラクティブコンテンツ 2		
関連科目						知的所有権と法 2			
			ITパスポート資格 2				基本情報技術者資格 2		
卒研ゼミ				システムマネジメントゼミナールⅠ ④		システムマネジメントゼミナールⅡ ④		卒業研究 ⑥	

[注1] 「ITパスポート資格」及び「基本情報技術者資格」は、履修後に該当する国家資格に在籍中に合格したのものについて、届け出により単位を認定する。ただし、履修前に当該資格を既に取得しているものについては、届け出のみで単位を認定する。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I		
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学(人文社会科学)に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力		
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度										
基礎科目	文化・社会	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎	
		日本国憲法	選択			◎							
		市民生活と法	選択			◎							
		現代倫理	選択		◎	◎							
		コミュニケーションの心理学	選択			◎			○				
		日本文学	選択			◎							
		歴史学概論	選択	○		◎							
		九州学	選択			◎							
		地理学概論	選択	○		◎							
		社会学入門	選択			◎							
		経済学入門	選択			◎							
		異文化理解	選択	◎		○							
		地域創生入門	選択			○			◎			○	◎
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	選択							◎			
		日本事情Ⅱ(留学生科目)	選択							◎			
基礎科目	自然	生命と生態系	選択			◎		○					
		地球と環境	選択			◎		○					
		物質と化学	選択			◎		○					
		自然と科学	選択			◎		○					
キャリア科目	キャリア形成	必修						○	◎	○	○		
	コミュニケーション基礎	必修						◎		○	◎		
	日本語表現法	選択						◎					
	インターンシップⅠ	選択						○	○	◎			
	インターンシップⅡ	選択						○	○	◎	○		
外国語科目	Advanced English A	選択						◎	○				
	Advanced English B	選択						◎	○				
	Advanced English C	選択						◎	○				
	Advanced English D	選択						◎	○				
	English A	選択						◎	○				
	English B	選択						◎	○				
	English C	選択						◎	○				
	English D	選択						◎	○				
	Academic English A	選択						◎	○				
	Academic English B	選択						◎	○				
	Academic English C	選択						◎	○				
	Academic English D	選択						◎	○				
	Conversation A	選択							◎	○			
	Conversation B	選択							◎	○			
	Conversation C	選択							◎	○			
	Conversation D	選択							◎	○			
	中国語Ⅰ	選択	○						◎	○			
	中国語Ⅱ	選択	○						◎	○			
韓国語Ⅰ	選択	○						◎	○				
韓国語Ⅱ	選択	○						◎	○				
日本語Ⅰ(留学生科目)	選択							◎					
日本語Ⅱ(留学生科目)	選択							◎					
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○				◎		◎		
	ウェルネス応用	選択			◎				◎		○		
教職科目	《別途》												

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す(必修、選択科目の別を表すものではない)

■専門基礎及び専門教育科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

(システムマネジメント学科)

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP に対する関与の程度										
						A	B	C	D	E	F	G	H	I		
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	選択	1	前	講義			○		○						
	線形代数Ⅱ	選択	1	後	講義			○		○						
	解析Ⅰ	選択	1	後	講義			○		○						
	解析Ⅱ	選択	2	前	講義			○		○						
	微分方程式	選択	3	後	講義			○		○						
	複素関数論	選択	3	前	講義			○		○						
	幾何学とマルチメディア	選択	3	前	講義			○		○						
	代数学と暗号	選択	3	後	講義			○		○						
	代数学と符号化	選択	4	前	講義			○		○						
	応用幾何学	選択	4	前	講義			○		○						
	基礎数学	選択	1	前	講義			○		○						
	確率統計Ⅰ	必修	1	後	講義			○		○						
	物理学Ⅰ	選択	1	前	講義			○								
	物理学Ⅱ	選択	1	後	講義			○								
システムマネジメント基礎	システムマネジメント基礎	必修	1	前	演習	○	○				○	○				
	情報リテラシー	必修	1	前	演習	○	○		○							
	プログラミング基礎	選択	1	後	演習	○			○							
	情報数理入門	選択	2	後	講義			○		○						
	情報数学Ⅰ	必修	2	前	講義			○								
	情報数学Ⅱ	選択	2	後	講義	○		○	○	○						
	確率統計Ⅱ	必修	2	前	講義			○	○	○						
	情報処理Ⅰ	必修	2	前	演習	○			○	○						
	情報処理Ⅱ	必修	2	後	演習	○			○	○						
	オペレーションズリサーチⅠ	必修	1	後	講義	○		○		○						
	システムマネジメント実験	必修	2	通年	実験	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	システムマネジメント応用	選択	3	後	講義	○	○	○	○		○				○	
	経営システム	経営システム論	必修	1	前	講義	○	○	○	○						
		経営管理論	必修	2	前	講義	○	○	○	○						
経営計算論		選択	2	後	講義	○	○	○	○							
オペレーションズリサーチⅡ		必修	2	前	講義	○		○	○	○						
オペレーションズリサーチⅢ		必修	2	後	講義	○		○	○	○						
マーケティング論		選択	3	前	講義		○		○	○						
e-ビジネス論		選択	3	前	講義		○		○	○						
データ解析		必修	3	前	演習		○		○	○						
情報システム論		選択	3	前	講義	○	○	○	○							
経営シミュレーション		必修	3	後	演習		○		○	○						
ベンチャービジネス論		選択	3	後	講義		○		○	○						
インダストリアルエンジニアリング		必修	1	後	講義		○		○							
情報技術史		選択	2	前	講義	○	○									
生産システム		生産管理論	必修	2	後	講義	○	○		○						
	品質管理論	選択	2	後	講義		○		○	○						
	生産システム実習	選択	3	前	演習				○	○	○	○	○			
	オペレーションマネジメント	必修	3	前	講義	○	○		○							
	人間工学	選択	3	後	講義		○		○							
	スポーツマネジメント	選択	4	前	講義	○		○						○		
	スポーツマーケティング	選択	4	後	講義	○		○						○		
	コンピュータ基礎学	選択	2	前	講義	○		○								
情報メディアシステム	メディア科学Ⅰ	必修	2	後	講義	○	○	○	○							
	メディア科学Ⅱ	必修	3	前	講義	○	○	○	○							
	ウェブデザイン	選択	2	後	講義				○	○						
	DTP入門	選択	1	後	演習		○		○							
	コンピュータグラフィックス入門	選択	1	前	演習		○		○							
	マルチメディア情報処理	選択	3	後	講義	○	○		○	○						
	情報処理Ⅲ	選択	3	前	演習	○			○	○						
	データベース	選択	3	前	講義	○		○	○	○						
	インタラクティブコンテンツ	選択	3	後	講義				○	○						
	知的所有権と法	選択	3	前	講義		○	○	○							
関連科目	ITパスポート資格	選択	1	通年	演習			○	○							
	基本情報技術者資格	選択	3	通年	演習			○	○							
	卒研ゼミ	システムマネジメントゼミナールⅠ	必修	2	通年	演習	○		○			○	○	○		
システムマネジメントゼミナールⅡ		必修	3	通年	演習	○	○	○	○	○	○		○	○		
卒業研究		必修	4	通年	研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次						Academic English D Conversation D			
						Academic English C Conversation C			
3年次						Academic English B Conversation B 中国語Ⅱ 韓国語Ⅱ			
						Academic English A Conversation A 中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ	インターンシップⅡ		
2年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップⅠ	
1年次			コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語Ⅱ (留学生科目) 日本事情Ⅱ (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学		知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語Ⅰ (留学生科目) 日本事情Ⅰ (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(システムマネジメント学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4年次	後期	卒業研究	スポーツマーケティング 卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
	前期	卒業研究	代数学と符号化 応用幾何学 スポーツマネジメント 卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	スポーツマネジメント 卒業研究
3年次	後期	<u>システムマネジメントゼミナールI</u>	微分方程式 代数学と暗号	マルチメディア情報処理 ベンチャービジネス論 経営シミュレーション 人間工学 インタラクティブコンテンツ 基本情報技術者資格	ベンチャービジネス論 経営シミュレーション	システムマネジメント応用 システムマネジメントゼミナールII		システムマネジメントゼミナールII	
	前期	<u>システムマネジメントゼミナールI</u>	幾何学とマルチメディア 複素関数論	メディア科学II 情報処理III 生産システム実習 情報システム論 e-ビジネス論 データ解析 マーケティング論 データベース 基本情報技術者資格	e-ビジネス論 データ解析 マーケティング論	システムマネジメントゼミナールII		システムマネジメントゼミナールII	
2年次	後期	生産管理論 品質管理論	情報処理入門 情報数学II 経営計算論	メディア科学I 情報処理II ウエアデザイン	オペレーションリサーチIII	システムマネジメントゼミナールI	システムマネジメントゼミナールI	システムマネジメント実験	
	前期	情報技術史	確率統計II 解析II 情報数学I コンピュータ基礎学	情報処理I 経営管理論	オペレーションリサーチII 確率統計II	システムマネジメントゼミナールI	システムマネジメントゼミナールI	システムマネジメント実験	
1年次	後期		線形代数II 確率統計I 物理学II 解析I	プログラミング基礎 インフラエンジニアリング DTP入門 ITパスポート資格	オペレーションリサーチI 確率統計I				
	前期	情報リテラシー 経営システム論	線形代数I 基礎数学 物理学I	情報リテラシー コンピュータリテラシー入門 ITパスポート資格					

※ 専門基礎及び専門教育科目のうち、DPIに対する関与の程度©のみ記載

※ 二重下線は必修科目

5-4-1	情報工学科
5-4-2	情報通信工学科
5-4-3	情報システム工学科
5-4-4	システムマネジメント学科

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2→3年次	64単位以上
3→4年次	104単位以上。専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含む。
卒業単位	124単位以上

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

II. コース

コース分けなし

III. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 2-2. 習熟度別クラス P.22

IV. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

- ・教諭免許：
高等学校教諭一種免許状（数学、情報）
中学校教諭一種免許状（数学）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ITパスポート…「ITパスポート資格」(認定科目)
- ・基本情報技術者…「基本情報技術者資格」(認定科目)
- ・CGクリエイター検定…「コンピュータグラフィックス入門」
- ・CGエンジニア検定…「コンピュータグラフィックス入門」

- ・DTPエキスパート…「DTP入門」「ウェブデザイン」

[認定科目の単位認定方法]：

履修後に該当する国家資格を取得したものである場合は、当該科目の開講学期の学期末試験期間までに科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。また、履修前に取得しているものについては、当該科目の開講学期の履修登録期間までに科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。

なお、単位認定は当該科目の開講年次以降に行う。

→ § 2-4. 単位認定 P.27

■資格取得支援講座（課外）がある資格 [情報工学部対象]

- ・基本情報技術者
- ・CCNA (Cisco Certified Network Associate)
- ・LinuC (Linux Professional Institute Certification)

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

§ 5

社会環境学部

Faculty of Socio-Environmental Studies

§ 5-1	社会環境学科	136
-------	--------	-----

Dept. of Socio-Environmental Studies

- ❶ ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)
- ❷ カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)
- ❸ 年次別授業科目表
- ❹ 関与度一覧表
- ❺ カリキュラム・マップ
- ❻ 履修上の注意

§ 5-1

社会環境学科

§ 5-1. 社会環境学科 / Dept. of Socio-Environmental Studies

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■教育研究上の目的

環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、社会の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。

■修得する知識・能力 (学習・教育到達目標)

A 地球の視点から多面的に物事を考える能力を身につけている。
B 環境調和型の社会実現に貢献することの必要性を理解している。
C 社会科学に関する基礎力を養い、様々な課題に柔軟に対応できる能力を身につけている。
D 社会科学分野の専門知識又はそれらを総合して自ら考える力を身につけている。
E 従来型の発想では解決策が見出せぬような未知の問題に対し、広い視野に立ち柔軟な発想を行う力を身につけている。
F 論理的な思考力とそれにもとづく文章作成力、口頭発表能力、討議など国際的にも通用するコミュニケーション能力を身につけている。
G 自分自身のキャリア形成を考え、自主的継続的に学習する能力を身につけている。
H 与えられた制約の下で計画的に課題に取り組み、まとめる能力を身につけている。
I 組織の一員として機能しつつ、その中で自己の能力を最大限発揮できるような社会性を身につけている。

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①経営
- ②地域

■カリキュラム編成の基本方針

本学科では、環境に関わる諸問題につき、主として社会科学の視点に立って理解し、その解決策を企画・立案できる総合的な能力を身に付け、企業や地域において行動できる実践型人材を養成する。そのために、経営と地域に焦点を当てたコースを設置し、初年次から動機付け教育を行う。さらに、各コースに共通する基礎的・基幹的知識を早期に習得した上で、それぞれのコースで目指す実践型人材養成に適したカリキュラムを履修し、問題解決能力の向上を図る。さらに、ゼミナールやフィールドワーク等の体験を通じて、それまでの学修により得られた知識を実践できる機会を提供する。

■年次別科目の配当方針

1年次には、環境に関わる諸問題に対して地球的な観点から多面的に物事を考え、環境調和型社会の実現に貢献することの必要性の理解と、社会科学の基礎を身に付ける。

2年次では、基幹科目を中心に環境に関わる諸問題を解決するための専門知識を修得し、専門ゼミを通じて学生のキャリア形成、様々な課題に柔軟に対応できる能力、および自主的継続的に学習する能力を身に付ける。

3年次では、展開科目を中心に専門分野や複合的な視点から環境問題を考察する力を身に付ける。また、専門ゼミでのグループワークを通じて環境に関わる諸問題の解決に取り組むために必要な計画する能力、まとめる能力を身に付ける。

4年次の専門ゼミでは、地域社会および地球的な視点から環境に関わる諸問題に対応するためのプレゼンテーション能力や問題解決能力を身に付ける。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。

1年次、2年次および3年次終了時には修得した単位数とGPAに従い進級判定を行い、4年次終了時には、修得した単位数から学修到達度について総合的に評価する。

3 年次別授業科目表

福岡工業大学社会環境学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔社会環境学部〕 社会環境学科 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次									
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
基礎科目	文化・社会	知と教養	2														
		日本国憲法	2	市民生活と法	2	日本国憲法	2	市民生活と法	2								
		現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2	現代倫理	2	コミュニケーションの心理学	2								
		日本文学	2	歴史学概論	2	日本文学	2	歴史学概論	2								
		九州学	2	地理学概論	2	九州学	2	地理学概論	2								
		社会学入門	2	経済学入門	2	社会学入門	2	経済学入門	2								
		異文化理解	2	地域創生入門	2	異文化理解	2	地域創生入門	2								
		日本事情Ⅰ(留学生科目)	2	日本事情Ⅱ(留学生科目)	2												
		生命と生態系	2	地球と環境	2	生命と生態系	2	地球と環境	2								
		物質と化学	2	自然と科学	2	物質と化学	2	自然と科学	2								
基礎科目	自然・情報	コンピュータ入門	2		コンピュータ入門	2											
		キャリア形成	②	コミュニケーション基礎	②	インターンシップⅠ	2	日本語表現法	2	インターンシップⅡ	2						
		Advanced English A	2	Advanced English B	2	Advanced English C	2	Advanced English D	2	Academic English A	2	Academic English B	2	Academic English C	2	Academic English D	2
		English A	2	English B	2	English C	2	English D	2	Conversation A	2	Conversation B	2	Conversation C	2	Conversation D	2
										中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2				
										韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2				
		日本語Ⅰ(留学生科目)	2	日本語Ⅱ(留学生科目)	2												
		ウェルネス基礎	②	ウェルネス応用	2												
		ウェルネス目															

[注1] 基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上(うち1・2年次の英語科目8単位)、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。

[注2] 英語科目のうち「Advanced English A～D」、「English A～D」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を、トピックスを選択して受講するものとする(トピックスの受講人数は希望者数に応じて調整をする場合がある)。また、「Academic English」・「Conversation」は、「Advanced English A～D」もしくは「English A～D」の単位を取得した場合に受講できる。

[注3] 「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」は留学生のみ受講できる。

福岡工業大学社会環境学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔社会環境学部〕 社会環境学科 | 専門教育科目表

■専門教育科目（経営コース）

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
ゼミナール	基礎ゼミナール ④		ゼミナールⅠ ④		ゼミナールⅡ ④		ゼミナールⅢ ④							
経営コース	簿記論	2	会計学	(*) 2	財務会計論	2	経営分析論	2	環境会計論	2	企業法Ⅰ	2	企業法Ⅱ	2
			○経営学概論	* ②	マーケティング論	2	経営情報システム論	2	環境経営論	2	環境管理論	2		
					企業論	(*) 2	経営戦略論	2	経営組織論	2	人的資源管理論	2		
					環境政策Ⅰ	(*) 2	環境政策Ⅱ	2						
			○マクロ経済学	* ②	ミクロ経済学	(*) 2								
	社会環境学Ⅰ(総論)	* ②			経済発展論	2	アジア経済論	2	国際貿易論	2	地域開発論	2	経済政策論	2
	社会環境学Ⅱ(経済と環境)	* ②			公共経済学	2	環境経済学	(*) 2	資源エネルギー政策論	2	国際環境協力論	2		
	社会環境学Ⅲ(法律と環境)	* ②	憲法Ⅰ	(*) 2	憲法Ⅱ	2								
	社会環境学Ⅳ(人間と環境)	* ②	現代日本政治論Ⅰ	(*) 2	現代日本政治論Ⅱ	2	行政過程論Ⅰ	2	行政過程論Ⅱ	2				
			国際関係史	2	国際法Ⅰ	2	国際法Ⅱ	2	環境法	2	法・政策の諸問題	2	国際環境法	2
					民法Ⅰ	(*) 2	民法Ⅱ	2	民法Ⅲ	2	国際取引法	2		
	空間情報学Ⅰ	2	空間情報学Ⅱ	2	環境水文学	2	防災情報学	2	フィールドワーク		4			
			ライフスタイルと環境	2	環境地理学	2			生活環境論	2	環境教育論	2		
					人間環境学	(*) 2			大気環境学	2	環境デザイン論	2		
					自然環境調査法	2	社会心理学	(*) 2	文化環境論	2	環境人類学	2		
					民俗学概論	2	環境民俗学	(*) 2	環境生態学	2				
					社会統計学	2	社会調査法	2						
					地域社会学	2	環境社会学	(*) 2						
						人間存在と環境	2							

[注1] 科目名の右側の*印は基礎科目、(*)印は基幹科目、無印は展開科目、科目名の左側の○印はコース必修科目の区分を示す。

[注2] 専門教育科目は、基礎科目から12単位、基幹科目から6単位以上、基幹科目（前記6単位を除く）又は展開科目から46単位以上、ゼミナールから16単位、必修科目の全部を含め、合計80単位以上取得しなければならない。

■専門教育科目（地域コース）

（科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目）

区分	1年次		2年次		3年次		4年次							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
ゼミナール	基礎ゼミナール ◎④		ゼミナールⅠ ◎④		ゼミナールⅡ ◎④		ゼミナールⅢ ◎④							
地域コース	空間情報学Ⅰ	2	空間情報学Ⅱ	2	環境地理学	2	環境デザイン論	2						
			社会統計学	2	社会調査法	2	○フィールドワーク							
			地域社会学	2	環境社会学	(*) 2	環境管理論							
			環境水文学	2	防災情報学	2	大気環境学	2						
			自然環境調査法	2			環境生態学	2						
			環境政策Ⅰ	(*) 2	環境政策Ⅱ	2	資源エネルギー政策論	2						
							地域開発論	2						
	社会環境学Ⅰ（総論）	* ◎ 2	マクロ経済学	* ◎ 2	ミクロ経済学	(*) 2	環境会計論	2	経済政策論	2				
	社会環境学Ⅱ（経済と環境）	* ◎ 2			経済発展論	2	アジア経済論	2	国際貿易論	2				
	社会環境学Ⅲ（法律と環境）	* ◎ 2			公共経済学	2	環境経済学	(*) 2	国際環境協力論	2				
	社会環境学Ⅳ（人間と環境）	* ◎ 2	経営学概論	* ◎ 2	マーケティング論	2	経営情報システム論	2	環境経営論	2				
					企業論	(*) 2	経営戦略論	2	経営組織論	2	人的資源管理論	2		
	簿記論	2	会計学	(*) 2	財務会計論	2	経営分析論	2						
			憲法Ⅰ	(*) 2	憲法Ⅱ	2			環境法	2	法・政策の諸問題	2		
			国際関係史	2	国際法Ⅰ	2	国際法Ⅱ	2			国際環境法	2		
					民法Ⅰ	(*) 2	民法Ⅱ	2	民法Ⅲ	2	国際取引法	2		
											企業法Ⅰ	2	企業法Ⅱ	2
			現代日本政治論Ⅰ	(*) 2	現代日本政治論Ⅱ	2	行政過程論Ⅰ	2	行政過程論Ⅱ	2				
			ライフスタイルと環境	2	人間環境学	(*) 2			生活環境論	2	環境教育論	2		
					民俗学概論	2	環境民俗学	(*) 2	文化環境論	2	環境人類学	2		
							人間存在と環境	2						
							社会心理学	(*) 2						

[注1] 科目名の右側の*印は基礎科目、(*)印は基幹科目、無印は展開科目、科目名の左側の○印はコース必修科目の区分を示す。

[注2] 専門教育科目は、基礎科目から12単位、基幹科目から6単位以上、基幹科目（前記6単位を除く）又は展開科目から46単位以上、ゼミナールから16単位、必修科目の全部を含め、合計80単位以上取得しなければならない。

4 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

			A	B	C	D	E	F	G	H	I		
			地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び社会に対して負っている責任に対する理解	数学及び自然科学（人文社会科学）に関するそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門知識とそれらを用いる能力	種々の科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力		
科目区分	科目名	必・選	DP に対する関与の程度										
基礎科目	文化・社会	知と教養	選択	○				◎	◎	○	○	◎	
		日本国憲法	選択			◎							
		市民生活と法	選択			◎							
		現代倫理	選択		◎	◎							
		コミュニケーションの心理学	選択			◎			○				
		日本文学	選択			◎							
		歴史学概論	選択	○		◎							
		九州学	選択			◎							
		地理学概論	選択	○		◎							
		社会学入門	選択			◎							
		経済学入門	選択			◎							
		異文化理解	選択	◎		○							
	地域創生入門	選択			○			◎			○	◎	
	日本事情Ⅰ（留学生科目）	選択							◎				
	日本事情Ⅱ（留学生科目）	選択							◎				
自然・情報	生命と生態系	選択			◎			○					
	地球と環境	選択			◎			○					
	物質と化学	選択			◎			○					
	自然と科学	選択			◎			○					
	コンピュータ入門	選択			○								
キャリア科目	キャリア形成	必修							○	◎	○	○	
	コミュニケーション基礎	必修							◎		○	◎	
	日本語表現法	選択							◎				
	インターンシップⅠ	選択							○	○	◎		
	インターンシップⅡ	選択							○	○	◎	○	
外国語科目	Advanced English A	選択							◎	○			
	Advanced English B	選択							◎	○			
	Advanced English C	選択							◎	○			
	Advanced English D	選択							◎	○			
	English A	選択							◎	○			
	English B	選択							◎	○			
	English C	選択							◎	○			
	English D	選択							◎	○			
	Academic English A	選択							◎	○			
	Academic English B	選択							◎	○			
	Academic English C	選択							◎	○			
	Academic English D	選択							◎	○			
	Conversation A	選択							◎	○			
	Conversation B	選択							◎	○			
	Conversation C	選択							◎	○			
	Conversation D	選択							◎	○			
	中国語Ⅰ	選択	○						◎	○			
	中国語Ⅱ	選択	○						◎	○			
韓国語Ⅰ	選択	○						◎	○				
韓国語Ⅱ	選択	○						◎	○				
日本語Ⅰ（留学生科目）	選択							◎					
日本語Ⅱ（留学生科目）	選択							◎					
ウェルネス科目	ウェルネス基礎	必修			○					◎		◎	
	ウェルネス応用	選択			◎					◎		○	
教職科目	<<別途>>												

注記：◎は特に関与が高い科目、○は関与する科目を示す（必修、選択科目の別を表すものではない）

■専門教育科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表

(社会環境学科)

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP に対する関与の程度											
						A	B	C	D	E	F	G	H	I			
基礎科目	社会環境学Ⅰ(総論)	必修	1	前	講義	◎	◎		○								
	社会環境学Ⅱ(経済と環境)	必修	1	前	講義	◎	◎	◎				○					
	社会環境学Ⅲ(法律と環境)	必修	1	前	講義	◎	◎	◎				○					
	社会環境学Ⅳ(人間と環境)	必修	1	前	講義	◎	◎	◎	◎	○		○	○				
基幹科目	経営学概論	必修	1	後	講義		◎	◎	◎								
	マクロ経済学	必修	1	後	講義		◎	◎	◎								
	現代日本政治論Ⅰ	基幹	1	後	講義			◎	◎								
	憲法Ⅰ	基幹	1	後	講義			◎	◎								
	会計学	基幹	1	後	講義	○		◎	◎			◎	○				
	環境政策Ⅰ	基幹	2	前	講義	○	◎	◎	◎								
	企業論	基幹	2	前	講義		◎	◎	◎								
	ミクロ経済学	基幹	2	前	講義		◎	◎	◎								
	民法Ⅰ	基幹	2	前	講義			◎	◎		○						
	人間環境学	基幹	2	前	講義	○	◎	◎	◎	○	○				○		
	環境社会学	基幹	2	後	講義		◎			◎							
	環境民俗学	基幹	2	後	講義	○			◎								
	環境経済学	基幹	2	後	講義		◎										
社会心理学	基幹	2	後	講義												○	
ゼミナール	基礎ゼミナール	必修	1	通年	演習	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	
	ゼミナールⅠ	必修	2	通年	演習	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	
	ゼミナールⅡ	必修	3	通年	演習	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	
	ゼミナールⅢ	必修	4	通年	演習	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
専門教育科目	簿記論	選択	1	前	講義	○		◎	◎			◎	○				
	空間情報学Ⅰ	選択	1	前	講義			◎	◎								
	ライフスタイルと環境	選択	1	後	講義	○	◎	◎	◎	○	○		○	○			
	国際関係史	選択	1	後	講義	◎		◎		○							
	空間情報学Ⅱ	選択	1	後	講義			◎	◎								
	民俗学概論	選択	2	前	講義				◎								
	地域社会学	選択	2	前	講義		◎			◎							
	社会統計学	選択	2	前	講義			◎	◎						◎		
	財務会計論	選択	2	前	講義			◎	◎			◎	○				
	国際法Ⅰ	選択	2	前	講義	◎			◎		○						
	公共経済学	選択	2	前	講義	○			◎		◎						
	現代日本政治論Ⅱ	選択	2	前	講義			◎	◎								
	憲法Ⅱ	選択	2	前	講義			◎	◎								
	経済発展論	選択	2	前	講義	○	◎	◎	◎	○	○						
	環境地理学	選択	2	前	講義	○	◎	◎	◎	◎		◎					
	マーケティング論	選択	2	前	講義		◎	◎	◎	◎							
	自然環境調査法	選択	2	前	講義			◎	◎			◎	◎				
	環境水文学	選択	2	前	講義	◎	◎	◎	◎	◎							
	民法Ⅱ	選択	2	後	講義			◎	◎		○						
	人間存在と環境	選択	2	後	講義		◎	◎									
	社会調査法	選択	2	後	講義		◎								◎		
	国際法Ⅱ	選択	2	後	講義	◎			◎		○						
	行政過程論Ⅰ	選択	2	後	講義			◎	◎								
	経営分析論	選択	2	後	講義			◎	◎			◎	○				
	経営情報システム論	選択	2	後	講義			◎	◎								
	環境政策Ⅱ	選択	2	後	講義	○	◎	◎	◎								
	防災情報学	選択	2	後	講義		◎	◎	◎	◎							
	経営戦略論	選択	2	後	講義		◎	◎	◎								
	アジア経済論	選択	2	後	講義	○	◎	◎	◎	○	○						
	民法Ⅲ	選択	3	前	講義			◎	◎			○					
	大気環境学	選択	3	前	講義	◎	◎	◎	◎								
	生活環境論	選択	3	前	講義	◎	◎	◎		○	○	○					
	文化環境論	選択	3	前	講義				◎								
	資源エネルギー政策論	選択	3	前	講義	◎						◎					
	国際貿易論	選択	3	前	講義			◎	◎		○						
	行政過程論Ⅱ	選択	3	前	講義			◎	◎								
	環境法	選択	3	前	講義	○	◎		◎								
	環境会計論	選択	3	前	講義	○	◎										
	経営組織論	選択	3	前	講義		◎	◎	◎								
	環境経営論	選択	3	前	講義		◎	◎	◎								
	環境生態学	選択	3	前	講義	◎	◎	◎	◎								
	地域開発論	選択	3	後	講義		◎	◎	◎	○			○				
	国際環境協力論	選択	3	後	講義	◎						◎					
企業法Ⅰ	選択	3	後	講義				◎				○					
法・政策の諸問題	選択	3	後	講義					◎								
国際取引法	選択	3	後	講義	○			◎		○							
環境人類学	選択	3	後	講義	◎			◎									
環境教育論	選択	3	後	講義	○	◎	◎		○	○	○						
環境管理論	選択	3	後	講義	○	◎											
環境デザイン論	選択	3	後	講義	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○					
人的資源管理論	選択	3	後	講義		◎	◎	◎									
フィールドワーク	コース必	3	通年	演習			◎	◎		○	◎	◎					
国際環境法	選択	4	前	講義	◎			◎			◎						
経済政策論	選択	4	前	講義		◎	◎	◎									
企業法Ⅱ	選択	4	前	講義				◎			○						

※基幹は基幹科目、コース必は地域コース必修科目

5 カリキュラム・マップ

■教養力育成科目のカリキュラム・マップ (全学部共通)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4 年次	後期					Academic English D Conversation D			
	前期					Academic English C Conversation C			
3 年次	後期					Academic English B Conversation B 中国語 II 韓国語 II			
	前期					Academic English A Conversation A 中国語 I 韓国語 I	インターンシップ II		
2 年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	日本語表現法 Advanced English D English D			地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学 ウェルネス応用 (情)			Advanced English C English C	ウェルネス応用 (情)	インターンシップ I
1 年次	後期		コミュニケーションの心理学 歴史学概論 地理学概論 経済学入門 ウェルネス応用 (工・社) 地球と環境 自然と科学		地域創生入門	コミュニケーション基礎 Advanced English B English B 日本語 II (留学生科目) 日本事情 II (留学生科目)	ウェルネス応用 (工・社) ウェルネス基礎 (情)		コミュニケーション基礎 ウェルネス基礎 (情) 地域創生入門
	前期	異文化理解	現代倫理	日本国憲法 市民生活と法 現代倫理 日本文学 九州学 社会学入門 生命と生態系 物質と化学	知と教養	知と教養 Advanced English A English A 日本語 I (留学生科目) 日本事情 I (留学生科目)	キャリア形成 ウェルネス基礎 (工・社)		知と教養 ウェルネス基礎 (工・社)

※ 教養力育成科目のうち、DP に対する関与の程度◎のみ記載

(社会環境学科)

DP	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4 年次	後期 前期	ゼミナールⅢ ゼミナールⅢ		ゼミナールⅢ 国際環境法 経済政策論 企業法Ⅱ ゼミナールⅢ	ゼミナールⅢ ゼミナールⅢ	ゼミナールⅢ 国際環境法 ゼミナールⅢ	ゼミナールⅢ ゼミナールⅢ	ゼミナールⅢ ゼミナールⅢ	ゼミナールⅢ ゼミナールⅢ
3 年次	後期	環境管理論	地域開発論 環境教育論 人的資源管理論 フィードバック	地域開発論 企業法Ⅰ 国際取引法 環境人類学 人的資源管理論 フィードバック		国際環境協力論 ゼミナールⅡ フィードバック	フィードバック	ゼミナールⅡ フィードバック	ゼミナールⅡ
3 年次	前期	大気環境学 環境法 環境会計論 環境経営論 環境生態学	大気環境学 国際貿易論 経営組織論 フィードバック 環境生態学	民法Ⅲ 大気環境学 文化環境論 国際貿易論 行政過程論Ⅱ 環境法 経営組織論 フィードバック 法・政策の諸問題 環境生態学		資源エネルギー政策論 ゼミナールⅡ フィードバック	フィードバック	ゼミナールⅡ フィードバック	ゼミナールⅡ
2 年次	後期	社会心理学 環境経済学 発達環境論 社会調査法 環境政策Ⅱ 環境デザイン論 防災情報学	人間存在と環境 環境デザイン論 防災情報学 経営戦略論 アジア経済論	環境民俗学 民法Ⅱ 行政過程論Ⅰ 経営分析論 経営情報システム論 環境政策Ⅱ 防災情報学 経営戦略論 アジア経済論	環境社会学 環境デザイン論 防災情報学		経営分析論	社会調査法 ゼミナールⅠ	ゼミナールⅠ
2 年次	前期	国際法Ⅰ 環境水文学	企業論 経済発展論 環境地理学 マーケティング論 自然環境調査法 環境水文学	民法Ⅰ 企業論 環境政策Ⅰ ミクロ経済学 民俗学概論 社会統計学 財務会計論 公共経済学 現代日本政治論Ⅱ 憲法Ⅱ 経済発展論 環境地理学 マーケティング論 自然環境調査法 環境水文学	地域社会学 環境地理学 マーケティング論 環境水文学	公共経済学	財務会計論 環境地理学 自然環境調査法	社会統計学 自然環境調査法 ゼミナールⅠ	ゼミナールⅠ
1 年次	後期	国際関係史	経営学概論 会計学 空間情報学Ⅱ	経営学概論 ミクロ経済学 現代日本政治論Ⅰ 憲法Ⅰ 会計学 ライフスタイルと環境 空間情報学Ⅱ		会計学	会計学	基礎ゼミナール	基礎ゼミナール
1 年次	前期	社会環境学Ⅰ (総論) 社会環境学Ⅱ (経済と環境) 社会環境学Ⅲ (法律と環境) 社会環境学Ⅳ (人間と環境)	社会環境学Ⅱ (経済と環境) 社会環境学Ⅲ (法律と環境) 社会環境学Ⅳ (人間と環境) 簿記論 空間情報学Ⅰ	社会環境学Ⅳ (人間と環境) 簿記論 空間情報学Ⅰ		簿記論	簿記論	基礎ゼミナール	基礎ゼミナール

※ 専門教育科目のうち、DPに対する関与の程度◎のみ記載

※ 二重下線は必修科目 (基礎科目およびゼミナール)、下線は基幹科目、無印は選択科目 (展開科目)

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	30 単位 [*] 以上、単年度の GPA1.0 以上
2 → 3 年次	62 単位 [*] 以上、単年度の GPA1.0 以上
3 → 4 年次	94 単位 [*] 以上、単年度の GPA1.0 以上
卒業単位	124 単位 [*] 以上

※コア科目を含む

※上記単位数には教職科目は含まない。

→ § 2-5. 進級・卒業 P.28

II. コース

経営 コース	経営コースは、現代社会の経営活動に求められるビジネススキルを総合的に学ぶコースである。具体的には、経営実務に必要とされるマーケティング、組織の財務・会計や法制度などを、社会環境の知識を前提にしてバランスよく学習する。コースを修了することによって、経営活動において環境の重要性を理解し、社会で活躍できる高いビジネススキルを備えた人材を育成する。
地域 コース	地域コースは、現代社会の地域活動に関連するスキルを総合的に学ぶコースである。具体的には、地域に関する政策や教育、地域と密接に関わる環境保全や経済活動、防災、組織の役割など、社会環境の知識を前提にフィールドワークや地理情報システム等を利用してバランスよく学習する。コースを修了することによって、地域活動に積極的に貢献できる人材を育成する。

→ § 8-5. 社会環境学部コース制教育プログラム要領 P.227

III. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 2-2. 5 習熟度別クラス P.22

IV. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

- ・ 教員免許：高等学校教諭一種免許状（公民）
中学校教諭一種免許状（社会）

→ § 2-12. 教職課程 P.41

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ GIS 学術士…「空間情報学 I・II」
- ・ 日商簿記検定（3級・2級）…「簿記論」
- ・ MOS (Microsoft Office Specialist) …
「コンピュータ入門」

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・ 日商簿記検定（3級・2級）
- ・ MOS (Microsoft Office Specialist)

※その他の資格取得支援講座は、エクステンションセンターに問い合わせ

V. その他

■科目の区分

- ・ 専門教育科目
専門教育科目は、経営・地域の分野から構成されています。基礎から応用分野まで体系的に履修できるように、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」に段階的に構成されています。

・ゼミ

ゼミは、自らが課題を発見し、継続的に学修する環境を整えるために、1年次から3年次までコア科目として配置され、4年次では必修科目として配置され、卒業に向けて専門的な研究を行います。本学社会環境学部の特色といえるこのゼミでは、自己の関心領域に基づき、各年次で修得した教養や専門の知識を総合化し、環境問題の解決に向けて、修得した知識を活用で

きるようにするものです。

また、学修以外にも、少人数というゼミの特色を活かして、担当教員と研究上、生活上の悩みなど諸問題を話し合う場ともなりますので、豊かな教養と人間的素養を身に付けるよう努めて下さい。

■注意事項

1. 成績評価を受けるためには、原則、授業回数の2/3以上の出席が必要です。欠席が多くなると、成績評価を受けられなくなります。
2. 授業への出席登録は、原則としてICチップが内蔵された学生証を用いて行います。学生証を忘れた場合には、欠席扱いとなりますので注意して下さい。
3. 大学では単位制がしかれているので、学則第28条第3項別表2の授業科目表によって決められている年次で、各授業科目を履修しなければなりません。履修した科目の成績が不可（59点以下）の場合は不合格となり、単位は与えられません。

1年次から2年次へ進級する場合は、基礎ゼミナールを含む30単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度GPA1.0以上の取得が必要です。2年次から3年次へ進級する場合はゼミナールⅠを含む62単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度GPA1.0以上の取得が必要です。また、3年次から4年次へ進級する場合には、ゼミナールⅡを含む94単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度GPA1.0以上の取得が必要です。卒業には124単位以上の取得が必要です。それぞれの条件に達しない場合は留年となり、もう一度同じ年次で学修することになります。

30単位、62単位又は94単位以上取得（コア科目を含む）して進級した場合でも、取得すべき単位（特に必修科目）を一部未取

得のまま進級した場合には注意が必要です。特に、進級した年次に割り当てられた授業科目と、不合格（不）となった下の年次の授業科目（特に必修科目）が重なる場合には、どちらかの授業科目だけしか履修登録できなくなってしまう可能性があります。このような問題がおこらないように、各年次において単位を確実に取得していきましょう。

§ 6

学生生活

§ 6-1	各種証明書	148
	1 証明書発行 2 学籍情報の変更手続き	
§ 6-2	学納金・奨学金制度	149
	1 学納金 2 奨学金	
§ 6-3	課外活動	151
	1 クラブ・サークル 2 モノづくりセンタープロジェクト 3 ボランティア・地域貢献活動 4 施設・用具の利用 5 課外活動に関する手続き 6 アルバイト	
§ 6-4	国際交流	154
§ 6-5	進路	156
	1 就職・キャリア 2 大学院進学	
§ 6-6	学生生活支援	158
	1 学生表彰制度 2 各種保険 3 同窓会 4 教育後援会 5 健康管理	
§ 6-7	キャンパス美化	160
	1 環境保全 2 ごみの分別	

§ 6-1

各種証明書

§ 6-2

学納金・
奨学金制
度

§ 6-3

課外
活動

§ 6-4

国際
交流

§ 6-5

進
路

§ 6-6

学
生
生
活
支
援

§ 6-7

キ
ャ
ン
パ
ス
美
化

§ 6-1. 各種証明書

1 証明書発行

各種証明書は、証明書自動発行機または所轄課の窓口で発行されます。

→利用時間は、§ 1-4. ②学生対応窓口一覧 P.12

【証明書自動発行機】

- ・ 設置場所 学生サポートセンター内（E棟2F）
情報基盤センター前（B棟2F）

※証明書の厳封が必要な場合は、窓口申し出てください。

※発行に際しては学生証および所定の発行手数料が必要です。

※発行後の返金はできません。

種別	自動発行機	窓口	発行手数料	備考
学業成績証明書（和文）	○	教務課	200円	
学業成績証明書（英文）	×		500円	
卒業見込証明書（和文）	○		200円	4年次生
卒業見込証明書（英文）	×		500円	4年次生
学業成績・卒業見込証明書	○		200円	4年次生
卒業証明書（和文）	×		200円	卒業生
卒業証明書（英文）	×		500円	卒業生
学生証再発行申込書	○		情報基盤センター	500円
仮学生証	○	学生課	200円	当日限り有効
在学証明書（和文）	○		200円	
在学証明書（英文）	○		200円	
通学証明書	×		無料	通学定期券の購入に必要
JR学割証	○		無料	JRで片道100km超利用時に 運賃2割引/年間10枚
団体割引乗車券	×		無料	8名以上の学生と一緒に旅行する場合に 利用可（出発日の2週間前まで）
健康診断書	○		200円	当年度に健康診断を受診した学生
推薦書	○	就職課	200円	
単位取得証明書	×	教務課	500円	
その他の証明書・申請書	×		500円	

2 学籍情報の変更手続き

学生本人の改氏名、学生および保証人（保護者）の連絡先（住所や携帯電話番号）、保証人等が変更した時は、直ちに my FIT「学籍情報変更申請」から手続きを行ってください。手続きを怠ると、大学からのお知らせができなくなります。

手続き方法は「学籍情報の変更申請マニュアル」をご参照ください。

[https://my.fit.ac.jp/portal/doc/myfit_gakusei_sinsei.pdf]

※個人情報は厳正に管理し、大学から本人および保証人（保護者）への連絡・通知や緊急時の対応を行うために使用し、それ以外の目的では使用しません。

※改氏名の場合は、戸籍謄本を添付してください。

※日本学生支援機構等の奨学金を受給している学生は、別途届け出が必要です。

§ 6-2. 学納金・奨学金制度

1 学納金

■納入金額

学納金は原則として、「入学または編入学した年度と同額を毎年納入する」こととしています（経済情勢その他の変動により改定されることがあります）。

(2019年度)

	工学部・情報工学部	社会環境学部
授業料	830,000円	670,000円
施設設備費	270,000円	170,000円
実験実習費	88,000円	-
図書費	10,000円	10,000円
学生厚生費	19,000円	19,000円
合計	1,217,000円	869,000円

※上記の他、入学手続時に入学金200,000円が必要です。

■納入方法

毎年3月頃に、保証人（保護者）宛に次年度振込用紙を送付しますので、納入期限内に手続きしてください。

なお、振込用紙は前期分と後期分を同時に送付します。

	納入期限	分納額	
		工学部・情報工学部	社会環境学部
前期 (4月1日～9月30日)	4月20日	608,500円	434,500円
後期 (10月1日～3月31日)	9月30日	608,500円	434,500円

※初年度の前期分は入学前の指定日までに納入しなければなりません。

※納入期日が土日・祝日の場合は、別途指定します。

■納入相談

やむを得ない事情により期限内の手続きが困難な場合は、必ず納入期限前に経理課に相談してください(学生本人による直接来訪が望ましい)。

個別に面談を行った上で納入期限から起算して3ヶ月以内での延納申請を受け付けます。面談時にお渡しする所定の用紙を本人・保証人連署にて提出してください。なお、状況によっては月々の分納にも対応します。

■納入期限後の対応

納入期限を過ぎても入金・連絡がない場合、保証人および本人に対して督促を行います。未納期間が3ヶ月以上になると除籍予告を経て、所定の手続きにより学期末をもって除籍されます。

(学則第26条)

2 奨学金

本学では、十分な学力や能力を有する学生や、勉学を継続するために経済援助を必要とする学生に対し奨学金制度を設けています。学内および学外奨学金の主なものは次の通りです。

[学内の奨学金]

■特別奨学金

	学業特別奨学金		特技特別奨学金
対象者	【2～4年次生】 学科から推薦された成績優秀者	【1年次生】入試 (3教科型、センター試験利用 前期、中期、センター併用型、 公募制推薦入試) 上位合格者	スポーツ・音楽の強化クラブから推薦された者
採用人数	各学年30名程度	-	若干名
給付期間	1年間	4年間または1年間	1年間 (最大4年間)
金額	授業料の半額免除	授業料の全額または半額免除	授業料と施設設備費の全額または半額免除
返済	不要	不要	不要
備考		学業成績が一定に満たない場合等は取消しとなる	

	経済的理由による特別奨学金
対象者	返済義務のある奨学金を受給中の学生で、家計状況、成績や出席状況を審査し認められた者
採用人数	60名以内（新規30名、継続30名）
給付期間	1年間（最大2年間）
金額	授業料の半額免除
返済	不要
募集時期	5月

■私費外国人留学生に対する減免措置

対象者	経済的に就学が困難な私費外国人留学生で、一定の成績や出席状況を修めている者【2～4年次生】
給付期間	1年間
金額	授業料の半額免除
返済	不要
募集時期	4月
申請方法	留学生オリエンテーションにて説明
備考	協定校からの留学生は1年次生から対象となる

■外国人留学生奨学金

私費留学生に対し、各種団体から奨学金の募集がある場合、上位年次から成績上位順に大学推薦を行います。推薦者は直接本人へ電話にてお知らせします。

[学外の奨学金]

■日本学生支援機構奨学金

	第一種（無利子貸与）	第二種（有利子貸与）
対象者	1～4年次生	1～4年次生
貸与期間	卒業予定期まで	
貸与月額 (単位：円)	<自宅> 20,000 30,000 40,000 54,000 から選択	<自宅外> 20,000 30,000 40,000 50,000 64,000 から選択
返 還	卒業後20年以内で返還 (無利息)	卒業後20年以内で返還 (利息3%以内)
募集時期	定期採用4月（緊急採用については随時）	定期採用4月（緊急採用については随時）

日本学生支援機構の奨学金は、学生が自立して学ぶことを支援するために国が実施する貸与型の奨学金です。卒業後は必ず返還しなければなりません。有効かつ計画的に利用しましょう。

■地方自治体奨学金

地方自治体および教育委員会において実施している奨学金制度です。募集がある場合、応募要項を掲示します。本学への情報提供がない場合もあるので、各自で地方自治体窓口、教育委員会等へ照会してください。

■民間団体奨学金

民間企業や財団法人が奨学金を貸与または給付するものです。募集がある場合、応募要項を掲示します。

§ 6-3. 課外活動

1 クラブ・サークル

課外活動は、学生相互が切磋琢磨することで貴重な人間関係を学び、情操豊かな人間性を育む場です。本学では、全学生で構成される学生自治会があり、その自治会組織の中に体育会本部と学術文化会が所属し、各クラブ・サークル、同好会・愛好会、合わせて 59 団体が活動しています。(2018 年 12 月現在)

詳しくは各クラブ・サークルにお問い合わせください。また、クラブ・サークルの新設や相談については学生課で応じています。

■学生自治会

- ・自治会執行部…自治会組織を統括し、学生総会の主催や学生の代表として大学行事などに参加。クラブハウス（サークル棟）やサークルの管理。
- ・自治会実行局…新入生歓迎会・学園祭（立花祭）の企画、運営。地域の夏祭りへの参加。
- ・代議員会…サークルに関する審議、各サークルへの部費配付や管理など。
- ・体育会本部…体育会所属のサークルを統括・管理。体育会独自の企画、運営（餅つき大会等）。
- ・学術文化会…学術文化会所属のサークルを統括・管理。学文祭の企画、運営。

アーチェリー部	テコンドー部
アイスホッケー部	バスケットボール部
弓道部	バドミントン部
剣道部	バレーボール部
硬式テニス部	パワーリフティング部
硬式野球部※	ラグビー部※
サッカー部	陸上競技部
準硬式野球部	合気道部
女子柔道部※	ダンス同好会 CLASS JACK
水泳競技部	硬式テニス同好会
ソフトテニス部	サッカー同好会フランケン FC
ソフトボール部	サバイバルスポーツ同好会
卓球部	自動車工学研究部

男子柔道同好会	タッチラグビー同好会
マラソン同好会	フットサル同好会ファンタジア
軟式野球同好会	F-joy（シーズンスポーツ）同好会
ハンドボール同好会	少林寺拳法愛好会
フットサル同好会ガルサ	キャップ投げ倶楽部（愛好会）
相撲同好会	

※印は強化クラブ

音響部	国際交流サークル FIT-ICE 同好会
写真部	料理・スイーツ研究同好会
All Round Music 部	アカペラ部
音楽研究部	サブカルチャー同好会
情報技術研究部	競技麻雀同好会
吹奏楽団※	茶道部
フォークソング研究部	人工知能開発研究愛好会
ロック部	模型同好会
モダンアート部	福工大アンプラグド同好会
環境サークルオアシス部	

※印は強化クラブ

■立花祭（学園祭）

立花祭は毎年 11 月初旬に 2 日間開催される課外活動最大の大学行事で、学生自治会が企画・運営に携わっています。各クラブサークルは模擬店を出すなど積極的に関わり、毎年ビンゴ大会やスペシャルゲストを呼んで盛り上がります。

2 モノづくりセンタープロジェクト

モノづくりセンターでは、学生が自由に参加できるプロジェクトが活動しています。

ロボット相撲	手作りアクセサリー
ロボコン	二足歩行ロボット
ソーラーカー	公募型プロジェクト

プロジェクトのメンバー募集はモノづくりセンターで随時受け付けています。また、1 年間の活動終了時にはプロジェクト成果発表会を実施します。

3 ボランティア・地域貢献活動

本学では、授業以外での人間形成、ソーシャルスキル体得の場として、課外でのボランティアや地域貢献活動を積極的に推進しています。

■ボランティア

学内は勿論、福岡市、新宮町、古賀市など大学と連携協定を締結している自治体でのボランティア活動を推進しています。

- ・新宮町夏休み寺子屋事業での子ども見守り活動
- ・新宮町子ども体験事業の運営サポート
- ・福岡和白病院高齢者向け体操教室運営サポート
- ・三苦校区「住民安心メール登録会」でのスマホ操作サポート
- ・「キャンパスクリーン」「ラブアースクリーン」など学内外での清掃活動
- ・福岡市防災訓練の運営サポート
- ・各種防犯、交通安全キャンペーンへの参加など

■地域貢献活動

大学周辺の自治体が抱える課題の解決を目指す PBL (Project Based Learning; 課題解決型学習) の一環として、学生個人、チームによるプロジェクト活動をサポートしています。

- ・福岡市東区の商店街活性化プロジェクト
- ・古賀市内のバス路線利用キャンペーンの企画運営
- ・新宮町の観光 P R のためのポスター、動画の作成
- ・福岡未来創造プラットフォーム「学生地域活動大賞」など

■他大学との交流

「東部地域大学連携」「福岡未来創造プラットフォーム事業」「国公立3大学連携」等を通じた様々な大学間交流事業に参加する学生、チームを募集、サポートしています。

- ・なみきスクエアで開催される東区活性化のための各種イベント
- ・「ビジネスチャレンジ事業 (起業支援プロジェクト)」など

※上記活動への参加者募集の情報は myFIT (WEB 学生情報ポータルサイト) の「お知らせ」に掲載します。興味、関心がある方は随時確認するようにしてください。また内容に関する詳しいことは E 棟 3 階の社会連携室にお尋ねください。

■ポイント制度 (FIT-POINT)

大学が指定する地域活動に参加して活動記録を学習ポートフォリオ (FIT-AIM) に記録すると、活動内容に応じたポイントが付与されます。また、一定以上のポイントを獲得すると、学内で使用できる奨学チケットと交換できます。詳しくは E 棟 3 階の社会連携室にお問い合わせください。

4 施設・用具の利用

全ての学生は次の施設や用具を利用することができます。

■施設の利用

施設名	利用できること
EAST コート FIT アリーナ WEST コート	バスケット (3on3)、サッカー (フットサル)、ハンドボール、バレーボール、ダンス、体操、トレーニングなど
FIT アリーナ (小体育室、トレーニングルーム)	バレーボール、バスケット、バトミントン、体操、ダンス、卓球、トレーニングなど
新宮総合グラウンド (テニスコート)	テニス
塩浜総合グラウンド (フットサル場、多目的グラウンド)	フットサル、体操、野球・ソフトボールなど

利用方法や予約については、学生課に問い合わせください。なお、クラブ・サークルの団体利用は学生課に申請が必要です。

→各施設の利用時間などについては、§ 7-1. 施設案内 P.162

■スポーツ用具の貸出

次の用具について、学生課にて貸出し (9:00~17:00) を行っています。利用の際は学生証が必要です。

- ・野球・ソフトボール用具
- ・テニスラケット
- ・ボール (サッカー、バスケット、バレー)

5 課外活動に関する手続き

課外活動を行う上で必要な手続きは次の通りです。事前に学生課まで申し出てください。

イベント・集会の実施	実施許可を願い出
教室や施設の利用	事前に予約申請
サークル・ゼミの合宿・遠征	「合宿・遠征許可願」を提出
ポスター等の掲示・チラシ配布	掲示物・配布物を窓口に持参し承認を受ける

※教室・施設の利用申請は、遅くとも1週間前までに提出願います。

6 アルバイト

本学では、奨学金による経済的支援を利用しても学業継続が困難な学生に対して、アルバイトを認めています。アルバイトをする場合は、学業に支障をきたさぬよう、またアルバイトでの経験を自己成長に役立て、学生生活を充実させるよう望みます。

■学内アルバイト

学内アルバイトの求人は、オープンキャンパス等で大学紹介する FIT 隊 (広報課) や、学生の PC・ネットワーク利用を支援するシステム相談員 (情報基盤センターシステム管理室) 等、各課で行っていますので、希望する場合は各課の窓口で問い合わせください。

■アルバイト斡旋

学外でのアルバイトについては、アドバンス (B棟 1F) にて求人情報を案内しています。

→ § 7-1. 施設案内 P.162

§ 6-4. 国際交流

■ Global Student Lounge (国際連携室併設：α棟2階)

学生の皆さんがいつでも利用できる国際交流ラウンジです。ここでは、ネイティブ職員の英会話レッスンや、留学・語学に関する相談を受け付けておりますので、どうぞお気軽にお越しください。

■海外派遣プログラム

グローバル化の加速に対応し、世界各地で積極的に活躍できる人材輩出を目的とした各種プログラムです。まずその一歩として日本を飛び出し、海外の人々との交流を通じて異文化に触れて・見て・体感することから始めてみましょう。プログラムの中には、基準を満たす学生に対する補助金制度もあります。各プログラムの詳しい情報について知りたい方は、国際連携室（α棟2階）までお越しください。

ジャンル	内容	レベル
気づき	Short Term Experience Program (STEP) 海外体験を通じて「気づき」を得ることに加え、グローバル人材の基礎となる「異文化理解」「コミュニケーション能力」「チームワーク」の力を養うことを目的としたプログラム。海外が初めての方や英語が不安な方におすすめです。(2018年度渡航実績) ハワイ、中国、シンガポール、フィリピン、台湾、グアム	初級
語学	Intensive Training for English Learner (INTER) プログラム フィリピンの語学学校で英語を集中的に学ぶ3週間の語学プログラム。自分のレベルに合わせて授業を受講します。(★)	初級・中級
	Foreign Language Exploration (FLEX) プログラム ニュージーランドの語学学校で学ぶ3週間の語学プログラム。滞在先はホームステイを予定しています。(★)	初級・中級
	Global Academy of Technological English (GATE) プログラム 将来世界で活躍することを目指す学生を対象に、語学力に加えてグローバル人材に必要な資質について学ぶ2週間の集中語学研修です。(★)	中級・上級
キャリア	Peer Practical Internship Program (PPIP) タイに進出しているグローバル企業でインターンシップを体験し、企業が求めるグローバル・マインドを醸成する2週間のプログラムです。インターンシップ先では、協定校のキングモンクット工科大学生とピアで活動します。(★)	中級・上級
学術	US-Japan Forum 米国のシリコンバレーを中心に、現地の大学や企業を訪問するプログラムです。研究者や技術者とのディスカッション等を通じて国際的な広い視野を身につけます。(★)	中級・上級

(★) 印が付いたプログラムは、補助金制度対象です。

■協定校

本学では、学術交流と国際相互理解を深める目的のもと、8か国・地域の19大学と学術・学生交流協定を締結しています。

<p><アメリカ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレゴン州立大学 ・カリフォルニア州立大学 イーストベイ校 ・セントメアリーズカレッジ ・フットヒルカレッジ ・サンノゼ州立大学 	<p><中国></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大連理工大学 ・青島科技大学 ・南京理工大学 ・北華大学 <p><タイ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キングモンクット工科大学 ラカバン校 ・チュラロンコン大学 ・泰日工業大学 	<p><台湾></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立高雄科技大学 <p><オーストラリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェデレーション大学 <p><アルバニア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティラナ工科大学 <p><イタリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナポリ・フェデレコ2世大学
<p><韓国></p> <ul style="list-style-type: none"> ・亜洲大学校 ・慶星大学校 ・啓明大学校 		計19大学

■ネイティブ職員によるレッスン

Global Student Lounge に常駐するネイティブ職員によるレッスンとサポート内容です。お申込みは、Global Student Lounge (α棟2階) までお越しください。

レッスン・サポート内容	
GET (Global Exchange Time)	本学の留学生と一緒に、英語で異文化について楽しく学び合います。留学生の出身地のことを知り、また日本について英語で紹介しましょう。
English Café	リラックスしたカフェスタイルで楽しく英会話を練習します。ゲームやパズルなど、アクティビティも盛り沢山。
FIT Talks	英語でのプレゼンテーションを通して日頃の学修成果を発表する場です。レベル別でエントリーでき、事前に個別指導も行います。
FIT Writes	自分の考えや物語を英文で表すコンテストです。ネイティブ職員が丁寧に添削しますので、英作文力のスキルアップが期待できます。
英語論文の添削	研究論文を提出する前に、ネイティブスタッフの英語チェックをはじめ、必要に応じた支援を受けることができます。
留学前レッスン	プログラムの準備をしながら、入国管理審査やその国ならではの慣習などについての理解を深めます。
国際学会発表前の プレゼン指導	パブリック・スピーキング・スキルや Power Point/Prezi の上達法など、英語のプレゼンテーションに関するガイダンスを受けることができます。
個人に合わせたレッスン	国際的な会議の準備、英語のインタビューなどの個人的な目標の為にプライベートレッスンを受けることができます。

■問い合わせ

各プログラムに関する詳細については、国際連携室 (α棟2階) にお問い合わせください。

§ 6-5. 進 路

1 就職・キャリア

本学では、就職やキャリア形成をサポートするため、1年次から卒業後にわたる継続的・段階的な支援を行っています。

■就職支援スケジュール

年次	期・月	志向する力	共働する力	解決する力	実践する力
1年次	前期 8月	キャリア形成	夏季インターンシップ(コミュニケーション力向上)		
	後期 3月		コミュニケーション基礎	技術者論理	
		春季インターンシップ(コミュニケーション力向上)			
2年次	前期 8月				インターンシップⅠ(夏季)
	後期 3月		日本語表現法		春季インターンシップ 就業実習(春季インターンシップ)
3年次	前期 4月	就職課ガイダンス (就職活動の全般説明)		職務適性検査	
	5月	公務員研究会		履歴書対策(自己分析編)	就職ガイダンス インターンシップガイダンス
	6月	自己分析・自己PR講座		SPI理解講座	
	7月			SPI受検(リクナビ)	
	8月			履歴書対策(志望動機編)	
	9月				インターンシップⅡ(夏季)
	10月	学科別就職ガイダンス 内定者(4年生)との座談会			
		自己分析・自己PR講座			
		業界・企業・職種研究セミナー			
	11月	学科別個人面談(～12月下旬)		履歴書対策講座①	
	後期 12月	面接対応 (ウォーミングアップ編)			
1月			WEB受験(マイナビ)		
2月	グループディスカッション			春季	
	面接マナー講座		就活直前総まとめ講座	インターンシップ	
	学内合説事前ガイダンス				
		合同企業説明会(3月)			
		単独企業説明会(3月～)、選考会(6月～)			
4年次	前期 6月	合同企業説明会(6月、9月)			
	8月				
	後期 11月				

就業力育成プログラム科目

就職支援プログラム

→就業力育成支援科目については、§ 2-8. 就業力育成プログラム参照

§ 6-1	各種証明書
§ 6-2	奨学金制度
§ 6-3	課外活動
§ 6-4	国際交流
§ 6-5	進路
§ 6-6	学生生活支援
§ 6-7	キャンパス美化

■就職支援体制

就職課の専任スタッフが個別相談に応じます。また、学生生活相談室では、キャリアカウンセラーが就職や進路に関する相談に応じます。

→ § 7-1. 施設案内 P.162

■就職活動のための交通費支援

福岡県外の企業の採用試験を受験する学生に対して、受験地までの往復交通費を支援します。(同窓会および教育後援会からの寄付も含む奨学金。利用回数は2回まで。利用金額に上限があります。)

■就職試験対策

就職課及びエクステンションセンターにて就職試験対策講座(SPI、公務員試験)を開講しています。

■セカンドキャンパス

就職活動の拠点となる東京、大阪、広島、福岡にセカンドキャンパスを開設していますので、第2の就職課として就職活動のサポートが受けられます。

■プラス1プロジェクト

本学卒業生に対し、卒業後1年を目処に無料で就職活動を支援します。

■特色

- ・本学大学院へ学内進学をする場合、入学金が免除されます。
- ・学部での成績が優秀な学生に対し、大学院入学後に奨励金を支給する制度があります。
- ・社会人、留学生のための入試制度を設け、昼夜開講制のカリキュラム編成を行っています。
- ・研究活動を支援するために、学会発表に要する旅費や宿泊費等の補助を行っています。
- ・学部4年次に大学院の授業科目を履修できる制度があります。
- ・大学院での成績が優秀な学生に対し、学業特別奨学生制度が適用されます。
- ・日本学生支援機構第一種奨学金を受給し、大学院修了時に優れた業績をあげた学生に対し、返還免除制度が適用されます。
- ・学部教育を補助するTA(ティーチング・アシスタント)に採用される制度があります。大学院生が、研究者・教育者となるうえでの指導力の向上および経済的支援を得ることができます。

■入学試験

- ・一般入試(一次、二次)、社会人入試、外国人留学生入試、学内推薦入試を実施しています。
- ・学内推薦入試の受験資格は、学部の3年次終了時点での学業成績が、所属する学科内で上位1/3以内に入っていることが条件になります。推薦入試は筆記試験が免除され、面接と出願書類で選考されます。

■進学説明会

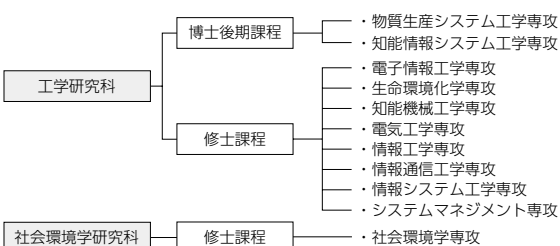
- ・大学院の進学説明会を年に2回実施しています。在学年次に関係なく参加できます。(4月下旬、1月下旬を予定)

2 大学院進学

本学大学院は、修士課程と博士後期課程から構成され、工学部、情報工学部の上に工学研究科、社会環境学部の上に社会環境学研究科を設置し、活発な研究活動を行っています。

修士課程を修了すると修士(工学または社会環境学)の学位が、博士後期課程の最終試験に合格すると博士(工学)の学位が、それぞれ授与されます。

■大学院の各専攻



§ 6-6. 学生生活支援

1 学生表彰制度

学業成績が特に優秀な学生を卒業時に表彰するほか、学術研究や課外活動、社会活動において国際的、全国的に顕著な業績が認められた学生やクラブ・サークルに対して、学長より表彰されます。

また、学部毎に学業や難関資格取得に取り組む学生を表彰します。

2 各種保険

■学生教育研究災害傷害保険（学研災）

教育研究活動中や課外活動中での事故に備えて、事故によって傷害を被った場合は、学生課に届け出てください。学生課より保険会社へ保険金請求の手続きを行います。本学では、全学生を対象とした学生教育研究災害傷害保険（学研災）に加入しています。

担保範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金 (180日を限度)
正課中、 学校行事中	2,000万円	程度に応じて 120万円～ 3,000万円	治療日数 1日以上が 対象3千円～ 30万円	1日につき 4,000円
上記以外で 学校施設内 にいる間・ 学校施設外 での課外 (クラブ)活 動中	1,000万円	程度に応じて 60万円～ 1,500万円	治療日数 14日以上が 対象3万円～ 30万円	
通学中・学 校施設等相 互間の移動 中	1,000万円	程度に応じて 60万円～ 1,500万円	治療日数 4日以上が 対象6千円～ 30万円	

※インターンシップや教育実習に参加する場合は、学研災付帯賠償保険（付帯賠償）に加入します。

※学外での課外活動中の傷害については、事前の届け出がないと保険の対象となりません。ゼミやサークルの合宿等、学外で活動するときは必ず学生課に届け出てください。

→ §6-3. 課外活動に関する手続き P.153

■学生生活補償制度

＜学生生活事故補償プラン（こども総合保険）＞

学生生活補償制度は、生活全般の事故を幅広く補償するもので、任意で加入（団体割引適用）することができます。新入生に対して入学前に案内しています。また在學生についても途中加入が可能ですので、詳しくは学生課にお問い合わせください。

3 同窓会

同窓会は、一般社団法人雄飛会として活動し、現在、国内に30支部あります。本学卒業生・短期大学部卒業生および大学院修了生により構成され、在學生は準会員とし、卒業と同時に正会員となります。在學生に対しては次のような活動を行っています。

修学支援	同窓会会員（卒業生）の子弟、準会員（在學生）の兄弟姉妹の本学および短期大学部入試受験料の免除
就職支援	就職活動の旅費交通費支援
学術・文化・スポーツ振興	課外活動への寄付援助
その他	会報誌の送付（年1回）

4 教育後援会

教育後援会は、本学と学生の保護者との連携を密にし、学生の修学を支援することを目的として、次のような活動を行っています。

教育懇談会の開催	毎年夏季休暇中に各県・各地区ごとに開催。教職員が本学の概況、学生の修学・就職状況を報告し、保護者からの要望や相談の場に対応
就職支援	・就職活動の旅費交通費支援 ・同窓会との就職連携支援 ・企業ネットワークの構築
学術・文化・スポーツ振興	大会の参加費・交通費の補助
留学生支援	留学生交流会の補助

§ 6-1	各種証明書
§ 6-2	学納金・奨学金制度
§ 6-3	課外活動
§ 6-4	国際交流
§ 6-5	進路
§ 6-6	学生生活支援
§ 6-7	キャンパス美化

5 健康管理

■保健室

学生の健康を維持し、増進させていくことを目的としています。健康的な学校生活を送るために、保健知識の提供、既往症のある学生の面談、身体的な悩みの相談に応じます。

また、保健室では、身長、体重、体脂肪、血圧の測定ができます。希望する方は気軽に利用して下さい。

■定期健康診断

本学では、新入学生と4年次への進級予定者を対象に定期健康診断を実施します。この健康診断は学校保健安全法に基づくもので、学生は必ず受診しなければなりません。未受診者については、教育実習、就職・進学時において必要な健康診断書の発行ができません。なお、治療が必要な学生については、本人または保証人(保護者)に連絡します。

■応急措置

学内において発病やケガをした場合は保健室で応急措置をします。また、治療が必要な場合は医療機関を紹介します。

※親元から離れて暮らしている場合は、保険証または遠隔地用被保険者証を所持していないと、医療機関において保険診療を受けることができません。

■学生相談室

健康面から日常のことまで、気軽に相談してください。臨床心理士が相談に応じるほか、定期的に精神科医による「心の健康相談」も行っています。一人でも、友達同士、保護者同伴での来談もできます。また、電話(092-606-7251)でも問い合わせや予約ができます。相談内容についての秘密は厳守されますので安心してご相談ください。

§ 6-7. キャンパス美化

1 環境保全

■環境への取り組み

本学では環境に配慮したエコキャンパスへの取り組みを行っています。

- ・省エネルギー、省資源の取り組みの推進
- ・ゴミの分別とゴミの削減
- ・学内売店にリサイクルバッグ（通称 ISO バッグ）を導入し、レジ袋の削減に貢献
- ・ペットボトルキャップのリサイクルを行い、ポリオワクチンを寄付する運動に参加
- ・毎月「キャンパスクリーンディ」にてキャンパスおよび大学周辺地域の清掃活動や、活動拠点「エコステーション」を通じて、地域住民と共同で街の環境美化を実施
- ・環境に配慮した建物の設計や施設設備の導入
- ・学内全面禁煙を実施し、健康や環境に対し配慮

- ・ゴミはできるだけ出さず、ゴミは必ずゴミ箱へ。キャンパスの美化に努めましょう。
- ・資源リサイクルのために、ゴミの分別を行いましょう。
- ・教室を最後に出る時には、電気やエアコンを消して、省エネルギーに協力しましょう。
- ・エレベーターやエスカレーターはできるだけ使わずに階段を使いましょう。また、エレベーター利用時は、1機のみを呼び出しましょう。
- ・売店利用の際には、できるだけシールか ISO バッグを使うようにしましょう。

2 ごみの分別

内 訳	分 別	備 考
可燃物	「燃えるごみ」へ	紙屑、弁当容器、紙パック飲料等
不燃物	「その他のごみ」へ	金属類、陶器類、プラスチック・ゴム類
古紙	古紙回収ボックスへ	新聞紙、書籍・雑誌、コピー用紙、雑紙
ビン・缶	「かん・びん」へ	スチール缶とアルミ缶の分別
ペットボトル	「ペットボトル」へ	ラベルとキャップは外して「燃えるごみ」へ
紙コップ	紙コップ回収ボックスへ	
電池類	乾電池回収ボックスへ	
プラスチック類・発泡スチロール	廃プラスチック類置場（A棟南ストックヤード）へ	

※機密文書の溶解処理、蛍光灯、PC・プリンターの回収は管財課へ連絡

[実験系廃棄物]

内 訳	分 別	備 考
実験廃液・廃薬品	指定の容器にて回収	無機系廃液、有機系廃液、廃油、廃薬品
実験排水（A棟）		排水基準値を超えないこと

§ 7

§ 7-1	施設案内	162
-------	------	-----

§ 7-2	設備案内	165
-------	------	-----

§ 7-3	キャンパス案内	166
-------	---------	-----

■ キャンパスマップ

■ 校舎配置図

■ 教室配置図

§ 7-1

施設案内

§ 7-2

設備案内

§ 7-3

キャンパス案内

施設・キャンパス

§ 7-1. 施設案内

■教育施設

施設名	利用時間	休館・閉室日	場所・連絡先
FIT Link (附属図書館)	平日 9:00~20:00 土曜 9:00~17:00	日曜、祝日、開学記念日、 一斉休暇期間	本部棟3F~5F 事務室4F 092-606-0691
	●自習およびグループ学習のためのスペースを設けています。		
	●開館日・開館時間・利用方法など詳細は、図書館Webサイト (http://www.lib.fit.ac.jp) で確認して下さい。		
●図書館WebサイトのmyLibraryで貸出・予約の確認、リクエスト、文献複写依頼などができます。			
PC室 ITコモンズ クリエイティブ・ラボ	平日 9:00~20:00 土曜 9:00~18:00 <small>※講義が行われていない時間帯は 自由に利用可能。</small>	日曜、祝日、一斉休暇期間	B棟2F 情報基盤センター 092-606-0692
	●土曜はB21PC室、ITコモンズ、クリエイティブ・ラボのみ開館		
モノづくりセンター	平日 9:00~21:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	α棟1F 092-606-7042
	●機械操作には技術講習会の受講が必要		
	●併設「音とモノづくりの歴史資料館」 → § 6-3. ②モノづくりセンタープロジェクト P.151		
エクステンションセンター	平日 9:00~16:30	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	本部棟1F 092-606-7089
	●資格取得支援講座、検定試験の申し込みや資格相談 ●エクステンションセンター資格サイト (http://shikaku.fit.ac.jp)		
フレッシュマンスクール	受付 9:00~17:00 個別指導 9:00~18:00 集合学習 2限~5限	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	E棟3F 092-606-7459
	●夏季休業中に集中講座を開講		
	→ § 2-9. ②フレッシュマンスクール P.37		
Global Student Lounge 国際連携室	平日 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	α棟2F 092-606-8070
	●留学、語学に興味のある学生のための学修スペース → § 6-4. 国際交流 P.154		

■共同教育研究施設

施設名	概要	場所
総合研究機構		
エレクトロニクス研究所	電子回路応用・電子デバイス及び生産工学等の研究	E棟1F
半導体デバイス製作実験センター	ハイレベルな半導体デバイスの実証研究	A棟8F
先端計測技術研究センター	画像技術とレーザ技術を融合した津波計測及び防災・減災システムの研究	B棟6F
食品農医薬品研究センター	食品、農産物、医薬品、バイオ等の研究	B棟6F
情報科学研究所	知能メディア・システム科学・情報応用分野の研究	E棟1F
電磁波計測センター	高周波・電磁波実験の模擬空間、広範囲の周波数帯をカバー	
環境科学研究所	環境保全技術・環境社会学に関する研究	B棟6F
あまみず社会研究センター	あまみずの質と量のモニタリングによる地域情報システムの構築	
物質・エネルギーデバイス研究センター	新素材の開発による革新的エネルギーデバイスの実現	
※エレクトロニクス研究所の付属施設「計測センター」には、最新鋭の EPMA(電子線マイクロアナライザ)、三次元光学プロファイラ、FE-SEM(電界放出形走査電子顕微鏡)、FTIR(フーリエ変換赤外分光光度計)、顕微鏡分光装置、ICP(誘導結合プラズマ発光分光分析装置)など、高性能分析機器を揃えています。学生は教員の指導の下、分析機器を利用することができます。また、情報科学研究所にはモーションキャプチャー、生体情報計測装置等の機器も設置されています。		
情報基盤センター	共同利用ICT設備(学内ネットワークを含む)の運用・管理	B棟2F
工作センター	工作機械、溶接機、プラズマ切断機等工作設備での実習	D棟1F
教養力育成センター	全学の教養教育カリキュラムの編成、運営	-

■スポーツ施設

施設名	利用時間	場所	備考
FITアリーナ・小体育室 トレーニングルーム	平日 9:00~16:10	FITアリーナ	●体育館シューズを着用のこと
FITアリーナWESTコート	平日 9:00~16:10	FITアリーナ隣	●クラブ・サークルで使用する時は、FITアリーナ管理人へ申請のこと
EASTコート	全日 9:00~20:00 ※16:30以降は体育会クラブ・サークルが利用する場合があります。	A棟隣	●クラブ・サークルで使用する時は、事前に学生課（E棟2F）へ申請のこと
テニスコート		新宮総合グラウンド	
フットサルコート		塩浜総合グラウンド	
多目的グラウンド			
アイスホッケーリンク			

●スポーツ施設および用具の利用については、学生課で申し込みを行います。 → §6-3. 4施設・用具の利用 P.153

■学外研修施設

施設名	休館日	場所	備考
FITセミナーハウス	毎月第1水曜日	大分県由布市 湯布院町	●学生は3,000円（1泊2食付）で利用できます。予約・問い合わせはアドバンス（B棟1F）にて受付

■学生相談

施設名	利用時間	閉室日	場所・連絡先
保健室	平日 9:00~18:00 (第4火曜 健康相談)	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟B1F 092-606-7293
	●相談したい時は直接来室または電話で予約してください。 ●AED（自動体外式除細動器）を、保健室前に設置しています。		
学生相談室	平日 9:30~16:30	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟B1F 092-606-7251
	●悩み事・心のケア・学生生活全般について臨床心理士（常勤）が担当します。		
	火・木曜 14:20~17:00	土・日曜、祝日、 長期休暇期間	B棟B1F 092-606-7251
●悩み事・心のケア・学生生活全般について臨床心理士（非常勤）が担当します。			
留学生談話室	平日 9:00~18:00	土・日曜、祝日	B棟B1F

■学生食堂

施設名	利用時間	休業日	場所・連絡先
レストラン OASIS	平日10:30~15:00		B棟1F
FIT CAFE	平日 8:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟1F
A&S Learning Cafe	平日10:30~18:00		C棟1F

■生活施設

施設名	利用時間	休業日	場所・連絡先
A棟売店	平日 8:30~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	A棟1F 092-606-6410
セブンイレブン	平日 8:00~20:00 土曜 9:00~17:00	日曜、祝日、年末年始	B棟1F 092-605-6363
C棟売店	月~金曜 8:30~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	C棟1F 092-608-1607
紀伊國屋書店	平日 9:30~17:00 (講義期間外は短縮営業)	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	C棟1F 092-608-5080
PCインフォスクエア (パソコンサポート& サービスカウンター)	平日 8:50~17:30 (講義期間外は短縮営業)	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟2F 092-605-0557
	<ul style="list-style-type: none"> ●Microsoftとのライセンス契約により、主要ソフトを無償で提供 ●大学推奨ノートPCに関する相談 		
ラド観光 (情報プラザ)	平日 9:30~17:00	土・日曜、祝日、年末年始	B棟B1F 092-605-7050
アドバンス (アルバイト・アパート・下宿紹介・ FITセミナーハウス予約受付)	9:00~18:00 (4~9月) 9:00~19:00 (10~3月)	日曜、祝日 (10月~3月は年末年始を 除き無休)	B棟1F 092-605-6620
Hair make +plusα (理容室)	月~土曜 10:00~19:00	日曜、祝日、一斉休暇期間	B棟B1F
ATM (キャッシュコーナー)	ゆうちょ銀行 月~金曜 9:00~17:00 土曜 9:00~12:00 福岡銀行・西日本シティ銀行 平日 9:00~18:00 土曜 9:00~14:00	日曜、祝日、一斉休暇期間	C棟1F
セブン銀行	月~金曜 8:00~20:00 土曜 9:00~17:00	日曜、祝日、一斉休暇期間	B棟1F
雄飛会事務局 (同窓会)	平日 10:00~16:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟B1F 092-608-5982
教育後援会	平日 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	C棟2F 092-608-2037
コピー機	平日 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	E棟2F学生サポートセンター A・C棟売店にも設置 B棟2Fクリエイティブ・ラボ
●白黒コピー (1枚10円)			

■郵便ポスト

回収時間	場所・連絡先	備考
平日 12:29頃、15:14頃 土曜 12:55頃、15:30頃 日曜 10:20頃、12:55頃	本部棟前	●切手はA棟売店、 セブンイレブン、 C棟売店にて販売

§ 7-2. 設備案内

■情報基盤センター設備と学内ネットワークの利用

アカウント (ユーザー ID・パスワード)	myFIT および PC 室・IT コモンズ (B 棟2F) の利用に必要な PC 室アカウント情報は、入学時に全学生に付与され、在学期間中有効です。
電子メール (WebMail)	各自のメールアドレスは、在学中および卒業後 1 年間利用できます。 ・メールアドレス：ユーザー ID@bene.fit.ac.jp
情報基盤センター PC 室	PC 室 (大小 7 教室)、IT コモンズ、クリエイティブ・ラボ及びリフレッシュコーナーに合計 609 台の PC (Windows10 搭載) が設置されています。授業時間以外は、自由に利用することができます。利用可能な時間は myFIT の PC 室予定表ページおよび情報基盤センターシステム管理室前のインフォメーションボードで確認できます。
IT コモンズ	IT コモンズ (B 棟 2 階) は、高性能 PC 45 台とプリンター 2 台及び可動式ホワイトボードを備え、ICT を活用しつつ、個人やグループによる自学修のための開放感ある学修フリースペースです。開館時間内に自由に入出入りしてご利用可能です。
クリエイティブ・ラボ	学生の皆さんの知識やアイデアをアウトプットするクリエイティブな創作活動のために、特別な高性能 PC に大型のディスプレイやペンタブレットが併用され、Adobe ソフトウェアや AutoCAD のほか Office や Visual Studio 及び BI ツールである Tableau を完備しています。 ※入館証借用時には学生証が必須です。 ※入館証返却は貸出当日の終了時間迄に必ずご返却ください。
マイクロソフト 包括ライセンス	マイクロソフトとのライセンス契約により、Windows をはじめ Office (Word, Excel, PowerPoint, Access)、Visual Studio (プログラム開発)、Visio (作図)、セキュリティ対策ソフトなどマイクロソフト主要製品が常に最新バージョンで利用できます。個人の PC に導入する場合は、PC インフォスクエア (B 棟2F) にてインストールを行ってください。
学内総合情報ネットワーク (FITNeS)	LAN 接続端子と電源を併設した情報コンセントと多数の無線 LAN スポットを各棟に設置しており、インターネット利用も可能です。また、学外からも VPN (Virtual Private Network) 接続を介して、学内限定ネットワークサービスを利用することができます。
授業支援システム	PC 室は、教材の配布・回収機能やレポート提出機能による授業の双方向コミュニケーションを実現しています。
サポート	PC・ネットワークに関することは、情報基盤センター (B 棟2F) にてお尋ねください。17 時以降はシステム相談員が対応します。ただし、授業や課題に関する問合せは、科目担当教員に直接確認してください。 大学推奨ノート PC の保証・修理申し込み、ライセンスソフトウェア導入、印刷用紙などの購入は、PC インフォスクエア (B 棟2F) にて行えます。

※他人によるアカウントの無断使用および不正使用を防ぐため、定期的にパスワードの変更を行ってください。その際、他人に容易に推測されないよう、英数字 8 文字以上の設定を行ってください。

※学内ネットワークおよび情報基盤センター施設・設備におけるゲーム利用やビデオ視聴、有害サイト閲覧およびファイル共有ソフトウェア利用を固く禁止します。

※ネットワークを介したコミュニケーションサービス (電子メール、掲示板、ブログのコメント、ソーシャルメディアなど) を用いて個人や組織に対し、不快や損害を与える行為および助長など、あらゆるハラスメント行為を固く禁止します。また、気軽な書き込みが社会への反響や個人情報の開示を招くことに注意しましょう。

■ AED (自動体外式除細動器)

電極のついたパッドを裸の胸の上に貼ると、自動的に心臓の状態を判断し、心臓が細かくふるえて血液を全身に送ることができないようであれば、電気ショックを与えて心臓を正常に戻す機器で、以下の場所に設置しています。

〈大学・短大〉

守衛室・FIT アリーナ (1 F 玄関)・A 棟 1 F エレベータホール・B 棟地下 1 F (保健室前)・B 棟 5 F (短大事務室前)・E 棟 1 F (総合研究機構)・本部棟 3 F (図書館受付)・コスモス寮 (事務室)

〈高校〉

城東高校 (高校事務室前、保健室前、体育館 1 F)

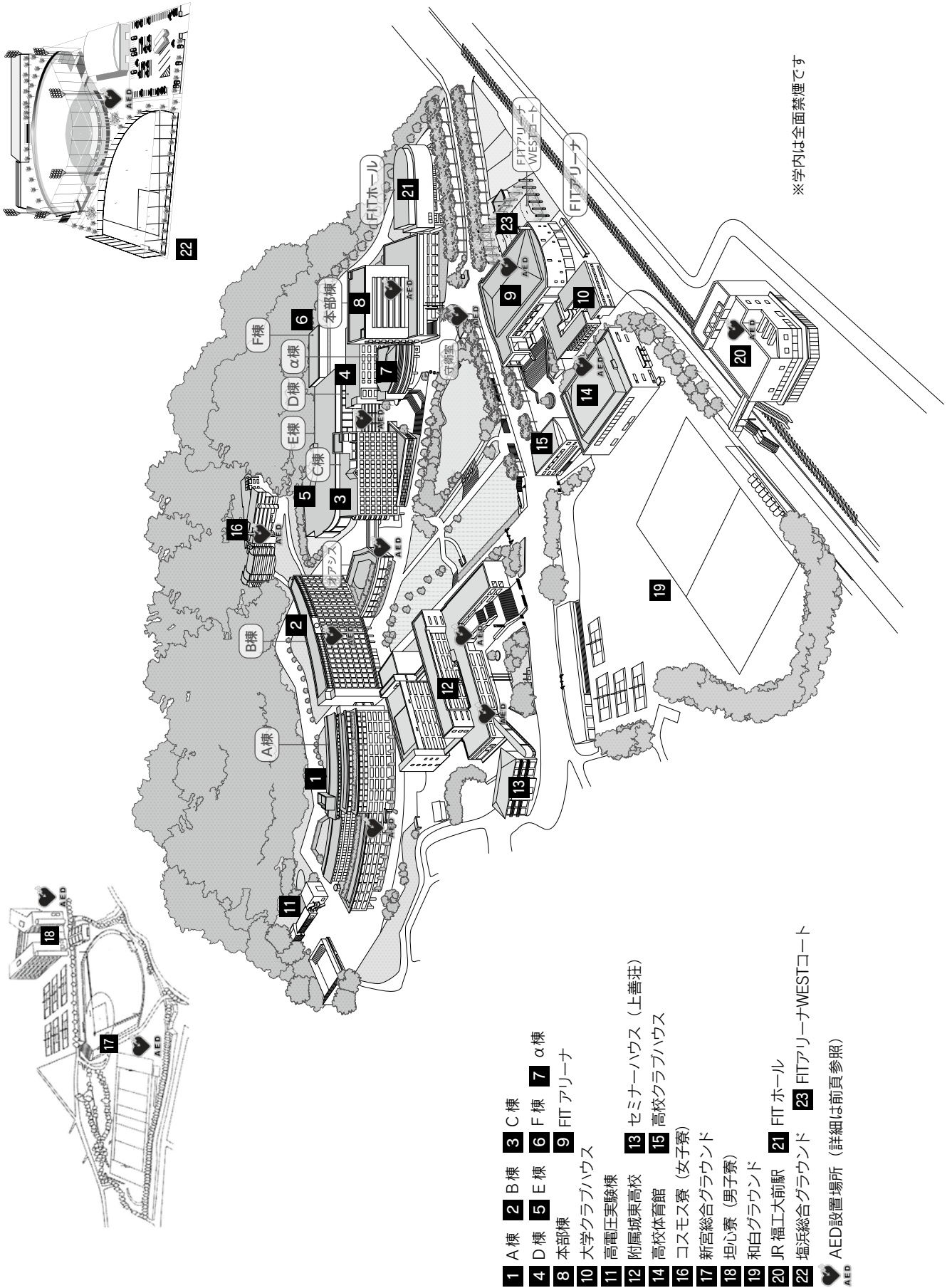
〈学外〉

坦心寮・新宮グラウンドラグビー場 (スタッフルーム)・塩浜総合グラウンド (硬式野球部事務室内)

・JR 福工大前駅 (駅所有)

§ 7-3. キャンパス案内

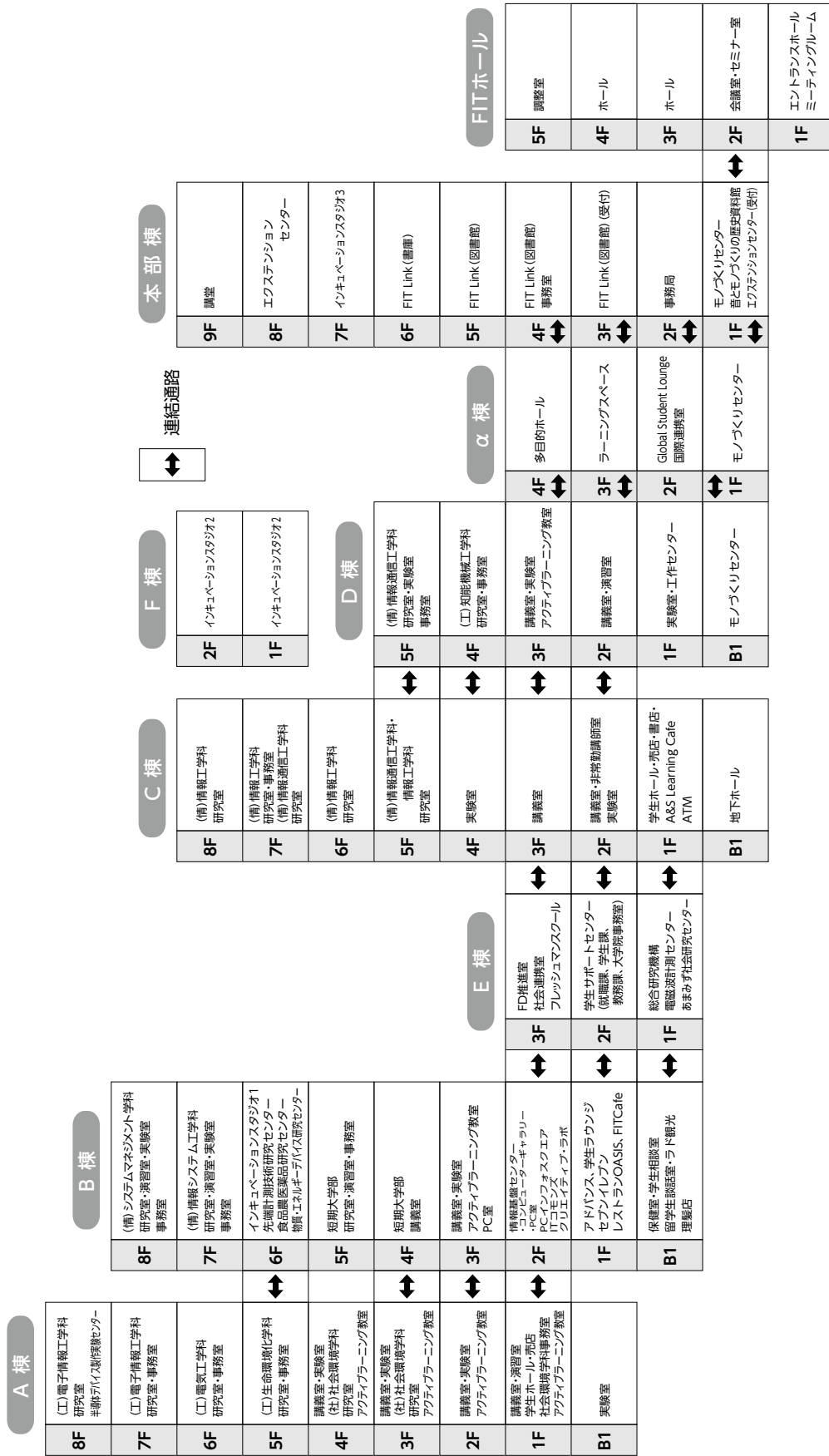
1 キャンパスマップ



- 1 A棟
- 2 B棟
- 3 C棟
- 4 D棟
- 5 E棟
- 6 F棟
- 7 α棟
- 8 本部棟
- 9 FITアリーナ
- 10 大学クラブハウス
- 11 高電圧実験棟
- 12 附属城東高校
- 13 セミナーハウス（上善荘）
- 14 高校体育館
- 15 高校クラブハウス
- 16 コスモス寮（女子寮）
- 17 新宮総合グラウンド
- 18 担心寮（男子寮）
- 19 和白グラウンド
- 20 JR 福工大前駅
- 21 FIT ホール
- 22 塩浜総合グラウンド
- 23 FITアリーナWESTコート

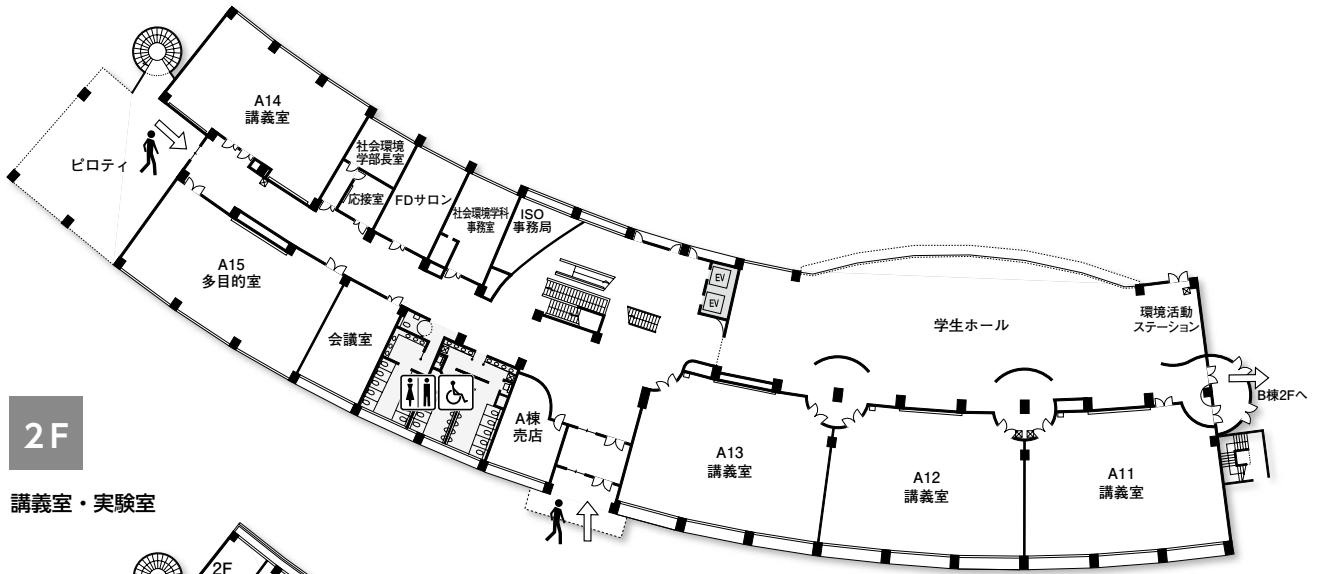
 AED設置場所（詳細は前頁参照）

2 校舎配置図

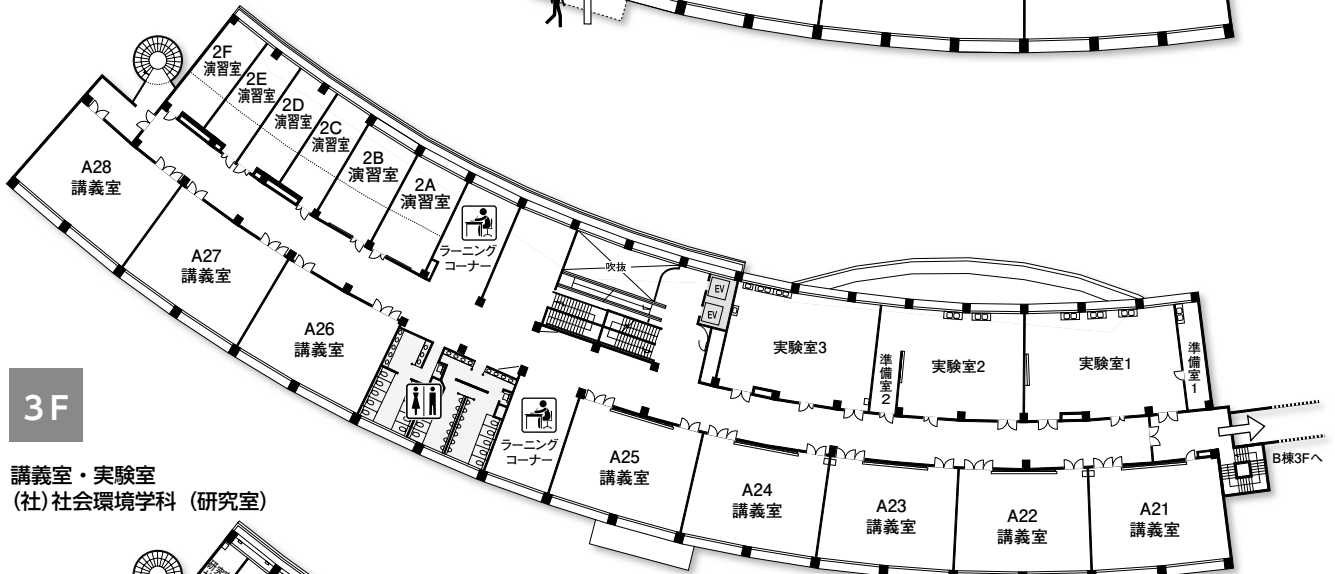


3 教室配置図 | A棟

1F 講義室・演習室・学生ホール
売店・社会環境学科事務室



2F 講義室・実験室



3F 講義室・実験室
(社)社会環境学科 (研究室)

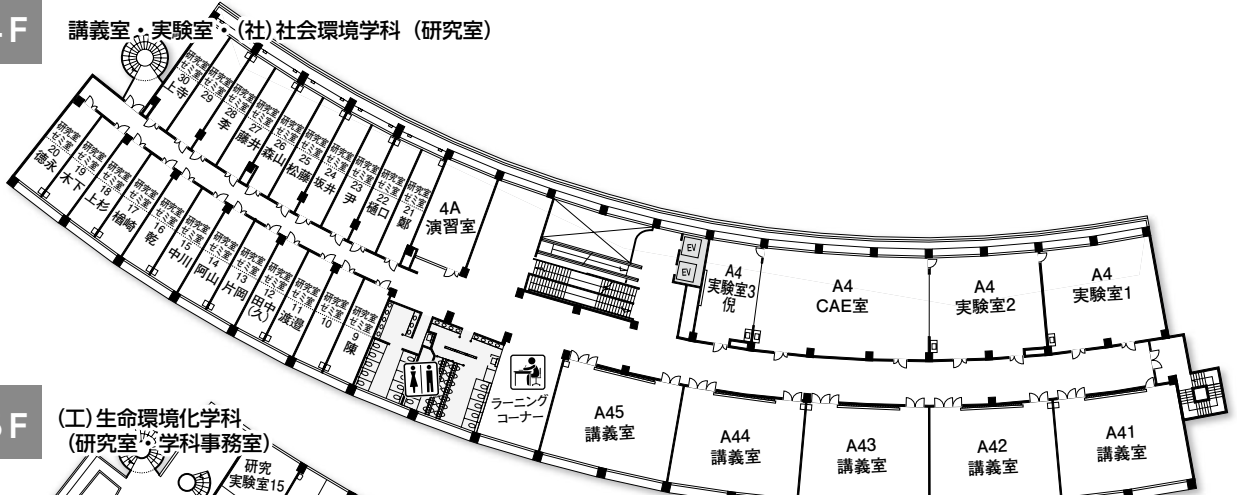


お手洗い エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
勉学のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

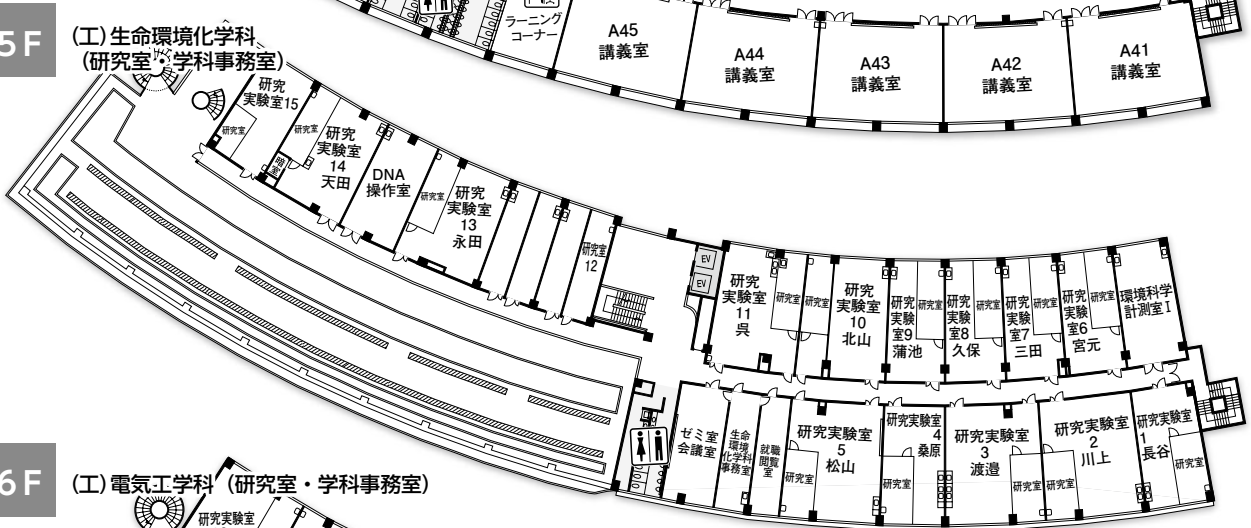
4F

講義室・実験室 (社) 社会環境学科 (研究室)



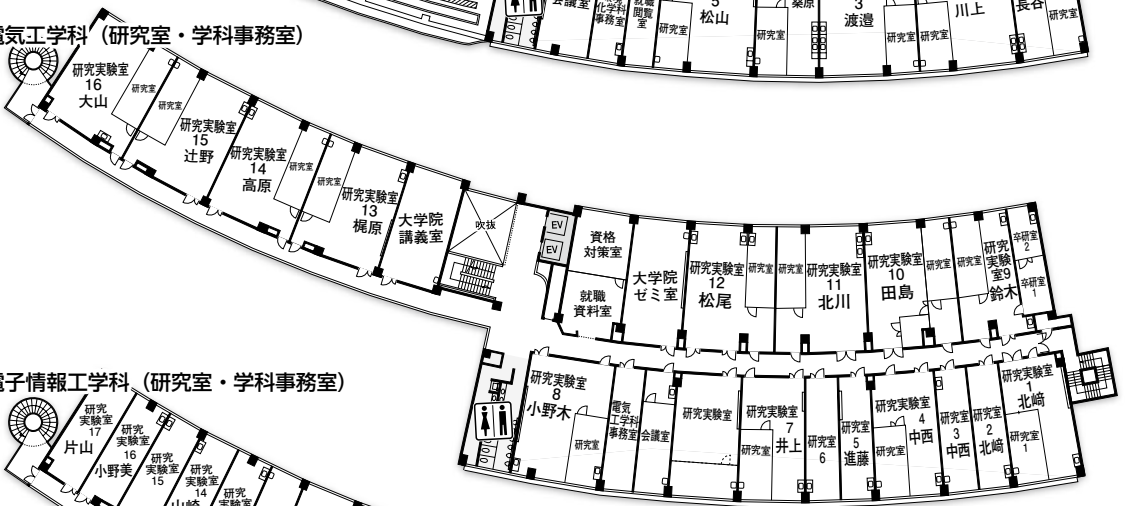
5F

(工) 生命環境化学科 (研究室・学科事務室)



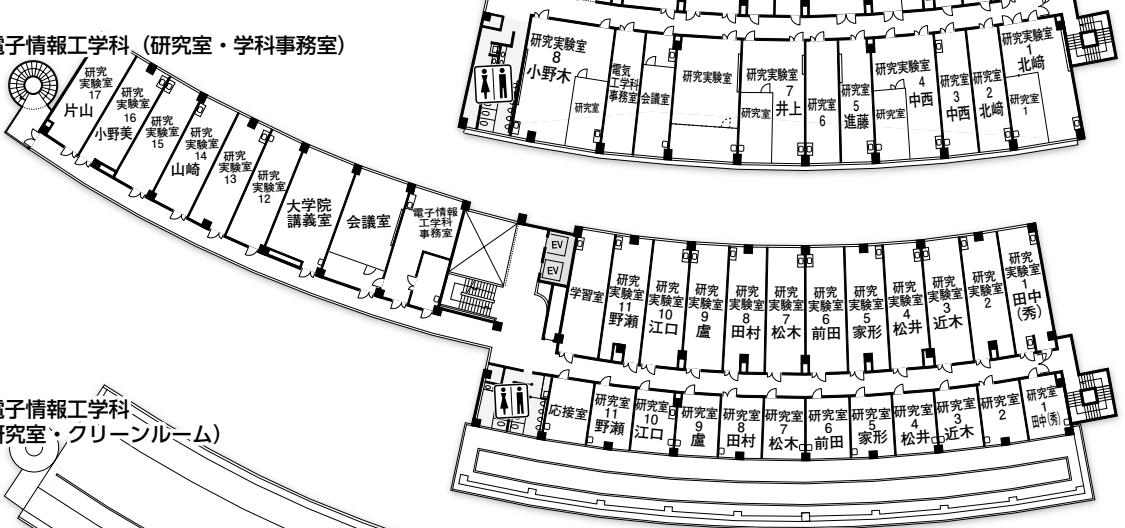
6F

(工) 電気工学科 (研究室・学科事務室)



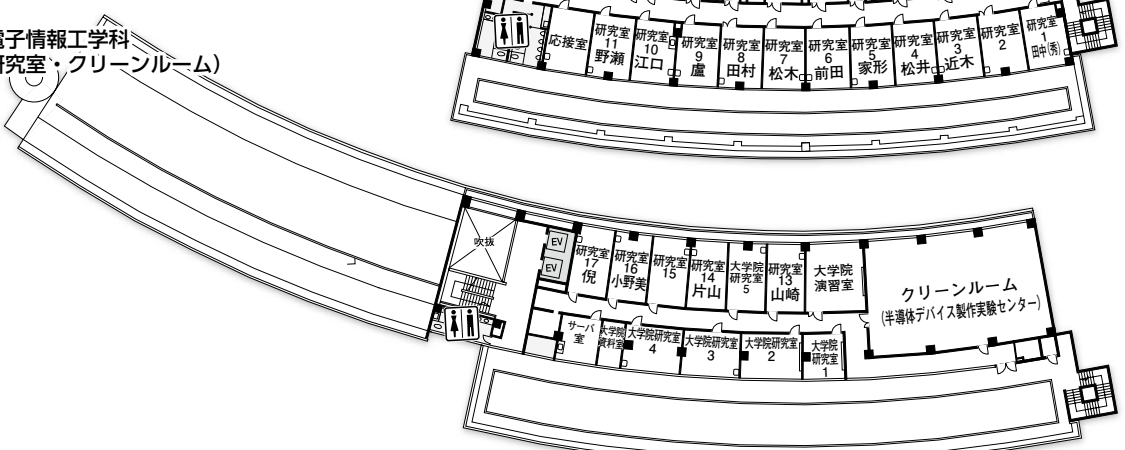
7F

(工) 電子情報工学科 (研究室・学科事務室)



8F

(工) 電子情報工学科 (研究室・クリーンルーム)



§ 7-1
施設案内

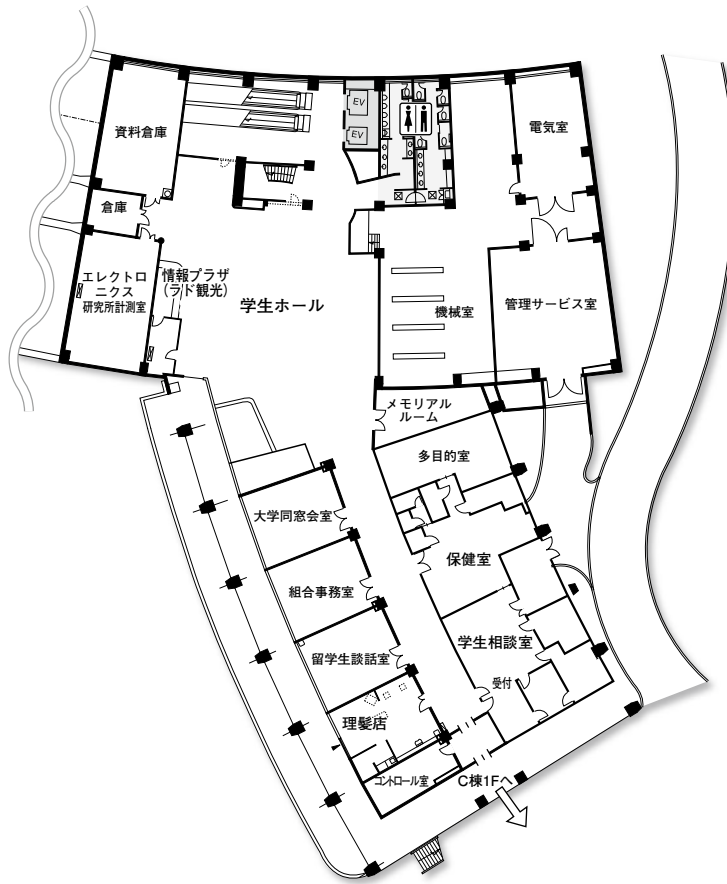
§ 7-2
設備案内

§ 7-3
キャンパス案内

教室配置図 | B棟

B1F

- 保健室
- 学生相談室
- 留学生談話室
- ラド観光
- 理髪店

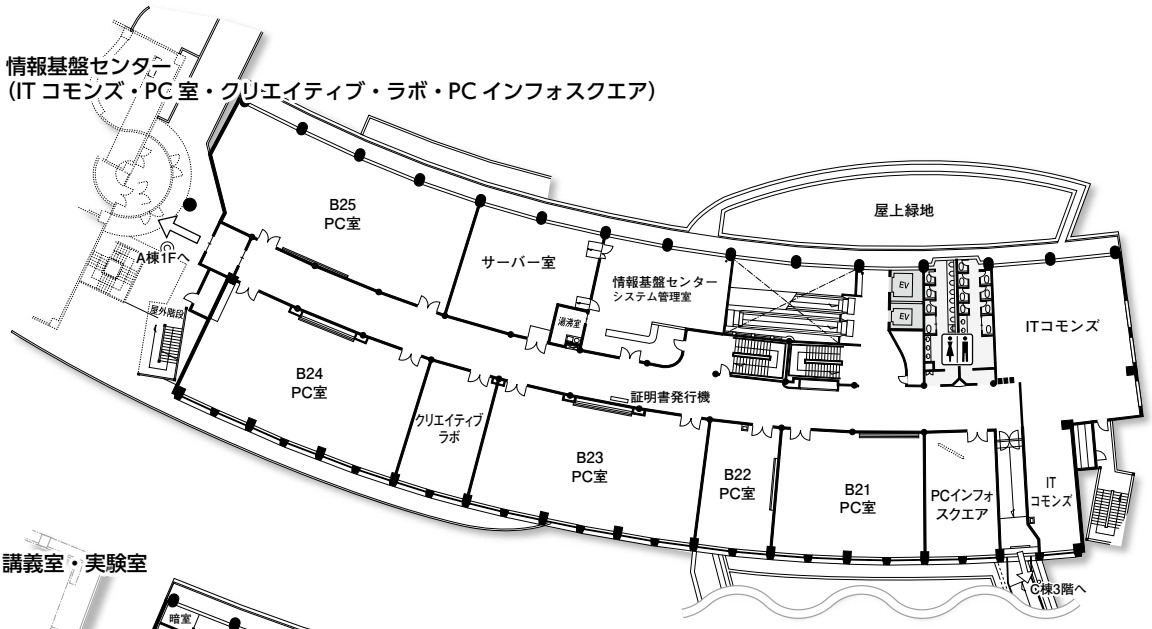


- ## 1F
- 学生ラウンジ (セブンイレブン)
 - アドバンス
 - レストランOASIS、FITCafe

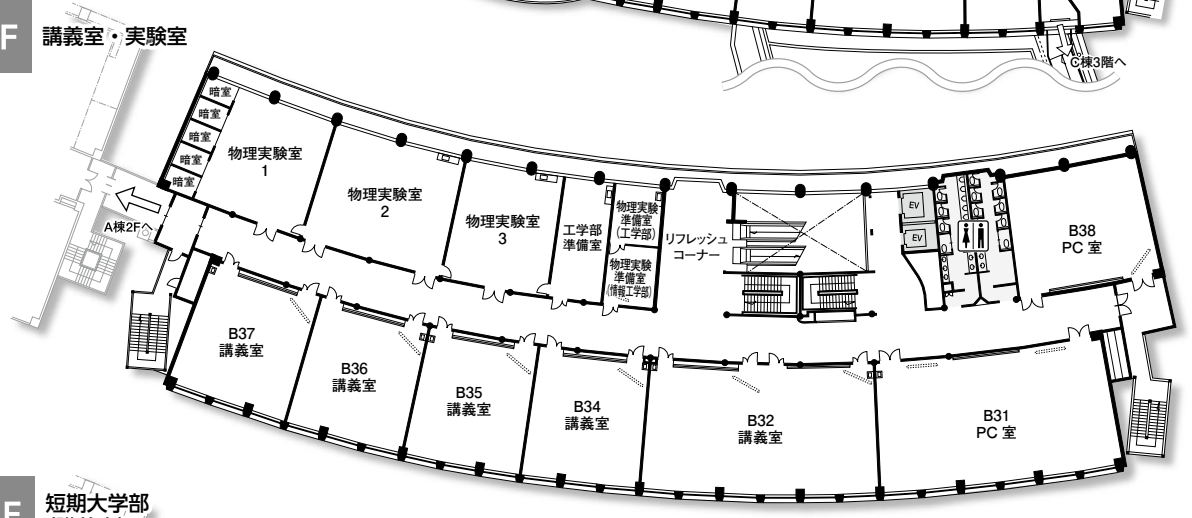
お手洗い
 EV エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
 勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

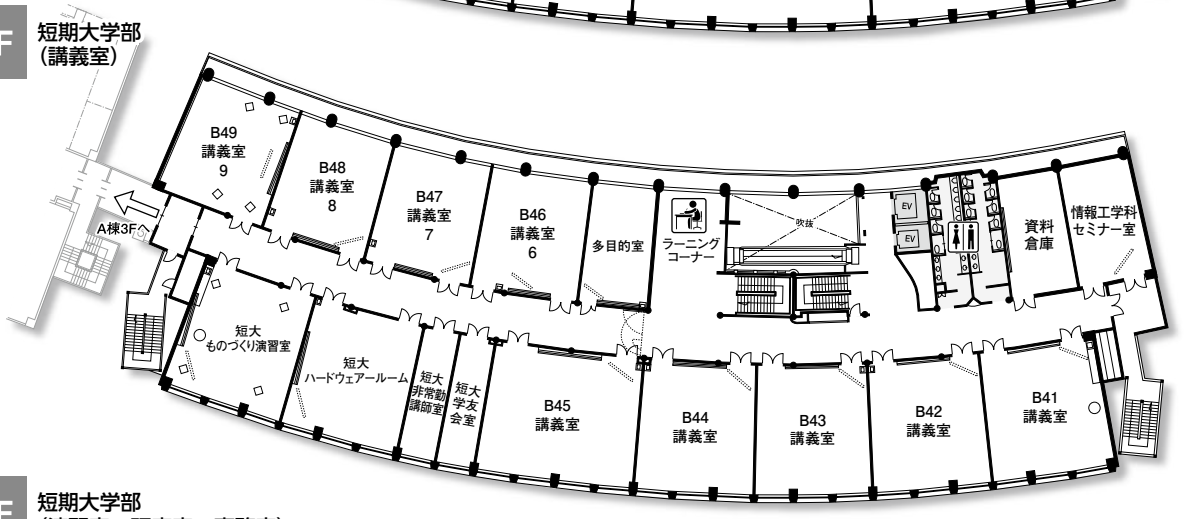
2F 情報基盤センター
(IT コモンズ・PC 室・クリエイティブ・ラボ・PC インフォスクエア)



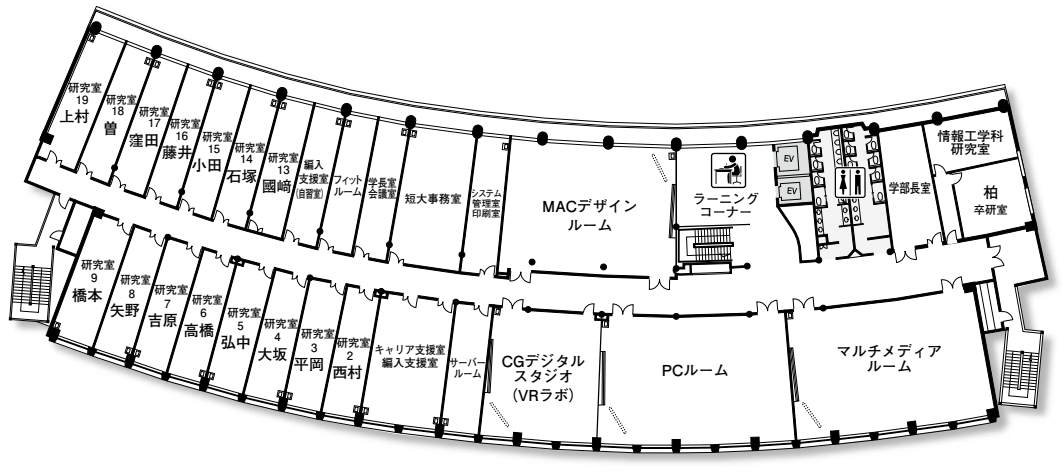
3F 講義室・実験室



4F 短期大学部
(講義室)



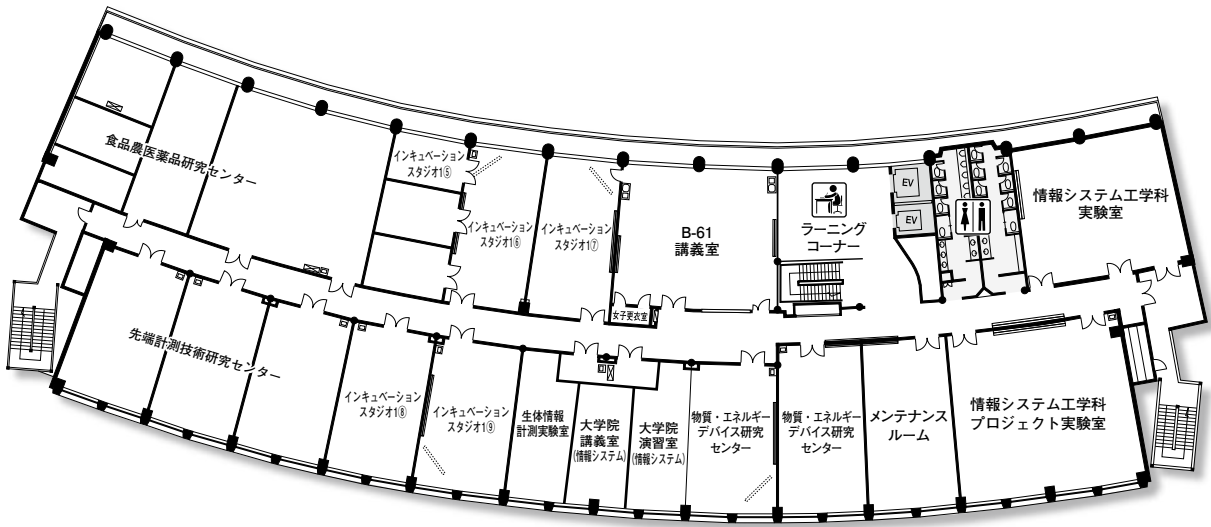
5F 短期大学部
(演習室・研究室・事務室)



§ 7-1	施設案内
§ 7-2	設備案内
§ 7-3	キャンパス案内

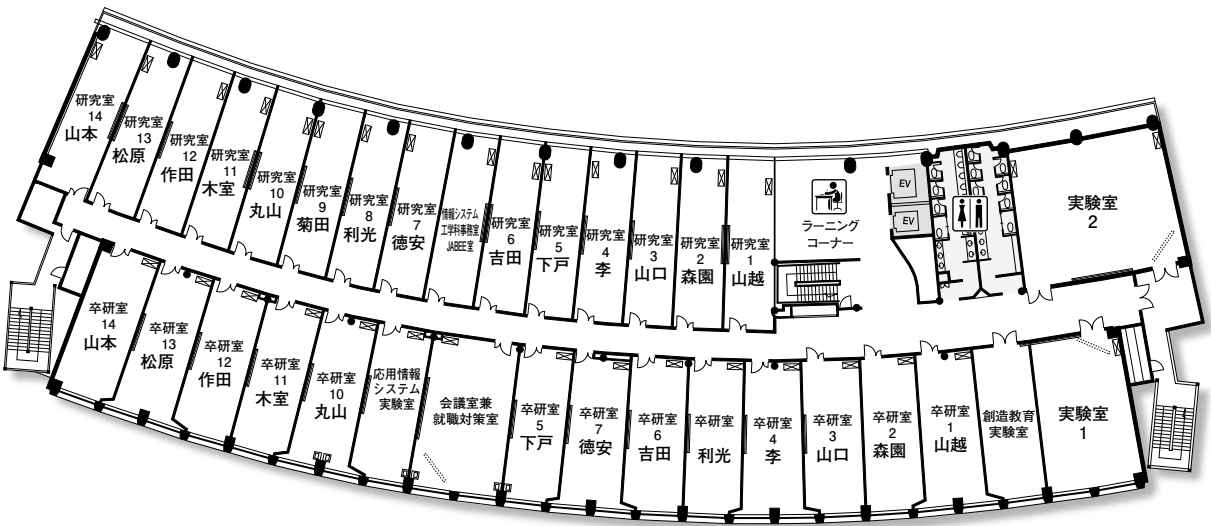
6F

インキュベーションスタジオ 1
(先端計測技術研究センター、食品農医薬品研究センター、物質・エネルギーデバイス研究センター)



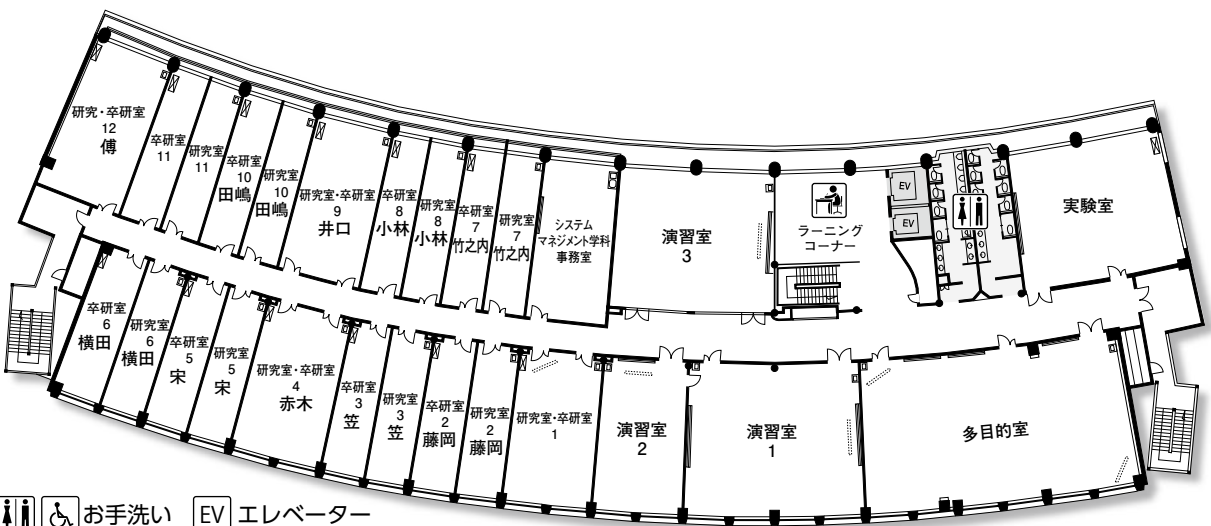
7F

(情) 情報システム工学科
(研究室・実験室・学科事務室)



8F

(情) システムマネジメント学科
(研究室・演習室・実験室・学科事務室)



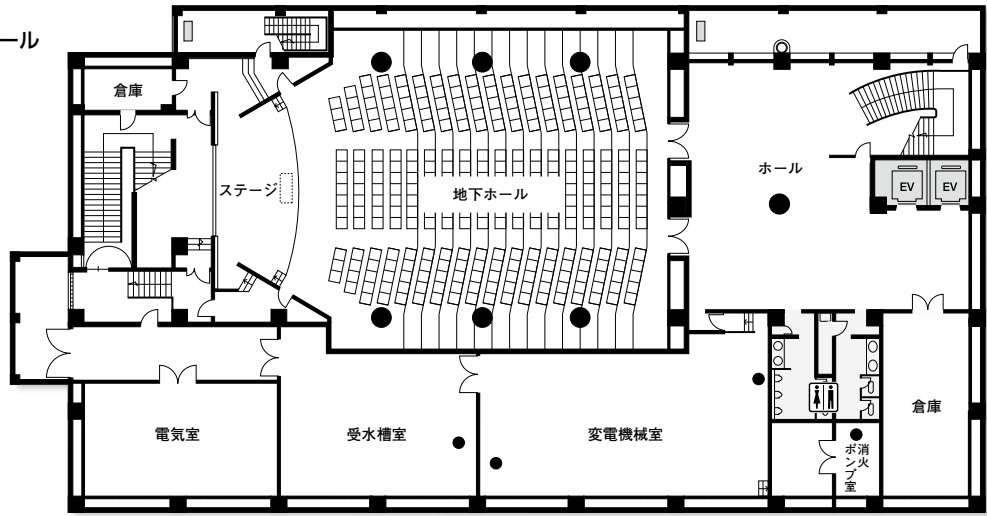
お手洗い EV エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
勉学のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

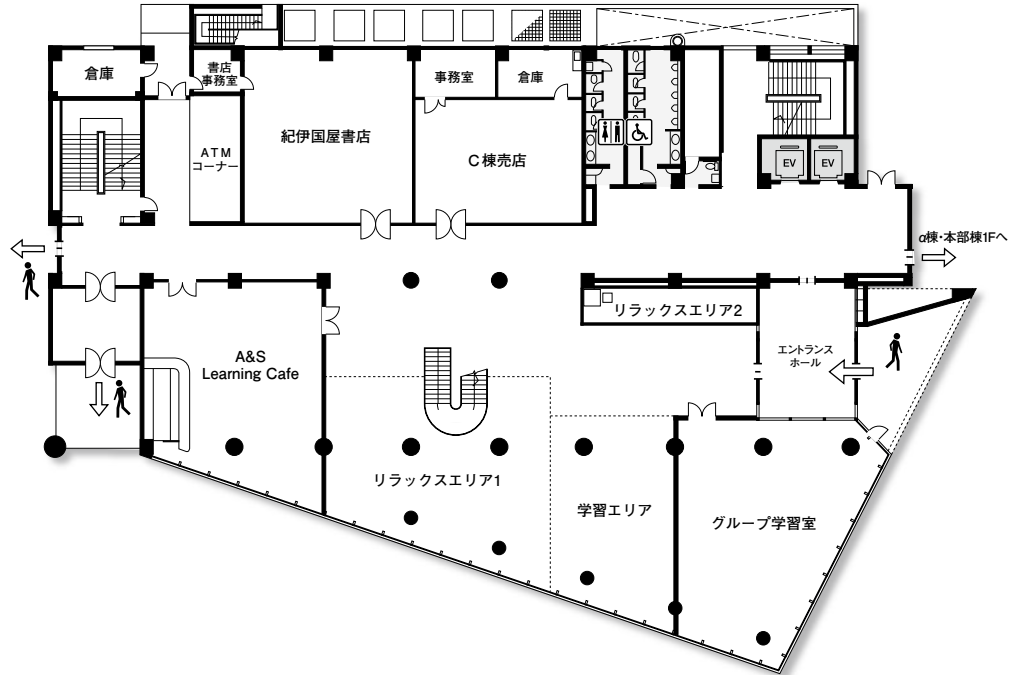
教室配置図 | C棟

§ 7-1
施設案内
§ 7-2
設備案内
§ 7-3
キャンパス案内

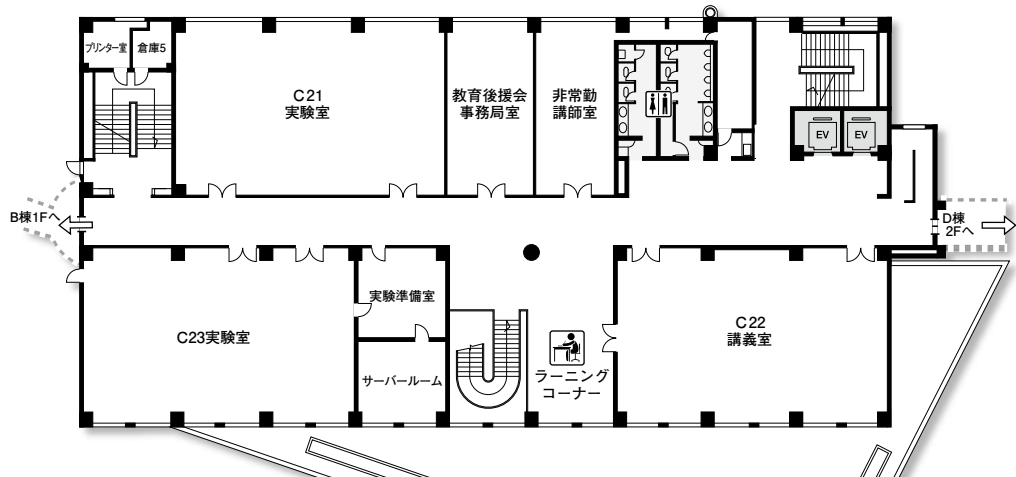
B1F 地下ホール



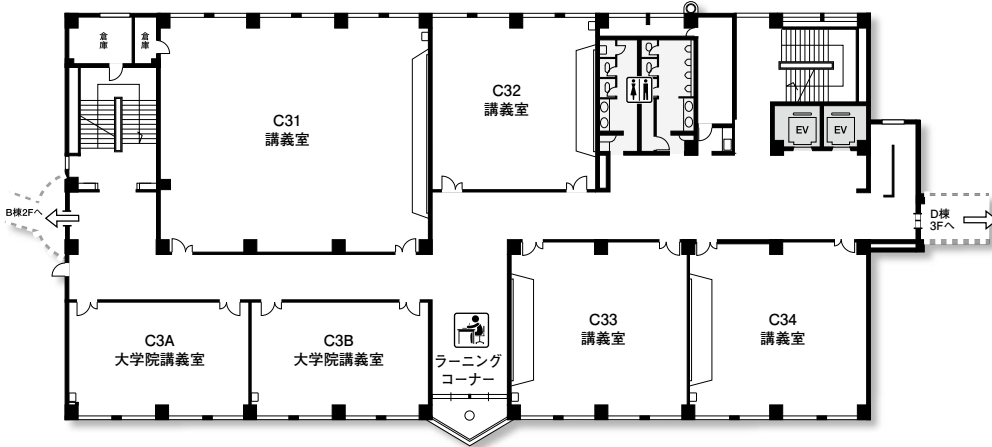
1F 学生ホール、売店、書店、A&S Learning Cafe、ATM



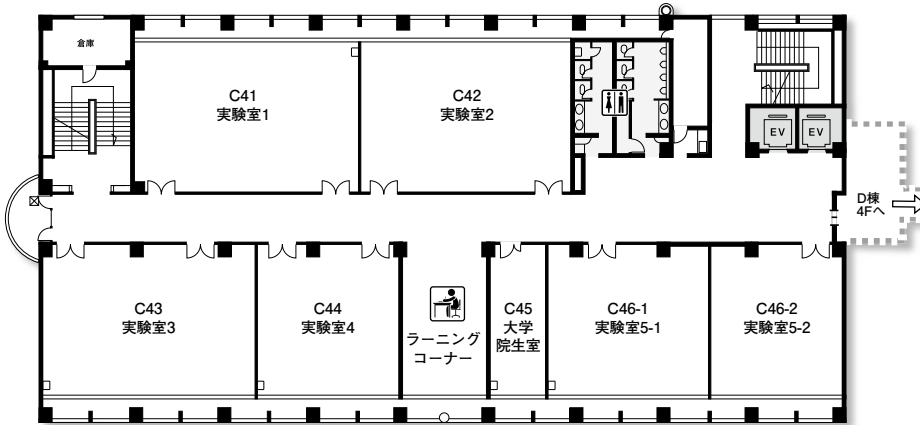
2F 講義室、非常勤講師室



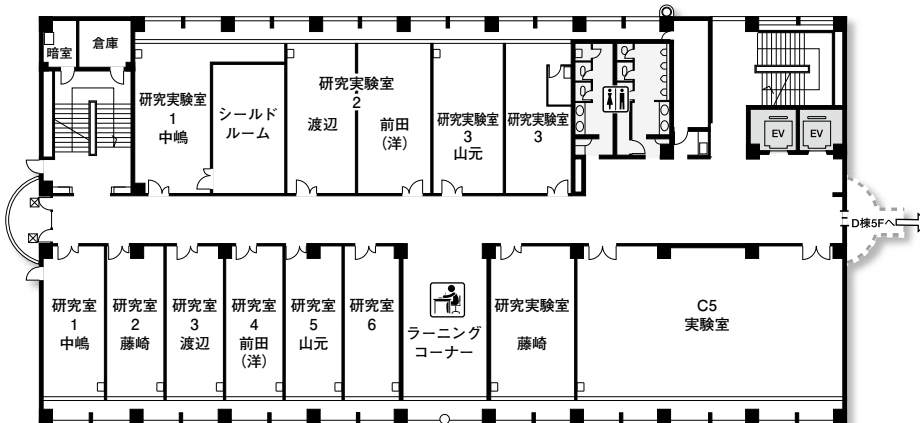
3F 講義室



4F 実験室



5F (情) 情報通信工学科(研究室)、情報工学科(研究室)

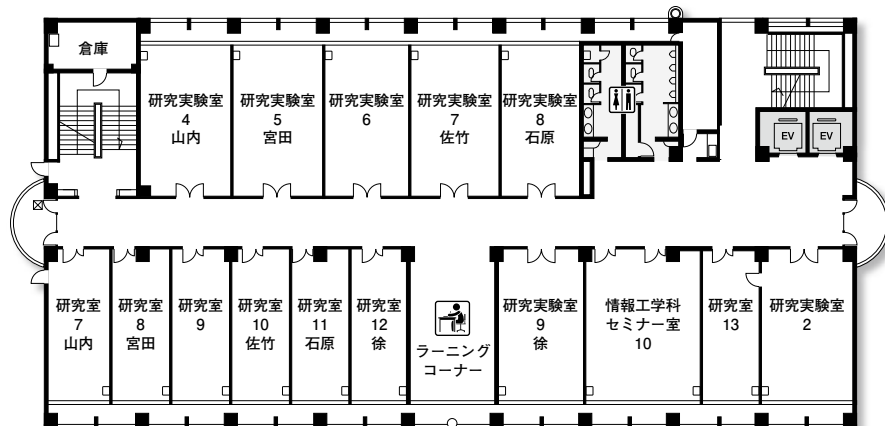


お手洗い

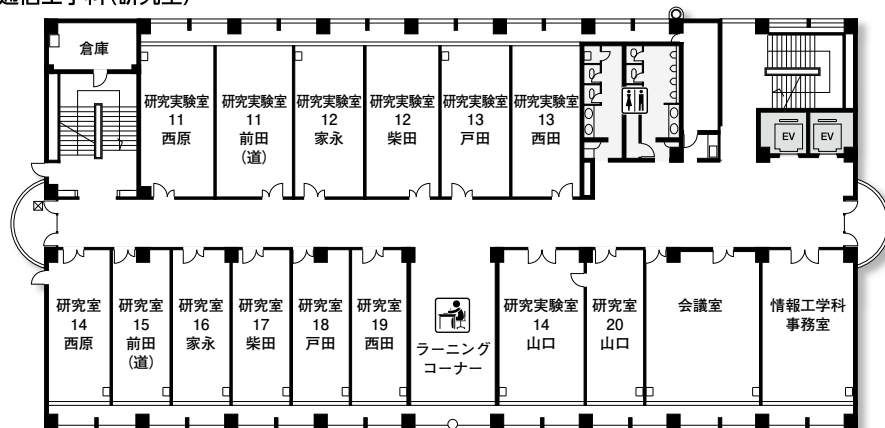
 エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
 勉学のための場所です。大声で話したりゲーム等を行うことは禁止です。

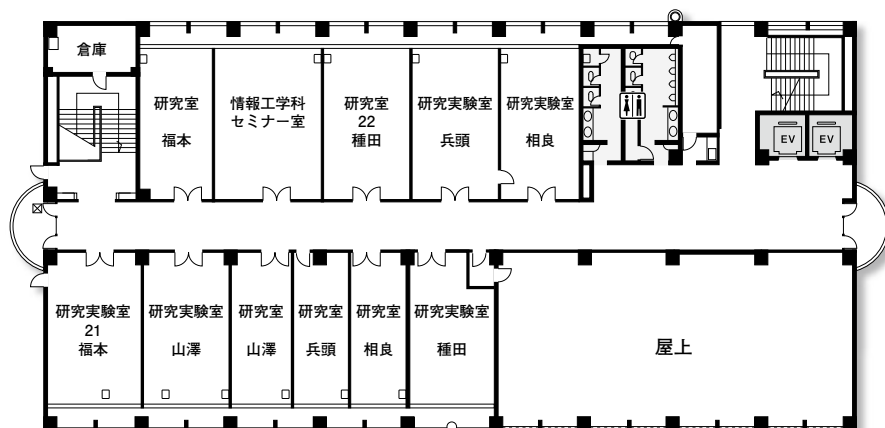
6F (情) 情報工学科(研究室)



7F (情) 情報工学科(研究室・学科事務室)、
情報通信工学科(研究室)

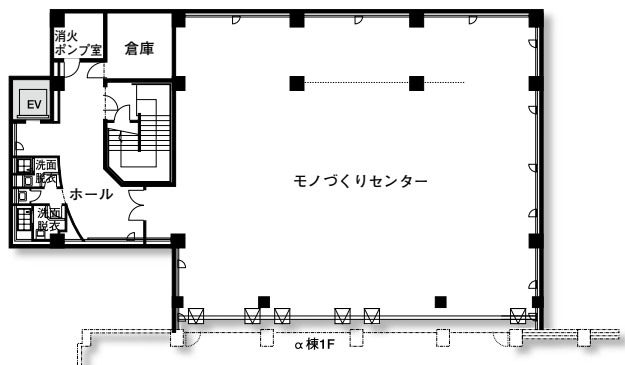


8F (情) 情報工学科(研究室)

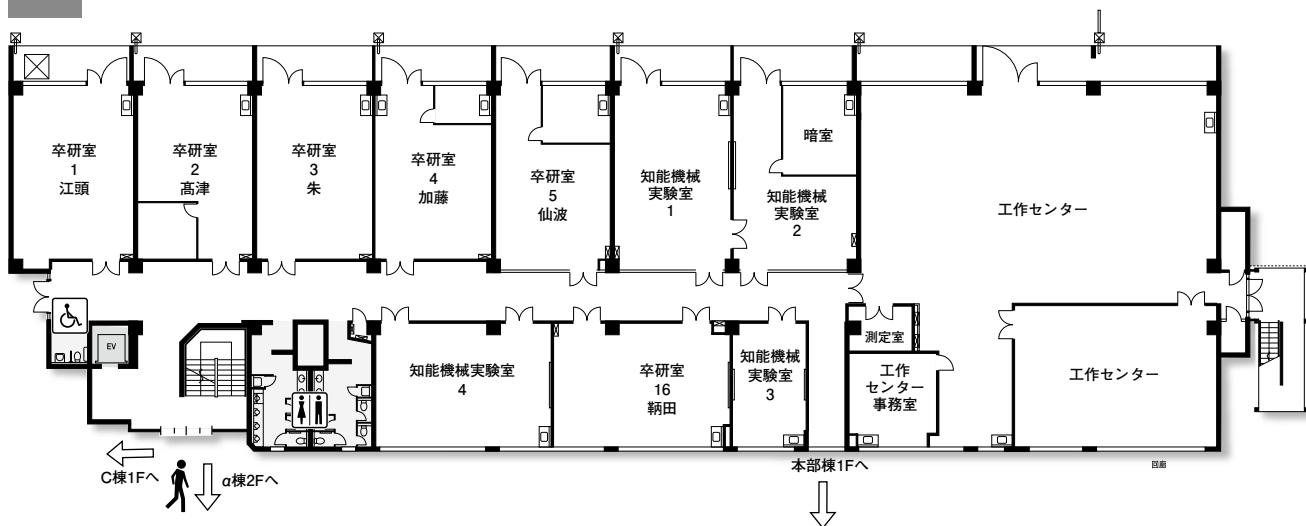


教室配置図 | D棟

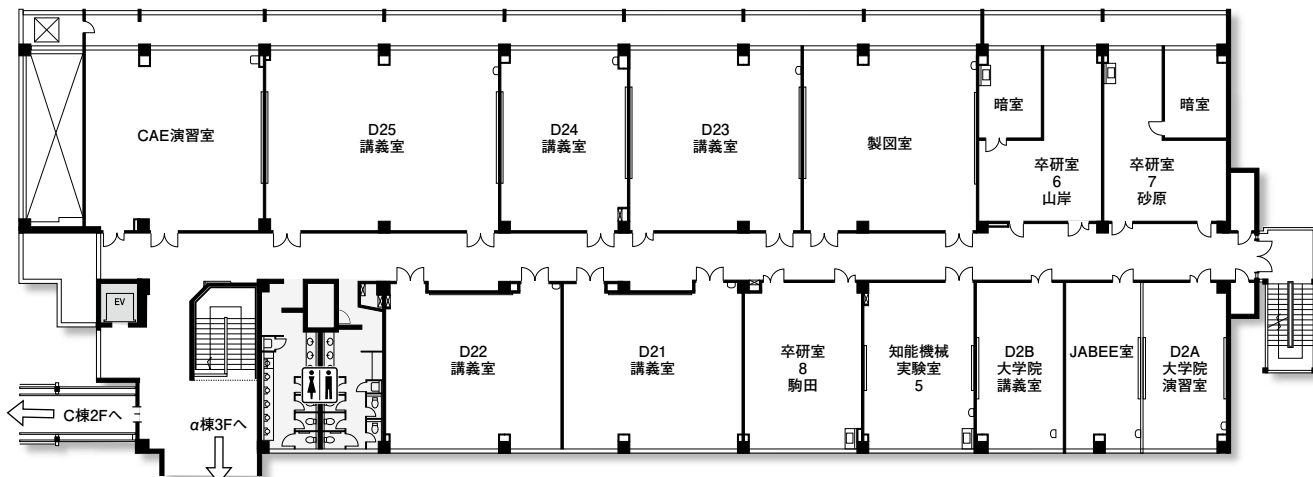
B1F モノづくりセンター



1F 実験室、工作センター



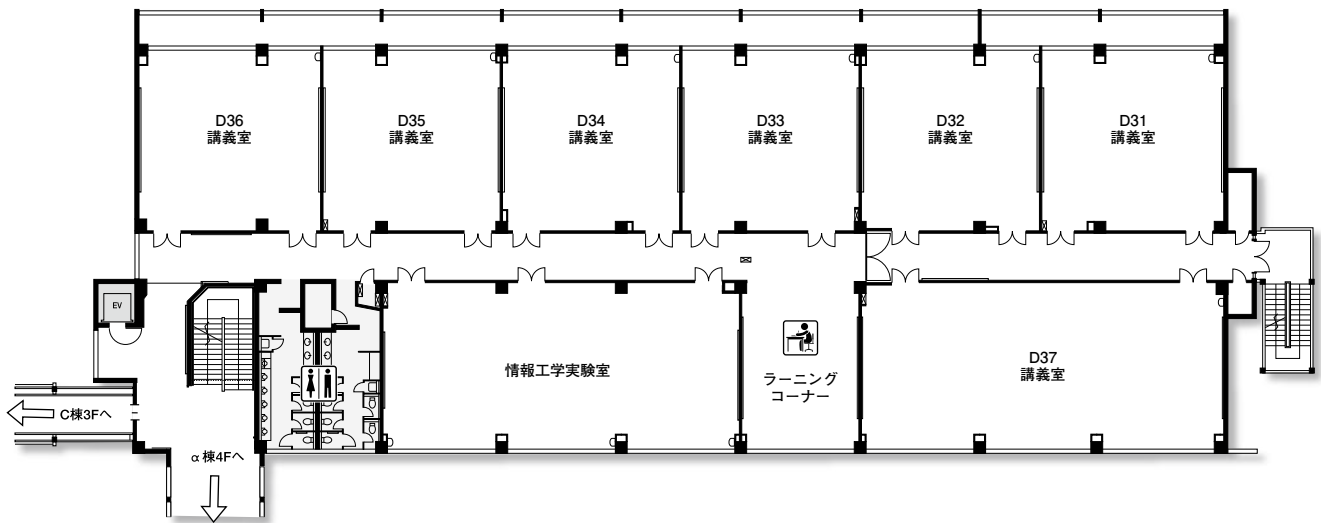
2F 講義室・演習室



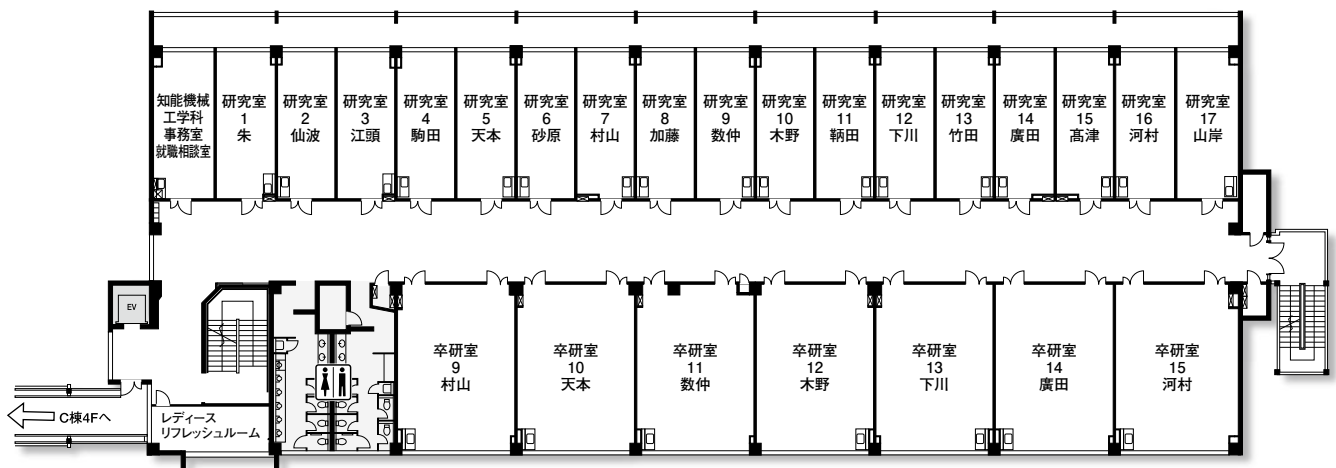
お手洗い
 EV エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
 勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等を
 することは禁止です。

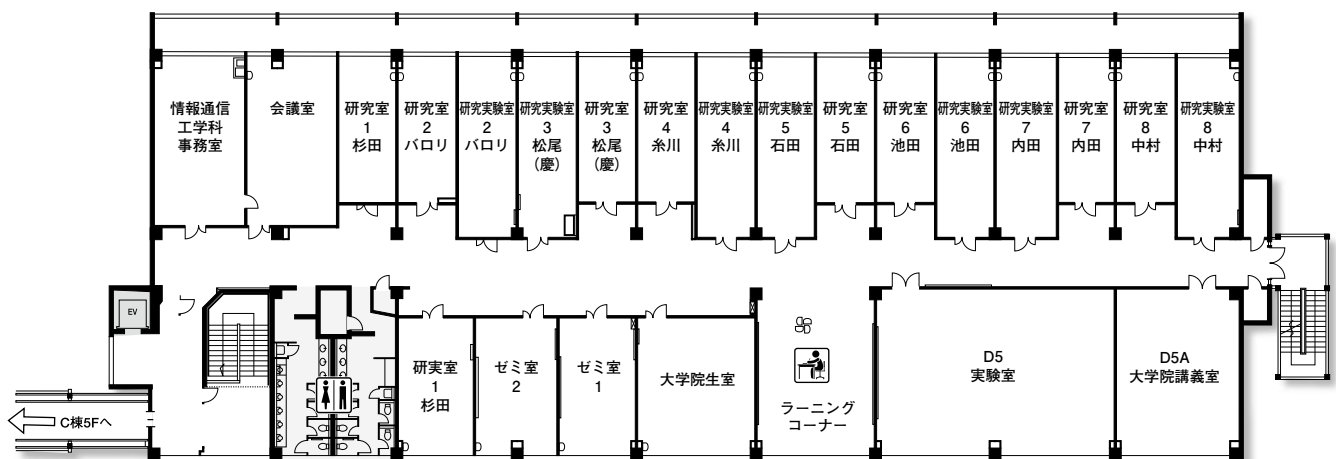
3F 講義室・実験室



4F (工) 知能機械工学科
(学科事務室・研究室)

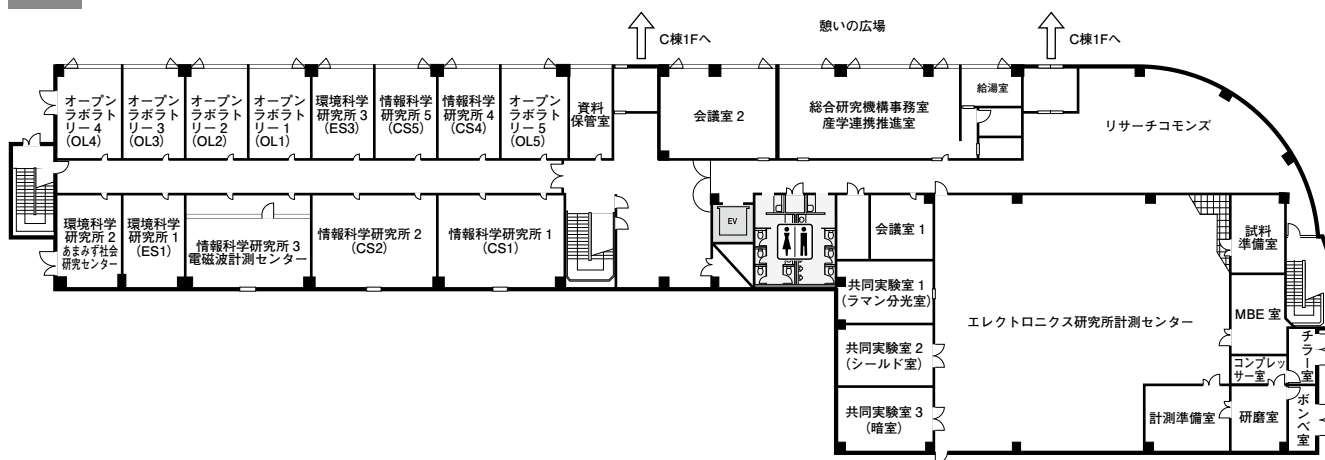


5F (情) 情報通信工学科
(学科事務室・研究室・実験室)

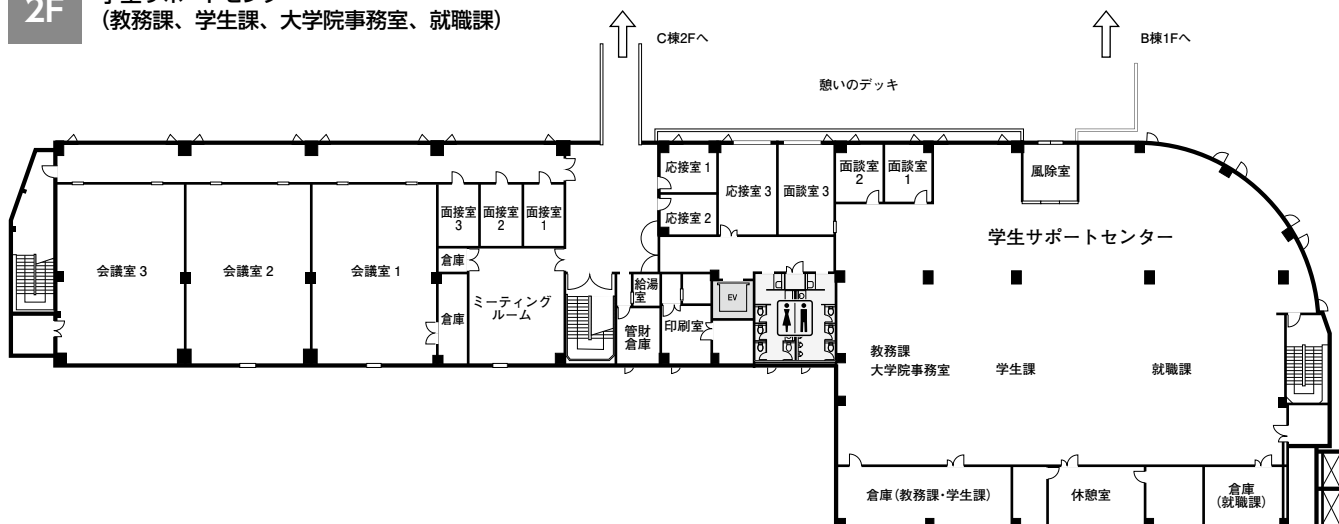


教室配置図 | E棟

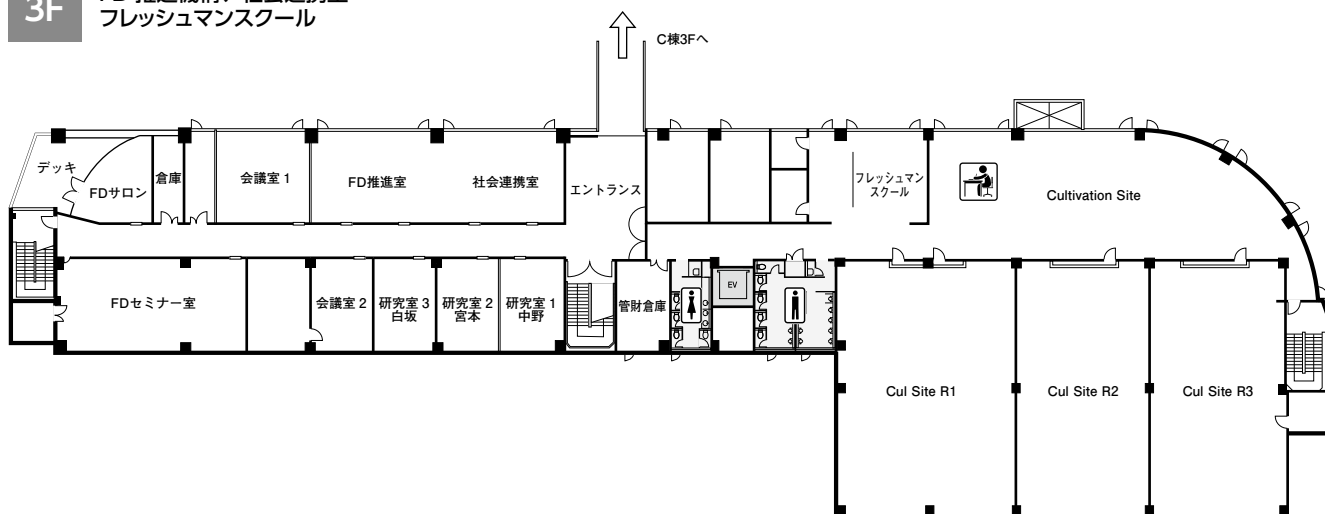
1F 総合研究機構



2F 学生サポートセンター (教務課、学生課、大学院事務室、就職課)



3F FD推進機構、社会連携室 フレッシュマンスクール

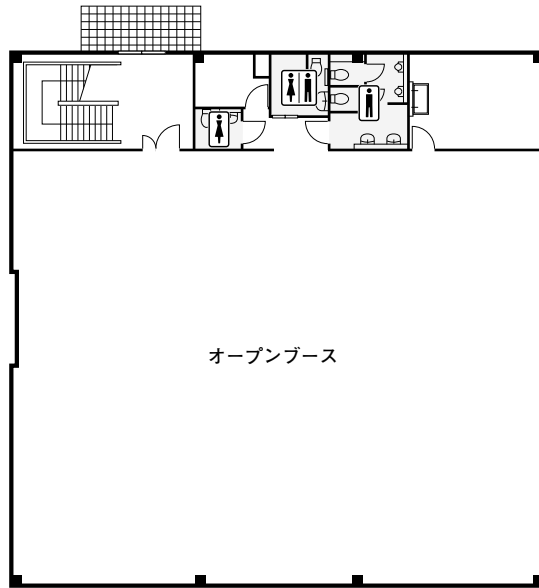


お手洗い
 エレベーター

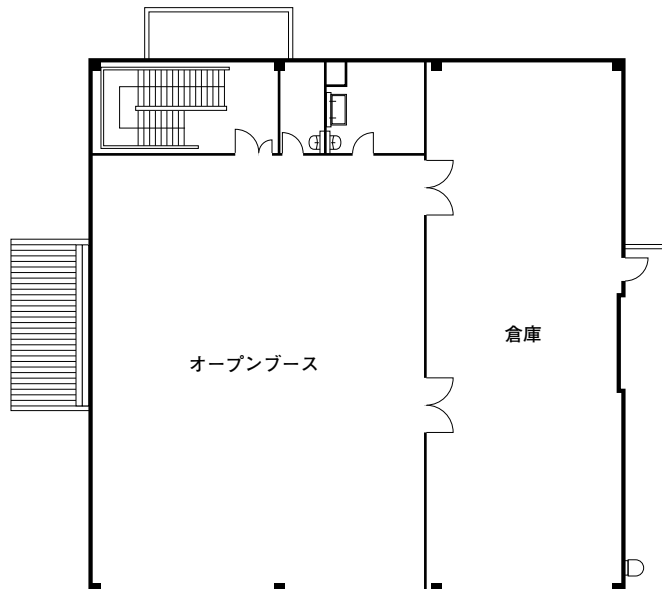
ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
 勉学のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

教室配置図 | F棟

1F インキュベーションスタジオ 2



2F インキュベーションスタジオ 2



§ 7-1	施設案内
§ 7-2	設備案内
§ 7-3	キャンパス案内

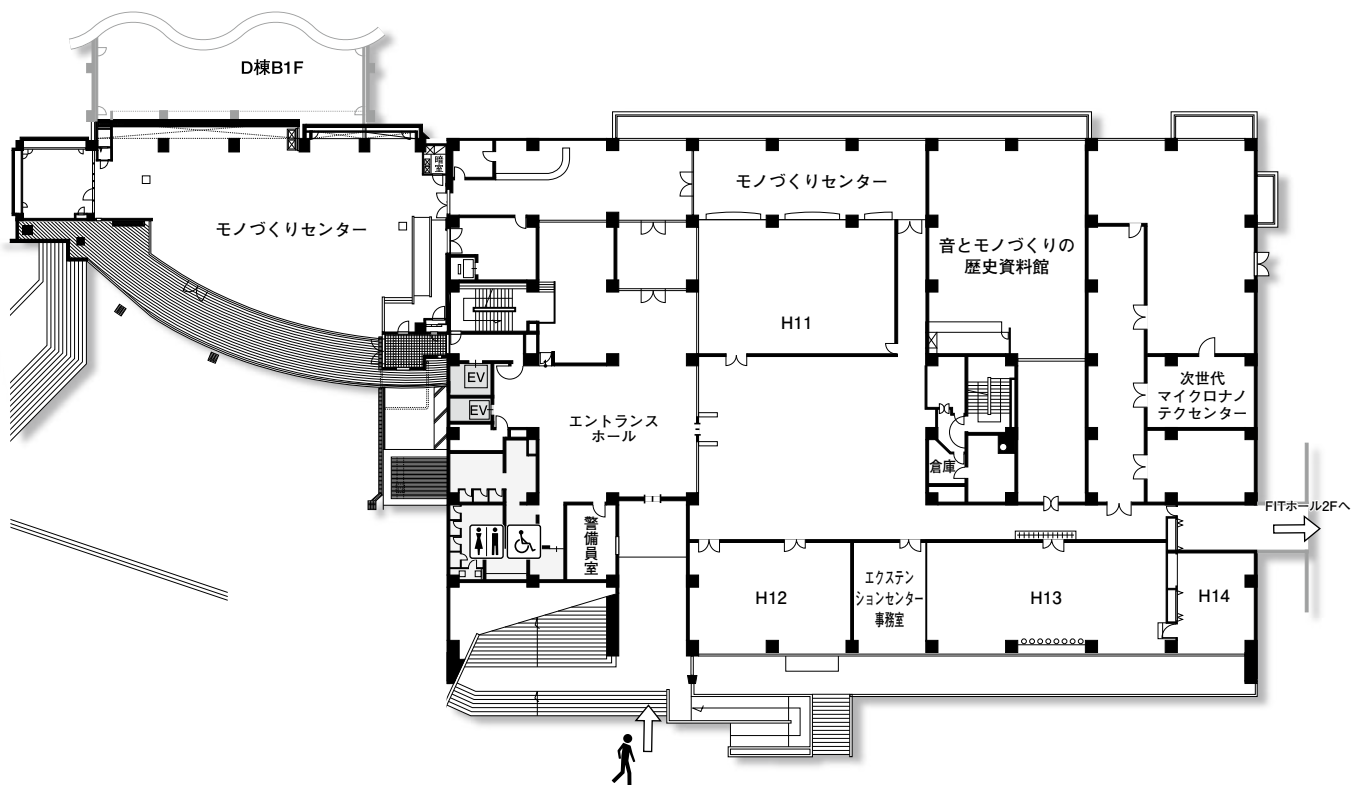
教室配置図 | 本部棟・α棟

α棟1F

モノづくりセンター

本部棟1F

エクステンションセンター
音とモノづくりの歴史資料館

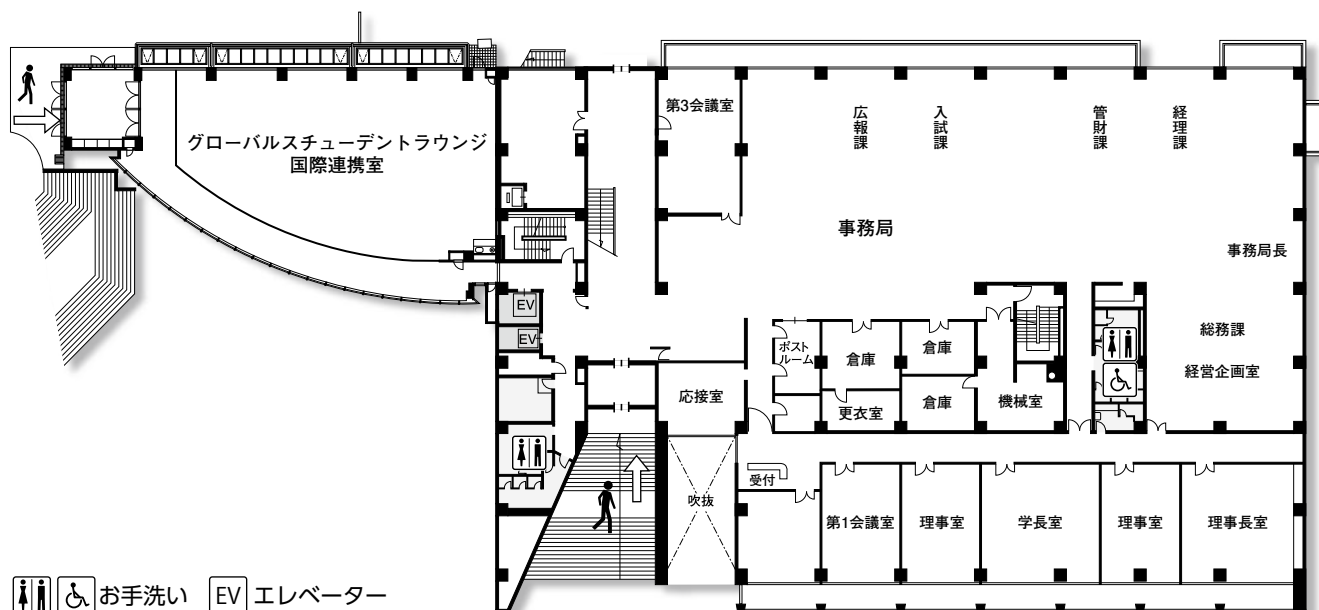


α棟2F

グローバルスチューデントラウンジ
(国際連携室)

本部棟2F

事務局



♿️ お手洗い EV エレベーター

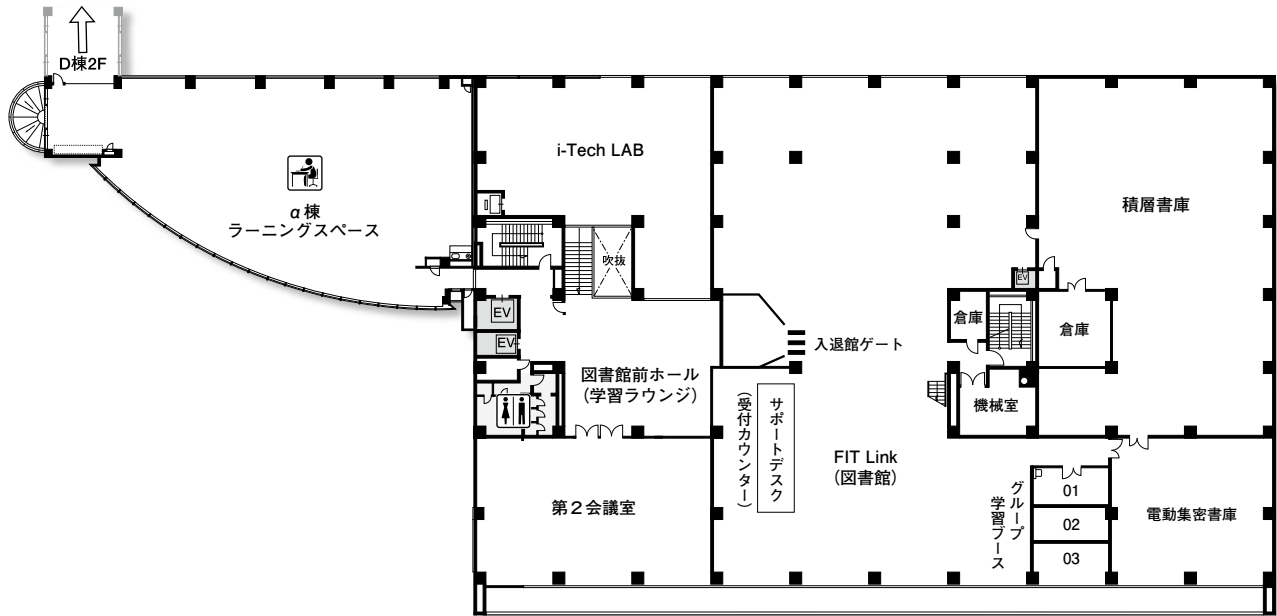
📖 ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

α棟 3F

ラーニングスペース

本部棟 3F

FIT Link (図書館 (3F入口))
Active Floor



α棟 4F

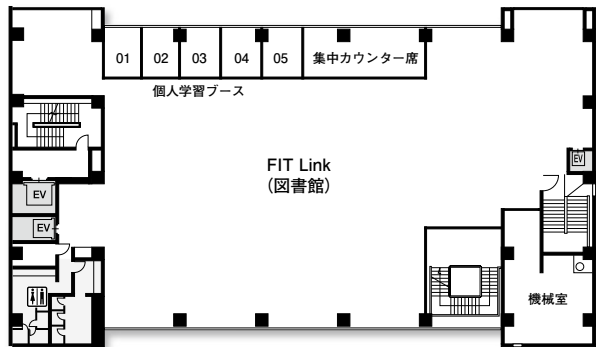
多目的ホール

本部棟 4F

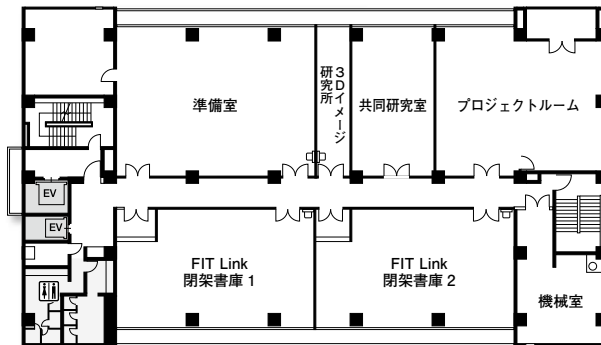
FIT Link (図書館 (4F入口))
事務室
Quiet Floor



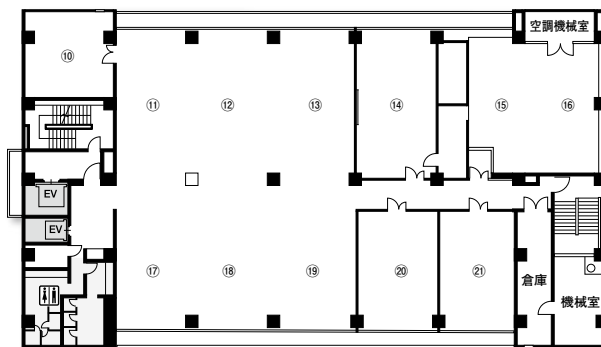
5F FIT Link
(図書館)
Silent Floor



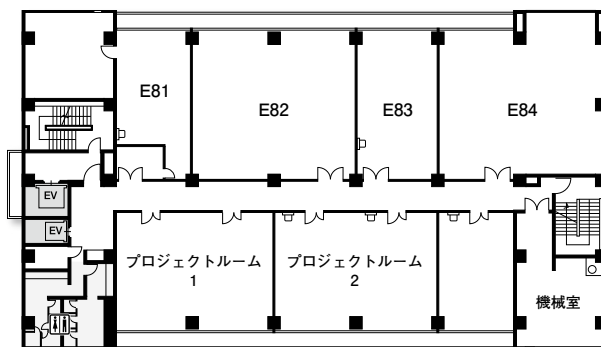
6F FIT Link
(書庫 1・2)



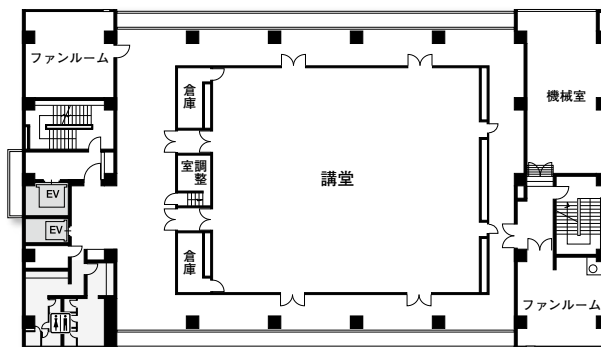
7F インキュベーションスタジオ 3
(⑩~㉑)



8F エクステンションセンター
(FIT オープンカレッジ)



9F 講堂



お手洗い エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等を行うことは禁止です。

教室配置図 | FITホール

§ 7-1

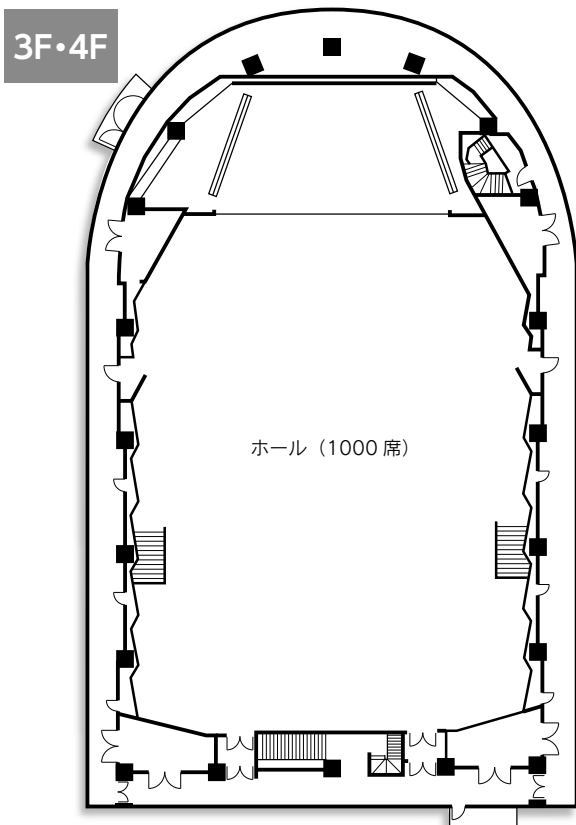
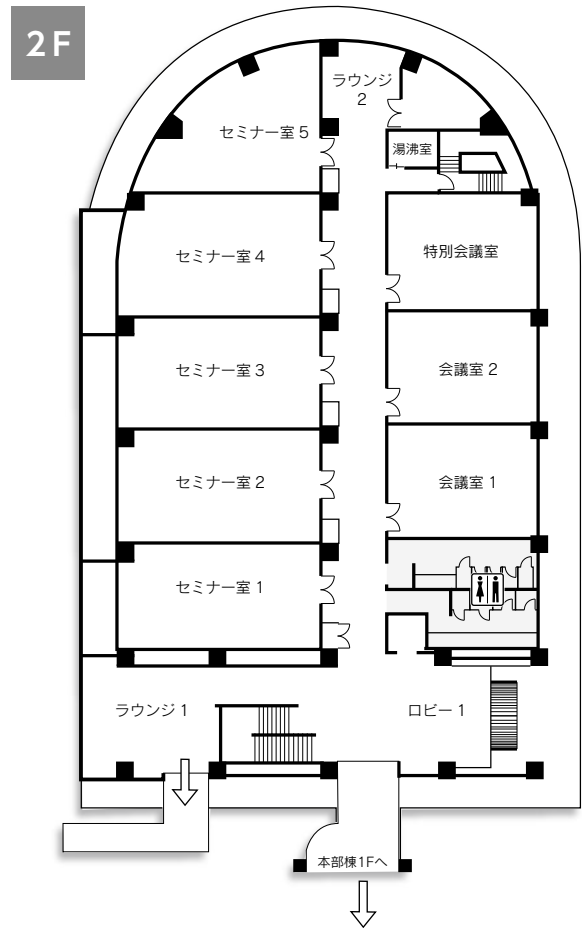
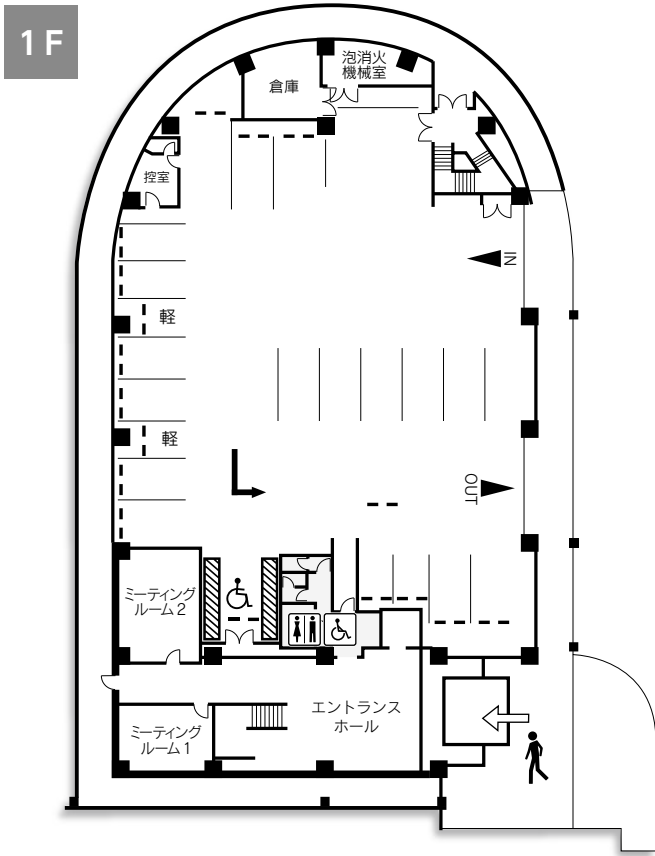
施設案内

§ 7-2

設備案内

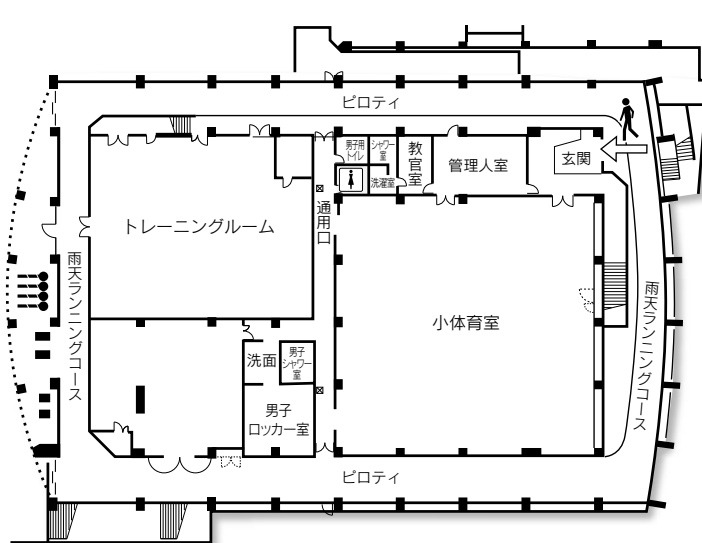
§ 7-3

キャンパス案内

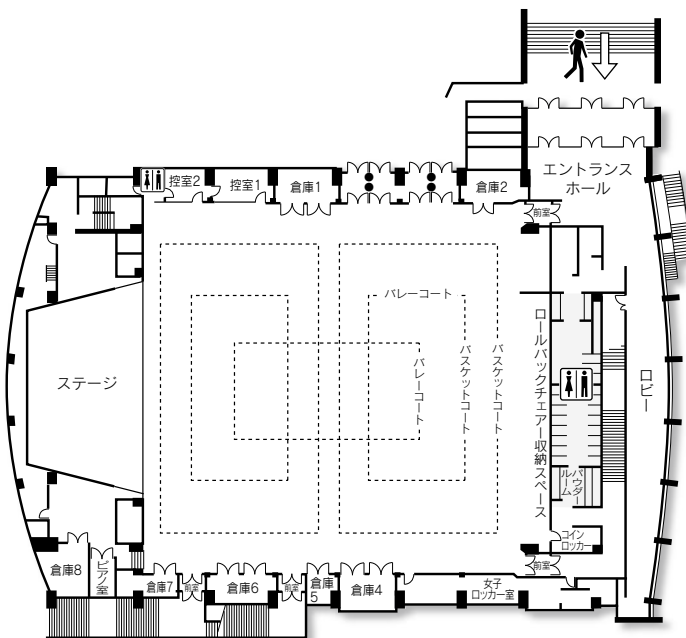


教室配置図 | FITアリーナ

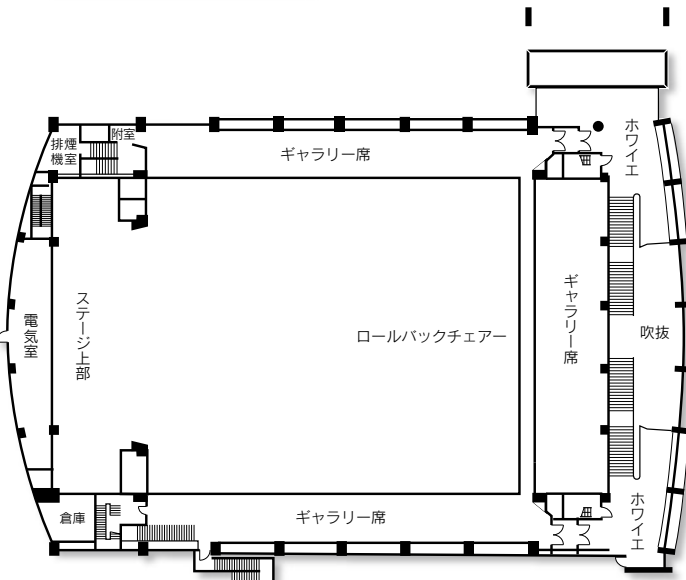
1F



2F



3F



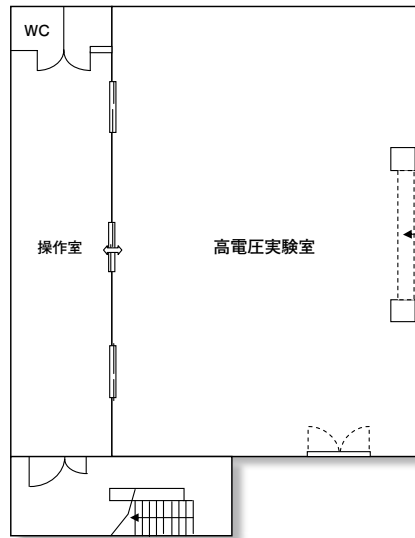
お手洗い

エレベーター

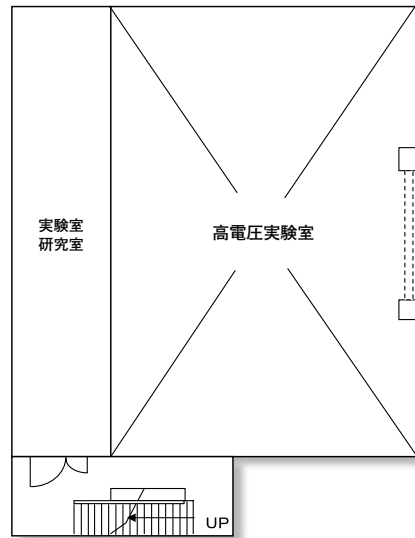
ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等を行うことは禁止です。

教室配置図 | 高電圧実験棟

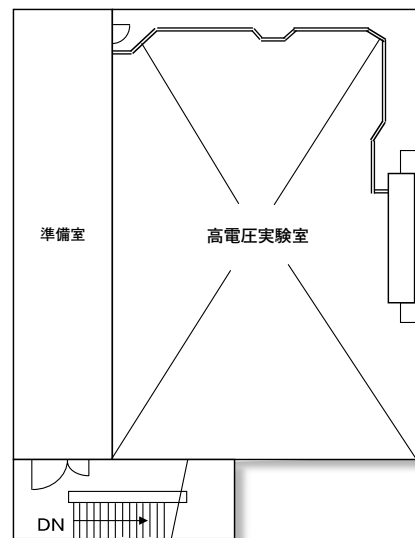
1F



2F



3F



§ 7-1	施設案内
§ 7-2	設備案内
§ 7-3	キャンパス案内

§ 8

諸規程

§ 8-1	学則	188
§ 8-2	学位規程	214
§ 8-3	履修要項	215
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工学部 ■ 情報工学部 ■ 社会環境学部 	
§ 8-4	技術者教育プログラム要領	224
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 〔工学部〕 電子情報工学科 ■ 〔工学部〕 生命環境化学科 ■ 〔工学部〕 知能機械工学科 ■ 〔情報工学部〕 情報通信工学科 	
§ 8-5	社会環境学部コース制教育プログラム要領	227
§ 8-6	その他	228
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 〔工学部〕 生命環境化学科 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領 	

§ 8-1

学則

§ 8-2

学位規程

§ 8-3

履修要項

§ 8-4

技術者教育プログラム要領

§ 8-5

社会環境学部コース制教育プログラム要領

§ 8-6

その他

§ 8-1. 学則

福岡工業大学学則

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、工業及び環境に関する専門の学術を研究、教授し、もって科学の進歩向上に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第1条の2 教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 実施方法については、別に定める。

第2節 組織

(学部、学科及び学生定員)

第2条 本学に、次の学部を置く。

(1) 工学部

(2) 情報工学部

(3) 社会環境学部

2 工学部に置く学科及びその収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
電子情報工学科	90人	360人
生命環境化学科	90人	360人
知能機械工学科	110人	440人
電気工学科	90人	360人
計	380人	1,520人

3 情報工学部に置く学科及びその収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
情報工学科	130人	520人
情報通信工学科	90人	360人
情報システム工学科	90人	360人
システムマネジメント学科	65人	260人
計	375人	1,500人

4 社会環境学部部に置く学科及びその収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
社会環境学科	160人	30人	700人

(教育研究上の目的)

第2条の2 前条に定める各学科及び第39条に定める教職課程の教育研究上の目的は、別表1のとおりとする。

(大学院)

第2条の3 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関し必要な事項は、別に定める。

(附属図書館)

第3条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規程は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第4条 本学に、次の学内共同教育研究施設を置く。

名 称	目 的	
総合研究機構	エレクトロニクス研究所	エレクトロニクス並びに関連する分野の研究を行うと共に、学内における研究の奨励・援助を図り、併せて地域の産業の発展に協力する。
	情報科学研究所	情報科学並びに関連する分野の研究を行うと共に、本学の情報関連分野の研究の奨励・援助を図り、併せて地域産業の発展に協力する。
	環境科学研究所	環境並びに関連する分野の研究を行うと共に、学内における研究の奨励・援助を図り、併せて環境管理の側面より地域産業の発展に協力する。
工作センター	工作機械装置等を管理運用し、研究及び教育の用に供すると共に、加工・工作技術の向上開発を図り、併せて科学技術の発展に資する。	
教養育成センター	全学の教養教育カリキュラムの編成、運営並びに教育実践の改善に取り組む。	

(FD推進機構)

第4条の2 本学に、FD推進機構を置く。

2 FD推進機構に関し必要な事項は、別に定める。

(総務部・財務部・入試広報部・教務部・学生部・就職部)

第5条 本学に、総務部、財務部、入試広報部、教務部、学生部及び就職部を置く。

第3節 職員の種類

(職員の種類)

第6条 本学に、学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、事務職員及び技術職員を置く。

2 教育研究の円滑な実施に必要な業務を行うために、助手を置くことができる。

第4節 教授会

(構成)

第7条 本学に教授会を置く。

2 教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教で構成する。

(審議事項及び運営)

第8条 教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長 (以

下この項において「学長等」という)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

- 3 教授会の運営に関し、必要な事項は福岡工業大学教授会規程により定める。

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第9条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日より9月30日まで

後期 10月1日より翌年3月31日まで

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
 - (3) 本学の開学記念日 11月5日
 - (4) 春季休業 3月21日から4月10日まで
 - (5) 夏季休業 8月1日から9月30日まで
 - (6) 冬季休業 12月25日から翌年1月9日まで
- 2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第2章 学 部

第1節 修業年限等

(修業年限)

第12条 学部の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第13条 学生は、8年を超えて在学することができない。ただし、第19条第1項の規定により入学した学生は、同19条第2項により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第2節 入 学

(入学の時期)

第14条 入学の時期は、学年の始めとする。

- 2 特別の必要があり、教育上支障がないときは、入学の時期を学期の始めとすることができる。

(入学の資格)

第15条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程

を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

- 2 前項に掲げる者のほか、高等学校に在学し校長が推薦する者は、科目等履修生として入学を認めることがある。

(入学の出願)

第16条 本学に入学を志願する者は、入学願書に所定の検定料及び別に定める書類を添えて、指定の期日までに願出しなければならない。

(入学者の選考)

第17条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、教授会の議を経て選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第18条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の入学金を納付しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(転入学、編入学)

第19条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者又は退学した者
- (2) 短期大学又は高等専門学校等を卒業した者

- 2 前項の規定により、入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。

第3節 休学、復学、転学、転学部、転学科、留学、退学、除籍及び再入学

(休学)

第20条 疾病その他やむを得ない理由により、4ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

(休学期間)

第21条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

- 3 休学期間は、第13条の在学期間に算入しない。

(復学)

第22条 休学期間中に、その理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第23条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとす

る者は、学長の許可を受けなければならない。ただし、在学期間1年未満の学生が新たに大学を受験しようとするときは、退学しなければならない。

(転学部及び転学科)

第23条の2 転学部及び転学科は、志願する学生本人の願い出により、教授会の議を経て学長がこれを許可する。

2 転学部及び転学科に関して必要な事項は、別に定める。

(留学)

第24条 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、1年を限度として第37条に定める在学期間に含めることができる。

(退学)

第25条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第26条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 授業料その他の納付金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第13条に定める在学年限を超えた者
- (3) 第21条に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- (4) 死亡又は長期にわたり行方不明の者

(再入学)

第27条 第25条及び第26条第1号の規定により退学し、又は除籍された者については、本人の願い出により、教授会の議を経て、学長がこれを許可する。

第4節 教育課程及び履修方法等

(授業科目及び単位)

第28条 授業科目は、教養育成科目、専門基礎科目、及び専門教育科目に分ける。但し、社会環境学部については専門基礎科目の区分を設けない。

- 2 授業科目は、必修科目及び選択科目に分ける。
- 3 授業科目の種類、必修、選択科目及び単位数等は、別表2のとおりとする。

(単位の算出方法)

第29条 授業科目の単位の算出は、1単位の学修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

(1年間の授業時間)

第30条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(履修年次及び方法)

第31条 学生は、別に定める履修要項に従い履修しなければならない。

(単位の授与)

第32条 授業科目を履修し、その試験に合格した学生には、所定の単位を与える。ただし、卒業研究、演習、実験、実習、及び実技等の授業科目については、試験以外の方法で、学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(他大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第33条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（以下この項において「他大学等」という。）との協議に基づき、学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により修得した授業科目の単位については、30単位を超えないものとし、教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は外国の短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第34条 教育上有益と認めるときは、短期大学の専攻科又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て、単位を与えることができる。

2 前項の規定により卒業の要件となる単位として認めることができる単位数は、第33条第2項の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第35条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目及び修得した単位（第43条の規定により履修した授業科目及び修得した単位を含む。）については、教授会の議を経て、卒業の要件となる授業科目及び単位として認定することができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て卒業の要件となる単位を与えることができる。

3 前2項の規定により認める単位は、編入学、転入学等の場合を除き、30単位を超えないものとする。

(成績の評価)

第36条 授業科目の試験の成績は、優、良、可及び不可の四段階をもって表示し、優、良及び可を合格とする。但し、教育上有益と認めるときは、優の上位に秀を設けることができる。

第5節 卒業及び学位授与

(卒業)

第37条 本学の学部には4年（第19条第1項及び第27条の規定により入学した者については、それぞれ定

められた在学すべき年数)以上在学し、第28条第3項別表2に定める所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した学生については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

(1) 工学部

イ 教養力育成科目は、基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上。

ロ 専門基礎科目と専門教育科目は、必修科目の全部を含め、92単位以上。(電子情報工学科は100単位以上)。

ハ 教養力育成科目、専門基礎科目及び専門教育科目から14単位以上。(電子情報工学科は6単位以上)。

ニ 総計 132単位以上。

(2) 情報工学部

イ 教養力育成科目は、基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上、ウェルネス科目から2単位以上、合計24単位以上。

ロ 専門基礎科目と専門教育科目は、必修科目の全部を含め、84単位以上。

ハ 教養力育成科目、専門基礎科目、及び専門教育科目から16単位以上。

ニ 総計 124単位以上。

(3) 社会環境学部

イ 教養力育成科目は、基礎科目から10単位以上、キャリア科目から4単位以上、外国語科目から8単位以上、ウェルネス科目から2単位以上、その他教養力育成科目から2単位以上、合計26単位以上。

ロ 専門教育科目は、基礎科目から12単位、基幹科目から6単位、基幹科目(前記6単位を除く)又は展開科目から46単位以上、ゼミナールから16単位、必修科目の全部を含め、80単位以上。

ハ 教養力育成科目、専門教育科目から18単位以上。

ニ 総計 124単位以上。

2 技術者教育を目的とする教育プログラムの修了認定を希望する学生の卒業に関する必要な事項は、別に定める。

(学位授与)

第38条 前条で卒業を認定した者については、教授会の議を経て、学長が学士の学位を授与し「卒業証書・学位記」を交付する。

2 学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

第6節 教員の免許

(教員の免許状取得のための所要資格)

第39条 教育職員免許法の定めるところにより、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を得

ようとする者は、第37条に規定する科目のほか、別表3に規定する科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の所要条件を満たし、取得できる教員の免許状の種類は次のとおりとする。

学部	学 科	免許状の種類(免許教科)
工 学 部	電子情報工学科 生命環境化学科 知能機械工学科 電気工学科	高等学校教諭一種(工業)免許状
	生命環境化学科	中学校教諭一種(理科)免許状 高等学校教諭一種(理科)免許状
情 報 工 学 部	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 システムマネジメント学科	中学校教諭一種(数学)免許状 高等学校教諭一種(数学)免許状
	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 システムマネジメント学科	高等学校教諭一種(情報)免許状
社 会 環 境 学 部	社会環境学科	中学校教諭一種(社会)免許状 高等学校教諭一種(公民)免許状

第3章 通 則

第1節 賞 罰

(表彰)

第40条 表彰に値する行為があった学生は、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第41条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがない者
- (2) 正当の理由がなく出席状況の著しく悪い者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第2節 厚生施設

(学生寮)

第42条 本学に学生寮を置く。

2 学生寮に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 科目等履修生、研究生及び外国人留学生

§ 8-1	学 則
§ 8-2	学 位 規 程
§ 8-3	履 修 要 項
§ 8-4	技 術 者 教 育 プ ロ グ ラ ム 要 領
§ 8-5	社 会 環 境 学 部 教 育 プ ロ グ ラ ム 要 領
§ 8-6	そ の 他

(科目等履修生)

第43条 本学において、1又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を授与することができる。

2 科目等履修生に関し、必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第44条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第45条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として1年次に入学、2年次、3年次に編入学、又は科目等履修生若しくは研究生として入学を許可することがある。

2 前項の外国人留学生に対しては、第28条に定める授業科目のほか、日本語及び日本事情の科目を置く。

3 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 検定料、入学金及び授業料等

(授業料等)

第46条 学生は、授業料等（以下この節において、授業料、施設設備費、実験実習費、図書費及び学生厚生費を含む。）を納入しなければならない。

(検定料、入学金及び授業料等の額)

第47条 本学の検定料、入学金及び授業料等の額は別表4のとおりとする。

(授業料等の徴収)

第48条 授業料等は、年額の2分の1ずつを次の2期に分けて徴収する。

区 分	納 期
第1期 (4月1日から9月30日まで)	4月20日 まで
第2期 (10月1日から翌年3月31日まで)	9月30日 まで

(休学期間中の授業料等)

第49条 休学を許可された者の授業料等は、休学した月の翌月から復学した月の前月までの額を免除する。

(退学、除籍及び停学の場合の授業料等)

第50条 1期又は2期途中で退学し、又は除籍された者の授業料等は、当該期分を徴収する。

2 停学期間中の授業料等は、徴収する。

(授業料等の免除及び徴収の猶予)

第51条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又はその他やむを得な

い事情があると認められる場合は、授業料等の全部若しくは一部を免除し、又は徴収を猶予することがある。

2 奨学生制度については、別に定める。

(科目等履修生、研究生等の検定料、入学金及び授業料等)

第52条 科目等履修生、研究生及び外国人留学生の科目等履修生、同研究生の検定料、入学金及び授業料等については、別に定める。

(納付した授業料等)

第53条 納付された検定料、入学金及び授業料等は返付しない。

第5節 公開講座

(公開講座)

第54条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することがある。

第6節 その他

第55条 この学則の改正は、教授会の議を経なければならない。

附 則

(省略)

38 この学則は、平成31年4月1日から施行する。

別表1 学則第2条の2に係る各学科及び教職課程の教育研究上の目的

学 科	教育研究上の目的
電子情報工学科	現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。
生命環境化学科	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。
知能機械工学科	情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。
電気工学科	日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。
情報工学科	コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。
情報通信工学科	今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。
情報システム工学科	今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。
システムマネジメント学科	高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。
社会環境学科	環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、社会の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。
教職課程	教職の意義、教育の原理及び人間の発達を理解し、将来の教育者としての専門的知識、方法技術さらに実践的能力を高めるとともに、使命感及び倫理観と教育的愛情を育む人材の養成を目的とする。

別表2 学則第28条第3項に係る授業科目の種類、必修、選択科目及び単位数等について

1. 工学部

(1) 教養力育成科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考		
		1年	2年	3年	4年	計			
基礎科目	文化・社会	知と教養	2				2	選 択	18科目中5科目、10単位以上取得。ただし、外国人留学生は20科目中5科目、10単位以上取得。
		日本国憲法	2☆	2☆			2	選 択	
		市民生活と法	2☆	2☆			2	選 択	
		現代倫理	2☆	2☆			2	選 択	
		コミュニケーションの心理学	2☆	2☆			2	選 択	
		日本文学	2☆	2☆			2	選 択	
		歴史学概論	2☆	2☆			2	選 択	
		九州学	2☆	2☆			2	選 択	
		地理学概論	2☆	2☆			2	選 択	
		社会学入門	2☆	2☆			2	選 択	
		経済学入門	2☆	2☆			2	選 択	
		異文化理解	2☆	2☆			2	選 択	
		地域創生入門	2☆	2☆			2	選 択	
	自然・情報	日本事情 I	2				2	選 択	*外国人留学生科目
		日本事情 II	2				2	選 択	*外国人留学生科目
		生命と生態系	2☆	2☆			2	選 択	*コンピュータ入門は、生命環境化学科、電気工学科では必修。電子情報工学科、知能機械工学科では選択。
		地球と環境	2☆	2☆			2	選 択	
		物質と化学	2☆	2☆			2	選 択	
		自然と科学	2☆	2☆			2	選 択	
キャリア科目	コンピュータ入門	2☆	2☆			2	選 択		
	キャリア形成	2				2	必 修		
	コミュニケーション基礎	2				2	必 修		
	日本語表現法		2			2	選 択		
	インターンシップ I		2			2	選 択		
	インターンシップ II			2		2	選 択		
外国語科目	Advanced English A	2				2	選 択	20科目中4科目、8単位以上取得、うち1・2年次の英語科目8単位を含む。ただし、外国人留学生は22科目中4科目8単位以上、うち1・2年次の英語科目8単位を含む	
	Advanced English B	2				2	選 択		
	Advanced English C		2			2	選 択		
	Advanced English D		2			2	選 択		
	English A	2				2	選 択		
	English B	2				2	選 択		
	English C		2			2	選 択		
	English D		2			2	選 択		
	Academic English A			2		2	選 択		
	Academic English B			2		2	選 択		
	Academic English C				2	2	選 択		
	Academic English D				2	2	選 択		
	Conversation A			2		2	選 択		
	Conversation B			2		2	選 択		
	Conversation C				2	2	選 択		
	Conversation D				2	2	選 択		
	中国語 I			2		2	選 択		
	中国語 II			2		2	選 択		
	韓国語 I			2		2	選 択		
	韓国語 II			2		2	選 択		
日本語 I	2				2	選 択	*外国人留学生科目		
日本語 II	2				2	選 択	*外国人留学生科目		

替 替 ウ ェ ル ネ ス	ウェルネス基礎	2				2	必修
	ウェルネス応用	2				2	選択

[注] ☆印はいずれかの学年で履修可能。

(2) 専門基礎科目及び専門教育科目

(ア) 電子情報工学科

A. 専門基礎科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
専 門 基 礎 科 目	電子情報基礎数学	4				4	必修
	電子情報数学	4				4	必修
	線形代数Ⅰ		2			2	必修
	線形代数Ⅱ		2			2	選択
	微分方程式		2			2	必修
	初等統計学			2		2	選択
	物理概論	2				2	必修
	物理学Ⅰ	2				2	必修
物理学Ⅱ		2			2	必修	

B. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
電 子 情 報 基 礎 科 目	電子工学基礎	2				2	必修
	論理回路	2				2	必修
	電磁気学Ⅰ	2				2	必修
	電磁気学Ⅱ		2			2	必修
	電子計測		2			2	必修
	制御基礎			2		2	必修
	制御工学			2		2	選択
ア パ イ ス 系 科 目	電子物性		2			2	必修
	電子デバイスⅠ			2		2	必修
	電子デバイスⅡ			2		2	必修
	光エレクトロニクス			2		2	選択
	集積回路工学			2		2	選択
回 路 系 科 目	電気回路Ⅰ	2				2	必修
	電気回路Ⅱ		2			2	必修
	電気回路Ⅲ		2			2	必修
	電子回路Ⅰ		2			2	必修
	電子回路Ⅱ		2			2	必修
	電子回路応用			2		2	必修
	電気電子回路実習			2		2	必修
情 報 処 理 系 科 目	プログラミングⅠ	2				2	必修
	プログラミングⅡ	2				2	必修
	プログラミング演習		2			2	必修
	応用プログラミングⅠ		2			2	選択
	デジタル信号処理			2		2	必修

系科目 情報処理	応用プログラミングⅡ			2		2	選択
	情報ネットワーク基礎と演習			2		2	選択
	応用デジタル信号処理			2		2	必修
共通科目	技術者倫理	2				2	選択
	技術英語		2			2	選択
	プレゼンテーション			2		2	選択
	情報技術資格		2			2	選択
	無線技術資格		2			2	選択
	組込み基礎			2		2	必修
	電子情報工学入門	2				2	必修
	物理・電子情報基礎実験	2				2	必修
	電子情報実験Ⅰ		2			2	必修
	電子情報実験Ⅱ		2			2	必修
	電子情報実験Ⅲ			2		2	必修
	創成実験			2		2	必修
	知的情報処理			2		2	選択
	コンピュータ工学		2			2	必修
	コンピュータシステム		2			2	必修
	電子工学総合			2		2	必修
	情報工学総合			2		2	必修
	卒業研究					6	6
工学概論		2				2	選択
国際工学実習			2			2	選択

(イ) 生命環境化学科
A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	基礎数学	2				2	必修
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	必修
	応用数学	2				2	必修
	統計解析		2			2	選択
	数値解析		2			2	選択
	基礎物理学	2				2	必修
	物理学Ⅰ	2				2	必修
	物理学Ⅱ		2			2	必修
	生物物理学		2			2	選択
物理学実験			2		2	選択	
専門基礎科目	基礎化学	1				1	選択
	化学Ⅰ	2				2	必修
	化学Ⅱ	2				2	必修
	化学実験	2				2	必修
	基礎生物学	1				1	選択
	生物学	2				2	必修
	生物学実験		2			2	必修
	地球科学		2			2	選択
	地球科学実験			2		2	選択
	コンピュータ言語		2			2	必修
科学実験入門	2				2	必修	

B. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
生命環境化学基礎	生命環境化学ゼミナールⅠ			1		1	必修
	生命環境化学ゼミナールⅡ			1		1	必修
	環境エネルギー資源化学概論	2				2	必修
	生物資源利用学概論	2				2	必修
	物理化学Ⅰ		2			2	必修
	物理化学Ⅱ		2			2	必修
	物理化学Ⅲ			2		2	必修
	物理化学Ⅰ演習		1			1	必修
	物理化学Ⅱ演習		1			1	必修
	分析化学		2			2	必修
	機器分析化学		2			2	必修
	環境分析化学		2			2	必修
	機器分析化学実験		2			2	必修
	有機化学Ⅰ		2			2	必修
	有機化学Ⅱ		2			2	必修
	無機化学			2		2	必修
	環境科学Ⅰ		2			2	選択
	環境科学Ⅱ		2			2	選択
生物化学Ⅰ		2			2	必修	
生物化学Ⅱ		2			2	選択	
生命環境化学専門	物質系科目	エネルギー循環工学			2	2	選択
		無機固体化学			2	2	選択
		固体物質工学			2	2	選択
		資源循環工学			2	2	選択
		環境浄化工学			2	2	選択
		環境物質工学実験			2	2	選択
		化学工学Ⅰ			2	2	選択
		化学工学Ⅱ			2	2	選択
		電気化学			2	2	選択
	ナノマテリアル化学			2	2	選択	
	物質生命共通科目	高分子化学			2	2	選択
		コロイド化学			2	2	選択
		酵素化学			2	2	選択
	生命系科目	応用微生物学			2	2	選択
		分子生物学			2	2	選択
		遺伝子工学			2	2	選択
		環境生命工学実験			2	2	選択
		生物有機化学			2	2	選択
栄養化学				2	2	選択	
食品学実験				2	2	選択	
食品化学				2	2	選択	
食品基礎科目	食品分析学			2	2	選択	
	食品衛生学			2	2	選択	
	毒性学			2	2	選択	
	環境衛生学				2	2	選択
	微生物学		2			2	選択
	食品微生物学			2		2	選択

アドバンス科目	先端生命環境化学演習	2				2	選択
	先端生命環境化学実験 I		2			2	選択
	先端生命環境化学実験 II		2			2	選択
	技術英語			2		2	選択
	生産技術倫理			2		2	選択
研究 卒業	卒業研究				6	6	必修
科目 共通	工学概論		2			2	選択

(ウ) 知能機械工学科
A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	数学基礎演習	2				2	必修
	線形代数 I	2				2	必修
	解析 I 及び演習	4				4	必修
	線形代数 II		2			2	必修
	解析 II		2			2	必修
	微分方程式		2			2	必修
	解析 III		2			2	選択
	確率と統計		2			2	選択
	物理基礎演習	2				2	必修
	物理学 I 及び演習	4				4	必修
	機械物理学実験	2				2	必修
物理学 II		2			2	必修	

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
機械基礎学	ものづくり基礎実習	4				4	必修
	熱力学 I		2			2	必修
	熱力学 II			2		2	必修
	伝熱工学			2		2	選択
	流体力学 I		2			2	必修
	流体力学 II			2		2	必修
	機械力学 I		2			2	必修
	機械力学 II			2		2	必修
	材料力学 I		2			2	必修
	材料力学 II			2		2	必修
知能機械設計学	基礎製図 I	2				2	必修
	基礎製図 II	2				2	必修
	知能機械設計 I		4			4	必修
	知能機械設計 II			4		4	必修
	CADシステム		2			2	必修
	トライボロジー			2		2	選択
工学 知能生産	機械材料		2			2	必修
	機械工作法 I		2			2	必修
	機械工作法 II			2		2	選択
	デジタルエンジニアリング		2			2	選択

制御工学	電気基礎学		2			2	必修
	知能機械制御工学			2		2	必修
	ロボット工学			2		2	選択
	計測工学			2		2	選択
共通科目	知能機械基礎実験Ⅰ		2			2	必修
	知能機械基礎実験Ⅱ		2			2	必修
	工業技術史	2				2	必修
	技術者倫理		2			2	必修
	産業人基礎教育			2		2	選択
	知能機械制御言語及び演習		2			2	選択
	知能機械創成実験			2		2	必修
	工学概論		2			2	選択
国際工学実習			2		2	選択	
研究 卒業	卒業研究				6	6	必修

(工) 電気工学科

A. 専門基礎科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	電気基礎数学	2				2	必修
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	必修
	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	線形代数Ⅱ		2			2	選択
	解析Ⅲ		2			2	必修
	解析Ⅳ		2			2	選択
	電気基礎物理学	2				2	必修
	力学Ⅰ	2				2	必修
	力学Ⅱ		2			2	必修
	熱力学		2			2	選択

B. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
電気基礎学	電磁気学Ⅰ	2				2	必修
	電磁気学Ⅱ	2				2	必修
	電磁気学Ⅲ		2			2	必修
	電気回路Ⅰ	2				2	必修
	電気回路Ⅱ	2				2	必修
	電気回路Ⅲ		2			2	必修
	電気回路Ⅳ		2			2	必修
	電気計測		2			2	必修
	基礎物質工学	2				2	必修
	半導体工学		2			2	必修
	電気基礎学概論			2		2	選択
電気エネルギーシステム工学	電気エネルギーシステム工学Ⅰ		2			2	必修
	電気エネルギーシステム工学Ⅱ		2			2	必修
	電気エネルギーシステム工学Ⅲ			2		2	選択
	電気エネルギーシステム工学Ⅳ			2		2	選択

システム工学 電気エネルギー	電気法規及び施設管理			2		2	選択
	交流電力伝送の基礎		2			2	必修
	高電圧工学			2		2	選択
	電気応用		2			2	必修
情報制御工学	論理表現	2				2	必修
	電気工学フレッシュマン演習	2				2	必修
	プログラミング言語		2			2	必修
	システム制御工学Ⅰ		2			2	必修
	システム制御工学Ⅱ			2		2	選択
	現代制御			2		2	選択
	メカトロニクスⅠ		2			2	必修
	メカトロニクスⅡ			2		2	選択
	デジタル制御			2		2	選択
	ロボット工学			2		2	選択
技術者倫理		2			2	必修	
電気機器・パワーエレクトロニクス工学	電気工学概論	2				2	必修
	電気機器Ⅰ	2				2	必修
	電気機器Ⅱ		2			2	必修
	電気機器Ⅲ		2			2	必修
	パワーエレクトロニクス			2		2	必修
	電気機器設計・製図			2		2	選択
	電子回路Ⅰ	2				2	必修
	電子回路Ⅱ		2			2	選択
	デジタル回路			2		2	選択
	エンジニアリングデザインⅠ		2			2	必修
エンジニアリングデザインⅡ			4		4	選択	
実験・実習科目	電気基礎学実験		2			2	必修
	電気工学実験Ⅰ			2		2	必修
	電気工学実験Ⅱ			2		2	必修
	卒業研究				6	6	必修
電験・総合科目	電験理論	2				2	選択
	電験電力		2			2	選択
	電験法規		2			2	選択
	電験機械			2		2	選択
	電気工学総合			2		2	必修
関連科目	機械工学概論			2		2	選択
	通信工学概論			2		2	選択
	工学概論		2			2	選択
	国際工学実習			2		2	選択

§ 8-1
学則
§ 8-2
学位規程
§ 8-3
履修要項
§ 8-4
技術者教育 プログラム要領
§ 8-5
社会環境学部 コース制 教育プログラム要領
§ 8-6
その他

2. 情報工学部

(1) 教養力育成科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考		
		1年	2年	3年	4年	計			
基礎科目	文化・社会	知と教養	2				2	選択	17科目中5科目、10単位以上取得。ただし、外国人留学生は19科目中5科目、10単位以上取得。 *外国人留学生科目 *外国人留学生科目
		日本国憲法	2☆	2☆			2	選択	
		市民生活と法	2☆	2☆			2	選択	
		現代倫理	2☆	2☆			2	選択	
		コミュニケーションの心理学	2☆	2☆			2	選択	
		日本文学	2☆	2☆			2	選択	
		歴史学概論	2☆	2☆			2	選択	
		九州学	2☆	2☆			2	選択	
		地理学概論	2☆	2☆			2	選択	
		社会学入門	2☆	2☆			2	選択	
		経済学入門	2☆	2☆			2	選択	
		異文化理解	2☆	2☆			2	選択	
		地域創生入門	2☆	2☆			2	選択	
		日本事情Ⅰ	2				2	選択	
	日本事情Ⅱ	2				2	選択		
	基礎科目	自然	生命と生態系	2☆	2☆			2	選択
地球と環境			2☆	2☆			2	選択	
物質と化学			2☆	2☆			2	選択	
自然と科学			2☆	2☆			2	選択	
キャリア科目	キャリア形成	2				2	必修		
	コミュニケーション基礎	2				2	必修		
	日本語表現法		2			2	選択		
	インターンシップⅠ		2			2	選択		
	インターンシップⅡ			2		2	選択		
外国語科目	Advanced English A	2				2	選択	20科目中4科目、8単位以上取得、うち1・2年次の英語科目8単位を含む。ただし、外国人留学生は22科目中4科目8単位以上、うち1・2年次の英語科目8単位を含む *外国人留学生科目 *外国人留学生科目	
	Advanced English B	2				2	選択		
	Advanced English C		2			2	選択		
	Advanced English D		2			2	選択		
	English A	2				2	選択		
	English B	2				2	選択		
	English C		2			2	選択		
	English D		2			2	選択		
	Academic English A			2		2	選択		
	Academic English B			2		2	選択		
	Academic English C				2	2	選択		
	Academic English D				2	2	選択		
	Conversation A			2		2	選択		
	Conversation B			2		2	選択		
	Conversation C				2	2	選択		
	Conversation D				2	2	選択		
	中国語Ⅰ			2		2	選択		
	中国語Ⅱ			2		2	選択		
	韓国語Ⅰ			2		2	選択		
	韓国語Ⅱ			2		2	選択		
日本語Ⅰ	2				2	選択			
日本語Ⅱ	2				2	選択			

科目 ウェルネス	ウェルネス基礎	2				2	必修
	ウェルネス応用		2			2	選択

[注] ☆印はいずれかの学年で履修可能。

(2) 専門基礎科目及び専門教育科目

(ア) 情報工学科

A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	線形代数Ⅱ	2				2	選択
	線形代数Ⅲ		2			2	選択
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	選択
	基礎物理学	2				2	選択
	物理学Ⅰ	2				2	必修
	物理学Ⅱ		2			2	選択
	幾何学とマルチメディア			2		2	選択
	解析Ⅲ		2			2	選択
	基礎電磁気学	2				2	選択
	幾何学的情報数学		2			2	選択
	微分方程式		2			2	選択
	代数学と暗号			2		2	選択
	複素関数論			2		2	選択
	情報物理学		2			2	選択
応用幾何学				2	2	選択	
代数学と符号化				2	2	選択	

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
情報基礎学	情報基礎ゼミナール	2				2	必修
	コンピュータリテラシー	2				2	必修
	コンピュータ科学	2				2	必修
	離散数学	2				2	選択
	確率統計論		2			2	必修
	オートマトンと形式言語		2			2	必修
	情報工学特別講義			2		2	必修
	情報理論			2		2	選択
	数値計算		2			2	選択
	情報技術者倫理			2		2	必修
英語プレゼンテーション			2		2	選択	
ソフトウェア工学	CプログラミングⅠ	2				2	必修
	CプログラミングⅡ	2				2	必修
	オペレーティングシステム		2			2	必修
	データ構造とアルゴリズム		2			2	必修
	人工知能プログラミング		2			2	選択
	ソフトウェア工学Ⅰ			2		2	選択
	ソフトウェア工学Ⅱ			2		2	選択

§ 8-1	学則
§ 8-2	学位規程
§ 8-3	履修要項
§ 8-4	技術者教育 プログラム要領
§ 8-5	社会環境学部 コース制 教育プログラム要領
§ 8-6	その他

ソフトウェア工学	コンピュータ	JAVAプログラミングⅠ		2		2	必修
		情報工学実験Ⅲ			2	2	必修
		ネットワークプログラミング			2	2	選択
		JAVAプログラミングⅡ		2		2	選択
		HCIプログラミング			2	2	選択
		情報工学実験Ⅳ			2	2	必修
コンピュータハードウェア工学		電気回路Ⅰ	2			2	必修
		電気回路Ⅱ	2			2	選択
		コンピュータアーキテクチャⅠ	2			2	必修
		電子回路		2		2	選択
		論理回路		2		2	必修
		コンピュータアーキテクチャⅡ		2		2	選択
		情報工学実験Ⅰ		2		2	必修
		論理設計		2		2	選択
		情報機器工学		2		2	選択
		情報工学実験Ⅱ		2		2	必修
		情報ネットワーク			2	2	必修
		デジタルシステム設計			2	2	選択
		システムLSI			2	2	選択
情報情報メディア工学		マルチメディア工学	2			2	選択
		データベース		2		2	選択
		人工知能基礎	2			2	選択
		自然言語処理		2		2	選択
		コンピュータグラフィックス		2		2	選択
		人工知能応用		2		2	選択
		デジタル信号処理			2	2	選択
		ロボティクス			2	2	選択
		ヒューマンコンピュータ・インタラクション			2	2	必修
		情報セキュリティ			2	2	選択
		音情報処理			2	2	選択
		画像情報処理			2	2	選択
		パターン認識			2	2	選択
共通		プロジェクト型演習Ⅰ		2		2	選択
		プロジェクト型演習Ⅱ			2	2	選択
		情報技術資格Ⅰ		2		2	選択
		情報技術資格Ⅱ			2	2	選択
		卒業研究				6	6

(イ) 情報通信工学科
A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
数学・物理学	情報通信基礎数学	2				2	必修
	微分積分・演習Ⅰ	2				2	選択
	微分積分・演習Ⅱ		2			2	選択
	微分方程式とベクトル解析		2			2	選択
	線形代数・演習Ⅰ	2				2	必修
	線形代数・演習Ⅱ	2				2	選択
	幾何学とマルチメディア			2		2	選択
	応用幾何学				2	2	選択
	複素関数論			2		2	選択

数学・物理学	代数学と暗号			2		2	選択
	代数学と符号化				2	2	選択
	基礎物理学	2				2	必修
	物理学Ⅰ	2				2	選択
	物理学Ⅱ		2			2	選択
	現代物理学入門		2			2	選択

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
情報工学	コンピュータ工学	2				2	必修
	オペレーティングシステム	2				2	必修
	情報セキュリティⅠ		2			2	選択
	情報セキュリティⅡ			2		2	選択
	情報理論		2			2	必修
	デジタル信号処理Ⅰ			2		2	選択
	デジタル信号処理Ⅱ			2		2	選択
	データ構造とアルゴリズム		2			2	選択
	情報メディアとテキスト処理		2			2	選択
	データベースの基礎			2		2	選択
Webとデータベース			2		2	選択	
情報プログラミング工学	プログラミング基礎演習Ⅰ	2				2	必修
	プログラミング基礎演習Ⅱ	2				2	必修
	オブジェクト指向プログラミングⅠ		2			2	選択
	オブジェクト指向プログラミングⅡ		2			2	選択
	オブジェクト指向プログラミングⅢ			2		2	選択
	スクリプト言語プログラミングⅠ			2		2	選択
	スクリプト言語プログラミングⅡ			2		2	選択
情報ネットワーク工学	情報ネットワークⅠ	2				2	必修
	情報ネットワークⅡ	2				2	必修
	情報ネットワークⅢ		2			2	選択
	ネットワークシステム・演習Ⅰ		2			2	必修
	ネットワークシステム・演習Ⅱ		2			2	選択
	ネットワークシミュレーション			2		2	選択
	ネットワークプログラミング			2		2	選択
通信基礎	電気基礎学	2				2	必修
	電気回路Ⅰ	2				2	必修
	電気回路Ⅱ		2			2	選択
	デジタル回路Ⅰ		2			2	選択
	デジタル回路Ⅱ			2		2	選択
	光と物質			2		2	選択
	電子回路Ⅰ	2				2	必修
	電子回路Ⅱ		2			2	選択
	計測工学Ⅰ		2			2	選択
	計測工学Ⅱ			2		2	選択
無線工学	電磁気学・演習Ⅰ	2				2	選択
	電磁気学・演習Ⅱ		2			2	選択
	電磁波伝搬		2			2	選択
	アンテナ工学			2		2	選択
	電磁波応用技術			2		2	選択
	モバイルコミュニケーション工学				2	2	選択

情報伝送工学	情報通信工学Ⅰ		2			2	必修
	情報通信工学Ⅱ		2			2	選択
	情報伝送工学			2		2	選択
	情報交換システム			2		2	選択
	光通信システム				2	2	選択
実験・研究	コンピュータソフトウェア実験	2				2	必修
	計測・回路実験	2				2	必修
	情報工学基礎実験		4			4	必修
	情報工学応用実験			4		4	必修
	卒業研究				6	6	必修
共通科目	技術者倫理		2			2	必修
	通信法規			2		2	選択
	技術英語				2	2	選択

(ウ) 情報システム工学科

A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	線形代数Ⅱ	2				2	必修
	数学演習	2				2	必修
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	必修
	解析Ⅲ		2			2	選択
	微分方程式		2			2	選択
	幾何学とマルチメディア			2		2	選択
	代数学と暗号			2		2	選択
	応用幾何学				2	2	選択
	代数学と符号化				2	2	選択
	物理学Ⅰ	2				2	必修
	物理学Ⅱ	2				2	選択
	情報物理実験	2				2	必修
	複素関数論			2		2	選択

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
情報基礎工学	技術基礎数学	2				2	必修
	情報技術史		2			2	選択
	電気工学基礎	2				2	必修
	論理回路		2			2	必修
	電子工学基礎	2				2	必修
	確率統計		2			2	必修
	情報解析学		2			2	必修
	情報技術者倫理		2			2	選択
	テクニカルライティング			2		2	必修
	アカデミックプレゼンテーション			2		2	必修
	フューチャープランニング		2			2	必修
情報工学	CプログラミングⅠ	2				2	必修
	CプログラミングⅡ	2				2	必修
	データ構造とアルゴリズム		2			2	選択
	計算機工学Ⅰ	2				2	必修
	計算機工学Ⅱ		2			2	選択
	応用プログラミングⅠ		2			2	選択
	マルチメディアWeb技術			2		2	選択
	応用プログラミングⅡ			2		2	選択
	情報ネットワークシステム		2			2	選択
	コンピュータグラフィックス			2		2	選択
	画像処理工学			2		2	選択
	先端技術展望		2			2	選択
人工知能			2		2	選択	
システム工学	ロボット設計	2				2	必修
	生体情報計測学		2			2	必修
	センサ情報処理		2			2	選択
	生体システム論			2		2	選択
	機械システム論			2		2	選択
	システム制御工学Ⅰ		2			2	必修
	システム制御工学Ⅱ			2		2	選択
	デジタル制御工学			2		2	選択
	基礎ロボット工学		2			2	必修
	知能ロボット工学			2		2	選択
	メカトロアクチュエータ			2		2	選択
	ロボットシミュレーション			2		2	選択
	組込みシステム			2		2	選択
システム開発応用			2		2	選択	
共通	情報リテラシー	2				2	必修
	情報技術資格Ⅰ		2			2	選択
	情報技術資格Ⅱ			2		2	選択
	フレッシュマンプログラム	2				2	必修
	情報システム工学実験Ⅰ		2			2	必修
	情報システム工学実験Ⅱ		2			2	必修
	情報システム工学概論		2			2	必修
	情報システム工学実験Ⅲ			2		2	必修
	情報システム工学実験Ⅳ			2		2	必修
卒業研究				6	6	必修	

(エ) システムマネジメント学科
A. 専門基礎科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	2				2	選 択
	線形代数Ⅱ	2				2	選 択
	解析Ⅰ	2				2	選 択
	解析Ⅱ		2			2	選 択
	微分方程式			2		2	選 択
	複素関数論			2		2	選 択
	幾何学とマルチメディア			2		2	選 択
	代数学と暗号			2		2	選 択
	代数学と符号化				2	2	選 択
	応用幾何学				2	2	選 択
	基礎数学	2				2	選 択
	確率統計Ⅰ	2				2	必 修
	物理学Ⅰ	2				2	選 択
物理学Ⅱ	2				2	選 択	

B. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
システムマネジメント基礎	システムマネジメント基礎	2				2	必 修
	情報リテラシー	2				2	必 修
	プログラミング基礎	2				2	選 択
	情報数理入門		2			2	選 択
	情報数学Ⅰ		2			2	必 修
	情報数学Ⅱ		2			2	選 択
	確率統計Ⅱ		2			2	必 修
	情報処理Ⅰ		2			2	必 修
	情報処理Ⅱ		2			2	必 修
	オペレーションズリサーチⅠ	2				2	必 修
	システムマネジメント実験		4			4	必 修
	システムマネジメント応用			2		2	選 択
経営システム	経営システム論	2				2	必 修
	経営管理論		2			2	必 修
	経営計算論		2			2	選 択
	オペレーションズリサーチⅡ		2			2	必 修
	オペレーションズリサーチⅢ		2			2	必 修
	マーケティング論			2		2	選 択
	e-ビジネス論			2		2	選 択
	データ解析			2		2	必 修
	情報システム論			2		2	選 択
	経営シミュレーション			2		2	必 修
	ベンチャービジネス論			2		2	選 択
	生産システム	インダストリアルエンジニアリング	2				2
情報技術史			2			2	選 択
生産管理論			2			2	必 修
品質管理論			2			2	選 択

生産システム	生産システム実習		2		2	選択
	オペレーションマネジメント		2		2	必修
	人間工学		2		2	選択
	スポーツマネジメント			2	2	選択
	スポーツマーケティング			2	2	選択
情報メディアシステム	コンピュータ基礎学		2		2	選択
	メディア科学Ⅰ		2		2	必修
	メディア科学Ⅱ		2		2	必修
	ウェブデザイン		2		2	選択
	DTP入門	2			2	選択
	コンピュータグラフィックス入門	2			2	選択
	マルチメディア情報処理		2		2	選択
	情報処理Ⅲ		2		2	選択
	データベース		2		2	選択
インタラクティブコンテンツ		2		2	選択	
関連科目	知的所有権と法		2		2	選択
	ITパスポート資格	2			2	選択
	基本情報技術者資格		2		2	選択
卒研ゼミ	システムマネジメントゼミナールⅠ		4		4	必修
	システムマネジメントゼミナールⅡ		4		4	必修
	卒業研究			6	6	必修

3. 社会環境学部

社会環境学科

(1) 教養力育成科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
基礎科目	知と教養	2				2	18科目中5科目、10単位以上取得。ただし、外国人留学生は20科目中5科目、10単位以上取得。 *外国人留学生科目 *外国人留学生科目
	日本国憲法	2☆	2☆			2	
	市民生活と法	2☆	2☆			2	
	現代倫理	2☆	2☆			2	
	コミュニケーションの心理学	2☆	2☆			2	
	日本文学	2☆	2☆			2	
	歴史学概論	2☆	2☆			2	
	九州学	2☆	2☆			2	
	地理学概論	2☆	2☆			2	
	社会学入門	2☆	2☆			2	
	経済学入門	2☆	2☆			2	
	異文化理解	2☆	2☆			2	
	地域創生入門	2☆	2☆			2	
	日本事情Ⅰ	2				2	
日本事情Ⅱ	2				2		
自然・情報	生命と生態系	2☆	2☆			2	
	地球と環境	2☆	2☆			2	
	物質と化学	2☆	2☆			2	
	自然と科学	2☆	2☆			2	
	コンピュータ入門	2☆	2☆			2	

キャリア科目	キャリア形成	2			2	必修		
	コミュニケーション基礎	2			2	必修		
	日本語表現法		2		2	選択		
	インターンシップ I		2		2	選択		
	インターンシップ II			2	2	選択		
外国語科目	Advanced English A	2			2	選択	20科目中4科目、8単位以上取得、うち1・2年次の英語科目8単位を含む。ただし、外国人留学生は22科目中4科目8単位以上、うち1・2年次の英語科目8単位を含む	
	Advanced English B	2			2	選択		
	Advanced English C		2		2	選択		
	Advanced English D		2		2	選択		
	English A	2			2	選択		
	English B	2			2	選択		
	English C		2		2	選択		
	English D		2		2	選択		
	Academic English A			2	2	選択		
	Academic English B			2	2	選択		
	Academic English C			2	2	選択		
	Academic English D			2	2	選択		
	Conversation A			2	2	選択		
	Conversation B			2	2	選択		
	Conversation C				2	2		選択
	Conversation D				2	2		選択
	中国語 I			2		2		選択
	中国語 II			2		2		選択
韓国語 I			2		2	選択		
韓国語 II			2		2	選択		
日本語 I	2				2	選択	*外国人留学生科目	
日本語 II	2				2	選択	*外国人留学生科目	
習 目 ウエルネス	ウエルネス基礎	2			2	必修		
	ウエルネス応用	2			2	選択		

[注] ☆印はいずれかの学年で履修可能。

§ 8-1

学
則

§ 8-2

学
位
規
程

§ 8-3

履
修
要
項

§ 8-4

技
術
者
教
育
ア
プ
ロ
グ
ラ
ム
要
領

§ 8-5

社
会
福
祉
学
部
コ
ー
ス
制
教
育
ア
プ
ロ
グ
ラ
ム
要
領

§ 8-6

そ
の
他

(2) 専門教育科目

社会環境学科

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
基礎科目	社会環境学Ⅰ（総論）	2				2	必修
	社会環境学Ⅱ（経済と環境）	2				2	必修
	社会環境学Ⅲ（法律と環境）	2				2	必修
	社会環境学Ⅳ（人間と環境）	2				2	必修
	経営学概論	2				2	必修
	マクロ経済学	2				2	必修
基幹科目	現代日本政治論Ⅰ	2				2	選択
	憲法Ⅰ	2				2	選択
	会計学	2				2	選択
	環境政策Ⅰ		2			2	選択
	企業論		2			2	選択
	ミクロ経済学		2			2	選択
	民法Ⅰ		2			2	選択
	人間環境学		2			2	選択
	環境社会学		2			2	選択
	環境民俗学		2			2	選択
	環境経済学		2			2	選択
社会心理学		2			2	選択	
ナゼ ール ミ	基礎ゼミナール	4				4	必修
	ゼミナールⅠ		4			4	必修
	ゼミナールⅡ			4		4	必修
	ゼミナールⅢ				4	4	必修

[注] 基幹科目より6単位以上修得すること。

展 開 科 目	空間情報学Ⅰ	2				2	選択
	簿記論	2				2	選択
	空間情報学Ⅱ	2				2	選択
	国際関係史	2				2	選択
	ライフスタイルと環境	2				2	選択
	環境地理学		2			2	選択
	経済発展論		2			2	選択
	現代日本政治論Ⅱ		2			2	選択
	憲法Ⅱ		2			2	選択
	公共経済学		2			2	選択
	国際法Ⅰ		2			2	選択
	財務会計論		2			2	選択
	自然環境調査法		2			2	選択
	環境水文学		2			2	選択
	社会統計学		2			2	選択
	地域社会学		2			2	選択
	マーケティング論		2			2	選択
	民俗学概論		2			2	選択
	アジア経済論		2			2	選択
環境政策Ⅱ		2			2	選択	

展開科目	行政過程論Ⅰ		2		2	選択
	経営情報システム論		2		2	選択
	経営戦略論		2		2	選択
	経営分析論		2		2	選択
	国際法Ⅱ		2		2	選択
	社会調査法		2		2	選択
	人間存在と環境		2		2	選択
	防災情報学		2		2	選択
	民法Ⅱ		2		2	選択
	環境生態学			2	2	選択
	環境デザイン論			2	2	選択
	環境会計論			2	2	選択
	環境経営論			2	2	選択
	環境法			2	2	選択
	行政過程論Ⅱ			2	2	選択
	経営組織論			2	2	選択
	国際貿易論			2	2	選択
	資源エネルギー政策論			2	2	選択
	生活環境論			2	2	選択
	大気環境学			2	2	選択
	文化環境論			2	2	選択
	民法Ⅲ			2	2	選択
	環境管理論			2	2	選択
	環境教育論			2	2	選択
	環境人類学			2	2	選択
	法・政策の諸問題			2	2	選択
	企業法Ⅰ			2	2	選択
	国際環境協力論			2	2	選択
	国際取引法			2	2	選択
	人的資源管理論			2	2	選択
地域開発論			2	2	選択	
フィールドワーク			4	4	選択	
企業法Ⅱ				2	2	選択
経済政策論				2	2	選択
国際環境法				2	2	選択

§ 8-1

学則

§ 8-2

学位規程

§ 8-3

履修要項

§ 8-4

技術者教育
プログラム要領

§ 8-5

社会環境学部
コース制
教育プログラム要領

§ 8-6

その他

別表3 学則39条第1項に係る教職課程に関する科目及び単位数

1. 工学部／電子情報工学科・生命環境化学科・
知能機械工学科・電気工学科
(高等学校工業)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 教育方法論 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2
- 教職実践演習(中・高) 2
- 教育実習Ⅰ 3

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目については、
次より36単位を修得するものとする。なお、教科
に関する科目及び配当単位数は履修要項に定める。

- イ 教科に関する科目
 - 工業の関係科目
 - 職業指導
- 教科の指導法に関する科目
 - 工業科教育法Ⅰ 2
 - 工業科教育法Ⅱ 2

2. 工学部／生命環境化学科
(中学校理科、高等学校理科)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より中学校教諭一種免許状は27単位、高等学校
教諭一種免許状は23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 道德教育論 2
- 教育方法論 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2
- 教職実践演習(中・高) 2
- 教育実習Ⅰ 3 又は教育実習Ⅱ 5

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目につい
ては、次より中学校教諭一種免許状は32単位、高
等学校教諭一種免許状は36単位を修得するもの
とする。なお、教科に関する科目及び配当単位数
は履修要項に定める。

- イ 教科に関する科目
 - (イ) 中学校理科
 - 物理学
 - 物理学実験(コンピュータ活用を含む。)
 - 化学
 - 化学実験(コンピュータ活用を含む。)
 - 生物学
 - 生物学実験(コンピュータ活用を含む。)
 - 地学
 - 地学実験(コンピュータ活用を含む。)
 - (ロ) 高等学校理科

- 物理学
- 化学
- 生物学
- 地学
- 〔物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、
化学実験(コンピュータ活用を含む。)、生物
学実験(コンピュータ活用を含む。)、地学実
験(コンピュータ活用を含む。)]

- 教科の指導法に関する科目
 - 理科教育法Ⅰ 2
 - 理科教育法Ⅱ 2
 - 理科教育法Ⅲ 2
 - 理科教育法Ⅳ 2

3. 情報工学部(中学校数学、高等学校数学)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より中学校教諭一種免許状は27単位、高等学校
教諭一種免許状は23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 道德教育論 2
- 教育方法論 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2
- 教職実践演習(中・高) 2
- 教育実習Ⅰ 3 又は教育実習Ⅱ 5

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目につい
ては、次より中学校教諭一種免許状は32単位、高
等学校教諭一種免許状は36単位を修得するもの
とする。なお、教科に関する科目及び配当単位数
は履修要項に定める。

- イ 教科に関する科目
 - 代数学
 - 幾何学
 - 解析学
 - 〔確率論、統計学〕
 - コンピュータ
- 教科の指導法に関する科目
 - 数学科教育法Ⅰ 2
 - 数学科教育法Ⅱ 2
 - 数学科教育法Ⅲ 2
 - 数学科教育法Ⅳ 2

4. 情報工学部(高等学校情報)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 教育方法論 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2

教職実践演習（中・高） 2
教育実習Ⅰ 3

- (2) 教科及び教科の指導法に関する科目については、次より36単位を修得するものとする。なお、教科に関する科目及び配当単位数は履修要項に定める。

イ 教科に関する科目

情報社会・情報倫理
コンピュータ・情報処理（実習を含む。）
情報システム（実習を含む。）
情報通信ネットワーク（実習を含む。）
マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）
情報と職業

ロ 教科の指導法に関する科目

情報科教育法Ⅰ 2
情報科教育法Ⅱ 2

5. 社会環境学部（中学校社会、高等学校公民）

- (1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、次より中学校教諭一種免許状は27単位、高等学校教諭一種免許状は23単位を修得するものとする。

教師論 2
教育原理 2
教育心理学 2
教育行政学 2
道徳教育論 2
教育方法論 2
特別支援教育論 2
特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
生徒・進路指導論 2
教育相談の基礎 2
教職実践演習（中・高） 2
教育実習Ⅰ 3 又は教育実習Ⅱ 5

- (2) 教科及び教科の指導法に関する科目については、次より中学校教諭一種免許状は32単位、高等学校教諭一種免許状は36単位を修得するものとする。なお、教科に関する科目及び配当単位数は履修要項に定める。

イ 教科に関する科目

(イ) 中学校社会

日本史・外国史
地理学（地誌を含む。）
〔法律学、政治学〕
〔社会学、経済学〕
〔哲学、倫理学、宗教学〕

(ロ) 高等学校公民

〔法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）〕
〔社会学、経済学（国際経済を含む。）〕
〔哲学、倫理学、宗教学、心理学〕

ロ 教科の指導法に関する科目

社会科教育法Ⅰ 2
社会科教育法Ⅱ 2
社会科・公民科教育法Ⅰ 2
社会科・公民科教育法Ⅱ 2

別表4

学則第47条に係る検定料、
入学金および授業料等（単位：円）

1-1 検定料

検定料	センター試験利用 入学試験検定料	センター併用型 入学試験検定料
30,000	15,000	5,000

1-2 検定料併願割引

3教科型入学試験を 2日間とも受験する 場合の検定料	3教科型入学試験を 1日とセンター試験 利用入学試験（前期） を受験する検定料	3教科型入学試験を 2日間とセンター試験 利用入学試験（前期） を受験する検定 料
40,000	35,000	50,000

センター試験利用入学試験は、4学科併願までは定額。5学科目の併願から1学科追加併願ごとに5,000円の検定料とする。併願割引は、同時出願の場合にのみ適用する。

2

	工学部・情報工学部	社会環境学部
入 学 金	200,000	200,000
授 業 料	830,000	670,000
施設設備費	270,000	170,000
実験実習費	88,000	—
図 書 費	10,000	10,000
学生厚生費	19,000	19,000

附 則

39 この学則は、平成31年4月1日から施行する。

§ 8-2. 学位規程

福岡工業大学学位（学士）規程

(目的)

第1条 この規程は、学則第38条の規定に基づき、福岡工業大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、次のとおりとする。

学 部	学 科	学位の種 類
工学部	電子情報工学科 生命環境化学科 知能機械工学科 電気工学科	学士 (工学)
情報工学部	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 システムマネジメント学科	学士 (情報工学)
社会環境学部	社会環境学科	学士 (社会環境学)

(学位授与の要件)

第3条 前条による学位は、学則第37条の定めにより卒業を認定された者に授与する。

(学位の授与)

第4条 学位の授与は、当該学部教授会の議を経て、学長が行う。

2 学位記様式は、別表のとおりとする。

附 則

(省略)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

別表

第 号	卒業証書・学位記
大学印	(学 生 氏 名) 年 月 日生
本学所定の課程を修めて本学を卒業したことを認め 学士（ ☆ ）の学位を授与する 年 月 日	
福岡工業大学 学長（ 氏 名 ）	学長印

(備考) ☆印の個所は、工学部は工学、情報工学部は情報工学、社会環境学部は社会環境学の名称を記入する。

§ 8-3. 履修要項

1 工学部

福岡工業大学工学部 履修要項

第1章 総則

第1条 学生が卒業資格を得るための履修は、福岡工業大学学則（以下学則という。）第28条から第37条までの規定及びこの履修要項の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 教育課程の授業科目は次のように分類する。

- (1) 授業科目は、教養力育成科目、専門基礎科目及び専門教育科目に分ける。
- (2) 上記の授業科目は、必修科目及び選択科目からなる。
- (3) 必修科目のうち、各学科が特に重視する科目をコア科目として指定する。

第3条 学生が4年以上在学し卒業資格を得るためには、次の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目
基礎科目 5科目 10単位以上
キャリア科目 2科目 4単位以上
外国語科目 4科目 8単位以上
(うち1、2年次の英語科目8単位を含むこと)
ウェルネス科目 1科目 2単位以上
上記のいずれかの科目 1科目 2単位以上
合計26単位以上
- (2) 専門基礎科目及び専門教育科目
92単位以上
(電子情報工学科は100単位以上)
- (3) 教養力育成科目、専門基礎科目及び専門教育科目から
14単位以上
(電子情報工学科は6単位以上)

総計132単位以上

第4条 技術者教育を目的とする教育プログラムの修了認定を希望する学生が、卒業資格を得るためには、4年以上在学し、別に定める当該学科の指定する卒業要件を満足しなければならない。

第5条 各授業科目の単位算定の基準は、学則第29条により次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習は、毎週1時間、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、製図、体育実技については、毎週2時間、30時間の授業をもって1単位とする。

第6条 各年次の学生が履修する科目及びその単位は別表に定める授業科目表のとおりとする。

第7条 学生は1年以上在学し、前条の規定による1年次の科目を電子情報工学科は32単位以上、生命環境化学科は38単位以上、知能機械工学科は32

単位以上、電気工学科は30単位以上取得しなければならない。ただし、コア科目が設定されている学科については、2年次の進級条件に指定されたコア科目の全単位を含むものとする。

第8条 学生は2年以上在学し、第6条の規定による1年次、2年次の科目を電子情報工学科は72単位以上、生命環境化学科は72単位以上、知能機械工学科は68単位以上、電気工学科は64単位以上取得しなければならない。ただし、コア科目が設定されている学科については、3年次の進級条件に指定されたコア科目の全単位を含むものとする。

第9条 学生は3年以上在学し、第6条の規定による1年次、2年次、3年次の科目を、電子情報工学科は専門基礎科目と専門教育科目の必修科目76単位以上と選択科目12単位以上を含み114単位以上、生命環境化学科、知能機械工学科、電気工学科は専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含みそれぞれ112単位以上、114単位以上、104単位以上取得しなければならない。ただし、コア科目が設定されている学科については、コア科目の全単位を含むものとする。

第10条 卒業研究は、指導教員の同意を得て届け出た題目について研究し、定められた期日までに報告書を提出しなければならない。

第3章 受講

第11条 科目を履修するためには、その科目の講義（実験、実習、実技、演習、製図含む。以下同様）を受講しなければならない。

第12条 講義は、その開講期間によって次の6種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 後期開講、次年度前期完結講義
- (5) 集中講義
- (6) 臨時講義

第13条 選択科目は、年次により開講しないことがある。開講した講義でも受講人員が10人に満たない場合には、開講を取り止めることがある。

第14条 各講義は、その内容、講義室の都合により受講人員を制限する。

第15条 同一科目につき2つ以上の講義が開講されているときは、選択して受講することができる。ただし、授業の都合上、受講を特に指定しているときは、この限りでない。

第16条 受講のためには、履修届を所定の期間に教務課へ提出し、指示を受けねばならない。

2 正当な理由がなくて前項の期間中に履修届を提出しない者は、受講することはできない。また、

§ 8-1

学則

§ 8-2

学位規程

§ 8-3

履修要項

§ 8-4

技術者教育
プログラム要項

§ 8-5

社会環境学部
コース制
教育プログラム要項

§ 8-6

その他

一旦提出した履修届は、正当な理由なしに変更することはできない。

第17条 1年間に履修登録できる単位数は、卒業単位に含まない科目、認定科目及び外国人留学生科目を除き最大49単位とする。ただし、教育的配慮から例外を認めることがある。

第18条 受講の取り消しは、所定の期日までに教務課に届け出たときに限ってこれを承認する。ただし、一旦取り消した科目の復活は、これを認めない。

第19条 他学部又は他学科の科目を履修しようとする者は、あらかじめその授業科目を教務課に届け出て許可を受けなければならない。

2 他学部又は他学科で履修できる科目は、当該学科が指定する科目及び教職課程の教科に関する科目のうち、当該学科のカリキュラムに設定されていない科目とする。但し、教職課程の教科に関する科目については、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

3 当該学科のカリキュラムに設定されていない科目を、他学部又は他学科で履修する場合、12単位を上限とする。但し、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

第4章 試験及び成績評価

第20条 科目の試験は、講義期間内または各学期末に行う。

第21条 科目の成績評価は、原則として試験にて行う。ただし、試験は口頭試問、研究報告や論文などにかえることができる。

第22条 次の各号いずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目をその学期において履修していないとき。
- (2) 授業料その他の納付金を完納していないとき。
- (3) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (4) 試験開始20分以上遅刻したとき。

第23条 削除

第24条 成績は、最高100点、最低0点の点数をもって評価する。

第25条 学則第36条所定の成績評価は、次の基準による。

- (1) 秀 100点より90点まで
- (2) 優 89点より80点まで
- (3) 良 79点より70点まで
- (4) 可 69点より60点まで
- (5) 不可 59点以下

成績表示「秀」「優」「良」及び「可」を合格とし、所定の単位を与え、「不可」を不合格とする。

第26条 試験において不正行為を行なった者に対しては、その学期の全履修科目の評点を0点とする。

第27条 病気その他止むを得ない事由により学期末の試

験を受けることができない者に対しては、本人の願い出により追試験を行なうことがある。願い出に際しては、試験を受けられなかった事由を証明する文書を提出しなければならない。

第28条 前項の願い出は、当該科目の試験前日までになされねばならない。ただし、やむを得ない事情の場合はこの限りではない。

第29条 追試験の成績は、その得点の8割とする。ただし、情状によりこの率を緩和することがある。

第30条 追試験は、1科目につき1回限りとする。

第31条 合格点を得て単位を取得した科目は、再履修をすることができない。

第32条 不合格となった科目は、翌年度以降に再履修することができる。

第33条 再履修する場合は、再履修願を教務課に提出しなければならない。

第34条 再履修の手続料は、1科目につき1,000円とする。

第5章 教職課程

第35条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状（工業）を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目

日本国憲法	
日本国憲法	2単位
体育	
ウェルネス基礎	2単位
外国語コミュニケーション	
外国語科目からいずれか1科目	2単位

情報機器の操作

コンピュータ入門 2単位

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）

教育方法論 2単位（2年）

生徒・進路指導論 2単位（3年）

教育相談の基礎 2単位（2年）

教職実践演習（中・高） 2単位（4年）

教育実習Ⅰ 3単位（4年）

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目（教職課程必修科目を含むこと。）

専門教育科目 30単位（教職別表1に記載、卒業単位に含む。ただし工学概論を除く。）

職業指導 2単位（3年）

工業科教育法Ⅰ 2単位(3年)
 工業科教育法Ⅱ 2単位(3年)

第36条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状(理科)及び中学校教諭一種免許状(理科)を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目(卒業単位に含む)

日本国憲法
 日本国憲法 2単位
 体 育
 ウェルネス基礎 2単位
 外国語コミュニケーション
 外国語科目からいずれか1科目
 2単位
 情報機器の操作
 コンピュータ入門 2単位

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目

教 師 論 2単位(1年)
 教 育 原 理 2単位(2年)
 教 育 心 理 学 2単位(2年)
 教 育 行 政 学 2単位(2年)
 特別支援教育論 2単位(3年)
 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2単位(3年)
 教 育 方 法 論 2単位(2年)
 生徒・進路指導論 2単位(3年)
 教育相談の基礎 2単位(2年)
 教職実践演習(中・高) 2単位(4年)
 教 育 実 習Ⅰ 3単位(4年)

中学校教諭一種免許状取得に必要な科目*

教 師 論 2単位(1年)
 教 育 原 理 2単位(2年)
 教 育 心 理 学 2単位(2年)
 教 育 行 政 学 2単位(2年)
 特別支援教育論 2単位(3年)
 道 徳 教 育 論 2単位(2年)
 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2単位(3年)
 教 育 方 法 論 2単位(2年)
 生徒・進路指導論 2単位(3年)
 教育相談の基礎 2単位(2年)
 教職実践演習(中・高) 2単位(4年)
 教 育 実 習Ⅱ 5単位(4年)

* 中学・高校両教諭一種免許状取得に必要な科目は中学校教諭一種免許状取得に必要な科目と同一である。

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目(うち専門教育科目は卒業単位に含む)

次の科目の中から、教職課程必修科目を含み、中学校教諭一種免許状は32単位、高等学校教諭一種免許状は36単位を取得しなければならない。

また、理科教育法Ⅰ～Ⅳのうち、高等学校教諭一種免許状は理科教育法Ⅰ～Ⅱの4単位、中学校教諭一種免許状は理科教育法Ⅰ～Ⅳの8単位を取得しなければならない。

教職別表2に記載の科目

理科教育法Ⅰ 2単位(3年)
 理科教育法Ⅱ 2単位(3年)
 理科教育法Ⅲ 2単位(3年)
 理科教育法Ⅳ 2単位(3年)

第6章 放送大学の科目履修

第37条 放送大学との単位互換協定に基づき、下記に指定する放送大学の科目の単位を修得した場合、学則第33条に基づき、本学の卒業単位として加算できるものとする。

放送大学との単位互換に伴う授業科目

本学科目分類	放送大学科目名	単位数
教養力育成科目 基礎科目	(1)基盤科目	1科目2単位 *履修要項第3条(1)の基礎科目の単位として加算できる。

附 則

(省略)

24 この要項は、2019年4月1日から施行する。

※別表は、§ 3-1～§ 3-4各学科の■年次別授業科目表にそれぞれ記載

※教職別表1、教職別表2は、§ 2-12. 教職課程に記載

2 情報工学部

福岡工業大学情報工学部 履修要項

第1章 総則

第1条 学生が卒業資格を得るための履修は、福岡工業大学学則（以下学則という。）第28条から第37条までの規定及びこの履修要項の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 教育課程の授業科目は次のように分類する。

- (1) 授業科目は、教養力育成科目、専門基礎科目及び専門教育科目に分ける。
- (2) 上記の授業科目は、必修科目及び選択科目からなる。
- (3) 必修科目のうち、各学科が特に重視する科目をコア科目として指定する。

第3条 学生が4年以上在学し卒業資格を得るためには、次の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目
基礎科目 5科目 10単位以上
キャリア科目 2科目 4単位以上
外国語科目 4科目 8単位以上
(うち1、2年次の英語科目8単位を含むこと)
ウェルネス科目 1科目 2単位以上
合計24単位以上
- (2) 専門基礎科目及び専門教育科目 84単位以上
- (3) 教養力育成科目、専門基礎科目及び専門教育科目から16単位以上
総計124単位以上

第4条 技術者教育を目的とする教育プログラムの修了認定を希望する学生が、卒業資格を得るためには、4年以上在学し、別に定める当該学科の指定する卒業要件を満足しなければならない。

第5条 各授業科目の単位算定の基準は、学則第29条により次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習は、毎週1時間、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、製図、体育実技については、毎週2時間、30時間の授業をもって1単位とする。

第6条 各年次の学生が履修する科目及びその単位は別表に定める授業科目表のとおりとする。

第7条 学生は1年以上在学しなければ、2年次の科目を履修することはできない。

第8条 学生は2年以上在学し、第6条の規定による1年次、2年次の科目64単位以上を取得しなければ3年次の科目を履修することはできない。

第9条 学生は3年以上在学し、専門基礎科目と専門教

育科目62単位以上を含み、教養力育成科目の単位と合わせて104単位以上を取得しなければ、4年次の科目を履修することはできない。

第10条 卒業研究は、指導教員の同意を得て届け出た題目について研究し、定められた期日までに報告書を提出しなければならない。

第3章 受講

第11条 科目を履修するためには、その科目の講義（実験、実習、実技、演習、製図含む。以下同様）を受講しなければならない。

第12条 講義は、その開講期間によって次の6種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 後期開講、次年度前期完結講義
- (5) 集中講義
- (6) 臨時講義

第13条 選択科目は、年次により開講しないことがある。開講した講義でも受講人員が10人に満たない場合には、開講を取り止めることがある。

第14条 各講義は、その内容、講義室の都合により受講人員を制限する。

第15条 同一科目につき2つ以上の講義が開講されているときは、選択して受講することができる。ただし、授業の都合上、受講を特に指定しているときは、この限りでない。

第16条 受講のためには、履修届を所定の期間に教務課へ提出し、指示を受けねばならない。

- 2 正当な理由がなくて前項の期間中に履修届を提出しない者は、受講することはできない。また、一旦提出した履修届は、正当な理由なしに変更することはできない。

第17条 1年間に履修登録できる単位数は、卒業単位に含まない科目、認定科目及び外国人留学生科目を除き最大49単位とする。ただし、教育的配慮から例外を認めることがある。

第18条 受講の取り消しは、所定の期日までに教務課に届け出たときに限ってこれを承認する。ただし、一旦取り消した科目の復活は、これを認めない。

第19条 他学部又は他学科の科目を履修しようとする者は、あらかじめその授業科目を教務課に届け出て許可を受けなければならない。

- 2 他学部又は他学科で履修できる科目は、当該学科が指定する科目及び教職課程の教科に関する科目のうち、当該学科のカリキュラムに設定されていない科目とする。但し、教職課程の教科に関する科目については、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

- 3 当該学科のカリキュラムに設定されていない科目を、他学部又は他学科で履修する場合、12単位を上限とする。但し、当該学科の卒業単位に含

まないものとする。

第4章 試験及び成績評価

第20条 科目の試験は、講義期間内または各学期末に行う。

第21条 科目の成績評価は、原則として試験にて行う。ただし、試験は口頭試問、研究報告や論文などにかえることができる。

第22条 次の各号いずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目をその学期において履修していないとき。
- (2) 授業料その他の納付金を完納していないとき。
- (3) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (4) 試験開始20分以上遅刻したとき。

第23条 削除

第24条 成績は、最高100点、最低0点の点数をもって評価する。

第25条 学則第36条所定の成績評価は、次の基準による。

- (1) 秀 100点より90点まで
- (2) 優 89点より80点まで
- (3) 良 79点より70点まで
- (4) 可 69点より60点まで
- (5) 不可 59点以下

成績表示「秀」「優」「良」及び「可」を合格とし、所定の単位を与え、「不可」を不合格とする。

第26条 試験において不正行為を行なった者に対しては、その学期の全履修科目の評点を0点とする。

第27条 病気その他止むを得ない事由により学期末の試験を受けることができない者に対しては、本人の願い出により追試験を行なうことがある。願い出に際しては、試験を受けられなかった事由を証明する文書を提出しなければならない。

第28条 前項の願い出は、当該科目の試験前日までになされねばならない。ただし、やむを得ない事情の場合はこの限りではない。

第29条 追試験の成績は、その得点の8割とする。ただし、情状によりこの率を緩和することがある。

第30条 追試験は、1科目につき1回限りとする。

第31条 合格点を獲得単位を取得した科目は、再履修をすることができない。

第32条 不合格となった科目は、翌年度以降に再履修することができる。

第33条 再履修する場合は、再履修願を教務課に提出しなければならない。

第34条 再履修の手続料は、1科目につき1,000円とする。

第5章 教職課程

第35条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状（数学）及び中学校教諭一種免許状（数学）を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目（卒業単位に含む）

日本国憲法	
日本国憲法	2単位
体育	
ウェルネス基礎	2単位
外国語コミュニケーション	
外国語科目から1科目	2単位
- (2) 情報機器の操作に関する専門教育科目（卒業単位に含む）

情報工学科	
コンピュータリテラシー	2単位
情報通信工学科	
コンピュータソフトウェア実験	2単位
情報システム工学科	
情報リテラシー	2単位
システムマネジメント学科	
情報リテラシー	2単位
- (3) 教育の基礎的理解に関する科目等
高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目

教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育方法論	2単位（2年）
生徒・進路指導論	2単位（3年）
教育相談の基礎	2単位（2年）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年）
教育実習Ⅰ	3単位（4年）

中学校教諭一種免許状取得に必要な科目*

教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
道徳教育論	2単位（2年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育方法論	2単位（2年）
生徒・進路指導論	2単位（3年）
教育相談の基礎	2単位（2年）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年）
教育実習Ⅱ	5単位（4年）

* 中学・高校両教諭一種免許状取得に必要な科目は、中学校教諭一種免許状取得に必要な科目と同一である。
- (4) 教科及び教科の指導法に関する科目（うち専

§ 8-1

学則

§ 8-2

学位規程

§ 8-3

履修要項

§ 8-4

技術者教育
プログラム要領

§ 8-5

社会環境学部
教育プログラム要領

§ 8-6

その他

門教育科目は卒業単位に含む)
次の科目の中から、教職課程必修科目を含み、中学校教諭一種免許状は32単位、高等学校教諭一種免許状は36単位を取得しなければならない。

また、数学科教育法Ⅰ～Ⅳのうち、高等学校教諭一種免許状は、数学科教育法Ⅰ～Ⅱの4単位、中学校教諭一種免許状は、数学科教育法Ⅰ～Ⅳの8単位を取得しなければならない。

教職別表1に記載の科目

数学科教育法Ⅰ 2単位(3年)
数学科教育法Ⅱ 2単位(3年)
数学科教育法Ⅲ 2単位(3年)
数学科教育法Ⅳ 2単位(3年)

第36条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状(情報)を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目(卒業単位に含む)
 - 日本国憲法 2単位
 - 日本国憲法 2単位
 - 体 育 2単位
 - ウェルネス基礎 2単位
 - 外国語コミュニケーション 2単位
 - 外国語科目から1科目 2単位
- (2) 情報機器の操作に関する専門科目(卒業単位に含む)
 - 情報工学科
 - コンピュータリテラシー 2単位
 - 情報通信工学科
 - コンピュータソフトウェア実験 2単位
 - 情報システム工学科
 - 情報リテラシー 2単位
 - システムマネジメント学科
 - 情報リテラシー 2単位
- (3) 教育の基礎的理解に関する科目等
 - 教 師 論 2単位(1年)
 - 教 育 原 理 2単位(2年)
 - 教 育 心 理 学 2単位(2年)
 - 教 育 行 政 学 2単位(2年)
 - 特別支援教育論 2単位(3年)
 - 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2単位(3年)
 - 教 育 方 法 論 2単位(2年)
 - 生徒・進路指導論 2単位(3年)
 - 教育相談の基礎 2単位(2年)
 - 教職実践演習(中・高) 2単位(4年)
 - 教 育 実 習 Ⅰ 3単位(4年)
- (4) 教科及び教科の指導法に関する科目(教職必修科目を含むこと。)
 - 専門教育科目 30単位(教職別表2に記載、卒業単位に含む)
 - 情報職業論 2単位(3年生)

情報科教育法Ⅰ 2単位(3年)
情報科教育法Ⅱ 2単位(3年)

第6章 放送大学の科目履修

第37条 放送大学との単位互換協定に基づき、下記に指定する放送大学の科目の単位を修得した場合、学則第33条に基づき、本学の卒業単位として加算できるものとする。

放送大学との単位互換に伴う授業科目

本学科目分類	放送大学科目名	単位数
教養力育成科目 基礎科目	(1)基盤科目	1科目2単位 *履修要項第3条(1)の基礎科目の単位として加算できる。

附 則
(省略)

24 この要項は、2019年4月1日から施行する。

※別表は、§4-1～§4-4各学科の3年次別授業科目表にそれぞれ記載

※教職別表1、教職別表2は、§2-12. 教職課程に記載

3 社会環境学部

福岡工業大学社会環境学部 履修要項

第1章 総 則

第1条 学生が卒業資格を得るための履修は、福岡工業大学学則（以下学則という。）第28条から第37条までの規程及びこの履修要項の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 教育課程の授業科目は次のように分類する。

- (1) 授業科目は、教養力育成科目及び専門教育科目に分ける。
- (2) 上記の授業科目は、必修科目及び選択科目からなる。
- (3) 必修科目のうち、学科が特に重視する科目をコア科目として指定する。

第3条 学生が4年以上在学し卒業資格を得るためには、次の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目

基礎科目	5科目	10単位以上
キャリア科目	2科目	4単位以上
外国語科目	4科目	8単位以上
(うち1、2年次の英語科目8単位を含むこと)		
ウェルネス科目	1科目	2単位以上
上記のいずれかの科目	1科目	2単位以上
合計26単位以上		
- (2) 専門教育科目

基礎科目から	12単位
基幹科目から	6単位以上
基幹科目（前記6単位を除く）又は展開科目から	46単位以上
ゼミナールから	16単位
合計 80単位以上	
- (3) 教養力育成科目及び専門教育科目から
18単位以上
総計124単位以上

第4条 コース修了認定を希望する学生が修了認定を得るために必要な事項は、別に定める。

第5条 各授業科目の単位算定の基準は、学則第29条により次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習は、毎週1時間、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、体育実技等については、毎週2時間、30時間の授業をもって1単位とする。

第6条 各年次の学生が履修する科目及びその単位は別表に定める授業科目表のとおりとする。

第7条 学生は1年以上在学し、基礎ゼミナールを含む30単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度 GPA1.0以上を取らなければ、

次年度に2年次の科目を履修することはできない。

第8条 学生は2年以上在学し、ゼミナールⅠを含む62単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度 GPA1.0以上を取らなければ、次年度に3年次の科目を履修することはできない。

第9条 学生は3年以上在学し、ゼミナールⅡを含む94単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度 GPA1.0以上を取らなければ、次年度4年次の科目を履修することはできない。

第3章 受 講

第10条 科目を履修するためには、その科目の講義（実験、実習、実技、演習等を含む。以下同様）を受講しなければならない。

第11条 講義は、その開講期間によって次の6種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 後期開講、次年度前期完結講義
- (5) 集中講義
- (6) 臨時講義

第12条 選択科目は、年次により開講しないことがある。開講した講義でも受講人員が10人に満たない場合には、開講を取り止めることがある。

第13条 各講義は、その内容、講義室の都合により受講人員を制限する。

第14条 同一科目につき2つ以上の講義が開講されているときは、選択して受講することができる。ただし、授業の都合上、受講を特に指定しているときは、この限りでない。

第15条 受講のためには、履修届を所定の期間に教務課へ提出し、指示を受けねばならない。

- 2 正当な理由がなくて前項の期間中に履修届を提出しない者は、受講することはできない。また、一旦提出した履修届は、正当な理由なしに変更することはできない。

第16条 1年間に履修登録できる単位数は、卒業単位に含まない科目、認定科目及び外国人留学生科目を除き最大44単位とする。ただし、教育的配慮から例外を認めることがある。

第17条 受講の取り消しは、所定の期日までに教務課に届け出たときに限ってこれを承認する。ただし、一旦取り消した科目の復活は、これを認めない。

第18条 他学部又は他学科の科目を履修しようとする者は、あらかじめその授業科目を教務課に届け出て許可を受けなければならない。

- 2 他学部又は他学科で履修できる科目は、当該学科が指定する科目及び教職課程の教科に関する科目のうち、当該学科のカリキュラムに設定されて

いない科目とする。但し、教職課程の教科に関する科目については、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

- 3 当該学科のカリキュラムに設定されていない科目を、他学部又は他学科で履修する場合、12単位を上限とする。但し、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

第4章 試験及び成績評価

第19条 科目の試験は、講義期間内または各学期末に行う。

第20条 科目の成績評価は、原則として試験にて行う。ただし、試験は口頭試問、研究報告や論文などにかえることができる。

第21条 次の各号いずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目をその学期において履修していないとき。
- (2) 授業料その他の納付金を完納していないとき。
- (3) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (4) 試験開始20分以上遅刻したとき。

第22条 試験の成績は、最高100点、最低0点の点数をもって評価する。

第23条 学則第36条所定の成績評価は、次の基準による。

- (1) 秀 100点より90点まで
- (2) 優 89点より80点まで
- (3) 良 79点より70点まで
- (4) 可 69点より60点まで
- (5) 不可 59点以下

成績表示「秀」「優」「良」及び「可」を合格とし、所定の単位を与え、「不可」を不合格とする。

- 2 GPA (Grade Point Average) は、個々の科目の成績評価に基づき、履修した全科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものであり、次の計算式により算出する。

$$GPA = \frac{(\text{科目の単位数}) \times (\text{科目で得たGP}) \text{の総和}}{\text{履修総単位数}}$$

GPの換算

評価	秀	優	良	可	認定	不可
評点	100~90	89~80	79~70	69~60	-	59~0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	-	0.0

第24条 試験において不正行為を行なった者に対しては、その学期の全履修科目の評点を0点とする。

第25条 病気その他止むを得ない事由により学期末の試験を受けることができない者に対しては、本人の願い出により追試験を行なうことがある。願い出に際しては、試験を受けられなかった事由を証明する文書を提出しなければならない。

第26条 前項の願い出は、当該科目の試験前日までになされねばならない。ただし、やむを得ない事情の場合はこの限りではない。

第27条 追試験の成績は、その得点の8割とする。ただし、情状によりこの率を緩和することがある。

第28条 追試験は、1科目につき1回限りとする。

第29条 合格点を得て単位を取得した科目は、再履修をすることができない。

第30条 不合格となった科目は、翌年度以降に再履修することができる。

第31条 再履修する場合は、再履修願を教務課に提出しなければならない。

第32条 再履修の手続料は、1科目につき1,000円とする。

第5章 教職課程

第33条 学則第39条により教育職員免許法の定めるところにより高等学校教諭一種免許状（公民）及び中学校教諭一種免許状（社会）を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目

日本国憲法	
日本国憲法	2単位
体育	
ウェルネス基礎	2単位
外国語コミュニケーション	
外国語科目からいずれか1科目	2単位
情報機器の操作	
コンピュータ入門	2単位

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目	
教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育方法論	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
生徒・進路指導論	2単位（3年）
教育相談の基礎	2単位（2年）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年）
教育実習Ⅰ	3単位（4年）
中学校教諭一種免許状取得に必要な科目*	
教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
道徳教育論	2単位（2年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育方法論	2単位（2年）

§ 8-1	学則
§ 8-2	学位規程
§ 8-3	履修要項
§ 8-4	技術者教育プログラム要領
§ 8-5	社会環境学部コース制教育プログラム要領
§ 8-6	その他

- 特別支援教育論 2単位 (3年)
- 生徒・進路指導論 2単位 (3年)
- 教育相談の基礎 2単位 (2年)
- 教職実践演習 (中・高) 2単位 (4年)
- 教育実習Ⅱ 5単位 (4年)

* 中学・高校両教諭一種免許状取得に必要な科目は、中学校教諭一種免許状取得に必要な科目と同一である。

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目 (教職必修科目を含むこと。)

高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目
教職別表記載の科目 32単位 (卒業単位に含む)

- 社会科・公民科教育法Ⅰ 2単位 (3年)
- 社会科・公民科教育法Ⅱ 2単位 (3年)

中学校教諭一種免許状取得に必要な科目
教職別表記載の科目 24単位 (卒業単位に含む)

- 社会科教育法Ⅰ 2単位 (3年)
- 社会科教育法Ⅱ 2単位 (3年)
- 社会科・公民科教育法Ⅰ 2単位 (3年)
- 社会科・公民科教育法Ⅱ 2単位 (3年)

第6章 放送大学の科目履修

第34条 放送大学との単位互換協定に基づき、下記に指定する放送大学の科目の単位を修得した場合、学則第33条に基づき、本学の卒業単位として加算できるものとする。

放送大学との単位互換に伴う授業科目

本学科目分類	放送大学科目名	単位数
教養力育成科目 基礎科目	(1)基礎科目	1科目2単位 *履修要項第3条(1)の基礎科目単位として加算できる。

附 則

(省略)

14 この要項は、2019年4月1日から施行する。

※別表は、§ 5-1社会環境学科の3年次別授業科目表に記載

※教職別表は、§ 2-12. 教職課程に記載

§ 8-4. 技術者教育プログラム要領

1 (工学部) 電子情報工学科

電子情報工学科 技術者教育プログラム要領

(目的)

第1条 学則第37条第2項及び工学部履修要項第4条に基づき、技術者教育を目的とする教育プログラム(以下、技術者教育プログラムという。)として、教育プログラム「電子情報工学科」を電子情報工学科に設ける。この要領により、この技術者教育プログラムの履修及び卒業要件について定める。

(履修)

第2条 電子情報工学科への入学生全員が技術者教育プログラムの履修者となる。

第3条 2年次進級時、3年次進級時、4年次進級時に、それぞれ工学部履修要項第7条、第8条、第9条に定める単位を取得していなければならない。

(卒業)

第4条 次の卒業要件を全て満たし総計132単位以上を取得することにより、技術者教育プログラムが修了したものと認定される。

1. 工学部履修要項第3条の要件を満たしていなければならない。
2. 必修科目の全ての単位を取得すること。

附 則

この要領は、平成30年度入学生から適用する。

2 (工学部) 生命環境化学科

生命環境化学科 技術者教育プログラム要領

(目的)

第1条 学則37条第2項及び工学部履修要項第4条に基づき、技術者教育を目的とする教育プログラムとして、生命環境化学科に「生命環境化学アドバンスコース」と「生命環境化学基盤コース」を設ける。この要領により、これらの技術者教育プログラムの履修及び卒業要件について定める。

(履修)

第2条 学則第28条の定める選択科目のうち、別表の授業科目を「生命環境化学アドバンスコース」のコース必修科目とする。

第3条 生命環境化学科の学生は、2年生進級時に「生命環境化学アドバンスコース」と「生命環境化学基盤コース」のいずれかを選択しなければならない。ただし、「生命環境化学アドバンスコース」は、1年次の専門教育科目の必修科目(コース必修科目を含む)の単位を全て習得していることを履修の条件とし、原則として学生総数の半分を上限とする。「生命環境化学アドバンスコース」の希望

者が多数の場合は、成績順とする。

第4条 「生命環境化学アドバンスコース」と「生命環境化学基盤コース」の進級条件は、ともに、工学部履修要項第7条、第8条、第9条による。

(コース変更)

第5条 両コース間の変更は、原則として認めない。ただし、4年生進級までに「生命環境化学アドバンスコース」から「生命環境化学基盤コース」へのコース変更については、申し出があれば認める場合がある。

(卒業)

第6条 「生命環境化学アドバンスコース」の修了認定を希望する学生が卒業資格を得るためには、4年以上在学し、次の要件をすべて満たして総計138単位以上を取得しなければならない。

1. 工学部履修要項第3条の要件を満たしていなければならない。
2. 生命環境化学専門のうち、物質系科目と物質・生命共通科目から「環境物質工学実験」を含む10単位以上、または生命系科目と物質・生命共通科目から「環境生命工学実験」を含む10単位以上を取得し、かつ合計20単位以上を取得すること。
3. 「生命環境化学アドバンスコース」のコース必修科目の単位を取得していること。
4. 「生命環境化学アドバンスコース」が定める学習教育目標毎の評価基準を満たしていなければならない。

第7条 「生命環境化学基盤コース」の修了認定を希望する学生が卒業資格を得るためには、4年以上在学し、次の要件をすべて満たして総計132単位以上を取得しなければならない。

1. 工学部履修要項第3条の要件を満たしていなければならない。
2. 生命環境化学専門のうち、物質系科目と物質・生命共通科目から「環境物質工学実験」を含む10単位以上、または生命系科目と物質・生命共通科目から「環境生命工学実験」を含む10単位以上を取得し、かつ合計20単位以上を取得すること。

(転入学・編入学)

第8条 生命環境化学科に転入学、編入学を希望する学生のコース分けについては、別に定める。

附 則

1. この要領は、平成30年度入学生から施行する。

(別表) 生命環境化学科「生命環境化学アドバンスコース」のコース必修科目

§ 8-1	学則
§ 8-2	学位規程
§ 8-3	履修要項
§ 8-4	技術者教育プログラム要領
§ 8-5	社会環境学部コース制教育プログラム要領
§ 8-6	その他

■専門教育科目

区分	授業科目	履修年次	単位数
アドバンス科目	先端生命環境化学演習	1年	2
	先端生命環境化学実験Ⅰ	2年	2
	先端生命環境化学実験Ⅱ	2年	2
	生産技術倫理	3年	2
	技術英語	3年	2

3 **〔工学部〕 知能機械工学科**

**知能機械工学科
技術者教育プログラム要領**

(目的)

第1条 学則第37条第2項及び工学部履修要項第4条に基づき、技術者教育を目的とする教育プログラム(以下、技術者教育プログラムという。)[知能機械工学科]を知能機械工学科に設ける。この要領により、この技術者教育プログラムの履修及び卒業要件について定める。

(履修)

第2条 知能機械工学科への入学生全員がプログラム履修者となる。

第3条 工学部履修要項第7条、第8条、第9条の定める2年次進級時に32単位以上を、3年次進級時に68単位以上を、4年次進級時に114単位以上、かつ各年次進級時に指定されたコア科目の全てを取得していなければならない。

(卒業)

第4条 次の卒業要件を全て満たし総計132単位以上を取得することにより、技術者教育プログラムが修了したものと認定される。

- (1) 工学部履修要項第3条の要件を満たしていなければならない。
- (2) 必修科目の全ての単位を取得すること。

附 則

この要領は、平成28年度入学生から適用する。

4 **〔情報工学部〕 情報通信工学科**

**情報通信工学科
技術者教育プログラム要領**

(目的)

第1条 学則第37条第2項及び情報工学部履修要項第4条に基づき、技術者教育を目的とする教育プログラム(以下、技術者教育プログラムという)として、情報通信工学科に「無線通信技術者教育プログラム」、「電気通信技術者教育プロ

ラム」、「ネットワークエンジニア教育プログラム」、「ネットワークスペシャリスト教育プログラム」、「システムエンジニア教育プログラム」、「情報通信基盤技術者教育プログラム」、「Web プログラマ教育プログラム」を設ける。本要領により、これらの技術者教育プログラムの履修及び卒業要件について定める。

(履修)

第2条 情報通信工学科の学生は、技術者教育プログラムで定められた科目を履修し、1つ以上の技術者教育プログラムを修了しなければならない。

(無線通信技術者教育プログラム)

第3条 無線通信技術者教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「電磁気学・演習Ⅰ」、「電磁気学・演習Ⅱ」、「電磁波伝搬」、「アンテナ工学」、「情報通信工学Ⅱ」、「通信法規」、「情報伝送工学」、「電磁波応用技術」、「計測工学Ⅰ」、「計測工学Ⅱ」

(電気通信技術者教育プログラム)

第4条 電気通信技術者教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、第3条で定められた無線通信技術者教育プログラム必修科目、および次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「微分積分・演習Ⅰ」、「微分積分・演習Ⅱ」、「線形代数・演習Ⅱ」、「電子回路Ⅱ」、「デジタル回路Ⅰ」、「デジタル回路Ⅱ」、「情報交換システム」
- (2) 「微分方程式とベクトル解析」、「複素関数論」、「幾何学とマルチメディア」、「代数学と暗号」、「応用幾何学」、「代数学と符号化」のうちから2科目
- (3) 「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」、「現代物理学入門」、「光と物質」のうちから3科目

(ネットワークエンジニア教育プログラム)

第5条 ネットワークエンジニア教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「情報ネットワークⅢ」、「ネットワークシステム・演習Ⅱ」、「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティⅡ」、「オブジェクト指向プログラミングⅠ」
- (2) ネットワークシミュレーション」、「ネットワークプログラミング」、「データ構造とアルゴリズム」、「スクリプト言語プログラミングⅠ」、「スクリプト言語プログラミングⅡ」のうちから4科目

(ネットワークスペシャリスト教育プログラム)

第6条 ネットワークスペシャリスト教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「情報ネットワークⅢ」、「ネットワークシステム・演習Ⅱ」、「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティⅡ」、「オブジェクト指向プログラミ

ングⅠ]、「ネットワークシミュレーション」、
「ネットワークプログラミング」、「データ構造
とアルゴリズム」

- (2) 「スクリプト言語プログラミングⅠ」、「スクリ
プト言語プログラミングⅡ」、「情報メディアと
テキスト処理」、「データベースの基礎」、「Web
とデータベース」のうちから3科目

(システムエンジニア教育プログラム)

第7条 システムエンジニア教育プログラムでは、学則
の第28条の定める選択科目のうち、次のものを
プログラム必修科目とする。

- (1) 「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティ
Ⅱ」、「データ構造とアルゴリズム」、「オブジェ
クト指向プログラミングⅠ」、「オブジェクト指
向プログラミングⅡ」、「オブジェクト指向プロ
grammingⅢ」
- (2) 「デジタル信号処理Ⅰ」、「デジタル信号処
理Ⅱ」、「データベースの基礎」、「ネットワーク
システム・演習Ⅱ」、「ネットワークプログラミ
ング」のうちから3科目

(情報通信基盤技術者教育プログラム)

第8条 情報通信基盤技術者教育プログラムでは、学則
の第28条の定める選択科目のうち、次のものを
プログラム必修科目とする。

- (1) 「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティⅡ」、
「デジタル信号処理Ⅰ」、「デジタル信号処
理Ⅱ」、「デジタル回路Ⅰ」、「デジタル回路
Ⅱ」、「情報通信工学Ⅱ」、「情報交換システム」
- (2) 「電気回路Ⅱ」、「電子回路Ⅱ」、「モバイルコミュ
ニケーション工学」、「光通信システム」のうち
から2科目

(Web プログラマ教育プログラム)

第9条 Web プログラマ教育プログラムでは、学則の
第28条の定める選択科目のうち、次のものをプ
ログラム必修科目とする。

- (1) 「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティ
Ⅱ」、「情報メディアとテキスト処理」、「デー
タベースの基礎」、「Web とデータベース」、「ス
クリプト言語プログラミングⅠ」、「スクリプト
言語プログラミングⅡ」、「ネットワークシステ
ム・演習Ⅱ」

(卒業)

第10条 各技術者教育プログラムの修了認定を希望する
学生の卒業要件は、情報工学部履修要項第3条を
満たし、かつ少なくとも1つの技術者教育プログ
ラムのプログラム必修科目の単位を全て取得する
ことである。

附 則

この要領は、平成27年度入学生から適用する。

§ 8-5. 社会環境学部コース制教育プログラム要領

(目的)

第1条 社会環境学部履修要項第4条に基づき、指定コース制の履修目標とする教育プログラム（以下、コース制教育プログラム）として、社会環境学科に「経営コース」と「地域コース」を設ける。この要領により、これらのコース制教育プログラムの履修及び修了について定める。

第2条 社会環境の知識を前提に「経営コース」は、現代社会の経営活動に求められるビジネススキルを総合的に学ぶコースである。「地域コース」は現代社会の地域活動に関連するスキルを総合的に学ぶコースである。

(履修)

第3条 社会環境学部の学生は、1年次に「経営コース」と「地域コース」のいずれかを仮選択しなければならない。

第4条 社会環境学部の学生は、2年次進級時に「経営コース」と「地域コース」のいずれかを選択しなければならない。

第5条 2年次進級時に選択したコースの変更は原則として認めない。ただし、特別の理由があれば、3年次進級時に認める場合がある。

(コース修了)

第6条 「経営コース」及び「地域コース」の修了認定を希望する学生がコース修了資格を得るためには、(別表) 社会環境学科「経営コース」及び「地域コース」のコース指定科目のうち、コース必修科目4単位、コース選択科目から20単位以上を取得し、その取得単位の3分の2以上は社会環境学部履修要項第23条の成績評価において「良」以上を取得する必要がある。

第7条 前条の修了要件を満たす学生に「経営コース修了書」または「地域コース修了書」を授与する。

(転入学・編入学)

第8条 社会環境学科に転入学・編入学を希望する学生のコース分けについては、別に定める。

附 則

1 この要領は、平成30年度入学生から施行する。

(別表) 社会環境学科「経営コース」及び「地域コース」のコース指定科目

	経営コース	単位	地域コース	単位
1年次 コース 科目	○経営学概論	2	空間情報学Ⅰ	2
	○マクロ経済学	2	空間情報学Ⅱ	2
	会計学	2		
	簿記論	2		
2年次 コース 科目	経営戦略論	2	環境水文学	2
	企業論	2	自然環境調査法	2
	ミクロ経済学	2	社会統計学	2
	経営情報システム論	2	社会調査法	2
	環境政策Ⅰ	2	環境政策Ⅰ	2
	環境政策Ⅱ	2	環境政策Ⅱ	2
	財務会計論	2	地域社会学	2
	経営分析論	2	防災情報学	2
	マーケティング論	2	環境地理学	2
			環境社会学	2
3年次 コース 科目	企業法Ⅰ	2	○フィールドワーク	4
	環境経営論	2	地域開発論	2
	環境管理論	2	環境管理論	2
	環境会計論	2	資源エネルギー政策論	2
	経営組織論	2	環境生態学	2
	人的資源管理論	2	大気環境学	2
		環境デザイン論	2	
4年次 コース 科目	企業法Ⅱ	2		
合計単位数		40		40

注) ○印はコース必修科目

§ 8-1

学
則

§ 8-2

学
位
規
程

§ 8-3

履
修
要
項

§ 8-4

技
術
者
教
育
プ
ロ
グ
ラ
ム
要
領

§ 8-5

社
会
環
境
学
部
コ
ー
ス
制
教
育
プ
ロ
グ
ラ
ム
要
領

§ 8-6

そ
の
他

§ 8-6. その他

1 (工学部) 生命環境化学科

生命環境化学科食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領

(目的)

第1条 生命環境化学科の学生で、食品衛生法（昭和22年法律第233号）に定める食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得を希望する学生が修得しなければならない授業科目を食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程と総称し、食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程の履修要件について本要領に定める。

(履修)

第2条 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程を受講することを希望する学生は、2年生進級までに、登録しなければならない。

第3条 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程での履修方法は、次のとおりとする。

第1項 課程必修科目 別表1に示す科目（計36単位）をすべて履修しなければならない。

第2項 課程選択科目 別表2に示す科目の中から4単位以上を履修しなければならない。

(養成施設内での履修)

第4条 第2条の履修は、厚生労働大臣の指定する養成施設として認められた生命環境化学科に在籍した場合に限り食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程の修了者とみなす。ただし、転学部、転学科、編入学した者が、修得済科目を本課程の該当科目に読替え、本課程へ登録することは認めない。

(課程修了)

第5条 生命環境化学科の卒業要件を満たし、本要領が定める食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程に必要な単位数を修得した者は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得することができる。また、別途定める手続きにより単位取得証明書（食品衛生関連資格用）の発行を受けることができる。

附 則

本要項は、平成25年4月1日より施行し、平成25年度入学生から適用する。

本要項は、平成30年4月1日より施行し、平成30年度入学生から適用する。

別表1 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程必修科目

授業科目名	食品衛生法施行規則に指定された科目との対応	単位数	年次	学期
化学実験	化学(A群) 分析化学	2	1	後期
分析化学	化学(A群) 分析化学	2	2	前期
有機化学Ⅰ	化学(A群) 有機化学	2	2	前期
有機化学Ⅱ	化学(A群) 有機化学	2	2	後期
無機化学	化学(A群) 無機化学	2	3	前期
生物化学Ⅰ	生物化学(B群) 生物化学	2	2	前期
生物化学Ⅱ	生物化学(B群) 生物化学	2	2	後期
食品化学	生物化学(B群) 食品化学	2	3	前期
食品分析学	生物化学(B群) 食品分析学	2	3	後期
毒性学	生物化学(B群) 毒性学	2	3	後期
生物学実験	微生物学(C群) 微生物学	2	2	前期
微生物学	微生物学(C群) 微生物学	2	2	後期
食品微生物学	微生物学(C群) 食品微生物学	2	3	後期
食品衛生学	公衆衛生学(D群) 食品衛生学	2	3	前期
環境衛生学	公衆衛生学(D群) 環境衛生学	2	4	前期
機器分析化学	(E群) 環境汚染物質分析学	2	2	後期
環境分析化学	(E群) 環境汚染物質分析学	2	2	後期
機器分析化学実験	(E群) 環境汚染物質分析学	2	2	後期

別表2 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程選択科目

授業科目名	食品衛生法施行規則に指定された科目との対応	単位数	年次	学期
コロイド化学	(E群) 乳化学	2	3	後期
高分子化学	(E群) 高分子化学	2	3	前期
生物有機化学	(E群) 生物有機化学	2	3	前期
酵素化学	(E群) 酵素化学	2	3	後期
地球科学	(E群) 環境生物学	2	2	前期
応用微生物学	(E群) 応用微生物学	2	3	前期
分子生物学	(E群) 遺伝学	2	3	前期
栄養化学	(E群) 栄養化学	2	3	前期
食品学実験	(E群) 食品学	2	3	後期
遺伝子工学	(E群) 遺伝学	2	3	後期

§ 9

教員名簿

福岡工業大学教員名簿

学 長

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
シモムラ 下村 輝夫	学 長	工 博	画像工学		本部棟 2F 学長室

【工学部】 電子情報工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
エグチ 江口 啓	教 授	博 士 (工学)	教育工学・回路システム	電子工学基礎、電子情報工学入門、物理・電子情報基礎実験、電子情報数学	A棟 7F eguti
カタヤマ 片山 龍一	教 授	博 士 (工学)	応用光学・量子光学	電磁気学Ⅰ・Ⅱ、電子物性、光エレクトロニクス、創成実験、電子工学総合	A棟 8F r-katayama
コギ 近木 祐一郎	教 授	博 士 (工学)	計測工学	電気回路Ⅰ・Ⅱ、電子情報実験Ⅰ、無線技術資格、電子計測、電子工学総合	A棟 7F kogi
タナカ 田中 秀司	教 授	博 士 (工学)	応用物性・結晶工学	電子デバイスⅠ・Ⅱ、電子情報実験Ⅲ、集積回路工学、技術者倫理、プレゼンテーション	A棟 7F s-tanaka
ニイ 俣 宝栄	教 授	博 士 (工学)	電子・電気材料工学	電子回路Ⅰ・Ⅱ、電子情報実験Ⅰ・Ⅱ、電子工学総合	A棟 8F nee
マエダ 前田 文彦	教 授	博 士 (理学)	ナノカーボン材料成長	物理概論、物理学Ⅰ・Ⅱ、物理・電子情報基礎実験	A棟 7F f-maeda
マツイ 松井 義弘	教 授	博 士 (工学)	制御・システム工学	電子情報基礎数学、電子情報数学、電子情報工学入門、制御基礎、制御工学	A棟 7F matsui
マツキ 松木 裕二	教 授	博 士 (工学)	社会システム工学・安全システム	プログラミングⅠ・Ⅱ、プログラミング演習、情報工学総合、応用プログラミングⅠ	A棟 7F matsuki
ヤマザキ 山崎 秀樹	教 授	博 士 (工学)	脳科学	コンピュータシステム、電子情報実験Ⅲ、組込み基礎、創成実験、知的情報処理	A棟 8F yamazaki
ロ 盧 存偉	教 授	博 士 (工学)	3D画像計測・知能ロボティクス	デジタル信号処理、応用デジタル信号処理、電子情報実験Ⅲ、情報工学総合	A棟 7F lu
オノミ 小野美 武	准教授	博 士 (工学)	電子デバイス・回路工学	論理回路、電気回路Ⅲ、電子情報実験Ⅰ・Ⅱ	A棟 8F onomi
タムラ 田村 瞳	助 教	博 士 (情報工学)	計算機システム・ネットワーク	コンピュータ工学、電子情報実験Ⅲ、応用プログラミングⅡ、情報工学総合、情報ネットワーク基礎と演習、電子情報数学	A棟 7F h-tamura
ノセ 野瀬 敏洋	助 教	博 士 (数理学)	漸近解析	電子情報数学、線形代数Ⅰ・Ⅱ、初等統計学、微分方程式、電子情報基礎数学	A棟 7F nose
ヤカタ 冢形 諭	助 教	博 士 (工学)	スピントロニクス	電子情報基礎数学、電子情報実験Ⅲ、電子回路応用、電気電子回路実習、創成実験	A棟 7F yakata

生命環境化学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
カワカミ 川上 満泰	教 授	工 博	生物機能・バイオプロセス	生物学実験、生物化学Ⅰ・Ⅱ、酵素化学	A棟 5F kawakami
キタヤマ 北山 幹人	教 授	Ph.D	機能物質化学	物理化学Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅰ演習、無機化学	A棟 5F kitayama
クワハラ 桑原 順子	教 授	博 士 (工学)	生体高分子化学・環境材料化学	化学実験、科学実験入門、生物有機化学、コロイド化学	A棟 5F j-kuwahara
ウ 呉 行正	教 授	博 士 (工学)	分析化学	分析化学、環境分析化学、機器分析化学実験	A棟 5F wu
ナガタ 永田 純一	教 授	博 士 (農学)	食品化学、栄養化学、食品分析学	食品衛生学、食品分析学、食品学実験	A棟 5F j-nagata
ミタ 三田 肇	教 授	博 士 (理学)	有機地球化学	化学Ⅰ・Ⅱ、地球科学実験、先端生命環境化学実験Ⅱ	A棟 5F mita
ワタナベ 渡邊 克二	教 授	農 博	応用微生物学	生物資源利用学概論、有機化学Ⅰ・Ⅱ、応用微生物学	A棟 5F k-watanabe
アマダ 天田 啓	准教授	博 士 (理学)	分子生物学、応用微生物学	微生物学、遺伝子工学、環境生命工学実験	A棟 5F amada
カマチ 蒲池 高志	准教授	博 士 (理学)	計算化学	物理学、物理化学、化学実験	A棟 5F kamachi
クボ 久保 裕也	准教授	博 士 (環境科学)	環境工学・リサイクル工学・金属製錬工学	環境科学Ⅰ・Ⅱ、資源循環工学、環境浄化工学	A棟 5F kubo
ハセ 長谷(田丸) 静香	准教授	博 士 (農学)	食品栄養学	栄養化学、酵素化学、環境衛生学	A棟 5F tamaru
マツヤマ 松山 清	准教授	博 士 (工学)	化学工学、高圧化学、材料工学	化学工学Ⅰ・Ⅱ、機器分析化学	A棟 5F matsuyama
ミヤモト 宮元 展義	准教授	博 士 (工学)	機能物質化学	高分子化学、環境物質工学実験、ナノマテリアル科学	A棟 5F miyamoto

知能機械工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
カワムラ 河村 良行	教授	工博	知能機械学・機械システム	計測工学、電気基礎学、物理学Ⅱ	D棟 4F kawamura
キノ 木野 仁	教授	博士 (工学)	ロボット・機械制御・ 人間工学	ものづくり基礎実習、知能機械制御工学、ロボット工学	D棟 4F kino
シュ 朱 世杰	教授	工博	機械材料・材料力学	材料力学Ⅰ・Ⅱ、基礎製図Ⅰ	D棟 4F zhu
スウチユウ 数仲 馬恋典	教授	博士 (工学)	機械要素・トライボロジー	知能機械設計Ⅰ・Ⅱ	D棟 4F suci
センバ 仙波 卓弥	教授	工博	生産工学・加工学	工業技術史、機械工作法Ⅰ・Ⅱ	D棟 4F senba
タカツ 高津 康幸	教授	博士 (工学)	熱工学	熱力学Ⅰ・Ⅱ、知能機械基礎実験Ⅰ、伝熱工学	D棟 4F takatsu
ヒロタ 廣田 健治	教授	博士 (工学)	生産工学・塑性加工	物理基礎演習、機械材料、機械物理学実験	D棟 4F k-hirota
ムラヤマ 村山 理一	教授	博士 (工学)	非破壊評価・センサ工学	技術者倫理、物理学Ⅰ及び演習、機械物理学実験	D棟 4F muryama
アマモト 天本 祥文	准教授	博士 (工学)	生産工学・加工学	デジタルエンジニアリング、知能機械基礎実験Ⅰ	D棟 4F y-amamoto
エガシラ 江頭 竜	准教授	博士 (工学)	流体工学	流体力学Ⅰ・Ⅱ、知能機械基礎実験Ⅰ	D棟 4F egashira
カトウ 加藤 友規	准教授	博士 (工学)	機械力学・制御・ 生産工学・加工学	CADシステム、知能機械制御言語及び演習	D棟 4F t-kato
スナハラ 砂原 賢治	准教授	博士 (工学)	機械設計・トライボロジー	知能機械基礎実験Ⅱ、基礎製図Ⅱ、トライボロジー	D棟 4F sunahara
タケダ 竹田 寛志	准教授	博士 (理学)	基礎解析学	数学基礎演習、解析Ⅰ及び演習、解析Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ	D棟 4F h-takeda
ヤマギシ 山岸 里枝	准教授	博士 (工学)	生産工学・加工学	物理基礎演習、線形代数Ⅰ、機械物理学実験	D棟 4 yamagishi
コマダ 駒田 佳介	助教	博士 (工学)	熱流体工学・混相流・ 流体計測	物理学Ⅰ及び演習、微分方程式、知能機械基礎実験Ⅱ	D棟 4F komada
シモカワ 下川 倫子	助教	博士 (理学)	非平衡物理	物理基礎演習、機械物理学実験、物理学Ⅰ及び演習	D棟 4F shimokawa
トモダ 鞆田 顕章	助教	博士 (工学)	機械力学・振動工学	機械力学Ⅰ・Ⅱ、知能機械設計Ⅱ	D棟 4F tomoda

電気工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
イノウエ 井上 昌睦	教授	博士 (工学)	電気エネルギー工学	電気工学概論、電気エネルギーシステム工学Ⅰ・Ⅲ、 電気工学実験Ⅰ、電気工学総合	A棟 6F ms-inoue
オオヤマ 大山 和宏	教授	博士 (工学)	電気機器・パワーエレクト ロニクス	電気工学概論、エンジニアリングデザインⅠ・Ⅱ、 電気機器Ⅰ・Ⅱ	A棟 6F ohyama
カジワラ 梶原 寿了	教授	工博	電力工学	電気工学概論、交流電力伝送の基礎、電気エネルギーシステム工学Ⅱ、 高電圧工学、電気工学総合、電気工学実験Ⅱ	A棟 6F kajiwara
キタガワ 北川 二郎	教授	博士 (理学)	磁性材料	電気工学概論、電磁気学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、電気基礎学実験、 電気基礎学概論	A棟 6F j-kitagawa
タカハラ 高原 健爾	教授	博士 (工学)	制御工学	電気工学概論、電気工学実験Ⅱ、システム制御工学Ⅰ・Ⅱ、 電気回路Ⅳ、電気工学総合	A棟 6F takahara
マツオ 松尾 敬二	教授	工博	核融合学	電気工学概論、エンジニアリングデザインⅠ・Ⅱ、 電子回路Ⅰ・Ⅱ、ディジタル回路	A棟 6F k-matsuo
オノギ 小野木 真哉	准教授	博士 (科学)	生体医学・医用システム 工学	電気工学概論、論理表現、プログラミング言語、 メカトロニクスⅠ、ロボット工学	A棟 6F onogi
スズキ 鈴木 恭一	准教授	博士 (工学)	量子電子物性・半導体工学	電気工学概論、基礎物質工学、半導体工学、電気基礎学実験、 電気基礎学概論、電気工学総合	A棟 6F k-suzuki
タシマ 田島 大輔	准教授	博士 (工学)	物質エネルギー工学	電気工学概論、電気応用、電験電力、 電気エネルギーシステム工学Ⅳ、電気工学実験Ⅱ	A棟 6F tashima
ツジノ 辻野 太郎	准教授	博士 (工学)	制御工学	電気工学概論、電気工学フレッシュマン演習、メカトロニクスⅠ、 電気工学実験Ⅱ、現代制御、メカトロニクスⅡ	A棟 6F tsujino
キタザキ 北崎 訓	助教	博士 (工学)	プラズマ	電気工学概論、電気回路Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、電気基礎学実験、 電気基礎学概論	A棟 6F kitazaki
シンドウ 進藤 久和	助教	博士 (理学)	関数解析学	電気工学概論、解析Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	A棟 6F shindoh
ナカニシ 中西 真大	助教	博士 (理学)	化学物理、生物物理	電気工学概論、電気基礎物理学、電気基礎数学、力学Ⅰ・Ⅱ、 電気基礎学実験	A棟 6F m-nakanishi

【情報工学部】情報工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
オイダ 種田 カズマサ 和正	教授	博士 (情報学)	ネットワーク・セキュリティ	ネットワークプログラミング、情報セキュリティ、情報工学実験Ⅳ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 8F oida
ジョ 徐 カイエン 海燕	教授	工博	メディア情報学・データベース	データベース、データ構造とアルゴリズム、情報工学実験Ⅲ	C棟 6F xu
ニシハラ 西原 マサル 賢	教授	博士 (理学)	多変数関数論	解析Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、線形代数Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	C棟 7F mr-nisi
フクモト 福本 マコト 誠	教授	博士 (工学)	音楽情報処理・感性工学	音情報処理、ヒューマンコンピュータ・インタラクション、情報技術者倫理、情報工学実験Ⅰ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 8F fukumoto
マエダ 前田 ミチヲ 道治	教授	博士 (工学)	人工知能・ナチュラリコンピューティング	情報理論、情報工学実験Ⅱ	C棟 7F maeda
ヤマウチ 山内 ヒロユキ 寛行	教授	博士 (工学)	計算機集積システム	論理設計、集積回路工学、情報工学実験Ⅲ	C棟 6F yamauchi
ヤマザワ 山澤 カズマサ 一誠	教授	博士 (工学)	画像メディア・コンピュータビジョン・CG	人工知能基礎、コンピュータグラフィックス、情報工学実験Ⅲ、人工知能プログラミング、画像情報処理、パターン認識	C棟 8F yamazawa
イエナガ 家永 タカミ 貴史	准教授	博士 (工学)	ユーザーインターフェース・福祉工学	マルチメディア工学、情報工学実験Ⅰ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 7F ienaga
イシハラ 石原 マキオ 真紀夫	准教授	博士 (工学)	ユーザーインターフェース・デザイン・HCI	JAVAプログラミングⅠ・Ⅱ、HCIプログラミング、情報工学実験Ⅰ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 6F m-ishihara
サタケ 佐竹 純二	准教授	博士 (工学)	動画像処理	デジタル信号処理、論理回路、情報工学実験Ⅲ	C棟 6F satake
シバタ 柴田 ボウヨウ 望洋	准教授	工博	ソフトウェア	コンピュータリテラシー、オペレーティングシステム、ソフトウェア工学Ⅰ・Ⅱ、情報工学実験Ⅳ	C棟 7F shibata
トダ 戸田 コウジ 航史	准教授	博士 (工学)	ソフトウェア工学	確率統計論、コンピュータアーキテクチャⅠ、情報工学実験Ⅳ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ、コンピュータ科学	C棟 7F toda
ミヤタ 宮田 タカフミ 孝史	准教授	博士 (工学)	計算科学	コンピュータアーキテクチャⅠ、数値計算、情報工学実験Ⅱ	C棟 6F miyata
サガラ 相良 テツオ 哲生	講師	博士 (工学)	計算機システム・ネットワーク	コンピュータリテラシー、CプログラミングⅠ・Ⅱ、情報ネットワーク、情報工学実験Ⅲ	C棟 8F sagara
カシワ 柏 浩司	助教	博士 (理学)	量子力学	基礎物理学、物理学Ⅰ・Ⅱ、基礎電磁気学、情報物理学	B棟 5F kashiwa
ヒョウドウ 兵頭 カズキ 和幸	助教	博士 (システム情報科学)	ロボティクス・知能制御	電気回路Ⅰ・Ⅱ、ロボティクス、デジタルシステム設計、情報工学実験Ⅳ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ、情報機器工学	C棟 8F hyodo
ヤマグチ 山口 ユウカ 裕	助教	博士 (理学)	人工知能	人工知能応用、自然言語処理、情報工学実験Ⅳ、コンピュータ科学	C棟 7F y-yamaguchi

情報通信工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
イトカワ 糸川 ヨウ 鈔	教授	Ph.D	幾何学	線形代数・演習Ⅰ・Ⅱ、微分積分・演習Ⅰ・Ⅱ、微分方程式とベクトル解析、応用幾何学	D棟 5F itokawa
ウチダ 内田 ノリキ 法彦	教授	博士 (ソフトウェア情報学)	情報通信	情報ネットワークⅢ、情報伝送工学、情報交換システム、モバイルコミュニケーション工学、コンピュータソフトウェア実験	D棟 5F n-uchida
スギタ 杉田 カタル 薫	教授	博士 (ソフトウェア情報学)	ソフトウェア工学	情報工学基礎実験、コンピュータ工学、オブジェクト指向プログラミングⅠ・Ⅱ・Ⅲ	D棟 5F sugita
ナカシマ 中嶋 ノリマサ 徳正	教授	博士 (工学)	計算電磁気学	電気回路Ⅰ、計測工学Ⅰ・Ⅱ、電磁波応用技術、情報工学応用実験、通信法規	C棟 5F n-nakashima
ナカムラ 中村 タツフミ 龍史	教授	博士 (理学)	高エネルギー密度科学・高強度場科学	基礎物理学、電磁気学・演習Ⅰ、物理学Ⅰ・Ⅱ、現代物理学入門、光と物質	D棟 5F t-nakamura
ニシダ 西田 シゲト 茂人	教授	工博	信号処理・生体工学	プログラミング基礎演習Ⅰ・Ⅱ、デジタル信号処理Ⅰ・Ⅱ、情報工学基礎実験	C棟 7F nishida
Barolli, Leonard	教授	博士 (工学)	計算機システム・ネットワーク	デジタル回路Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワークⅡ、情報工学基礎実験	D棟 5F barolli
マエダ 前田 ヒロシ 洋	教授	博士 (工学)	光通信工学、電磁波工学	技術者倫理、電磁気学・演習Ⅱ、情報工学応用実験、光通信システム	C棟 5F hiroshi
マツオ 松尾 ケイタ 慶太	教授	博士 (工学)	情報ネットワーク工学	情報理論、電子回路Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワークⅠ、コンピュータソフトウェア実験	D棟 5F kt-matsuo
ヤマモト 山元 ノリヤス 規靖	教授	博士 (工学)	コンピュータ工学・ソフトウェア工学	情報セキュリティⅠ・Ⅱ、情報工学応用実験、スクリプト言語プログラミングⅠ・Ⅱ	C棟 5F nori@bene
ワタナベ 渡辺 コウキ 仰基	教授	博士 (工学)	電磁界解析理論	情報通信基礎数学、情報工学基礎実験、情報通信工学Ⅰ・Ⅱ、電気回路Ⅱ	C棟 5F koki
イケダ 池田 マコト 誠	准教授	博士 (工学)	通信・ネットワーク工学	電気基礎学、計測・回路実験、ネットワークシミュレーション、ネットワークシステム・演習Ⅰ・Ⅱ、ネットワークプログラミング	D棟 5F m-ikedda
イシダ 石田 トモユキ 智行	准教授	博士 (ソフトウェア情報学)	バーチャルリアリティ・拡張現実・自然災害科学	オペレーティングシステム、データ構造とアルゴリズム、データベースの基礎、Webとデータベース、情報メディアとテキスト処理、情報工学応用実験	D棟 5F t-ishida
フジサキ 藤崎 キヨタカ 清孝	准教授	博士 (工学)	通信工学	情報工学基礎実験、計測・回路実験、電磁波伝搬、アンテナ工学	C棟 5F fujisaki

情報システム工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
モリゾン テツヤ 森園 哲也	教授	博士 (工学)	知能機械学	基礎ロボット工学、メカトロアクチュエータ、ロボットシミュレーション、情報システム工学概論、情報物理実験、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F morizono
キムロ ヨシヒコ 木室 義彦	教授	博士 (工学)	知能ロボティクス	技術基礎数学、論理回路、知能ロボット工学、デジタル制御工学、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F kimuro
トクヤス タツシ 徳安 達士	教授	博士 (情報工学)	医用システム	情報解析学、アカデミックプレゼンテーション、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F tokuyasu
トシミツ カズヒコ 利光 和彦	教授	博士 (工学)	計算医工学、熱流体工学、航空宇宙推進工学	ロボット設計、フレッシュマンプログラム、フューチャープランニング、機械システム論、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F toshimitsu
ヤマグチ アキヒロ 山口 明宏	教授	博士 (工学)	カオス、脳型情報処理	情報ネットワークシステム、応用プログラミングⅡ、情報システム工学概論、情報物理実験、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F aki
ヨシダ コウイチ 吉田 耕一	教授	博士 (工学)	システム制御工学	電子工学基礎、情報技術史、システム制御工学Ⅰ・Ⅱ、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F k-yoshida
サクタ マコト 作田 誠	准教授	博士 (工学)	人工知能、情報工学	計算機工学Ⅱ、応用プログラミングⅠ、人工知能、マルチメディアWeb技術、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F sakuta
シモト タケシ 下戸 健	准教授	博士 (工学)	生体医工学、教育工学	フレッシュマンプログラム、確率統計、組み込みシステム、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F simoto
マルヤマ イサオ 丸山 勳	准教授	博士 (理学)	計算物性物理、量子力学	物理学Ⅰ・Ⅱ、情報システム工学概論、情報物理実験、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F i-mariyama
ヤマコシ タケヒロ 山越 健弘	准教授	博士 (工学)	生体情報計測	フレッシュマンプログラム、生体システム論、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F yamakoshi
マツバラ ヒロコキ 松原 裕之	講師	博士 (情報科学)	システムLSI、教育工学	計算機工学Ⅰ、情報技術者倫理、システム開発応用、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F h-matsubara
ヤマモト タカヒロ 山本 貴弘	講師	博士 (工学)	画像処理	CプログラミングⅠ・Ⅱ、画像処理工学、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F t-yama
キクタ ケンキ 菊田 俊幸	助教	博士 (理学)	整数論	線形代数Ⅰ・Ⅱ、数学演習、解析Ⅰ・Ⅱ、微分方程式、情報システム工学概論	B棟 7F kikuta
リ ジョン 李 知炯	助教	博士 (工学)	生体システム工学	電気工学基礎、生体情報計測学、センサ情報処理、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F j.lee

システムマネジメント学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
アカギ フミオ 赤木 文男	教授	工博	社会システム工学・安全システム	生産管理論、オペレーションマネジメント、スポーツマネジメント、システムマネジメント実験、生産システム実習	B棟 8F akagi
ソウ ウ 宋 宇	教授	経済学博士	オペレーションズ・リサーチ	オペレーションズリサーチⅠ、e-ビジネス論、システムマネジメント実験	B棟 8F song
タジマ タクヤ 田嶋 拓也	教授	博士 (工学)	経営工学	経営システム論、インダストリアルエンジニアリング、経営計算論、確率統計Ⅰ・Ⅱ	B棟 8F t-tajima
フジオカ ヒロユキ 藤岡 寛之	教授	博士 (工学)	知覚情報処理・知能ロボティクス	データ解析、確率統計Ⅰ・Ⅱ、システムマネジメントゼミナールⅠ・Ⅱ	B棟 8F fujioaka
ヨコタ マサオ 横田 将生	教授	工博	知覚情報処理・知能ロボティクス	メディア科学Ⅰ・Ⅱ、システムマネジメントゼミナールⅠ・Ⅱ	B棟 8F yokota
イノクチ ショウイチ 井口 修一	准教授	博士 (理学)	情報数学	線形代数Ⅰ・Ⅱ、情報数学Ⅰ・Ⅱ、システムマネジメントゼミナールⅠ・Ⅱ	B棟 8F inokuchi
コバヤシ ミノル 小林 稔	准教授	博士 (工学)	経営工学	情報リテラシー、経営管理論、情報システム論、情報処理Ⅰ・Ⅱ、システムマネジメント実験	B棟 8F kobayashi
リュウ コウイチ 笠 晃一	准教授	博士 (工学)	3次元CG・流体力学	プログラミング基礎、コンピュータ基礎学、ウェブデザイン、コンピュータグラフィックス入門、インタラクティブコンテンツ、データベース	B棟 8F ryu
タケノウチ ヒロシ 竹之内 宏	助教	博士 (工学)	感性情報処理	情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、マルチメディア情報処理、オペレーションズリサーチⅢ	B棟 8F h-takenouchi
フ ジン 傅 靖	助教	博士 (工学)	ゲーム理論	システムマネジメント実験、システムマネジメントゼミナールⅠ・Ⅱ、オペレーションズリサーチⅡ、経営シミュレーション、システムマネジメント応用	B棟 8F j.fu

【社会環境学部】 社会環境学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
アヤマ ミツトシ 阿山 光利	教授		心理学・教育心理学	知と教養、キャリア形成	A棟 4F ayama
イケダ ケンジ 池田 賢治	教授		英語学・コミュニケーション	英語科目、異文化理解、コミュニケーション基礎	A棟 3F k-ikeda
オカウラ ヨシユキ 岡裏 佳幸	教授		応用言語学	英語科目、異文化理解	A棟 3F okaura
カミデラ コウジ 上寺 康司	教授		教育学・教育行政学	知と教養、現代倫理	A棟 4F kamidera
サカイ ヒロミツ 坂井 宏光	教授	学術博士	生活科学・環境教育学	人間環境学、ライフスタイルと環境、生活環境論、環境教育論	A棟 4F sakai
チョン ウジョン 鄭 雨宗	教授	博士 (商学)	応用経済学	環境経済学、資源エネルギー政策論、国際環境協力論、公共経済学	A棟 4F jung
ツチヤ マイコ 土屋 麻衣子	教授	博士 (教育学)	英語教育学	英語科目	A棟 3F tutiya
トクナガ ミツヒロ 徳永 光展	教授	博士 (文学)	日本文学	知と教養、日本文学、日本語表現法	A棟 4F tokunaga
ナカガワ トモハル 中川 智治	教授	博士 (法学)	国際法学	国際法Ⅰ・Ⅱ、国際環境法、社会環境学Ⅲ	A棟 4F t-nakagawa
ナラザキ ケンジ 榑崎 兼司	教授	博士 (人間環境学)	運動生理学	ウェルネス基礎、ウェルネス応用	A棟 4F narazaki
フジイ ヨウジ 藤井 洋次	教授	博士 (経済学)	開発経済学	社会環境学Ⅱ、経済発展論、アジア経済論、国際貿易論	A棟 4F y-fuji
フルカワ タケシ 古川 武史	教授		英語学	英語科目、異文化理解	A棟 3F fukurawa
マツフジ ケンジロウ 松藤 賢二郎	教授	博士 (経営学)	経営学	経営学概論、マーケティング論、環境経営論、経営情報システム論、地域創生入門	A棟 4F matsufuji
ムネマサ ヨシヒロ 宗正 佳啓	教授	博士 (文学)	英語学	英語科目	A棟 3F munemasa
モリヤマ トシユキ 森山 聡之	教授	博士 (工学)	流域環境学	社会環境学Ⅰ・Ⅳ、環境水文学、防災情報学	A棟 4F t-moriyama
リ アンチュウ 李 文忠	教授	博士 (経営学)	会計学	会計学、簿記論、財務会計論、経営分析論	A棟 4F ri
イヌイ リョウテイ 乾 隆帝	准教授	博士 (農学)	水圏環境生態学	社会環境学Ⅳ、自然環境調査法、環境生態学、フィールドワーク	A棟 4F inui
タナカ クミコ 田中 久美子	准教授	博士 (文学)	民俗学	民俗学概論、環境民俗学、文化環境論、環境人類学	A棟 4F ku-tanaka
ナカノ ミカ 中野 美香	准教授	博士 (比較社会文化)	教育心理学・認知科学	知と教養、キャリア形成、コミュニケーション基礎、コミュニケーションの心理学	E棟 3F nakano
ハラダ ヒロコ 原田 寛子	准教授	博士 (文学)	英文学	英語科目、異文化理解	A棟 3F harada
ヒグチ タカトシ 樋口 貴俊	准教授	博士 (スポーツ科学)	スポーツバイオメカニクス	ウェルネス基礎、ウェルネス応用	A棟 4F higuchi
ユン ヤンジョン 尹 諒重	准教授	博士 (商学)	経営学	企業論、比較経営論、人的資源管理論、経営組織論	A棟 4F yun
ワタナベ トモアキ 渡邊 智明	准教授	博士 (法学)	環境学	環境法Ⅰ、環境法Ⅱ、環境政策Ⅰ、環境政策Ⅱ	A棟 4F t-watanabe
ウエスギ マサヤ 上杉 昌也	助教	博士 (工学)	地理学	空間情報学Ⅰ、空間情報学Ⅱ、環境地理学、環境デザイン論	A棟 4F uesugi
カタオカ マサヨ 片岡 雅世	助教		国際私法	民法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、環境判例演習	A棟 4F kataoka
キノシタ ケン 木下 健	助教	博士 (政策科学)	政治学	現代日本政治論Ⅰ、現代日本政治論Ⅱ、行政過程論Ⅰ、行政過程論Ⅱ	A棟 4F kinoshita
シラサカ ショウタ 白坂 正太	助教	博士 (教育学)	教育社会学		E棟 3F shirasaka
チン エンエン 陳 艶艶	助教	博士 (文化情報学)	社会学	社会統計学、環境社会学、社会調査法、地域社会学	A棟 4F chen

教職課程

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
アヤマ 阿山 光利	教授		心理学・教育心理学	教育方法論、教育心理学、教育相談の基礎、情報職業論、 教職実践演習	A棟 4F ayama
カミデラ 上寺 康司	教授		教育学・教育行政学	教師論、教育原理、生徒指導論、教育行政学、道徳教育論、 教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習	A棟 4F kamidera
シラサカ 白坂 正太	助教	博士 (教育学)	教育社会学	教育方法論、特別活動論、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習Ⅰ・Ⅱ、 社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会科教育法	E棟 3F shirasaka

FD推進機構

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
ミヤモト 宮本 知加子	特任教員		臨床心理学	キャリア形成、コミュニケーション基礎、インターンシップ	E棟 3F c-miyamoto

索引

あ行

アクティブ・ラーニング (AL)	32
悪天候時の授業	7
アドバンス	164
アルバイト	10・153
遺失物・拾得物	7
エクステンションセンター	162・167・180
遠隔地用被保険者証	159
オフィスアワー	37

か行

課外活動に関する手続き	153
学位規程	214
学業特別奨学生	27・157
学習ポートフォリオ	32
学術文化会	151
学生課	12・178
学生教育研究災害傷害保険	158
学生自治会	151
学生証	6
学生生活補償制度	158
学生相談室	159・163・167・170
学生表彰制度	158
学籍情報の変更手続き	148
学籍番号	6
学則	188
学内掲示板	6
学納金	149
学期末試験	23
科目等履修生	31
環境への取り組み	160
技術者教育プログラム要領	224
紀伊国屋書店	173
キャンパスでのマナー	7
キャンパスマップ	166
休学	30
休講	18
教育後援会	158・164・173
教育実習	42
教員名簿	230
教職課程	41
教職課程に関する授業科目および単位数	43
教務課	12・167・178
組担任	5
クラブ・サークル	10・151
クリエイティブ・ラボ	162・165・167・171
経理課	12・180

下宿	10
建学の綱領	2
協定校	38
研究生	11・31
健康管理	159
工作センター	162・167・176
校舎配置図	167
高電圧実験棟	166・185
広報課	12・180
国際交流	38・154
国際連携室	12・154・162・180
コピー機	164
ごみの分別	160

さ行

在学年限	30
再入学	30
再履修	19
再履修科目	21
資格取得	39・40
資格取得支援科目	40
試験上の注意	23・24
システムマネジメント学科	126
施設案内	162
施設・用具の利用	153
社会環境学科	136
修業年限	30
就業力育成プログラム	33
習熟度別クラス	19・22
就職課	12・167・178
就職・キャリア	156
集中講義	16・21
授業アンケート	14・37
授業科目	16
授業時間	18
出席・欠席	18
奨学金	149・150
情報基盤センター	162・165・167・171
情報基盤センター情報企画課	12
情報工学科	94
情報システム工学科	116
情報通信工学科	104
証明書発行	148
除籍	30
シラバス	16・17
進級条件	28
スポーツ施設	163

成績発表	25
成績評価	25
生命環境化学科	62
セブンイレブン	164・170
ゼミ	19
全面禁煙	7
総合研究機構	162・167・178
総合研究機構事務室	178
卒業研究	19
卒業要件	28

た行

退学	30
大学院事務室	12・167・178
大学院進学	11・157
立花祭	151
単位互換	27・38
単位認定	27
知能機械工学科	72
追試験	24
定期健康診断	159
転学部・転学科	9・31
電気工学科	82
電子情報工学科	52
転入・編入学	27
同窓会	158・164・170
特定専門科目群	21・35
他学科・他クラス科目	21

な行

認定科目	16・27
年間行事予定	13

は行

バイク・自転車での通学	7
復学	9・30
不正行為	7・24
フレッシュマンスクール	37・162・167・178
保健室	159・163・170
補講	18
本部棟	167・180
放送大学	38
ボランティア	10・152

ま行

窓口一覧	8・12
モノづくりセンター	162・167・176・180
モノづくりセンタープロジェクト	151

や行

雄飛会事務局 同窓会	164
郵便ポスト	164

ら行

ラド観光	164・167・170
履修登録	20
履修要項 工学部	215
履修要項 社会環境学部	221
履修要項 情報工学部	218
留学	154
留学生談話室	163・167・170
留年	29
理容室	164
レストラン OASIS	163・167・170

A～Z

A L	32
A T M	164・173
A & S Learning Cafe	163・167・173
A棟	168
A棟売店	164・168
B棟	170
C A P (履修登録上限)	21
C棟	173
C棟売店	164・173
D棟	176
E棟	178
F I T C A F E	163・170
F I T L i n k (附属図書館)	162・181・182
F I Tアリーナ	163・184
F I Tセミナーハウス	11・163
F I Tホール	183
F棟	179
G P A	25
IT コモンズ	162・165・167・171
my F I T (WEB学生情報ポータルサイト)	14
P Cインフォスクエア	164・171
T A・S A、C S	37
α棟	180



區